「カタカナ英語活用編 Ｐａｒｔ Ⅱ」

このファイルには、「イメタン」(語学春秋社刊)で紹介しきれなかった、語彙力アップに役立つカタカナ英語が収録されています。

absorb は「①～を吸収する ②(人を)夢中にさせる」。

これは(カタカナ英語の)「ショックアブゾーバー」から類推できる。ショックアブゾーバーとは、「衝撃(を)吸収(する)装置」のことだ。be absorbed in A で「Aに熱中している」という語法がある。「Aの中に心が吸い込まれてしまっている」ということ。

The pupils absorbed all the knowledge the teacher gave them.

生徒たちは教師の与える知識をすべて吸収した

He was absorbed in the book.

彼はその本に夢中だった

academic は「①学問の(学問的な) ②学術研究の ③学校[大学]の」。

(「カタカナ英語の)「アカデミック」と言えば「学術的(学問的)な」、つまり学問の分野で正統的で堅実な様を言い、academic と重なるので覚えやすい。ただ(カタカナ英語の)アカデミックは「学校[大学]の」という意味ではあまり用いられないが、academic は an academic degree (学位)、academic training(大学教育)、an academic year (学年)といった使い方もあるので注意。ただ名詞形は academy で「(通例大学以上の)高等教育機関」「特殊専門学校」という意味になるが、こちらはカタカナ英語の「アカデミー」と同じだ。

He spent his academic career at Cambridge, becoming professor in 1869.
彼はケンブリッジ(大学)で学問生活を送り1869年に教授になった

accessory は「付属物、アクセサリー」。

これは(カタカナ英語の)「アクセサリー」から類推できる。ただし(カタカナ英語の)アクセサリーは宝飾品(jewelry)のことを主に指すのに対し、accessory は、服装で言うなら特に女性の帽子・靴・ハンドバッグなど、車だとラジオとかヒーター、カメラだとレンズカバーなどの付属品を指す。

accident は「①事故 ②偶然」。

これは(カタカナ英語の)「アクシデント」も「事故」の意味で用いるのでわかりやすい。また「彼とそこで会ったのは全くのアクシデントだった」などと、「偶然」という意味でもカタカナ英語のアクシデントは用いられる。by accident は「偶然に」というイディオム。by chance で言い換えられる。逆に「意図的に」「故意に」は on purpose 、deliberately、intentionally。

He overheard the conversation by accident.
彼は偶然その会話を耳にした

account は「説明」。

近年「説明責任」という言葉がよく使われるようになったが、これはカタカナ英語で「アカウンタビリティ(accountability)」と言う。accountability とは「account(説明) + responsibility(責任)」のことだ(responsibility も一緒に覚えてしまおう)。
account は「説明」から転じて「話し」「報告」「記事」といった意味でも使われる。

動詞として account for A で「①Aについて説明する ②A(割合など)を占める」という意味にもなる。

He gave us a detailed account of the accident.

彼は事故について詳しく報告してくれた

Send me an account.

定書を送ってください

He opposed the plan on this account.

彼はこのために案に反対した

You must take their ideas into account.

彼らの考えを考慮しなくてはなりません

acre は「エーカー」。

これは(カタカナ英語の)「エーカー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。１エーカーは約4047㎡。ちなみに１ヤード(yard)は0,914m。１インチ(inch)は2,54㎝。

active は「活動的な、積極的な、元気な、活躍している」。

これは(カタカナ英語の)「アクティブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
反意語は passive で「消極的な」。active にはこれ以外に「(物が)活動中の」という意味もある。an active volcano は「活火山」。その反意語は inactive で「不活性の、活動しない、怠惰な」という意味になる。

a very active boy

とても活発な子

At seventy, he is still active.

彼は７０歳でなお活躍している

He is active in doing good to people.

彼は積極的に人々に善行を施している

actor は「俳優」。

これは(カタカナ英語の)「アクター」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「女優」は actress。

動詞形は act で「①行う、行動する、振る舞う ②演じる ③働く、務めを果たす」。act には「行い、行為」という名詞の意味もある。

a film[movie] actor

映画俳優

a kind act

＝an act of kindness

親切な行為

acts of retaliation

報復行為

Think deeply before you act.

行動する前にじっくり考えなさい

add は「～を付け足す[加える]」。

これは(カタカナ英語)のアドリブから類推できる。アドリブとは「台本や楽譜にないものを(即興で)に付け足す」こと。アドリブ(ad-lib) の ad(「方向・付加」を表す) と add は語源が同じなのだ。add A to B で「AをBに加える」。add to A は「Aを増す」という意味で increase A と同じ意味になる。名詞形は addition。In addition で「おまけに(=besides, additionally)」、in addition to A で「A に加えて(=besides A)」などはおさえておきたい。

Add 5 to 7 and you get 12.

7に5を加えると12になります

This will surely add to your appetite.

これできっと食欲が増しますよ

He added that he was expecting to see me soon.

彼は近々お会いできるのを楽しみにしていますと付け加えた

add that S+V～で「～を付け足して言う」。

In addition to good health, he has a good brain.

彼は健康に加えて頭がよい

address

address は「アドレス」以外にいくつもの意味があり、難単語の一つだ。このような語の場合、根っこ(『核』)のイメージからまとめると理解が速いのだ。

address の『核』のイメージは「～に(直接)言葉[心など]を向ける」。

address と言えば「住所」「宛て先」という意味がまず浮かぶが、これは「言葉をしたためたもの(=手紙等)が向けられるべき場所」ということ。

(ex) What's your home[business, forwarding] address?

あなたの家[会社・転送先]の住所はどこですか

また address には「(口頭・書面での公式的な)あいさつ(の言葉)」「演説」「講演」という意味がある。これは「(聞き手に)直接向けられた言葉」のこと。

(ex) an opening[a closing] address 開会[閉会]の辞

The prime minister made an address to the nation on television yesterday.

首相は昨日テレビで国民に演説した

address は動詞になると

「O(人など)に話しかける、話をする」

「O(人・聴衆など)に(正式に)話をする、演説する、講演する」

「O(手紙・封筒などを)出す」

という意味があるが、すべて上記の『核』のイメージから類推できる。

(ex) The man sitting there addressed me suddenly.

そこに座っていた男性が突然私に話しかけてきた

He addressed the nation[an audience]. 彼は国民[聴衆]に演説した

=He made an address to the nation[an audience].

He addressed the letter to his uncle. 彼はおじあてに手紙を出した

address の応用として「心[注意・精力・焦点]を～に向ける」という意味がある。

「言葉」を向ければ、そこに「心(意識)」を向けることにもなるから。
そこから「O(物・事)に焦点を当てる、的をしぼる」「O(課題など)に取り組む」「O(問題など)を扱う、処理する」という意味になる。

(ex) She addressed herself to the task.

彼女はその仕事に取りかかった

「その仕事に(自分自身の)精力を向ける」ということ。

The article addresses the issue of falling birthrate.

その記事は少子化の問題を扱っている

「少子化の問題に焦点を向ける」ということ。

adhere は「①くっつく ②固執する」。

これはかつらメーカーの「アデランス」から類推できる。アデランスという社名は、フランス語の Adhrence(くっつける) に由来するそうだ。adhere はこれと語源が同じ。
アデランス(かつら)が強風が吹いても、お父さんの頭にしっかり「くっついている」イメージを想像して覚えてしまおう。名詞形は adherence で「付着、固執[守]」。

adventure は「冒険」。

これは(カタカナ英語の)「アドベンチャー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は adventurous で「冒険好きな、冒険に満ちた」。

Children are fond of adventure.

子供は冒険が好きである

affair は「①問題 ②事柄 ③出来事 ④業務」。

「情事」「浮気」「恋愛(沙汰)」のことを「ラブアフェアー」と言ったりするが、これは英語でも a love affair と言う。affair にはそれ以外に上記のような意味もあることを覚えておこう(「情事」の「事・問題 = affair」と覚えればいい)。

It's a terrible affair.

それは恐ろしい事件だ

a talent for affairs

事務処理能力

ordinary affairs of life

日常茶飯事

the state of affairs

事態、情勢

affiliate は「提携する[させる] 、結びつく[つける]、加入する[させる]、合併する」。

これは(カタカナ英語の)「アフィリエイト」から類推できる。アフィリエイトとは、

①自分のサイトなどに、ある企業の商品のリンク・広告を載せる
②自分のサイトの訪問者がその商品のリンク・広告を見たり、またその商品を購入する
③その結果、その企業から(対価としての)自分へ報酬が支払われる

というシステム。企業と自分がそれぞれの利益を得るために「結びついて」「提携して」いるイメージを affiliate の意味とつなげよう。

age は「①年齢 ②(人生の)一時期 ③成年[人] ④老齢 ⑤(歴史上の)時代」(名)
「年をとる[とらせる]、老ける[けさす]」(動)

これは(カタカナ英語の)「エイジ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②も「中年(期)」という意味の「ミドルエイジ」などでおなじみ。③の例として come of age で「成人に達する」となる。これ以外に an age または ages で「長い間」という意味もある。動詞の age も「老化」という意味で用いる「エイジング」から類推できる。エイジングといえば、「アンチエイジング(anti-aging)」もおさえたい。アンチエイジングとは、「老化防止の」という意味。anti- は「反…、抗…、非…、対…、…を防ぐ」を表す接頭辞(反意語となる接頭辞は pro-)。anti- を用いた語の例をいくつか挙げておこう。

antibiotic anti+biotic(生命の) → 対抗する生命 ⇨ 抗生物質
antipathy anti+pathy(感情) → 反対の感情 ⇨ 反感
Antarctic ant+arctic(北極の) → 北極の反対 ⇨ 南極
antonym ant+onym(=name) → 反対の名前 ⇨ 反意語

逆に syn(m)には「同じ」という意味があり、synonym は「同意語」という意味。sympathy は「sym+path(感情)+y[「性質・状態」を意味する名詞語尾]」で「同じ感情」つまり「同情・共感」となる。

antagonize ant+ag(行う)+on+ize[動詞語尾] → 反対に行う ⇨ 反対する

The man aged quickly after his wife's death.
その人は奥さんが亡くなってから急にふけ込んだ

agency は「代理(店)」。

これは(カタカナ英語の)「エージェンシー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。エージェント(agent)は「代理人」。agency, agent とは、「(依頼者に代わって)実際の業務を行うもの」。政治用語では「政府機関、庁、局」という意味にもなる。

agent

agent の『核』のイメージは「実際に(業務・行為を)行うもの」。
agent を辞書で調べると、「代理人」「代理権者」「代行者[業]」「代弁者」「斡旋人(あっせんにん)」「仲介人」「取次人」「(特に)不動産仲介人」「(公共機関の)職員」など、いきなりものすごい数の意味が現れるが、これらは全て「(両者の間に立って)実際にその業務・行為を行う者」だ。

(ex) a general agent 総代理人
a house agent 家屋仲介業者
an insurance agent 保険代理店
a travel agent 旅行代理業者
a diplomatic agent 外交官
a commercial agent 貿易事務官

また agent は「媒介[仲介]物」「(物理的・化学的な変化を引き起こす)動因」「作因」「因子」「行為者」といった意味もあるが、これらも「実際にその作用・変化(結果)などを起こす(つまり「行う」)もの」だ。

(ex) Her son was the agent of her grief. 彼女の悲嘆の原因は彼だった
natural agents 自然力
chemical agents 化学薬品
a bonding agent 接合剤、つなぎとなるもの
Good laws are said to be an agent of social progress.
良い法律は社会 的進歩をもたらすものだと言われている
Some insects are agents of fertilization.
植物の受精媒介をする昆虫 もいる
Who was the agent of this deed? この行為は誰がやったのか

agent は他に「法の執行官(警官・看守・刑事など)」「(政府などの)特務機関員、情報要員」「スパイ」といった(カタカナ英語でもおなじみの)意味があるが、ここまで読んでくれれば、なぜこのような意味があるのかわかるだろう。

(ex) an FBI agent 連邦検察局員
the secret agents of a foreign power 外国政府の秘密情報員

agenda は「①協議事項、議題、議事日程(表) ②行動計画[指針]」。

(カタカナ英語で)「アジェンダ」というと、最近では(政治用語として)②の意味でよく用いられる。

agriculture は「①農業 ②農学」。

「アグリカルチャー」が農業を意味する言葉であることは、カタカナ英語としてもかなり浸透しているので、これも大丈夫だろう。agri を取れば culture だが、culture の語源は「耕す」。「心を耕すもの→文化」となった。
類語の cultivate は「～を耕す」という意味。

aid は「～を援助(する)、助け(る)」 (動)(名)

これは(カタカナ英語の)「バンドエイド」から類推しよう。バンドエイドは手足に怪我をしたときに貼る絆創膏(の商品名)だが、「怪我したときの助けとなる包帯(bandage)」ということ。

His father aided Jack with advice.
ジャックの父は彼に助言してくれた

airport は「空港」。

これは(カタカナ英語の)「エアポート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語の airline は「(1)航空会社 (2)定期航空(路)」、aircraft は「飛行機」。ちなみに port は「港」という意味(これもカタカナ英語でおなじみ)。

Our plane landed at Kennedy Airport on time.

私たちの飛行機は定刻にケネディ空港に着陸した

alarm は「恐れ、不安、心配」(名)

「①～を驚かせる ②～に心配させる ③～に警戒させる」(動)

(カタカナ英語で)「アラーム」というと「警報(器)」「目覚まし時計」「時計に組み込まれた注意信号を出す機能」のことを指して言う。実際 alarm もそれと同じ意味がある。この「アラーム」の「警報」という意味から、「警報(を鳴らす)→不安(にさせる)、驚き、警戒する、驚かせる」というふうに類推するといい。形容詞形は alarming で「驚くべき、大変な」。

The thief looked around in alarm.

その泥棒はぎょっとしてあたりを見回した

I was alarmed to learn that she was in hospital.

彼女が入院していると聞いて驚いた

alcohol は「①アルコール ②酒」。

これは(カタカナ英語の)「アルコール」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。発音は[ǽlkəhɔ̀:l(アルコホール)]なので注意。類語の alcoholic は「アルコール中毒(の)」「アルコール中毒者」。

alert は「①警報(を出す) ②警戒態勢」(名)
「注意深い」(形)

これは(カタカナ英語の)「アラート」から類推できる。アラートとは主にＩＴ用語で、「利用者に注意や警戒を促すために表示・通知するメッセージ、あるいはあらかじめ指定しておいた条件が満たされたときに自動的に利用者に発信される通知[お知らせ]のこと」。

Be alert to the signal when crossing the street.
通りを渡る際には信号に注意しなさい

alibi は「現場不在証明」。

これは(カタカナ英語の)「アリバイ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

almighty は「全能の、万能の」。

これは(カタカナ英語の)「オールマイティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語に mighty があり「①力強い、強大な ②素晴らしい」という意味。一緒に覚えよう。名詞形は might で「力、勢力、腕力(=power)」。

The Almighty God has blessed our land.
全能の神は我々の地を祝した

amateur は「アマチュア(の)、素人(の)」。

これは(カタカナ英語の)「アマチュア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。アクセントは第一音節(冒頭の a)で、アクセント問題で頻出。ちなみに「ベテラン」は veteran で、

こちらもアクセント問題でよく出る。第一音節(ve の e)にアクセントがあるので注意。

He is an amateur in art [music].

彼は素人画家[音楽家]だ

amenity は「①(場所・気候などの)快適さ、(人の)感じのよさ、上品さ ②「[amenities] 生活を快適にするもの[環境] ③(社交的)礼儀」。

(カタカナ英語の)「アメニティ」は「(居心地の)快適さ、美しさ、上品さ、喜ばしさ」などを表す。「アメニティ空間」は「(居心地が)快適な空間」という意味だ。上記の amenity の意味のうち、③以外は(カタカナ英語の)アメニティから類推がつくだろう。

The house has a swimming pool, two fireplaces, and other amenities.

その家にはプールと２つの暖炉とほかにさまざまな設備がある

analysis は「分析」。

これは(カタカナ英語の)「アナリスト」から類推できる。アナリスト(analyst)とは「分析家」のことだ。経済アナリストと言えば、経済を分析する専門家。analysis の動詞形は analyze で「分析する」。

chemical analysis

化学分析

a scientific analysis of a subject

問題の科学的検討

The writer analyzed the poem for hidden meaning.

その作家はその詩を分析して隠れた意味を探った

anarchy は「①無政府状態 ②無秩序、混乱」。

(カタカナ英語の)「アナーキー」とは「無政府・無秩序な状態であること。また、その様」あるいは「無統治状態」を指し、anarchy とほぼ同じなので類推はたやすい。

The death of the king was followed by a year of anarchy.

王が死去した結果,政治的社会的混乱が１年続いた

angle は「①角(度) ②かど、すみ」。

①については(カタカナ英語の)「アングル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②もおさえよう。in an angle of the building は「その建物のすみ[かど]に」。

rectangle は「長方形」という意味だが、rect は「まっすぐな」という意味の語幹。「真っ直ぐな(rect)+角度(angle)→(四つの)直角を持った図形→長方形」となった。ちなみに「正方形」は square。

a right angle

直角

The two streets are[meet] at right angles.

２本の通りは直角に交差している.

antithesis は「正反対(のもの・なこと)、対照、逆」。

これは(カタカナ英語の)「アンチテーゼ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。アンチテーゼとは、ある理論・主張を否定するために提出される反対の理論・主張のこと。

ちなみに thesis は「①(自分が論証しようとする)主張、論点、理論、テーゼ②論文」という意味。

Nancy is the absolute antithesis of the aggressive modern woman.

ナンシーは積極的な現代女性とはまったく正反対だ

apply は「～を応用する、適用する」「申し込む」。

これは「アプリ(ケーションソフト)」から類推できる。パソコンやゲーム機のアプリケーションソフトとは、「そのパソコンやゲーム機を使って[応用して]様々なことができるソフト(ウェア)」のことだ。apply A to B で「AをBに応用[適用]する、当てはめる」。
また「申し込み用紙」「願書」のことを「アプリケーションフォーム」と言う。そこから「申し込む」という意味も類推できる。apply for A で「Aに申し込む、出願する」。
apply oneself to A で「Aに専念する」という語法もある。
名詞形は application で「申し込み、志願、適用、応用」。形容詞形は applicable で「適用可能な、適切な」。applicant は「志願者、申し込み者」。

She applied what she had learned in class to the experiment.

彼女は授業で学んだことをその実験に応用した

apply A to B で「AをBに応用[適用]する」。

This rule cannot be applied in every case.

この法則はすべての場合に適用されるとは限らない

archives は「①公文書[記録]保管所、(公)文書館 ②公文書、記録」。

これは(カタカナ英語の)「アーカイブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。発音は[ɑ:rkaivz(ァーカイヴズ)]なので注意。

The encyclopedia is an archive of world history.

百科事典は世界史の記録保管所である

The experience was sealed in the archive of his memory.

その経験は彼の記憶の書庫にしっかりととどめられた

area は「①地域 ②区域 ③(学問・活動の)分野、範囲、領域 ④面積」。

(カタカナ英語の)「エリア」も①～③の意味で用いるので、 area の新たな意味として④をおさえれば、この語は十分だろう。

Hunting is prohibited in this area.

この地域では狩猟は禁止されている

a residential area of a city

町の住宅区域

the gray area

(白黒の区別のつかない)中間領域

army は「軍隊」。

これは(カタカナ英語の)「アーミー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。army には(the army で)「陸軍」という意味もある。ちなみに「海軍」は the navy。こちらも(カタカナ英語の)「ネイビー」でおなじみ。それから arms と言うと「武器」という意味になる。armor は「よろいかぶと」。これについては「機動戦士ガンダム」で「モビルアーマー」という言葉が出てくる。

an army officer

陸軍士官

He is in the army.

彼は陸軍に所属している[陸軍軍人である]

enter[join, go into] the army

(軍隊に)入隊する

aroma は「芳香、アロマ」。

これは(カタカナ英語の)「アロマ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。比喩的に「(独

特の)気品、風格」という意味になることもある。

ascend は「上がる、～を登る」。

これは(カタカナ英語の)「アセンション」から類推できる。アセンションとは、「(次元)上昇」と訳され、人間もしくは世界そのものが現在の三次元からより高次元の存在へと進化することとされている。アセンションの存在を支持する人々は、アセンションは2012年前後に起こるのではないかと信じている。ascend はアセンション(ascension)の動詞形だ。

ascend の反意語は descend で「下がる、降りる」。

The aircraft ascended quickly.

飛行機は急速に上昇した

The path ascends here.

道はここから上りになる

ash は「灰」。

これは(カタカナ英語の)「アッシュ」から類推できる。ヘアカラーで「アッシュ」と言えば、灰色がかった髪の色を指して言う。be burnt to ashes で「焼けて灰になる」。

Don't drop cigarette ash(es) on the floor.

床にたばこの灰を落とさないでください

The cabin was burnt [reduced] to ashes.

その小屋は焼けて灰になってしまった

assort は「①分類する ②詰め合わせる」。

これは(カタカナ英語の)「アソート」から類推しよう。アソートとは「詰め合わせ」という意味だ。sort も「分類する」という意味がある。また sort は名詞として「種類」という意味もある。a sort of A で「一種のA」。

The apples are assorted and packed by machines.

リンゴは機械によって仕分けられ箱詰めされる

She sorted the good from the bad.

彼女は悪いものとよいものとをえり分けた

I sorted out the children's socks

子供たちの靴下を選び出した

He developed a new sort of painting.

彼は新しい種類の画法を開発した

association は「①協会、組合 ②(～との)交際、提携、連合 ③連想する[される]こと、連想されるもの」。

①については(カタカナ英語の)「アソシエーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②と③の意味もおさえよう。in association with A で「Aと共同して、Aに関連して」となる。

動詞形は associate で associate A with B で「AをBと結びつけて考える、AでBを連想する」。

We associate the name of Einstein with the theory of relativity.

我々はアインシュタインと言えば相対性理論を連想する

What do you associate with autumn?

秋と言えば何を連想しますか

athlete は「①運動選手 ②運動家、スポーツマン」。

これは(カタカナ英語の)「アスリート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに athlete's foot と言うと「水虫」のことを指す。形容詞形は athletic で「運動の、競技の」。(カタカナ英語の)アスレチックというと「野外で丸太やロープで作った様々な遊具を巡って体力を養うスポーツ」を言うが、それは Field Athletic という和製英語の略なので注意。

long-distance track athletes

長距離トラック選手

Olympic athletes

オリンピック選手

atom は「原子」。

これは(カタカナ英語の)「アトム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

「極微量」という意味もある。形容詞形は atomic で「原子(力)の」。atomic power [energy] は「原子力」。atomic bomb は「原子爆弾」。ちなみに「分子」は molecule と言う。

Tim mashed[broke] it to atoms.

彼はそれをこっぱみじんに砕いた

a man without an atom of common sense

常識が全然ない男

an atomic submarine

原子力潜水艦

atomic power

原子力

an atomic explosion

核爆発

attack は「攻撃[非難](する)」。

これは(カタカナ英語の)「アタック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。attack には他に「(病気などの)発作」という意味もある。heart attack は「心臓発作」。

We attacked the enemy before dawn.

我々は夜明け前に敵を攻撃した

The newspapers attacked the government's tax reform plan.

各新聞は政府の税制改革案を攻撃した

He attacked the difficult problem.

彼はその難問に取り組んだ

attack は「(仕事などに)精力的に取り組む」という意味もある。

attend to A ①[A＝客・病人等]「Aに仕える、接客する、世話をする、看護する」(動)

②[A＝話]「Aを注意して聞く」

③[A＝仕事]「Aに精を出す、専心する」

まず①については、「フライトアテンダント」から類推できる。カタカナ英語のフライトアテンダントとは、「飛行機の機内で接客にあたる人」のことだ(客の体調が悪くなれば看護もする)。アテンダント(attendant)は、①のattend の名詞形だ。

to は「→」とみなすといい。

②については、「アテンションプリーズ」から類推できる。このフレーズは、同じく飛行機内でアナウンスの始めに「ご注目ください」「お知らせいたします」という意味で使われるが、このアテンション(attention)は、②の attend の名詞形だ。

to は「→」なので、注意を向ける対象が「話」なら、それを注意して聴くことになり、「(果たすべき)仕事」なら、「(その仕事に)精を出す、専心する」となる。

Who is attending to this sick person?

誰がこの病人の世話をしているのですか

A kind nurse attended on me.

親切な看護婦が私の看護をしてくれた
Let’s attend to his speech. 彼の話を注意して聞こう

audience は「聴衆」。

これは(カタカナ英語の)「オーディエンス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。 ちなみに audience の audi も「(音を)聞く」という意味。それから audience は「多い・少ない」に large/small を用いるので注意しよう。

The audience went wild with joy.
聴衆は狂喜した
She sang before an audience of 3,000.
彼女は３千人の聴衆の前で歌った

authentic は「①(作品等が)本物の ②信頼できる」。

(カタカナ英語で)「オーセンティック」と言えば、「本物[正統的]である様」や「ファッションで、着こなし等が本格的な様」を言う。これは authentic の①の意味とほぼ同じだ。あとは②の意味も authentic にはあることを覚えればいいのだが、①の意味から類推はしやすいはず。

an authentic signature
本物のサイン
an authentic report on poverty in Africa
アフリカの貧困についての信頼できる報告[記事]

aura は「①(人・場所・物などが発する微妙[独特]な)雰囲気 ②(人を取り巻く)霊気」。

これは(カタカナ英語の)「オーラ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

authority は「①権威(者)、大家 ②権限 ③威信、影響力、説得力 ④[the authorities] 当局」。

(カタカナ英語の)「オーソリティ」は「(学問・技芸等の方面での)第一人者、権威者」という意味で用いられるが、これは authority の①の意味と同じ。authority の意味として②～④を知識に付け加えておこう。動詞形は authorize で「(人に)～する権限を与える」。

He is an authority on law.

彼は法学の権威だ

the person in authority

権力のある人物

the authorities concerned

関係当局

the school authorities

学校当局

He was authorized to negotiate with them.

彼は彼らと交渉する権限を与えられた

auto- は「①自動の、自身の ②自動車の」。

これは(カタカナ英語の)「オート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。autobiography は「自叙伝、自伝」、automatic は「自動式の」、automobile は「自動車」、automaker は「自動車会社」。

avenue は「大通り、並木道」。

これは(カタカナ英語の)「アベニュー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい(「大通り」は boulevard と言うこともある)。他に「道」関連の語としては、road は「道路」、path は「①小道②進路」、railroad は「(鉄道の)線路、鉄道(=railway)」、street は「通り」、highway は「幹線道路」、freeway[expressway] は「高速道路」。

average は「平均(的な)、普通の」。

これは(カタカナ英語の)「アベレージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「(ボーリングの)アベレージスコア」といえば「平均的なスコア」という意味だ。above[below] average(「平均以上[以下]で」)、 on (an[the]) average (「平均して」「概して」)といった決まり文句は注意。

average は、動詞として「①～を平均する ②平均～となる」という意味もある。

an average man

普通の人

He earns an average of 400 dollars a week.

彼は週平均400ドルかせぐ

On average I study at home for two hours a day.

家では１日平均２時間勉強します

His weekly income averages 400 dollars.

彼の週当たりの収入は平均400ドルになる

await は「～を待つ」。

これは(カタカナ英語の)「ウエイト」から類推できる。ウエイト(wait)は「待つ」という意味。await は wait for と同義。wait と異なり他動詞なので、後ろに直接目的語を取る(for はいらない)。

We are awaiting her reply.

私たちは彼女の返事を待っている
They were waiting for her to arrive.
彼らは彼女の到着を待っていた

wait for A to do[原形]～で「Aが～するのを待つ」。

ちなみに「体重、重さ」という意味の「ウエイト」はweight。動詞形はweighで「(1)重さがある[をはかる] (2)比較検討する」。

I weigh 160 pounds.
私は体重160ポンド（約72kg）です
You must weigh your words before speaking.
しゃべる前に使う言葉をよく考えなければいけない
We weighed one plan with[against] another one.
私たちは２つの計画を比較検討してみた

back

back の『核』のイメージは「背中」。

(ex) He curved his back. 彼は背を曲げた

I swam on my back. 私は背泳ぎをした

「背中を水に接触(on)させて泳いだ」ということ。

I had a pain in the back. 腰[背中]が痛かった

back が「腰」という意味になることもある。

「背中」から転じて、以下のような比喩的な意味でも用いられる。

「(物の)背のような部分」

「(ナイフ・本などの)背」

「(山の)尾根」

「(刀の)峰」

[the back]「(物の)後部」＝rear

「奥、裏、後ろ」⇔front

「(舞台の)背景」

「(事の)真相」

(ex) the back of a chair[book] いす[本]の背

the back of one's hand 手の甲

the back of a hill 山の尾根

the back of one's head 後頭部、うなじ

the back of a check 小切手の裏

the back of a house 家の裏手

There is an appendix at the back of the book.

巻末には付録が付いている

at the back of A で「Aの後ろ[裏手・奥]に」。

スポーツで「後衛」のことを「バックス」と言いうが、英語でもこれは back(s) と言いう(逆に「前衛」は forward)。
以下は更に比喩的に用いられる back の例。

(ex) She speaks ill of her husband behind his back.
彼女は陰で夫の悪口を言う

behind one's back で「～のいないところで、陰で」。

I wanted to have him at my back. 私は彼に支持してほしかった

at one's back で「支持して」。

I'm in back of you. 私はあなたを支持します

in back of A で「Aを支持して」。

副詞として back が用いられると「後ろに(へ)」「後方に(へ)」「元に(へ)」「遡って」「(時間的に)～の前に、～以前に」「お返しに」「おさえて、隠して」などという意味になる。

(ex) The chair is rocking back and forth. いすが前後に揺れている

back and forth で「前後に、あちこちに」。

Please sit back in your chair. いすに深く掛けてください
Put book back on the shelf. 本を書棚の元の所に戻しておきなさい
the back in 300 B.C. さかのぼって紀元前300年に
several years back 数年前に
I hit him back. 私は彼を殴り返した
She held back (the) tears. 彼女は涙をこらえた

back は動詞としても用いられ、以下のような意味になる。

①「後退[バック]する、～を後退[バック]させる」
(ex) I backed my car into the garage. 車をバックさせて車庫に入れた

②「～を後援する、支持する、支援する」
カタカナ英語でも「バックアップ」すると言う。「後ろから押す(押して支える)」ということ。

(ex) I backed the plan. 私はその案を支持した

He backed us up in the case. その事件で彼は我々を支援してくれた

コンピュータ用語の「データをバックアップする」という場合のバックアップも back up を用いる。

bacteria は「細菌、バクテリア」。

これは(カタカナ英語の)「バクテリア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
ちなみに germ は「(病原)菌」。virus は「ウィルス」。頻度の高い germ の例を挙げておこう。

cold germs

風邪の細菌

This milk is free from germs.

この牛乳は殺菌してある

bait は「エサ(をつける)」。

これは(カタカナ英語の)「ベイト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。bait は比喩的に「誘惑」「～を誘惑する」という意味にもなる。

They offered Bob a promotion as bait to win his support for the plan.

その計画にボブが賛成することを狙って、彼らはボブに昇進という甘い話を持ちかけた

bake は「(パンなどを)焼く」。

これは(カタカナ英語の)「ベイク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語の bakery は「パン屋」。

I’m baking him a cake.

=I’m baking a cake for him.

彼にケーキを焼いてあげているところです

ballet は「バレエ」。

これは(カタカナ英語の)「バレエ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

bamboo は「竹」。

これは(カタカナ英語の)「バンブー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

bank は「①銀行 ②土手、堤」。

どちらも(カタカナ英語の)「バンク」でおなじみだが、②の意味を忘れている人がときどきいるので注意したい。それから「(銀行に)預金する」「銀行業を営む」という動詞の意味もある。

Her house is on the south bank of the Thames.

彼女の家はテムズ川の南岸にある

The tribe lives on the banks of the Amazon.

その部族はアマゾン川沿いの地域に住んでいる

bar

bar の『核』のイメージは「棒」更にそこから転じて「さえぎる(もの)」。
『核』のイメージ通りの意味、つまり「棒」という意味が bar にはあるが、
これは(カタカナ英語の)「バー」も同じ意味で用いるのでわかりやすい。

(ex) an iron bar 鉄棒
a toll bar (通行料金徴収所の)遮断棒

上例のように「棒」というのは人や物を遮断するための道具として用いられた
ことから、bar には「さえぎる(もの)」という意味が生まれた。

(ex) a bar to happiness 幸福を妨げるもの
There is no color bar. 皮膚の色による(人種)差別はない
Fallen trees barred the way. 木が倒れて道をふさいでいた
His prospects of success are barred. 彼に成功の見込みはない
She was barred from the club. 彼女はそのクラブから締め出された
上例は「さえぎる→締め出す」となった。
We bar smoking here. ここでは禁煙です
上例の ように「禁じる」という意味になることもある。

また「(裁判官席・弁護士席と被告席・傍聴席との)仕切り」として bar つまり
棒」が使われていたことから、bar には「被告席」「裁判所」「法廷」「裁き
(の場)」、更に the bar で「弁護士業」「[集合的に]弁護士(たち)」という意
味になることもある。

(ex) He was at (the) bar. 彼は法廷[被告席]にいた
He retired from the bar. 彼は法曹界を去った(弁護士をやめた)

「酒場」のことも bar と言うが、これは、酔っぱらいが酒樽から勝手に飲むの
を阻止するために横木、つまり bar が(仕切りとして)用いられたことに由来
すると言われている(それがカウンターの原型となった)。

barter は「物々交換(の品)」。

これは(カタカナ英語の)「バーター」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。バーター取引は「商品やサービス同士を現金を用いずに交換することで取引を行うこと」だ。

「バターとパンを物々交換す」と(語呂合わせで)覚えてもいい。

barter は、「物々交換をする」という動詞の意味もある。

basic は「基本的な」。

これは(カタカナ英語の)「ベーシック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。basic は、名詞として「①基礎[本] ②原点」という意味もある。

a basic principle

基本原則

basic industries

基幹産業

the basic component[ingredient]

主成分

basic needs for human life

人間生活の基本的必要物

bat は「①コウモリ ②バット ③打撃」。

これは(カタカナ英語の)「バット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい(「コウモリ」という意味も「バットマン」から類推できる)。「打撃」という意味も「バッティング」から類推できる。

battery は「①電池 ②(野球の)バッテリー」。

これは(カタカナ英語の)「バッテリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。battery は法律用語で「殴打、暴行」という意味もある。

battle は「戦闘(する)、闘争(する)」。

これは(カタカナ英語の)「バトル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a close battle

接戦

the battle of life

人生の闘い

a battle against illness

病気との闘い

His parents battled to send him to college.

両親は彼を大学にやろうと必死にがんばった

bay は「湾、入り江」。

これは(カタカナ英語の)「ベイ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。有名な横浜ベイブリッジは、横浜湾に架かる橋だ。

beep は「ビーっという音、警笛の音、(機械の)発信音」。

これは(カタカナ英語の)「ビープ、ビープ音」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

The computer is beeping.

コンピューターがびーと鳴っているb

believe は「～を信じる」。

歌の歌詞などで believe は(その意味も含め)おなじみなので問題ないはず。名詞形は belief で「信念」。形容詞形は believable で「信じられる」(反意語の unbelievable は「奇跡体験 アンビリーバボー」というＴＶ番組でおなじみ)。それから I believe you. はその時の一時的な言葉を信じる。つまり I believe what you say. ということ。これに対し believe in A は、「Aの存在・価値・人柄・能力などを(強い確信を持って)信じる」という意味。だから I believe God. ではなく I believe in God. と言う。

Nobody will believe that rumor.

そんなうわさはだれも信じまい

I made believe to support him.

＝I made believe that I supported him.

彼を支持するふりをした

make believe で「(～する)ふりをする」。

bible は「①[the Bible]聖書 ②必読書」。

これは(カタカナ英語の)「バイブル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

block は「①固まり ②(街の)区画 ③障害物」「阻止する、妨害する」。

これは(カタカナ英語の)「ブロック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

concrete blocks

(建築材の) コンクリートブロック

The Empire State Building is four blocks from here.

エンパイアステートビルは，ここから４ブロック離れています

a traffic block

交通渋滞

The street was blocked with snow.

通りは雪で通れなかった

blow は「①(風が)吹く ②(息を)吹く ③吹き飛ばす、爆破する」(動)

「(風の)ひと吹き、強風」(名)

これは(カタカナ英語の)「ブロー」から類推できる。ドライヤーで髪を乾かすことを「ブローする」と言う。そこから blow の「風が吹きつける」イメージを持とう。実際「ドライヤーで髪を乾かす(こと)」は、英語では blow-dry と言う。

また「①(こぶし・平手・こん棒などによる)強打、一撃 ②殴り合い ③(不意の)精神的打撃、ショック」という(「吹く」という blow とは別語源の)意味もあるが、これは「ボディブロー(のように効く)」から類推できる。

活用は blow - blew - blown。

The wind was blowing hard that day.

その日は風が強く吹いていた

body

body の『核』のイメージは「体」。

body の「身体」「肉体」という意味は誰でも知っているはず。

(ex) He has a strong body. 彼は丈夫な体をしている

「私の体は健康です」は I am healthy. と言い、 My body is healthy. と

は言わない。また「風呂で体を洗う」は wash oneself と言い、 wash one's body とは言わない。

body は、人間・動物の頭と手足・尾を除いた部分、つまり「胴体」を指すこともある。またそこから転じて「あるものの主要部分、本体」という意味になることがある。

(ex) The soldier got no wounds in his body, but one on his leg.

その兵士は胴体には負傷しなかったが片方の足に傷を負った

the body of a tree 木の幹

the body of a ship 船体

the body of a letter 手紙の本文

文章の本論・ 本文(つまり主要部分)も body で表す。

また「死体、遺体」「団体、法人」「集合体」「物体」という意味になることもある。

(ex) The man's body was not found after all.

結局その男の死体は見つからなかった

a public body 公共団体

a body of water 水塊（池・湖・海など）

a large body of information 大量の情報

a large body of Japanese people 日本国民の大多数

a body of A で「多数(量)のA」という言い方をすることもある。

a gaseous[liquid, solid] body 気体[液体・固体]

a heavenly body 天体

body を用いたイディオムには、以下のようなものがある。

① in a body「一団となって」

(ex) The boys ran in a body. 少年たちは一団となって走った

The Cabinet resigned in a body. 内閣は総辞職した

② over my dead body 「私の死体を乗り越えて」

「やれるものならやってみるがいい」という意味で絶対反対の決意を表す。

(ex) You'll come back here over my dead body.

私の目の黒いうちは、おまえを絶対ここに戻らせないぞ

boil は「～をゆでる、沸騰する[させる]」。

これは(カタカナ英語の)「ボイル」「ボイラー」でおなじみ。「ゆでたまご」は a boiled egg。

Boil the water for the tea.

お茶を入れるお湯を沸かしてください

Water boils at 100℃.

水は℃氏100度で沸騰する

The kettle is boiling.

やかんの湯が沸いているb

book は「本」(名)

「(座席・部屋を)予約する」(動)

「本」という意味ではおなじみ。「予約する」という意味も、ブッキング というカタカナ英語でおなじみ。reserve ～ や make a reservation for ～ で言い換えられる。bookkeeping で「簿記」という意味になる。keep books で「帳簿をつける」。

Will you book seats on a plane for me?

飛行機の座席を予約してくれませんか

I booked my passage to New York.

私はニューヨーク行きの航空［乗船］券を買った

boom は「①大流行、人気の急上昇、(都市などの)急激な発展 ②にわか景気、物価の急騰」。

①は(カタカナ英語の)「ブーム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味もそこから類推はつきやすい。boom は動詞として「急に景気づく、(都市などが)急速に発展する、(物価が)急騰する、(人気が)急上昇する」という意味にもなる。
boom には「ブーン[ドーン]という音(をたてる)」という意味もあるが、これは上記の boom とは別語源。

Every market is booming.
どの市場も好景気だ
His popularity is booming as a comedian.
彼はコメディアンとして人気が急上昇している

bottom は「①底 ②下部(⇔ top)」。

(カタカナ英語の)「ボトムス」はファッション用語としてよく用いられる。ボトムスとは、「下半身に着る服」のこと(「上半身に着る服」をトップスと言う)。また「下部[底]から意見を汲み上げること」をボトムアップ(bottom-up)と言う(逆に「上から下へと指示を降ろすこと」をトップダウン(top-down)と言う)。

There is a little wine left in the bottom of the glass.
グラスの底に少しワインが残っている
He was seated at the bottom of the table.
彼はテーブルの末席に座っていた

bound は「跳ねる(こと)、バウンド(する)」。

これは(カタカナ英語の)「バウンド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。同意語に

bounce がある。ただ bounds で「①境界(線)、限界、範囲 ②領域(内)」という意味もある。ゴルフでコースから外れたボール(を打つこと)をＯＢと言うが、これは out of bounds の略。

The hare bounded away.

野ウサギは跳ねるように駆け去った

My heart bounded with joy.

うれしくて心がはずんだ

bow は「弓」。

これは(カタカナ英語の)「レインボウ」から類推できる。レインボウ(rainbow)とは、「虹」のこと。虹は弧を描いて弓の形状に似ている。ちなみに「矢」は arrow と言う。

He drew a bow.

彼は弓を引いた

brain は「脳」。

これは(カタカナ英語の)「ブレイン」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。比喩的に「①頭脳 ②知力 ③秀才」という意味になることもある。

The brain is the center of the nervous system.

脳は神経系の中枢である

He has good[bad] brains.

彼は頭がいい［悪い］

a man of brains

頭脳明晰な人

brake は「ブレーキ(をかける)、抑制する」。

これは(カタカナ英語の)「ブレーキ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

brand は「①銘柄、ブランド、商標 ②(持ち主・品質などを示すため動物・商品などに付けた)焼き印 」。

①については(カタカナ英語の)「ブランド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②をおさえよう。

実際には②の方が brand の語源に近い。

ちなみに「ブランド品」は brand-name merchandise, brand-name product, brandname goods などと言う。

brand は動詞として「①~に (…の) 汚名を着せる、…のらく印を押す ②(家畜などに)焼き印を押す」という意味もある。

What is your favorite brand of soap?

あなたの好きな石けんのブランドは何ですか

the best brand of wine

最高銘柄のワイン

They branded him (as) a liar.

彼らは彼にうそつきの汚名を着せた

The scene was branded on her memory.

その光景は彼女の記憶に焼き付いていた

brave は「勇敢な」。

アカデミー賞映画に「ブレイブハート」というタイトルの映画があった。これは「勇敢な心」という意味。また大リーグに「アトランタブレーブス」という球団があるが、名詞の

brave は「(北米インディアンの)戦士」という意味になる。

Be brave! The dentist won't hurt you.

しっかりしなさい．歯医者さんは痛くはしないからね

It is brave of her to live alone in the desert.

＝She is brave to live alone in the desert.

砂漠でひとりで暮らすとは彼女も勇気があるね

bread は「パン」。

これは(カタカナ英語の)「ブレッド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。bread は比喩的に「生活(費)」という意味にもなる。My father brings home our daily bread. は「父が生活費[日々の糧]を稼いでいる」。

breakthrough は「大発見、飛躍的進歩」。

これは(カタカナ英語の)「ブレイクスルー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

語源的には「既存のものを壊して(break)+それを突き破る(through)こと→大発見、飛躍的進歩」となる。

The president reported a breakthrough in the treaty negotiations.

大統領は条約交渉が進展したことを報告した

a technological breakthrough

科学技術の飛躍的発展

bride は「花嫁」。

これは(カタカナ英語の)「ジューンブライド(June bride)」「ブライダル(bridal)」から

類推できる。bridal は「花嫁の」という意味の形容詞。ちなみに「花婿」は a groom または a bridegroom と言う。

brief は「手短な、簡潔な」。

男性下着で「ブリーフ(英語では briefs)」というと「丈の短いぴったりしたパンツ」のことだ。また「ブリーフィング」というと、「簡潔な(状況)報告」のことを言う。実際 briefing にも同じ意味がある。ここから brief の「短い」という意味が見えてくる。
in brief で「要するに」という決まり文句もある。brief は、名詞として「①要約 ②簡単な説明」、動詞として「①簡潔に伝える ②要約する」という意味もある。
また to be brief は「手短に言えば」という意味。
brief についての知識は abbreviation の暗記にも使える。この語の brevi という部分に brief つまり「短い」という意味が入っている。でこの語は「①短縮、省略 ②略語、短縮形」という意味。動詞形は abbreviate で「省略する、短くする」。

a brief walk

短時間の散歩

He is brief of speech.

彼は言葉数が少ない

He gave a brief explanation of how the mistake happened.

どうしてミスが生じたか簡潔に彼は説明した

bright は「明るい、鮮やかな、輝いている」。

これは（カタカナ英語の）「ブライト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ファッション用語で「ブライトカラー」というと「明るい色」のことだ。ただ bright の場合、比喩的に「(子供が)賢い、(考えなどが)うまい」という意味でも用いる。これは「知的に明るい」ということ。

a bright girl

利口な少女

a bright idea

うまい考え

British は「①[the British]イギリス人 ②イギリス(人)の」。

これは(カタカナ英語の)「ブリティッシュ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は Britain で「①英国、イギリス ②大ブリテン島」。

ちなみにイギリスの正式名称は the United Kingdom (of Great Britain and Northern Ireland) 。略称は the U.K.。

bronze は「青銅(の・色の)」。

これは(カタカナ英語の)「ブロンズ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに blond は「金髪の」だが、こちらも「ブロンド」でおなじみ。ただ blond には「(皮膚が)色白の」「金髪・色白・青い目の」という意味もある。

broadcast は「～を放送する、放映する」。

「ブロードキャスター」というテレビ番組もあったが、ブロードキャストが「放送する」という意味であることは、多くの人が知っているだろう。テレビ会社、例えばＴＢＳは Tokyo Broadcasting System、ＡＢＣは American Broadcasting Companies というように broadcast が社名に使われている。

ちなみに broadcast は過去形、過去分詞形共に broadcast。

They broadcast the news of the president's death.

彼らは大統領死亡のニュースを放送した

The rock concert is being broadcast live.

ロックコンサートは今生中継されています

brunch は「(昼食兼用の)遅い朝食」。

これは(カタカナ英語の)「ブランチ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「breakfast＋lunch」が語源。ちなみに branch は「枝」。そこから転じて「①支流 ②支店 ③分野、部門」という意味にもなる。

brush up は「(忘れかけていた語学などを)やり直して磨きをかける、復習する」。

これは（カタカナ英語の)「ブラッシュアップ」がほぼ同じ意味で使われる。ただ(カタカナ英語の)ブラッシュアップの場合、「一定のレベルに達した状態からさらに磨きをかける」という意味でも使われる。それから brush (up) は「ブラシ(をかける)」という意味もある(もちろん brush は名詞で「ブラシ、はけ」という意味もある)。

ちなみに blush は「赤面(する)」。bl から blood(血)をイメージし、「血→赤→赤面(する)」とつなげよう。

bubble は「①泡、気泡 ②しゃぼん玉」「①泡立つ ②(ぶくぶくと泡立つように)沸き出る ③活気を帯びる ④沸き立つ、あふれる」。

これは(カタカナ英語の)「バブル」から類推できる。他に bubble には「①泡のように実体のないもの、幻想、妄想(=delusion) ②(特に詐欺的な)いんちき事業[投機]」という意味もある。ただこれも「バブル景気」「バブル経済」などでおなじみ。

動詞の③と④は、比喩的な用法。

「バブル経済」とは、投機によって生ずる、実態経済とかけはなれた相場や景気。

「バブル経済」は bubble economy、「バブルが崩壊した」は The bubble burst. と言う。

bubbles in glass

ガラスの中の泡

Nationalism has been bubbling here.

当地では国家主義が台頭してきた

His mind bubbles with plans and schemes.

彼の心はいろいろの計画であふれている

bug は「①虫 ②病原菌、微生物、ウィルス ③(機械・コンピュータプログラム・計画などの)欠陥、故障」。

これは③については「バグ」が同じ意味で用いるので、①と②の意味をおさえよう。

bulb は「①電球 ②球根」。

①については(カタカナ英語の)「バルブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②も一緒におさえよう(確かに両者は形状がよく似ている)。

a light bulb

電球

tulip bulbs

チューリップの球根

bureau は「①(物を書くための)机、整理だんす ②(官庁等の)局 ③支局、事務局」。

bureau という語自体はカタカナ英語としては使われていないが、ＦＢＩ(連邦捜査局)という語は海外ドラマ・映画などでなじみがあるはず。ＦＢＩというのは、Federal Bureau of Investigation の略なのだ（ついでに investigate で「～を調査する」も覚えてしまおう）。ちなみに bureau が「官庁の局」を表すことから、「官僚政治[機構・主義]」のことを(軽

蔑的に) bureaucracy、「官僚」のことを bureaucrat と言う。

the Tokyo bureau of a London newspaper

ロンドンの新聞(社)の東京支局

a travel bureau

旅行案内所

burn は「～を焼く[ける]、燃やす[える]、焦がす[げる]」。

これは(カタカナ英語の)「バーナー」から類推できる。バーナー(burner)とは、火を噴射して物を燃焼させる装置のこと。「ガスバーナー」は a gas burner。

形容詞形は burnt で「燃えた、焼けた、焦げた」。

I smelled something burning in the kitchen.

キッチンで何か焦げているにおいがした

burst は「破裂する、爆発する」。

これは(カタカナ英語の)「バースト」から類推できる。「(タイヤが)バーストする」というと、車の走行中にタイヤが急に(破裂するように)破損することを指す。

また比喩的に be burst to do[原形]～ で「～したくてうずうずする」、burst＋C で「ばっとCする」、be burst with～ で「～ではちきれんばかりだ」、burst into tears[laughter] で「どっと泣きだす[笑い出す]」といった意味になる。

ちなみに burst は過去形、過去分詞形共に burst。

The bomb suddenly burst.

爆弾が急に爆発した

The door burst open.

戸がぱっと開いた

He was bursting with energy.

彼はエネルギーではちきれんばかりだった

I was bursting to tell him the news.

その知らせを彼に伝えたくてたまらなかった

bush は「茂み、低木」。

これは(カタカナ英語の)「ブッシュ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

beat around the bush で「やぶの周りをたたいて獲物を追い出す」、更に転じて「(人の意向などを)遠回しに探る」という意味になる。

"Mom, I'm pregnant," she said without beating around the bush.

お母さん,私妊娠してるの」と彼女は単刀直入に打ち明けた

button は「ボタン(をかける[がかかる]・で留める[で留まる])」。

これは(カタカナ英語の)「ボタン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

buttons on a coat

上着のボタン

fasten[undo] buttons

ボタンをかける［はずす］

He pushed the button.

彼はその押しボタンを押した

This dress buttons down the back.

このドレスは背中にボタンが付いている

C

cabbage は「キャベツ」。

これは(カタカナ英語の)「キャベツ」から類推しやすい。

cabbage の発音は[kǽbidʒ(キャビジ)]。

ちなみに「ニンジン」は carrot、「ほうれん草」は spinach、「大根」は (Japanese) radish、「たまねぎ」は onion、「じゃがいも」は potato、「ピーマン」は green[sweet] pepper。「かぼちゃ」は pumpkin。

cabin は「①小屋、ロッジ、バンガロー ②(飛行機の)機室 ③(船の)客室」。

これは(カタカナ英語の)「キャビン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a log cabin

丸太小屋

We rented a cabin near the lake.

湖近くのバンガローを借りた

cage は「おり、鳥かご」。

これは(カタカナ英語の)「ケージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

calculate は「①～だと計算する ②～だと推定[予想]する」。

これは「計算機」のことを「カルキュレーター(calculator)」といったりするので類推しやすいはず。

He calculated the speed of light.

彼は光の速度を計算した

He calculated the consequences of his action.

彼は自分の行為の結果がどうなるかを予測したb

It has been calculated that the machine will save many man-hours.

この機械によって労働力を大いに節約できることが意図されている

calorie は「カロリー」。

これは(カタカナ英語の)「カロリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
ちなみに「コレステロール」は、英語でも cholesterol。

Egg yolks are high in cholesterol.

卵黄にはコレステロールが多い

camp は「①キャンプ場 ②野営地 ③収容所 ④陣営」。

①と②については(カタカナ英語の)「キャンプ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
ちなみに「キャンピングカー」は、英語では camper と言う(camper には「キャンプをする人、キャンパー」という意味もある)。

cancel は「中止(する)、取り消す[し]、キャンセル(する)」。

これは(カタカナ英語の)「キャンセル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「中止する」という場合 call off で言い換えられる。ちなみに「延期する」は put off または postpone。

I canceled the order for the book.

その本の注文を取り消した

The meeting was canceled because of the typhoon.

ミーティングは台風のため中止になった

Work at my stop for a week, and your debt will be canceled.

うちの店で１週間働きなさい。そうすれば君の借金は帳消しだ

capacity は「①収容力、定員、容積、容量 ②能力、才能」。

これは(カタカナ英語の)「キャパ」「キャパシティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「このコンサートホールのキャパは600名だ」「君の頭のキャパならこれくらいできるさ」などと言ったりする。「能力、才能」という意味での capacity と ability の違いは、前者(capacity)は「潜在的な受容能力」を指すのに対し、後者(ability)は「訓練等によって得た能力」を指す。ただこの違いが受験で問われることはないので心配しなくていい。

The auditorium has a seating capacity of 500.

その講堂は500人分の席がある

a capacity audience

満員の聴衆［観衆］

capacity は、形容詞的に「最大限の，満員の」という意味になることもある。

Her capacity for remembering is great.

彼女の記憶力はすごい

He has the capacity to become a lawyer.

彼には弁護士になる能力がある

capsule は「カプセル(の・で包む・に入れる)」。

これは(カタカナ英語の)「カプセル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

また capsule には「小型の」という意味もあるが、これは超小型のホテルのことをカプセ

ルホテルなどと言うので類推しやすい。

He took the capsule and went to sleep.

彼はカプセル入りの薬を飲んで寝た

capture は「①～を捕らえる ②～をとりこにする」(動)

「①捕獲(すること・されること) ②逮捕 ③捕虜」(名)

これは(カタカナ英語の)「モーションキャプチャー」から類推できる。モーションキャプチャー(motion capture)とは、「(人・物にセンサーを取り付け)現実の人物や物体の動きを捕らえて、デジタル的に記録する(ＰＣなどに取り込む)技術」のこと。ここから「～を捕らえる」という意味を類推できる。

「捕虜、とりこ」という意味では captive と言うこともある。

captive は a captive animal(「捕らわれた動物」)といったように、 capture の形容詞形としても用いられる。

Her breathtaking beauty has captured him.

彼女の息をのむほどの美しさが彼をとりこにしてしまった

carbon は「炭素」。

これは(カタカナ英語の)「カーボン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。carbon dioxide は「二酸化炭素(ＣＯ$_2$)」。形容詞形の carbonic で「炭素の」。carbonic acid は「炭酸」。

career は「①(一生の)経歴、生涯 ②(専門的訓練を要する)職業」。

これは(カタカナ英語の)「キャリア」から類推できる。ただ発音は[kəriər(カリア)]と、アク

セントが第二音節になるので注意。

the careers of great men

偉人たちの生涯

She has had a very bright career as an engineer.

彼女は技師として 非常にすばらしい経歴の持ち主だ

Her brief career is over.

彼女の短い生涯は終わった

ちなみに「キャリアウーマン(結婚・育児よりも仕事に関心が強い女性)」は career woman [girl] でいい。

㊟男性の場合は career man[boy] とは言わない。

ちなみに「エイズウイルスのキャリア」という場合の「キャリア(病菌の媒介体、保菌者)」は carrier。これは「carry(運ぶ)+(i)er(人)→運ぶ者」ということ。

careful は「注意深い」。

これは(カタカナ英語の)「ケアレス」から類推できる。ケアレス(careless) は「不注意な」という意味。ケアレスミスは「不注意なミス[誤り]」のこと。その careless の反意語が careful と考えれば良い。名詞形は care で「①注意 ②世話」。こちらについては「世話」という意味で「ケア」はカタカナ英語になっている。care は動詞として care for A で「Aを世話する」となる。care about A は「Aを心配する、気にかける」。care to do [原形]～ は(否定文・疑問文・条件文で)「～したいと思う」という意味になる。I don't care to do it today. は「今日はそれをしたくない」。

Be careful (of) what you're saying.

言葉をつつしみなさい

cargo は「貨物、船荷」。

これは(カタカナ英語の)「カーゴパンツ」から類推しよう。カーゴパンツ(cargo pants)とは、貨物船で荷役作業などに従事する人たちの間で使われるようになった、作業用のズボン。生地が厚く丈夫で、膝上の左右に大きなポケットが付けられているのが特徴だ。
ちなみに a cargo ship[boat] は「貨物船」。

carnivore は「肉食動物」。

これは(カタカナ英語の)「カーニバル(carnival)」から類推できる。カーニバルとは「謝肉祭」と訳す。同じ"肉"つながりで覚えるといい。ちなみに「草食動物」は herbivore というが、こちらは「ハーブ」から類推するといい。

case study は「事例研究」。

これは(カタカナ英語の)「ケーススタディ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ケーススタディとは、実際の成功例や失敗例を分析して今後に生かす[教訓を得る]ことを指して言う。

cash は「現金」。

これは(カタカナ英語の)「キャッシュ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。cash は、動詞として「(手形・小切手などを)現金に換える」という意味もある。Would you cash these traveler's checks, please? は「このトラベラーズチェックを現金に換えてください」。

I was short of cash.

現金が足りななかった

金に困っていた

I am out of cash.

今現金を切らしている
I’ve no cash on[with] me.

金の持ち合わせがない
a cash payment

即金払い
a cash price

即金払い価格
I paid in (hard) cash.

私は現金で払った

catastrophe は「①(突然の)大惨事 ②大失敗、不幸」。

これは(カタカナ英語の)「カタストロフィ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は catastrophic で「①破滅的な ②大災害の」。

catch up with A は「Aに追いつく」。

これは(カタカナ英語の)「キャッチアップ」から類推できる。「キャッチアップする」と言う場合、(catch up と同じで)「追いつく・遅れを取り戻す」ことだ(最新情報を入手する行為を「キャッチアップする」と表現する場合もある)。

His car caught up with hers.
彼の車は彼女の車に追いついた

catch

catch の『核』のイメージは「動いているものをとらえる」。

(ex) The police finally caught the thief. 警察はついに泥棒を捕まえた

㊟ catch の活用は catch - caught - caught。

How many fish did you catch today? 今日は何匹魚を釣りましたか

The outfielder caught the ball. 外野手がボールをとった

Leave soon, and you will be able to catch the train.

すぐ出なさい。そうすればその列車に間に合いますよ

おなじみの catch の例文だが、よく見てみると確かにすべてとらえているのは「動いているもの」だ。

catch は catch O doing～ で「Oが～しているところを目撃する」という用法があるが、これも「動いているものを(視覚で)とらえる」ということ。

(ex) He was caught cheating in the exam.

彼は試験でカンニングをしているところを見つかった

㊟例文は catch O doing～ の受動態。

「動いているもの」は、「言葉」「注意」「事象」「風邪」等になることがある。

(ex) I can't catch what you say. おっしゃる意味がわかりません

We caught the sound of a car crashing.

私達は車が衝突する音を耳にした

I tried to catch her attention. ボクは彼女の注意を引こうとした

I caught (a) cold. ボクは風邪を引きました

I caught my breath at the sight. 私はその光景にかたずをのんだ

㊟ catch one's breath で「息をのむ」「息をつぐ」。

ceiling は「天井」。

これは(カタカナ英語の)「シーリング」から類推できる。シーリングとは「国の予算編成における各省庁の(概算の)予算要求枠」のことを言うが、これは各省庁が財務省に要求する予算の限度額、つまり天井となる金額のこと。このように ceiling は「最高限度、最高値」という意味にもなる。set[put] a ceiling on A は「Aの最高限界を決める」。

There is a fly on the ceiling.

天井にハエがとまっている

cellar は「①地下(貯蔵)室 ②ワインの貯蔵室」。

これは(カタカナ英語の)「ワインセラー」が②の意味で用いるのでわかりやすいはず。温度変化を嫌うワインの貯蔵室は昔は地下に作られることが多かった。

center[centre] は「中心、中央、センター」。

動詞形は centralize で「中心に集める[まる]」。
ただ center 自身にも動詞として、「～を(…に)集中させる」「～を(…の)中心に置く」「(…に)集中する」という意味もある。

He centered his attention on the problem.

彼はその問題に注意を集中した

The novel is centered on the Civil War.

その小説は南北戦争を軸にしている

center the photo on the wall

写真を壁の中央に掛ける

The production of automobiles centers on Detroit.

車の生産はデトロイトに集中している

Attention centered on the singer.

その歌手は注目の的だった

ceremony は「儀式」。

これは(カタカナ英語の)「セレモニー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a funeral ceremony

葬儀

an opening[a closing] ceremony

開会[閉会]式

The inauguration ceremony will take place today.

就任式は今日挙行される

chairman は「①委員長、議長 ②司会者 ③(会の)主催者」。

これは(カタカナ英語の)「チェアマン」から類推できる。日本ではＪリーグの理事長の名称として有名。近年では chairperson と言われることが多い。

He was elected (the) chairman of the committee.

彼は委員会の議長に選ばれた

challenge

challenge も「挑戦する」だけではその意味の全てをまかないきれない。実は challenge の『核』のイメージは「挑む(挑みかかる)」。そこから以下のような意味が生まれた。

①「(～に)挑む、挑戦する」
「(人・能力などを)試す」
「(やる気などを)促す」

「お前に負けないぞ」「できるものならやって見ろ」と挑んでくるイメージ。

(ex) He challenged me to have a karate bout.

彼は私に空手の試合を申し込んできた

「空手の試合をするようにと私に挑んできた」ということ。

The question challenged the research team to tackle it.

その問題は　調査チームに取り組む気を起させた

challenge O(人) to do[原形]～で「Oに～するよう促す」。「物事が人に挑んできた結果として、人にやる気を出させる」ということ。

②「(陳述・資格などに対してその妥当性を)疑う、問題にする、異議を唱える」

「おかしいじゃないか」と挑みかかるイメージ。(動詞の)question や doubt で言い換えられる。

(ex) Nobody in the company challenged the boss's prospects for the future.

社内の誰も社長の将来見通しに異議を唱えるものはいなかった

The police challenged the truth of her story.

警察は彼女の話が本当かどうか疑った

③「(弁明・説明・証拠などを)強く要求する」

「有るなら出してみろ」と挑みかかるイメージ。

(ex) This problem challenges us to find a new solution.

この問題は私たちが新しい解決法を見出すことを必要としている

challenge O(人) to do[原形]～で「Oに～するよう要求する」。

④「(物事が賞賛・注意・努力・興味などを)喚起する、促す、値する」

「オレがいるじゃないか」と声を出して物事が挑んでくるイメージ。

(ex) His work should challenge first place.

彼の作品は第１位にすべきだ

His new ideas challenged interest.

彼の新しい考えは興味をそそった

This plan challenges attention. この案は注意して検討するべきである

この challenge が名詞として用いられると具体的には以下のような意味になる。

①「(競技などへの ／ ～しようという)挑戦」

(ex) I accepted a challenge to play tennis.

私はテニスの試合の申し込みに応じた

a challenge cup[flag] 優勝杯[旗]

②「(やりがいのある)課題」

「努力目標」

「(やっかいな)問題、難問」

「やりがい、張り合い(のある仕事)」

「人に挑みかかってくるようなもの・事」ということ。そのような物事は、それを受けとめる人間次第で「厄介な問題」にも「やりがい(張り合い)のある仕事」にもなる。

(ex) They faced[tackled] a challenge. 彼らは難題に取り組んだ

He was able to meet[cope with] the challenge.

彼は難題にうまく対処することができた

Nancy wants a task with more challenge.

ナンシーはもっとやりがいのある仕事を求めている

Economic revival is seen as one of the challenges today.

経済復興こそ今日の課題の１つと見なされている

③「(妥当性・資格などへの)異議、疑念、説明要求、拒絶」

(ex) His speech is beyond challenge. 彼のスピーチは文句のつけようがない

この challenge の現在分詞 challenging は「(人に)挑みかかってくるような」から転じて

「興味をかきたてる(ような)」「意欲をそそる(ような)」「やりがいのある」「刺激的な」「挑戦的な」「骨の折れる」

といった意味になる。

(ex) a challenging job やりがいのある仕事

a challenging course 難しいコース[科目]

ちなみに challenged は「神・運命からの挑戦を受けている→心身に障害のある」という意味になる。the challenged で「心身に障害のある人」という

意味。

chance は「①好機、機会 ②可能性」。

これは(カタカナ英語の)「チャンス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
chance の場合「運、偶然」という意味もある。
leave A to chance は「Aを運にまかせる」。

Let's leave it to chance.
運に任せよう

by chance は「偶然に」。

I met him by chance at Tokyo Station yesterday.
昨日偶然にも東京駅で彼に会った
「偶然に」は by accident でも言い換えられる。こちらも頻出。

take a chance で「一か八かやってみる」(take chances とも言う)。

He did not take chances.
＝He took no chances.
彼は危険を冒さなかった

それから、 (The) chances are (that) S+V…で「多分…だろう」。

(The) Chances are (that) he will get plenty of help.
多分彼は十分な助けを得るでしょう

動詞の場合 chance to do[剛]～ で、「偶然～する」という語法がある。

She chanced to be in that room.
彼女は偶然その部屋にいた

charge

charge も(カタカナ英語の「チャージ」だけではなかなかマスターできない多義語だ。実際、(カタカナ英語で)「チャージ」と言う場合でも、以下のような意味がある。

①航空機・自動車に燃料を入れたり、蓄電池に充電したりすること。「バッテリーチャージャー」は「充電器」のこと。
②ＩＣチップを内蔵したカードや携帯電話に専用の機械やソフトを使って入金すること。ＩＣチップに、その金額が使用できる金銭データとして保存され蓄えられる。
③ サッカーやアイスホッケーで、相手選手と肩でぶつかってボールを奪ったり 攻撃をはばんだりすること。「キーパーチャージ」は「キーパーを攻撃する［に体当たりする］反則」のこと。
④ゴルフで、先行する選手を追い上げること。「猛チャージをかける」。
⑤代金。特に、レストランなどの料金。「テーブルチャージ」は「そのテーブルに課 せられる代金」のこと。

ここもやはり根っこ(『核』)のイメージの力を借りよう。 charge の根っこ(『核』)のイメージは**「～を負荷する[与える・課す・負わせる]」**。「～」には「荷物」「責任」「仕事」「非難」「罪」「代金」「税金」などが来る。上記のカタカナ英語のチャージも、この『核』のイメージで全てつながってくる。**「充電する」**というのも「電気を(バッテリーに)与えること」だ。名詞として用いられた場合には「課せられた[負わされた]もの」から転じて、**「代金」「請求金額」「非難」「責任」「義務」「監督」「委託されたもの」**といった意味にもなる。また「負荷を与える(こと)→**攻撃[突進](する)**」という意味も生まれた。

(ex) He was charged with robbery.

彼は強盗罪で告発された

これは、「彼は強盗についての罪(名)を課せられた」ということ。

(ex) He charged the accident to her carelessness.

彼は事故を彼女の不注意のせいにした

これは、事故の責任を彼女の不注意に課した(つまりせいにした)ということ。

charisma は「①カリスマ ②(個人的)魅力、人を引きつける力」。

これは(カタカナ英語の)「カリスマ」も、「彼はカリスマだ」「カリスマ的魅力を持っている」などと「非凡な力を持つ教祖的な人物、またはそのような魅力」のことを指して言うのでわかりやすい。

charity は「慈善(行為・事業)、施し、寄付」。

これは(カタカナ英語の)「チャリティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

He liveed on charity.

彼は施しに頼って生きた

chart は「①図(表) ②海図」。

これは(カタカナ英語の)「チャート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞として「①海図[図表]を作る ②～を図で示す」という意味もある。

He had charted my route across the flat country.

彼は私がその平坦な土地を抜ける道順を地図に書いてくれた

chat は「おしゃべり(をする)」。

これはインターネット用語の「チャット」から類推できる。チャットとは「コンピューターネットワーク上で、２人以上の相手とリアルタイムで短いメッセージをやり取りする(まさに「おしゃべり」ができる)システム(又はサービス)のことだ。

We were chatting over tea.

私たちはお茶を飲みながらしゃべっていた

cheap は「安っぽい、安価な」。

これは(カタカナ英語の)「チープ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。inexpensive で言い換えられる。

Apples are very cheap now.

今はリンゴがとても安い

This hat is very cheap for[at] 1,000 yen.

この帽子は1,000円なら大変安い

反意語は expensive で「高価な」。

ただし cheap ⇔ expensive は「物が安価な[高価な]」という場合に用いる。

This camera is cheap[expensive].

このカメラは安価[高価]だ

「値段が安価な[高価な]」という場合には low ⇔ high を用いるので注意しよう。

The price of this camera is low[high].

このカメラの値段は安い[高い]

Prices are recently high.

このごろ物価が高い

check

check という単語、なんとも意味が多いですね。名詞だけでもこれだけの意味があります。

①「検査、点検、テスト」

(ex) The employees made a careful check of[on] the machine.

従業員はその機械を綿密に検査した

②「(突然の)阻止、妨害、停止」

「阻止する人[物]」

(ex) Bad weather gave a check to crop production.

悪天候で作物の生産が伸び悩んだ

give[put] a check to A で「Aを阻止[抑制]する」。

We met with a check. 私達は妨害にあった

A change of wind acted as a check on the spread of the forest fire.

風向きが変わったので山火事は広がらずにすんだ

③「(レストラン等の)会計伝票、勘定書」 =bill

(ex) She signaled to the waiter for her check.

彼女は勘定書を持って来るようウェイターに合図した

Check, please. 御勘定をお願いします

④「小切手」

(ex) He sent the store a check for $100.

彼はその店に100ドルの小切手を送った

I cashed the check. 私はその小切手を現金に換えた

⑤「(手荷物などの)合い札、預かり証」

(ex) a baggage check 荷物の合い札

a check for my coat コートの預かり証

⑥「チェック(模様)、格子じま」

「格子じまの織物」

[形容詞的に]「チェックの」
(ex) a check pattern チェックの模様

⑦[チェス用語]「王手」 =checkmate
(ex) The king is in check. キングに王手がかけられている

更に動詞としても以下のような意味があります。

①「～を検査する、点検する、調べる」
「(確認のために)～を照合する、チェックする」
(ex) Would you please check these figures?
これらの数字が合っているか調べていただけますか
He checked his watch and it was noon. 彼は時計を見たら正午だった

②「～を阻止する、食い止める」 =stop
(ex) The sandbags helped to check the floodwaters.
砂袋が洪水を食い止めるのに役立った

③「(感情等を)抑制する」
(ex) She couldn't check her anger. 彼女は怒りを抑えることができなかった
He checked himself. 彼は自制した

④[劇場・ホテルのクローク等で合い札と引き換えに]「(所持品を)一時預けにする」
(ex) Check your coat at the door, please. コートは入口でお預けください

⑤[check in]「(ホテルで)宿泊手続きをする」 ⇔ check out
「(空港で)搭乗手続きをする」
「(タイムレコーダーを押して会社に)出勤する」

⑥[チェス用語]「(相手のキングに)王手をかける」

なんともやになってしまいますね(これだけの意味を丸暗記しようと思ったら)。これを簡単に覚えてしまう方法はやはり『核』のイメージをつかむことです。check とは、元々チェスの用語で「王手」の意味なのです。王手とは、王(king)の行く道をふさぎ、動きを止めて詰ませることですね。つまり check の『核』

のイメージは「～の動きを止める」なのです。
それがわかると、「検査(する)」というのは、そこでいったん(検査対象の)動きを止めて、調べることですね。
ホテルのフロント等に check in するというのも、そこで(名前を書いたり本人確 認をしたりして)宿泊者はいったん動きを止められますね。
「阻止」とはまさに相手の動きを止めること。「感情を抑制する」というのも、感情の動きを止めることです。
(劇場・ホテルのクローク等で合い札と引き換えに)所持品を一時預けにする」という場合も、「劇場・ホテルに入る」という行為がそれによって一時止められますね。
そして所持品を預けた場合、返してもらうときのために合札(預かり証・半券)を手渡されます。それが「小切手」「勘定書」「伝票」という意味の由来なのです。「チェック柄」は、チェスの盤の枡目のデザインから来ています。

cheek は「ほっぺた、ほお」。

これは(カタカナ英語の)「チーク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「ほお紅」のこともチークと言うし、またチークダンスと言えば、ほおとほおが触れ合うようにぴったり寄り添って踊るダンスだ。

She kissed the baby on the cheek.
彼女は赤ちゃんのほっぺたにキスした

cheer は「①応援、喝采、声援 ②機嫌」。

これは(カタカナ英語の)「チアガール」「チアリーダー」から類推できる。チアガール[リーダー]は、競技をするチーム[個人]を応援・声援し、元気づける女史応援団員だ。
また cheer は動詞として「①～を元気づける ②～に喝采する ③～に声援を送る、応援す

る」という意味もある。

Cheer up!

がんばれ

The cheers swelled to a roar.

歓呼の声はどよめきにまで高まった

chief は「(集団・組織の)長」。

これは(カタカナ英語の)「チーフ」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。chief は形容詞として「最高位の、主な、第一の」という意味もある。

the chief of police

警察署長

chief source of income

主な収入源

chipは「①ポテトチップ ②(コンピュータの)チップ ③切れ端」。

これは(カタカナ英語の)「チップ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞で「切る、切り取る」という意味もある。なお tip は「①(ウェイターなどに払う)チップ ②先端」という意味。from tip to toe で「頭のてっぺんからつま先まで」

a chip of wood

木切れ木っ端

He chipped a few pieces of ice from the large cube.

彼は大きな四角い氷塊から小片を少しかき取った

choke は「～を窒息させる、(～で)息が詰まる」。

プロレス用語で「チョーク」というと、相手を窒息させる反則のことを言う。そこから類推できる。ちなみに黒板に字等を書くときに使う「チョーク」は chalk 。

A cookie almost choked the baby.

お菓子で赤ちゃんが窒息するところだった

He was choked with smoke.

彼は煙にむせた

The chimney was choked (up) with soot.

煙突がすすで詰まった

His house is choked up with old furniture.

彼の家は古い家具で身動きできないほどだ

citizen は「市民」。

これは時計メーカーの「シチズン」から類推しよう。シチズンの創業者は、「市民に親しまれるように」という願いを込めて、この社名をつけたという。

a Roman citizen

ローマ市民

citizen は「居住者、住民(inhabitant)、住人」という意味になることもある

The deer is a citizen of our woods.

シカは我々の森の住人だ

claim は「①主張 ②要求 ③(請求する)権利」(名)

「①～だと主張する ②～を要求[請求]する」(動)

この語は要注意で、カタカナ英語で「クレームをつける」というと、「不平を言う」とい

う意味で用いるが、それは英語では complain about[of]～ と言う。

The man claimed a reward for finding the kidnapper.

その男は誘拐犯を見つけた謝礼を要求した

classic は「①古典(の) ②名作(の)、一流の(作品・作家)」。

①については(カタカナ英語の)「クラシック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味もおさえよう。our modern classic writers は「当代一流の作家たち」。また「典型的な」という形容詞の意味もある。それから「クラシック音楽」は classical music と言うので注意。

the Japanese classics

日本の古典

the classic symptoms of pneumonia

肺炎の典型的な症状

clean は「①「きれいな ②間違いのない ③汚染されていない、汚染物質を出さない」。

これは(カタカナ英語の)「クリーン(な・にする)」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。また「(道徳的に)汚れていない，純潔な」「潔白な、品のよい」といった意味もあるが、こちらも「クリーンな政治家」といった表現でおなじみ。

I want to lead a clean life.

清い生活を送りたい

His record is clean.

彼の履歴は（前科などなくて）きれいだ。

clean は動詞として「きれいにする」という意味もある。

You should clean your room.

自分の部屋をきれいにすべきだ

clear は形容詞として

①「明らかな、明白な」
②「(視覚的に)鮮明な」
③「(音が)よく聞こえる、澄んだ」

また動詞として

①「(場所を)片付ける、きれいにする」
②[clear A(場所) of B(邪魔な物)]A「からBを取り除く」
③「(仕事・問題などを)片づける、うまく処理する」
④「突破する、クリアーする、飛び越す、通り越す」
⑤「～をはっきりさせる、明らかにする」

これだけ意味があっても、カタカナ英語の「クリアー(な・にする)」では類推できない clear 意味・用法はないだろう。ただ動詞の clear の clear A(場所) of B(邪魔な物) という語法はしっかりおさえておこう。

They cleared the streets of snow.
彼らは往路の除雪をした
上例は They cleared snow from the streets. と書き換えられる。
He cleared the data from a computer.
彼はコンピューターからデータを消去した

この clear の名詞形が clarity で「①明瞭さ、明確さ ②清澄、清浄、透明」。 with great clarity なら「非常に明快に」という意味になる。clarity の動詞形が clarify で「(意味・問題点等を)はっきりさせる、明らかにする」。

client は「(弁護士等の)依頼人、(商店等の)お得意さん」。

これは(カタカナ英語の)「クライアント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

Client ages range from people in their 40s to people who have already retired.

顧客の年齢は、40代からすでに退職している人までと幅広い。

range from A to B で「AからBにまで及ぶ」。

client-centreed attitude

顧客第一という姿勢

cliff は「崖」。

これはヒット映画「レッドクリフ」から類推できる。レッドクリフは、三国志の「赤壁の戦い」を描いた映画で、レッドクリフは「赤い崖」という意味になる。

climb は「登る(こと)」。

これは(カタカナ英語の)「クライミング」「クライマー」から類推できる。

He climbed Mt. Everest in 1990.

彼は1990年にエベレスト山に登った

Can you climb the tree ?

その木に登れますか

clinic は「診療所」。

これは(カタカナ英語の)「クリニック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は clinical で「①診療所の②臨床の」。比喩的に「(判断などが)冷静な」という意味にもなる。

a dental clinic

歯科医院

clothes は「衣服(≒clothing)」。

これは「ユニクロ」から類推しよう。(カジュアル衣料品販売で有名な)ユニクロは、UNIQUE CLOTHING WAREHOUSE の略。clothes の動詞形は clothe で「～に服を着せる」。be clothed (in…) または clothe oneself (in…) で「(…の)服を着ている」という意味になる。

㊟ただし be dressed in…, dress oneself in… の方が一般的。

The baby was warmly clothed.

赤ちゃんはあたたかなものを着ていた

He was clothed in white.

彼は白い服をまとっていた

ちなみに cloth は「布」だが、これは「クロス」「テーブルクロス」でおなじみ。

cluster は「①群れ ②集団 ③束 ④(果物の)房」。

爆弾の種類として「クラスター爆弾」というのがある。これは大きな容器の中にたくさんの小型爆弾を詰めた爆弾のことを言う。

㊟クラスター爆弾は、投下されると容器が開いて広範囲に小型爆弾を飛散・爆発させるので、被害は甚大となる。

小さな爆弾が束になって鈴なりに(房のように)なっているイメージを cluster と結びつけて覚えよう。cluster は動詞として「(～の周りに)群がる、群生する、～を群がらせる」という意味もある。

coast は「海岸(線)」。

これは(カタカナ英語の)「コースト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「ウエストコースト」「イーストコースト」といった地名でもおなじみ。

from coast to coast は「(アメリカの)東海岸から西海岸まで，全国的に」。ちなみに shore は「岸」。beach は「(砂)浜」。

a port on the east coast

東海岸の港

an island off the coast

沖合いにある島

coat は「①コート、外套 ②上着(=jacket) ③(表面を薄く)覆うもの、塗装」「表面を覆う」。

これは(カタカナ英語の)「コート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞の③の意味でも「三層コート」などと言ったりする。また表面を覆うことを「(表面を)コートする」と言ったりする。

The table was coated with[in]　dust.

テーブルはほこりだらけだった

She coated the cookies with chocolate.

彼女はビスケットにチョコレートをかけた

coin は「①硬貨(を鋳造する) ②(新語を)造る」。

①については(カタカナ英語の)「コイン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味も同じ「(新しく)造る」つながりで覚えてしまおう。

They coined an expression.

彼らは新しい表現をつくり出した

coach は「コーチ(をする)」。

これは(カタカナ英語の)「コーチ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ coach には「①馬車 ②(運賃の安い)普通客車 ③長距離(観光)バス」という意味もある。

college は「①単科大学 ②(総合大学の)学部 ③専門学校」。

①については、(カタカナ英語の)「カレッジ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに「総合大学」は university。

a medical college

医科大学

a women's college

女子大学

She was in college in those days.

その当時彼女は大学在学中だった

colony は「①植民地 ②(同じ民族の)居住地、居留区 ③(生物の)群生」。

これは(カタカナ英語の)「コロニー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

③の colony は生物学用語で、同種または複数種の生物が集団をなしてある地域に定住しているとき、その集団を広くコロニー(colony)と呼ぶ。colony の形容詞形が colonial で「植民地(風)の」という意味。colonial が「植民地の住民」という意味になることもある。British colonials in India と言えば「インド植民地の英国人」。

color は「色」。

これは(カタカナ英語の)「カラー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
ただ color には「①顔色、血色 ②(皮膚の)色、有色」という意味もある。

have a goo[high] color

血色がよい[顔が赤い]

The color rose in his face.

彼は顔が赤くなった

There were people of different colors in the room.

その部屋にはさまざまな肌の色の人たちがいた

それから color は動詞として「①～に色を塗る、色づく ②～に影響を与える(=influence)」という意味もある。②についても、日本語でも「～の色に染まる」「～の色がつく」などと言ったりするので類推しやすいはず。

The discovery colored the thought of the time largely.

その発見がその時代思想に大きな影響を与えた

ちなみに collar は「襟(えり)」。これも(カタカナ英語の)「カラー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
blue-collar は「肉体体労働(者)の、ブルーカラーの」、white-collar は「頭脳労働者の、ホワイトカラーの」。

comedy は「喜劇」。

これは(カタカナ英語の)「コメディ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
comedy の形容詞形は comic で「喜劇の」。comedy の反意語は tragedy で「悲劇」。その形容詞形は tragic で「悲劇的な、悲劇の」。

command

command の『核』のイメージは「～を支配下に置く(おさめる)」。

そこから

「Oを支配する」
「O(人・物)を指揮する、率いる、統治する」
「O(お金・報酬など)を意のままにする」
「O(言葉)を自由にあやつる」 ☜「言葉を支配下におさめる」ということ。

という意味が生まれまた。

(ex) England commanded the sea. イギリスが海を支配した[制海権を握った]
The captain commands his ship. 船長は船を指揮する
The banker commands a tremendous amount of money.
その銀行家は巨額の金を意のままに操っている
My sister commands seven languages. 姉は７つの言葉を話します

command といえば「命令する」という意味が(カタカナ英語でも)おなじみだが、これは「(支配下におさめた結果)～を(意のままに)動かす」ということ。

☗ただし command は、強い権限を持った人が下し、遂行されることを前提とした命令をするという場合に用いる。

(ex) The policeman commanded the criminal to move on.
警官は犯人に進むように命じた

更に「自分自身(の理性)を支配下におさめる→感情をおさえる(支配する)」という意味にもなる。

(ex) He commanded himself. 彼は気持ちを抑えた
I tried to command my passions. 私は感情をおし殺そうとした

比喩的に「家・砦(とりで)などが景色等を支配下(=視界)におさめる→景色を見おろす、見渡す」という意味にもなる。主語には通例、場所・高い建物等が来る。

(ex) The house commands a fine view. その家は見晴らしがいい

上記の意味は名詞的にも用いらる。つまり command は「(…するようにという)命令、指令」「指揮(権)、統率、支配」「(感情の)抑制力」「(言葉等を)自由にあやつる力、運用力、理解力」「(状況 事実などの)把握力」「見晴らし、展望」といった意味にもなる。

(ex) by his command 彼の命令で
He took command of an army. 彼は軍を統率した
She doesn't have command over herself. 彼女は自制心がない
I lost command of myself. 私は自制力を失った
She has (a) good command of English. 彼女は英語が達者だ
The hill has the command of the whole city. その丘から全市を見渡せる

community は「①地域共同体[社会]、(生活)共同体、市町村(などの自治体)、コミュニティー(の人々) ②(利害、宗教、人種などを同じくする)集団、～界」。

これは(カタカナ英語の)「コミュニティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。実は community にはこれ以外にあと２つ、次のような意味がある。

① 「(共通の価値感覚を持った)国家集団、国際社会」
② 「(一般)社会、公衆」

つまり the community of Western Europe(西欧国家)、 the needs of the community(社会が必要とするもの)といった用例がある。

companion は「①仲間、話し相手 ②付き添い」。

この語については(カタカナ英語の)「コンパニオン」とは意味が異なるので注意。コンパ

ニオンは「①(催し物会場などの女性の)接待係 ②バーなどで男性の相手をする女性」のことだが、英語では①は a female guide、②は a hostess と言う。hostess についても、英語の場合は「(家庭で客(guest)をもてなす)(女)主人(役)」のことも指すので注意。host も「①(客をもてなす)主人(役) ②受け入れ側」という意味。②の意味では「ホストファミリー」「ホスト国」という表現でおなじみ。

a companion in arms

戦友

a traveling companion

旅の道連れ

He's not much of a companion for me.

彼は大して私の話し相手にはならない

He has been a good companion to me.

彼は今までずっと私の良い友だちだった

compartment は「①(仕切られた)区画、仕切り　②仕切り客室」。

これは(カタカナ英語の)「コンパートメント」から類推できる。コンパートメントというと、compartment の②の意味で、列車などの区切りを設けるなどして個室のような雰囲気を持たせた席のことを指す。

compliance は「①(要求・希望等に)従うこと、承諾 ②(他者への)従順」。

これは(カタカナ英語の)「コンプライアンス」から類推できる。コンプライアンスとは、「法令順守」つまり法律や規則に従うことを指して言う。compliance の動詞形は comply。comply with A で「A(規則等)に従う、A(要求・希望等)に応じる」。

in compliance with orders

命令に従って

Compliance with the law is expected of all.

法の遵守はあらゆる人に求められている

comply with his wishes

彼の希望に応じる

comply with the rules

規則に従う

computer は「コンピュータ」。

これは(カタカナ英語の)「コンピュータ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は compute で「～を(コンピュータで)計算する」。

I fed data to the computer.

私はデータをコンピューターに入れた

This building is controlled by computer

このビルはコンピューターで制御されている

conceal は「～を隠す」。

これは(カタカナ英語の)「コンシーラー」から類推できる。コンシーラー(concealer)とは、顔のシミ・そばかすなどを隠すための化粧品のことだ。conceal はその動詞形。

He concealed the fugitive.

彼は逃亡者をかくまった

Don't conceal your intentions from me.

君の目的を私に隠すな

The trees concealed the deer from view.

シカは木に隠れて見えなかった

語源～centr

centr は「中心」を表す語幹。これを含む語の例をいくつか挙げてみよう。

central	centr+al[形容詞語尾]	→中心の	⇨ 中心の
concentrate	con(一緒に)+centr+ate[動詞語尾]	→中心を共にする	⇨ 集中する
eccentric	ec(=ex)+centr+ic[形容詞語尾]	→中心から出るような	⇨ 風変わりな
centrifugal	centr+i+fug(逃げる)+al[形容詞語尾]	→中心から逃げるような	⇨ 遠心力の
ethnocentrism	ethno(民族)+centr+ism(主義)		⇨ 自民族中心主義

conceive は「①～と思う、考える、想像する ②～を思いつく」。

これは(カタカナ英語の)「コンセプト」から類推できる。コンセプト(concept)とは「考え(方)、(基本)概念、構想」という意味。conceive は concept の動詞形だ。ちなみに conceivable は conceive の形容詞形で「考えられる」。否定の接頭辞の in がついた inconceivable は「～ない(in)+考える(conceiv)+できる(able)→考えられない」となる。

It's almost inconceivable that anyone should do that.

それをやる人がいるなんてほとんど信じられない

condominium は「①分譲マンション ②共同統治[領有]」。

①については(カタカナ英語の)「コンドミニアム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

conduct は「①～を案内する ②(楽団を)指揮する ③(調査・実験等を)行う、(指導的な立場から)運営する、指導する ④(熱・光・電気等を)伝導する」(動)
「①行為、品行 ②指導、管理、運営」(名)

カタカナ英語で「コンダクター」と言えば「(楽団の)指揮者」のこと。「ツアーコンダクター」と言えば「ツアーを案内する人」のことだ。カタカナ英語ではここまでだが、conduct のそれ以外の意味は受験では頻出なのでしっかりおさえよう。

- conduct の『核』のイメージは、「正しい方向へと導いてやる」。
  これがわかれば基本的に全ての conduct の意味はつながってくるはず。「行動[為]」という意味では conduct は、主に成人の場合に用いて倫理的・道徳的な意味持つ。つまり「道徳的・倫理的に正しく自身を導くこと」だ。
- 子供の場合は「行為、ふるまい」は behavior で表す。

His speech and conduct tells us a lot about his character.
彼の言動を見ていると、彼の性格について多くのことがわかります

conquest は「征服(すること・されること)、克服」。

この語自体はカタカナ英語ではないが、世界史を選択した学生なら「ノルマンコンケスト(the Norman Conquest)」という言葉を聞いたことがあるはず。ノルマンコンケストとは、(1066年に)ノルマン人がイギリスを征服して王朝を開いた事件を指す。ここから conquest が類推できる。動詞形は conquer で「征服[克服]する」。この２つの語は発音問題としてもよく出題され、conquest は[kɔŋkwest(コンクゥエスト)]、conquer は[kɔŋkər(コンカ-)]と発音する。

conscious は「意識的な、意識した[ている]、気付いている」。

これは(カタカナ英語の)「ボディコン」から類推できる。ボディコンとはボディコンシャスの略で、ピッタリとして体(ボディ)の線を意識した[強調した]服装のことだ。

名詞形は consciousness で「意識」。

〇〇-conscious で「〇〇を意識した」という意味になる。self-conscious は「自意識の強い」。また be conscious of Aで「Aを意識している」。

Most of us are very conscious of how we appear to those around us.

我々はたいてい周りの人にどう見られているかとても意識している

consensus は「①意見の一致、(ある集団の)総意 ②世論」。

(カタカナ英語で)「コンセンサス」というと①の意味で用いられる。「国民のコンセンサスが得られない」などと言ったりする。

a consensus of opinion

意見の一致

We should reach a national consensus on this issue

この問題について国民的合意に達すべきだ

constant は「①一定の、不変の ②絶え間ない」。

これは(カタカナ英語の)「コンスタント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。副詞形は constantly で「絶えず、頻繁に」。

Her success is due to her constant efforts.

彼女の成功は不断の努力のたまものである

consume は「①～を消費する、使い尽くす ②～を食べ尽くす ③～を焼き尽くす」。

①については(カタカナ英語で)「消費者」のことを「コンシュマー」と言うからわかりやすい。ちなみに消費者は英語でも a consumer と言う。ただ consume の意味は上記のよう

に拡大するので注意したい。

The fat man consumed a great deal of meat.

その太った男は大量の肉をたいらげた

He consumed a lot of time　(in)　reading.

彼は多くの時間を読書に費やした

The flames consumed the whole building.

火炎が建物全部を焼き尽くした

content は「①[contents](入れ物の)中身、内容物　②[contents](書籍等の)内容、目次
③内容、趣旨、要旨　④含有量」。

(カタカナ英語で)「コンテンツ」というと、パソコン通信や携帯電話・ゲーム等で配信・提供される情報(アプリケーションソフト)の内容・中身のことを指して言う。「コンテンツが豊富だ[少ない]」などと言ったりする。

the contents of a box

箱の中味

The contents of her letter pleased him.

彼女の手紙の内容に彼は喜んだ

ただ「満足して」「満足」という意味の content もあり、こちらもおさえておきたい。名詞形も content で「満足」。

反意語は discontent で「不満」。content は動詞として「～を満足させる」という語法もあるが、あまり受験では頻度は高くない。

以下のような表現もおさえておくといい。

① be content[contented] with A「Aに満足している」
② be content to do[原形]～「～することに満足している」
②to one's heart's content「心ゆくまで、思う存分に」

アクセントについて。「内容」という意味では content はアクセントは第一音節、「満足

して」「満足」という意味ではアクセントは第二音節にある。

The contents of the letter pleased her.

その手紙の内容に彼女は喜んだ

continue は「続く[ける]」。

これは(カタカナ英語の)「コンティニュー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
ドラマや雑誌などの続き物のの最後に出る to be continued は「(以下次号・次回に)続く」という意味。

The snowfall continued all night.

雪は一晩中降り続いた

The king's reign continued for over twenty years.

その王の統治は20年以上続いた

copy は「①写し、模写、複製 ②(同じ本・新聞などの)一部」。

①については(カタカナ英語の)「コピー」でおなじみなので、②の意味をおさえよう。
copy は動詞として「複製する、模写する」という意味もある。類語の copyright は「著作権」という意味。

Make two copies of this letter.

この手紙を２部複写［コピー］しなさい

ten thousand copies of the dictionary

辞書１万部

He bought two copies of the new book.

彼はその新刊本を２冊買った

Copy this page in[into] your notebook.

このページをノートに写しておきなさい

core は「①(果物の)芯 ②中心部、核 ③[the core](問題の)核心」。

これは(カタカナ英語の)「コア」も core とほぼ同じ使い方をする。「コアの部分では、両者は同じと言っていい」などと言ったりする(このようにカタカナ英語のコアは core の③の意味でよく用いられる)。ただし「コアなファンも納得の…」などと言う場合のコアなファンとは、「ファンの中でも中核をなす層」「その趣味の本筋を追求し、中途半端な妥協を許さない筋金入りのファン」を指すが、このコアは hard core を短くしたものと考えればいいだろう。hard core とは、「妥協しない、筋金入りの、(集団の)中核をなす」あるいは「(ポルノが)露骨な」という意味。

She removed the core from the apple.

彼女はリンゴから芯を取り去った

It was rotten at the core.

それは芯が腐っていた

the core of the problem

問題の核心

the core of the city

市の中心部

corporation は「①会社 ②法人」。

「コーポレーション = 会社」というのはカタカナ英語として既に浸透している。「法人」という意味ではコーポレーションは用いられていないのでこちらは注意。「宗教法人」は a religious corporation と言う。「会社」という語は、他に company, firm がある。firm は「(２人以上の合資の)商会、商店、商社、会社」を指す。a law firm は「法律事務所」。

類語の cooperation は「協力」という意味なので注意。

The man runs a corporation that does business worldwide.

その人は世界中で営業している会社を経営している

cosmetic は「化粧の、美容の」「[cosmetics]化粧品」。

これは(カタカナ英語の)「コスメ(ティック)」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
ちなみに「美容外科」は cosmetic surgery と言う。

cosmos は「[the cosmos]宇宙」「(花の)コスモス」。

これは(カタカナ英語の)「コスモス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ
[kɔzmɔs(コズモス)]と発音するので注意。

cost は「①費用、原価 ②代価、犠牲(=price)」(名)
「①(費用が)かかる ②(犠牲を)強いる」(動)

名詞の cost については(カタカナ英語の)「コスト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
名詞の cost では at the cost of A で「Aを犠牲にして」などが頻出。
動詞の cost の意味と語法も頻出なのでしっかりおさえよう。

⑴[cost A(人) B(金)] 「AにBの金がかかる」
[It costs A(人) B(金) to do[原形]～] 「Aが～するのにBかかる」 ☜仮主語構文。
It cost me three hundred dollars to buy the new model.
(私が)その新型モデルを買うのに300ドルかかった

☠「時間がかかる」という場合にはtakeを用いる点にも注意!
[It takes A(人) B(時間) to do[原形]～] Aが～するのにBかかる
It took me two hours to finish the task.
その仕事を終えるのに私は2時間かかった

㊟ take, cost 共に、「A(人)」にあたる名詞は省かれることもある。

It cost two hundred dollars to repair the PC.

そのパソコンを修理するのに200ドルかかった

⑵[cost A(人) B(犠牲・労力)]「AにBの犠牲を強いる(要求する)」

Making a model ship cost me a lot of time and patience.

模型船を作ることは、多くの時間と忍耐を要求した

→ 模型船を作るのに、多くの時間と辛抱を要した

Drunken driving cost him his life.

酔っ払い運転は彼に生命（という犠牲）を要求した

→ 酔っ払い運転で彼は生命を失った

cost の形容詞形は costly で「①損失[犠牲]の大きい ②高価な ③豪華な」。

cottage は「①別荘 ②小住宅」。

これは(カタカナ英語の)「コテージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。[kɔtidʒ(コティッジ)]と発音するので注意。ちなみに「(粗末な)小屋」は hut と言う。

They have a summer cottage at the beach.

彼らは海辺に避暑用の別荘をもっている

couch は「寝椅子、ソファ」。

これは(カタカナ英語の)「カウチ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。それから couch potato という表現がある。「ソファに寝そべってテレビにかじりついている人」のことだが、これも「カウチポテト族」でおなじみ。

counsel は「①相談(する) ②助言(する)」。

これは(カタカナ英語の)「カウンセリング」「カウンセラー」から類推できる。カウンセラー(counselor)とは、相談に乗って助言を与えてくれる人だ。

country は「①国 ②田舎」。

これは(カタカナ英語の)「カントリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「田舎」という場合、countryside という言い方もある。ちなみに「郡」は county。[kaunti(カウンティ)]と発音する。

couple は「①男女の一組 ②一対」。

これは(カタカナ英語の)「カップル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。a couple of A で「2、3のA」となる。

for a couple of years

2年間

a couple books

本 2[2,3]冊

for a couple more years

もう 2[2,3]年間

court は「(テニス・バスケットの)コート」。

これは(カタカナ英語の)「コート」でおなじみだが、court は「①法廷、裁判所[官] ②王宮、大邸宅 ③中庭(=courtyard)」という意味で用いられることがあり、特に①の意味は要注意。ちなみに洋服のコートは coat。

Court is held four times a week.

法廷は週４回開かれる

The court found him guilty.

法廷は彼に有罪の判決を下した

cover

cover の『核』のイメージは「～を覆う」。

(ex) The mountain was covered with snow. その山は雪で覆われていた

上の例文のような、物理的に「覆う」以外に、比喩的に「感情・事実等を隠す」という意味で使われたり、また「覆う」という広がりを表す意味から、ある距離・地域を足で歩き尽くす、つまり「(ある距離)を行く、踏破する」という意味にもなる。

(ex) The car covers 500 miles in a day.

その車は一日で５００マイルを走破する

「(範囲・問題など)を扱う、占める」という意味にもなるが、これについては日本語でも「カバーする(している)」という言い方をするのでわかりやすい。

(ex) This dictionary covers all common words.

この辞書は日常語はすべて採録している[カバーしている]

The reporter covered the gas explosion in Shibuya.

記者は渋谷で起きたガス爆発事故を報道した

What does the exam cover? 試験範囲はどこまでですか

以下は「(感情・事実等を)覆い隠す」という cover の例文。

(ex) The man laughed to cover his embarrassment.

その男は笑って狼狽をごまかした

The company tried to cover (up) the scandal.

その会社は、スキャンダルを包み隠そうとした

また「費用・損失などをカバーする」つまり「まかなう」といった意味にもなる。

(ex) The sum will cover the expenses. その金額で費用はまかなえるだろう

I covered the damage by insurance 保険で損害をまかなった

craft は「①工芸(品) ②(職人の)技術」。

これは(カタカナ英語の)「クラフト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。craft には「船」という意味もある。aircraft は「航空機」。spacecraft は「宇宙船」。

craftsman は「①職人 ②工芸家」。

①については(カタカナ英語の)「クラフトマン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。そこから②もつなげよう。

create は「～を生み出す、作り出す、創造する」。

これは(カタカナ英語の)「クリエート」「クリエーター」から類推できる。クリエーターは「ものを作り出す(仕事をする)人」のことだ。create は「(問題・事態を)引き起こす」という意味になることもある。

名詞形は creation で「創造」。形容詞形は creative で「創造的な、独創的な」。類語に creature があり、これは「生き物」という意味。

発音に関して。create は[クリエイト]。creature は[クリーチャー]と発音するので要注意。

God created the world.

神が世界を創造した

The Grand Canyon was created naturally through erosion.

グランドキャニオンは浸食によって自然にできた

The plans created economic chaos.

その計画は経済的混乱を引き起こした

crew は「①乗組員 ②(作業の)チーム」。

これは(カタカナ英語の)「クルー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに clue は「手がかり、ヒント」。

Do you have any clue to the mystery?

そのなぞを解く何か手がかりがありますか

not have a clue で「さっぱりわからない」という意味になる。

I don't have a clue as to where it could be.

それがどこにあるのかさっぱりわからない

crime は「犯罪」。

これは(カタカナ英語の)「クライム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「クライムムービー」と言えば「犯罪映画」のことだ。類語の criminal は「犯人」。ちなみに climb は「登る」。こちらは「ロッククライミング(rock climbing)」などでおなじみ。

He committed a crime and was punished.

彼は罪を犯して罰せられた

Crime is on the increase.

犯罪が増加している

crisis は「①危機 ②(運命の)分かれ目、(病気の)峠」。

これは(カタカナ英語の)「クライシス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「金融危機」を「金融クライシス」と言ったりもする。②もそこから類推はしやすいはず。

an economic crisis

経済危機

He has passed the crisis.

彼の病気は峠を越した

cruise は「①～を巡航する ②(飛行機・車が)巡航速度[経済的な範囲での高速度]で飛行する[走る]」。

これは(カタカナ英語の)「クルーズ」「クルージング」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。cruise は名詞として「巡航、巡回」という意味もある。

cube は「立方体」。

これは(カタカナ英語の)「ルービックキューブ」から類推できる。確かにルービックキューブは立方体だ。cube は他に「①3乗(する) ②さいの目に切る」という意味もある。

cunning は「ずる賢い、巧妙な」。

この語は要注意。(カタカナ英語の)「カンニング」とは意味が異なるからだ。実際「試験でカンニングする」は cheat in[on] an examination と言う。

curriculum は「カリキュラム、教育課程」。

これは(カタカナ英語の)「カリキュラム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

curve は「(道路などの)カーブ、曲線」。

これは(カタカナ英語の)「カーブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。curve は「～を曲げる[がる]」という動詞の意味もある。

ちなみに carve というと「～を彫刻する」「(肉などを)切り分ける」。こちらは「カービングナイフ」から類推できる。カービングナイフとは、文字通り「肉などを切り分けるナイフ」のこと。

custom

custom の根っこ(『核』)のイメージは「慣れ親しむこと[もの]」。

語源的には「cu(共に)+stom(慣れる)」。

そこから「慣れ親しんだ行為→習慣」という意味が生まれた。

(ex) We should keep[follow, observe] up an old custom.

昔からの慣習を守るべきだ

the custom of shaking hands 握手する習慣

It is my custom[habit] to jog a little before breakfast.

前に少しジョギングをするのが私の習慣です

また「(お店等に)慣れ親しむこと→(お店等への)愛顧、引立て、ひいき」、そして「(お店等に)慣れ親しんでくれている人→顧客、取引[得意]先」という意味にもなる。

custom は集合的に「顧客」という意味。一人一人の「顧客」を customer と言う。

(ex) Thank you for your custom. 御引立ありがとうございます

He lost his custom. 彼は得意客を失った

また形容詞として「ひいきの顧客の注文の→あつらえの、オーダーメイドの、特別注文の、注文品を扱う」という意味にもなる。

「あつらえの」は custom-made、made-to-order とも言う。逆に「既成の」は ready-made と言う。

(ex) a custom tailor 注文服の仕立屋
custom clothes[suit] 注文服

customs で「関税」「税関」という意味もあるが、これには以下のような由来がある。
昔(中世の時代)、田舎や漁師町に住む農民・漁民が都市部に産物を売りに行くとその度ごとに(都市に入って物を売るための)通関税を払わなければならなかった毎日同じ道を通って都市に入り出店することが習慣であり、その度に習慣的に決まってお金を徴収されるのが通関税で、それが customs となり、今では関税(外国から輸入する貨物に対して賦課する租税)が customs と言われるようになったのだ。また税関(港・空港・国境などで、関税等の賦課・徴収、輸出入貨物の取り締まりなどを行う部署)も (the) Customs と言う。

(ex) They paid customs on cars. 彼らは自動車の関税を払った
pass[get through, go through] (the) Customs 税関を通過する
a Customs officer 税関の役人

customer は「顧客」。

これは（カタカナ英語の）「カスタマー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。なお custom は「(社会的な)習慣」（「(個人的な)習慣」は habit)。

cyberspace は「コンピュータネットワークの仮想世界」。

これは(カタカナ英語の)「サイバースペース」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

cycle は「①自転車(に乗る) ②(事件・現象などの)循環、周期」。

これは(カタカナ英語の)「サイクル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

the cycle of the seasons

季節の循環［一巡］

a 10-second cycle

１０秒周期

cynical は「冷笑的な、皮肉な、人の誠実さなどを信じないような」。

これは(カタカナ英語の)「シニカル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

d

damage は「損害(を与える)」。

これは(カタカナ英語の)「ダメージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ damage は動詞の場合、「物・名声・健康」を目的語に取り、「人」は目的語に取れないので注意。

damage from a flood

洪水による被害

Storms sometimes do a great deal of damage to growing rice.

嵐は生育期の稲に大損害を与えることがある

The building was heavily damaged by (the) fire.

その建物は火事で非常に損害を受けた

dangerous は「危険な」。

これは(カタカナ英語の)「デンジャラス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ発音は[deindʒərəs(ディンジャラス)]なので注意。

Smoking is dangerous to health.

たばこは健康に害がある.

It is dangerous (for children) to bathe in this river.

＝This river is dangerous (for children) to bathe in.

(子供が) この川で泳ぐのは危険だ

名詞形は danger で「危険」だが、こちらも「デ ンジャー」でおなじみ(発音は[deindʒər(ディンジャー)])。in danger で「危険で、危険があって」。反意語は out of danger で「危機を脱して」。

His life is in great[real] danger.

彼の命が大変［本当に］危ない

The building is in danger of collapsing.

そのビルは倒壊の危険がある

She is out of danger.

彼女は危険を脱している

dark は「暗い」。

これは(カタカナ英語の)「ダーク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。dark は名詞として、 dark で「①[the dark]暗闇 ②日暮れ」という意味もある。in the dark は「暗闇で」。before[after] dark は「日没前[後]に」。

darkness も dark の名詞形だが、こちらは「暗闇」以外に「①無知 ②腹黒さ ③秘密」といった比喩的な意味も持つ。

in the darkest ignorance

まったく無知で

dark deeds

悪事、非行

dark thoughts

腹黒い考え

dash は「①突進[する] ②衝突[する]」。

①については(カタカナ英語の)「ダッシュ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味もおさえよう。

The waves dashed against the cliff.

波が崖に激しくぶつかった

data は「データ、資料」。

これは(カタカナ英語の)「データ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。なお data は datum の複数形だ。それから類語の database も「データベース」でおなじみ。

date

date の『核』のイメージは**「日付(を示す・与える)」**。

㊟自動詞の場合は「日付が示されている(与えられている)」が『核』のイメージ。

まず名詞の date の**「日付」「年月日」「日時」「日取り」**という意味は、『核』のイメージ通りですし、大丈夫だろう。

(ex) The date of my son's birth is Jan. 10, 1999.

うちの息子の生年月日は1999年1月10日です

㊟date は「年月日、月日、日、年」について用いる。「月」だけについては用いない。

What's the date today? 今日は何日ですか

=What date is it today?

㊟曜日についてきく場合、つまり「今日は何曜日ですか」は What day (of the week) is (it) today? と言う。

また**「時代」**という意味にもなる。

(ex) A lot of paintings of very early date were discovered.

多くの古い時代の絵画が発見された

The church is a building of Elizabethan date.

その教会はエリザベス朝の建物だ

これ以外に「会合の約束(=appointment)」、あるいは会話などでは「デート」「デート相手」という意味で用いられたりもする。

(ex) I have[make] a date for dinner with my client at noon.

クライアントと正午に会食の約束がある[をする]

My daughter went out on a date. 娘はデートに出かけた

She doesn't hesitate to keep her date waiting.

彼女は平気で デート相手を待たせる

それ以外では date を用いた決まり文句をおさえておこう。

①bring A up to date「A(物)を最新のものにする」

「A(人)に最新の情報を与える」

(ex) My teacher brought us up to date on what is happening in the Middle East.

先生は私達 に中東で起こっていることについての最新情報を教えてくれた

②out of date「時代遅れで[の]、旧式で[の]、期限切れで[の]」

(ex) Such expression is out of date now.

そのような言い回しは今はもう時代後れだ

go[become] out of date で「時代後れになる」。

This driver's license is out of date. and you can't drive a car.

この免許証は期限が 切れているので、車の運転はできません

③to date「今まで(の)、今日まで(の)」

(ex) This movie is his best work to date.

この映画は現在までの彼の最高傑作だ

④up to date「最新(式)の」

「現代的な」

「最新の情報を載せてある」

(ex) This PC is up to date. このパソコンは最新式です

date が動詞として使われた場合、他動詞では「日付を示す(与える)」が『核』

のイメージとなり、そこからまず「(手紙・書類等に)日付を入れる」「～の年代を測定[推定]する」という意味が生まれた。

(ex) The letter is dated June 1, 2011.

その手紙の日付は、2011年６月１日となっている

The researchers dated the bone to about 10,000,000 years ago.

研究者ら は、その骨を一千万年前のものと推定した

自動詞の場合、date は date from A(日付・時代・年代) という形で用いられることが多く、その場合「Aの日付がある」「Aに始まる」という意味になる。

(ex) The document dates from July 1.

その文書は７月１日の日付になっている

This university dates from the late 13th century.

この大学 は13世紀後期に始まる

更に date back to A(時代・年代) で「Aに(起源が)さかのぼる」という表現もある。

(ex) The castle in our city dates back to the Age of Civil War.

私 たちの町の城(の建設)は、戦国時代までさかのぼる

日本語で「デートする」とよく言いますが、アメリカの口語で date を同じ意味で用いることはある。

(ex) She has been dating a handsome young man.

彼女はハンサムな青年とデートしている[付き合っている]

deadline は「締め切り」。

これは(カタカナ英語の)「デッドライン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

deadline は「(囚人が越えると射殺される)死線」という文字通りの意味で用いられることもある。

before the five o’clock deadline

５時の締切時間前に

I met[missed] the deadline.

私は締切時間に間に合った［間に合わなかった］

death は「死(亡)」。

これは(カタカナ英語の)「デス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は dead で「死んでいる(⇔ alive:生きている)」。動詞形は die で「死ぬ」。類語の deadly は「①致命的な②ひどい③とても」。

a deadly wound

致命傷

a deadly poison

猛毒

The party was perfectly deadly.

そのパーティーはまったく退屈だった

debate は「討論(する)」。

これは(カタカナ英語の)「ディベート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

After much debate I refused his offer.

十分な討議［議論］ののち私は彼の申し出を断った

We debated (on) the problem.

我々はその問題を討議した

default は「①(義務・債務などの)不履行、(料金などの)滞納 ②(法廷への)欠席、(試合への)不出場」。

(カタカナ英語の)「デフォルト」は①の意味で用いる。default は動詞として「①義務[債務]の履行を怠る ②(裁判に)欠席する、(試合に)欠場する」という意味もある。

delete は「(データ・文字などを)削除する、消す」。

これは(カタカナ英語の)「デリート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。デリートとはコンピュータ用語で、データなどを削除することを意味する。

His name was deleted from the list.

彼の名前はリストから削除された

delicate は「繊細な、敏感な」。

これは(カタカナ英語の)「デリケート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
転じて「上品な」「(色が)柔らかな」「(香りなどが)ほのかな」「壊れやすい」「(味が)あっさりとして美味しい」といった意味にもなる。

ただ delicate は[delikət(デリカット)]と発音するので注意。

更に比喩的に「(問題等が)微妙な、注意を要する」という意味もある点まで同じ。a delicate situation は「微妙な状況」。

delicate manners

上品な物腰

She was in delicate health.

彼女は病弱だった

a delicate ear for music

音楽に対する鋭敏な耳

The surgeon succeeded in the delicate operation.

外科医は細心の注意を要する手術に成功した

democracy は「①民主主義 ②民主主義国、民主社会」。

これは（カタカナ英語の）①については、「デモクラシー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい（この場合不可算名詞）。②の意味では、可算名詞として用いられる。
形容詞形は democratic で「①民主主義の ②民主的な」。democrat は「民主主義者」。Democrat となると「民主党員」。ちなみに「共和党員」は Republican。

🏚「民主党」は the Democratic Party。「共和党」は the Republican Party。

direct democracy

直接民主制

representative democracy

代議民主制

Japan is a democracy.

日本は民主主義国です

dentist は「歯科医」。

これは（カタカナ英語の）「デンタルケアー」から類推できる。デンタルケアーとは「歯の手入れ」のこと。dental は「歯の」という形容詞だ。dent は「歯」を表す語幹。-ist は「人」を表す接尾辞。

I went to the dentist('s).

私は歯医者に（治療に）行った

department は「①部門、(会社などの)部、部署 ②(仕事・学問の)分野」。

これは(カタカナ英語の)「デパート」から類推しよう。デパート(department store)とは、商品を各専門店や売り場[部署]ごとに分けて販売する形式の店舗のことだ。

㊟「百貨店」のことを「デパート」と言うのは和製英語。

語源的には「離れて(de)+部分に別れる(part)+ment[名詞尾]→部分に離れて別れたもの→部門、部、分野」となる。

the accounting department

会計部［課］

the complaint department

苦情相談係

the toy department

おもちゃ売り場

depth は「深さ」。

これは(カタカナ英語の)「ディープ」から類推できる。ディープ(deep)は「深い」という意味で、その名詞形が depth であるに過ぎない。

The pond is 10 feet in depth.

その池は深さ10フィートです

＝The pond is 10 feet deep.

in the depth(s) of despair[poverty]

絶望［貧乏］のどん底に［で］

in the depth of winter

真冬に

design は「①設計(する)、図案(を書く) ②デザイン(する)、模様(を描く) ③計画(する)」。

これは(カタカナ英語の)「デザイン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ design は be designed to do[剛]～で「～するよう作られている[意図されている]」という語法があり、こちらは注意。

This fund is designed to help refugees.

この資金は難民を援助するためのものです

desperate は「絶望的な、崖っぷちの、必死な、深刻な」。

これはテレビドラマの「デスパレートな妻たち」から類推しよう。この番組は、「絶望的」「崖っぷち」「深刻な問題を抱えた」妻たちが繰り広げる波瀾万丈のドラマだ。desperate の副詞形は desperately で「①必死になって ②極度に」。

desperate efforts

必死の努力

He got desperate at his repeated failures.

彼は失敗続きでやけになってしまった

destroy は「～を破壊する」。

これは(カタカナ英語の)「デストロイヤー」から類推できる。デストロイヤー(destroyer)は「破壊者」という意味。-er は「人・者」を表す接尾辞。

The enemy destroyed the town.

敵軍が町を破壊した

Many works of art were destroyed in the war.

多くの芸術品が戦争で破壊された

detail は「詳細(情報)、細部」。

これは(カタカナ英語の)「ディテール」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「ディテールに凝る」などと言ったりする。in detail で「詳細に」。detail は「詳細に述べる」という動詞の意味もある。

There isn't time to explain in detail.

詳しく説明している時間がありません

develop は「①～を開発する ②～を発達させる[する]」。

これは(カタカナ英語の)「ディベロッパー」から類推できる。ディベロッパーとは、不動産業では「(大規模に土地等を)開発する業者」のことだ。ただ develop は「才能」「性質」「習慣」などを目的語にとって「～を開花させる、～を育む[培う]」といった訳語が当てられることもある。それから「病気」を目的語にとって「～を発症させる、～にかかる」という意味になることもある。

What can we do to develop our business?

商売を発展させるにはどうしたらよいか

He developed skill in tennis.

彼はテニスの腕をみがいた

develop natural resources

天然資源を開発する

develop symptoms of flu

インフルエンザの徴候を表す

diagram は「①図表 ②(列車の)ダイヤ、運行表」。

これは(カタカナ英語の)「ダイヤ」「ダイアグラム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。diagram は動詞として「～を図解[図示]する」という意味もある。

dialogue は「対話、話し合い」。

これは(カタカナ英語の)「ダイアローグ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a dialogue between the two leaders of the administration

２人の政府首脳間の対談

diet は「①食事 ②ダイエット」。

②の意味はいいとして、①は「ダイエットコントロール」といった表現から類推できる。
ダイエットコントロール(diet control)とは、「食事調節[制限]」という意味。
be on a diet で「ダイエット中である」。go on a diet で「ダイエットをする」。
それから diet は、 the Diet で「国会」という意味にもなるのでこちらも注意。

digital は「数字の、デジタルの」。

これは(カタカナ英語の)「デジタル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
名詞形は digit で「(アラビア)数字」。

dilemma は「板挟み、八方塞がりの状態」。

これは(カタカナ英語の)「ジレンマ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

dine は「食事をする、ディナーを食べる」。

これは(カタカナ英語の)「ダイニングルーム」から類推できる。ダイニングルーム(a dining room)とは、「食事をする部屋→食堂」ということ。dine の名詞形が dining で、これは「食事」という意味。dine out[in] で「外食する[家で食事を取る]」。

Won't you come to dine with us?

私の家へ夕食を食べに来ませんか

direct は「指揮[監督・管理]する」「直接の」。

これは(カタカナ英語の)「ディレクター」「ダイレクト」から類推できる。ディレクター(director)とは「ＴＶなどの番組を指揮[監督・管理]する責任者」のこと。ダイレクトは「直接(の・に)」という意味で用いられる(「ダイレクトキャッチ」などと言ったりする)。ちなみに「間接的な」は indirect。
また動詞の direct の語法として direct O to do[原形]～で「Ｏに～するよう指示する、命令する」というのがある。

He directed me to put the room in order.

彼は私に部屋を整とんするようにと言った

それから、direct には「道を教える」という意味もある。

A boy directed me the wrong way.

少年は私に誤った道を教えた

I'm lost. Could you direct me to the station?

道に迷ってしまいました．駅へ行く道を教えてくださいませんか

dirty は「①汚い、よごれた ②卑劣な」。

これは(カタカナ英語の)「ダーティ」がほぼ同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形の dirt は「①土、土壌 ②ほこり、ごみ、泥」。競馬で土のコースを「ダートコース」と言うのでそこから類推できる。

Your feet are dirty.

足が汚れているよ

He played a dirty trick on us.

彼はきたない手で我々をだました

dirty money

不正な金

discount は「割引(する)」。

これは(カタカナ英語の)「ディスカウント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

at a discount で「割引して」。

discount には「話などを割引いて聞く →(人の話を)話半分に聞く、軽視する」という意味もある。

All bills paid promptly will be discounted at 3%.

即金払いの場合はすべて３%引きになる

You should discount half of what he says.

彼の言うことは話半分に聞いた方がよい

discover は「～を発見する」。

これは(カタカナ英語の)「ディスカバー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は discovery で「発見」。こちらも(カタカナ英語の)「ディスカバリー」でおなじみ。

The Curies discovered radium.

キューリー夫妻がラジウムを発見した

He didn't discover his mistake.

彼は自分の誤りに気づかなかった

disturb は「①～の邪魔をする ②～を不安にする ③(秩序等を)乱す」。

disturb の turb は「タービン(turbine)」に通じる。タービンの回転するイメージと邪魔して引っかき回すイメージを結びつけるのもいい。dis は強調の接頭辞。

discuss は「～について議論する、討論する」。

これは（カタカナ英語の）「ディスカッション」から類推できる。ディスカッション(discussion)とは、「議論、討論(会)」のこと。その動詞形が discuss だ。

discuss は他動詞なので about 等の前置詞を直後に置く必要はないので注意しよう。

We discussed our plans for the future.

我々は将来の計画について話し合った

I discussed the problem with him.

私は彼とその問題を論じ合った

distance は「距離」。

これは(カタカナ英語の)「ディスタンス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。a long-distance call は「長距離電話」。形容詞形は distant で「遠い、離れた」。

What is the distance from here to Tokyo?

ここから東京までの距離はどのくらいですか

We had a distant view of Mt. Fuji.

遠方に富士山を見た

The town is ten miles distant from London.

その町はロンドンから10マイル離れている

a distant voyage

遠洋航海

dive は「①(水中へ)飛び込む(こと) ②(水中に)潜る」。

これは(カタカナ英語の)「ダイブ」「ダイビング」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。転じて「没頭する」という意味にもなる。

He dived from the bridge into the water.

彼は橋の上から水に飛び込んだ

He dived into his new work with enthusiasm.

彼は新しい仕事に熱心に打ち込んだ

doctrine は「①教義 ②(政策上の)主義」。

(カタカナ英語の)「ドクトリン」は②の意味で用いる。

document は「文書、書類」。

これは(カタカナ英語の)「ドキュメント」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。document は動詞として「～に証拠書類を提供する、～を文書で証明する」という意味もある。形容詞形は documentary で「①文書の(による) ②事実を記録した」。また documentary は名詞として「記録映画」という意味もあるが、こちらも(カタカナ英語の)「ドキュメンタリー」でおなじみ。

dogma は「①教義、定説 ②独断的な教え」。

これは(カタカナ英語の)「ドグマ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は dogmatic で「①独断的な②教義の」。

dollar は「①ドル ②1ドル紙幣」。

これは(カタカナ英語の)「ドル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

donor は「①臓器提供者 ②寄贈者」。

(カタカナ英語の)「ドナー」は①の意味しかないので②も覚えよう。動詞形は donate で「寄付する、提供する」。名詞形は donation で「寄付(金)、提供」。

He made a donation of $1,000 to the hospital.

彼は病院に1000ドルを寄付した

dot は「点、しみ、点のように小さいもの、少量」。

これは(カタカナ英語の)「ドット」から類推できる。

double は「①二倍(の・に) ②二重(の・に)」「①二倍にする[なる] ②二重にする[なる] ③~を一人二役で演じる」。

動詞の③以外は(カタカナ英語の)「ダブル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい(ただ③も類推はしやすいはず)。「3倍(の)」は triple。類語の dual は「①2の②2重の」だが、

これも「デュアル」でおなじみ。
dual surnames は「夫婦別姓」(surname は「名字、姓」という意味)。

Prices are double what they were ten years ago. ☜形容詞の double。
物価は10年前の２倍になっている
He drank so much, he saw double. ☜副詞の double。
彼は飲み過ぎて物が２つに見えた
Four is the double of two. ☜名詞の double。
４は２の倍です
His weight doubles mine. ☜他動詞の double。
彼の体重は私の２倍ある
Prices have doubled compared with those of 3 years ago. ☜自動詞の double。
物価は３年前に比べると２倍になった

downsize は「(製品・組織などを)小型化する」。
これは(カタカナ英語の)「ダウンサイズ」「ダウンサイジング」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

dozen は「ダース」。
読み方が異なるが、「ダース = dozen」と一度理解してしまえば忘れないはず。dozens of A で「多くのA」という意味になる。

I have been there dozens of times.
そこへは何十回となく行ったことがある

draft

draft の『核』のイメージは「引く」。
元々の由来は「漁船が網を引く」ことからきている。

そこから転じて「一網の漁獲高」という意味にもなる。網を引いて魚が積まれた結果船が重くなる。そこから「喫水(船が水中に沈み込む部分)」という意味も生まれた。

これ以外にさまざまな「引く行為」「引かれたもの」を draft は表す。具体的には以下になる。

①「下書き、線画、設計図」「草案[稿]」

「線を引くこと→下書き、線画、設計図」また「草案[稿]」という意味が生まれた。動詞として「下絵(書き)を書く、草案を書く」という意味にもなる。

(ex) He made a draft for his speech. 彼は演説の草案を作った
a draft for the engine[plane] エンジン[飛行機]の設計図

②「(牛・馬等が車を)引くこと」

(ex) beasts of draft 荷車用の牛馬

③「(酒類の)樽抜き」

樽から酒を引き出すこと。ドラフトビールの draft は「加熱殺菌されていない生のビールを樽から抜き(取り)出す」こと。

(ex) We have beer on draft at this bar.
このバーには生ビールを置いてます

④「ひと飲み(の量)」

水を胃袋に引き入れること。

(ex) He had a draft of water. 彼は水をひと飲みした
He drank a glass of wine at a[one] draft .
彼はコップ１杯のワインを一飲みに飲んだ

⑤「徴兵、招集」「選抜隊」

㊟若者を兵士として軍隊に引っ張ること。動詞としても用いられる。

(ex) a draft system 徴兵制度

Young men were drafted into the army.

若者達は徴兵されて兵役に就いた

⑥「(スポーツの)ドラフト制度」

㊟良い選手を自分のチームに引っ張ること。

⑦「(資金・食料等の)調達」

「手形、小切手」

㊟「手形、小切手」とはお金を引き出すもの。

(ex) a draft for ¥100,000 on UFJ bank

UFJ銀行払いの100,000円の為替手形

⑧「すきま風」

㊟引っ張られるように吹く風。

※dra-がつく語は「引く」がそこに込められているものが多い。draw は「引く」。drag は「(重い物)を引きずる、引っ張る[り出す]」(「(コンピュータの)マウスをラッグする」も、この drag)。dragon は「竜」だが、長い体を引きずる様がイメージできる。

drama は「ドラマ、演劇」。

これは(カタカナ英語の)「ドラマ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は dramatic で「①劇的な②演劇の」。副詞形は dramatically で「劇的に」。

ちなみに「メロドラマ(甘ったるく感傷的な通俗劇)」は a melodrama でいい。それから(お昼によく放送される)主婦向けのテレビ・ラジオの連続ドラマのことを a soap opera と言う。この表現の由来は、石鹸会社がそのスポンサーになることが多かったためと言われている。

dress は「衣服、ドレス」。

これは(カタカナ英語の)「ドレス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ dress は動詞の用法もあり、その場合「(人に)服を着せる」という意味になるので注意。それ故「Aを着ている」と言う場合、be dressed in A と受け身にしないといけない。
「ドレスコード(服装規定)」は a dress code でいい。また「ドレスアップする、正装する」は dress up。

dress lightly[heavily]
薄着[厚着]する
dress well[badly]
身なりが良い[悪い]

drill は「①(穴をあける)ドリル ②(学習における)ドリル、練習」。

これは(カタカナ英語の)「ドリル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。drill は動詞として「①ドリルで穴をあける ②(～を)訓練する、練習する」という意味もある。

He drilled a hole in the board.
彼は板に穴をあけた
We got lots of drill(s) in English grammar.
僕たちは英文法のドリルを何度も受けた

drip(したた) は「滴る、たらす」「水滴、しずく」。

これは(カタカナ英語の)「ドリップコーヒー」から類推しよう。ドリップコーヒーを入れる際にフィルターからコーヒーがぽたぽたと滴り落ちるイメージを、drip の意味と結びつけよう。

Raindrops are dripping (down) from the trees.

木から雨垂れが滴り落ちている

The tap is dripping. 蛇口から水が垂れている

drip of the rain on the window

窓にあたる雨音

drive

drive も(カタカナ英語の)「ドライブ[運転]する」だけは、読み取れないものが多い。これも根っこ(『核』)のイメージからおさえてみよう。

drive の『核』のイメージは「(後ろからあるものの進行を)促す、推し進める」。

drive a car で「車を運転する」と言うが、これは「(エンジンの力で)車を推し進める→駆動させる→運転する」ということ。drive を「運転する」というのは、車に関係する場合の訳例に過ぎない。

(ex) The wind drove the sailboat onto the rock.

風を受けてヨットが岩礁に乗り上げた

drive の活用は drive - drove - driven。

上の例文は「風がヨットを(岩場に乗り上げるまで)推し進めた」ということ。

(ex) They drove a railway across[through] a desert.

彼らは砂漠に鉄道を通した

上の例文は「(砂漠を横切って)鉄道の敷設を推し進めた」ということ。

drive を名詞として用いられた場合、「行動などを後押しするもの・促すもの(気持ち)→やる気」という意味になることがある。

He has a lot of drive.

と言えば「彼はやる気満々である」という意味になる。

また a fund raising drive は「資金調達運動」、つまり資金調達を「推し進め

ること」。この場合は drive の代わりに campaign を使っても同じ。
これら以外の drive の具体的な使い方も見てみよう。

⑴[drive A(人・物) to[into] B(場所・状態など)]「ＡをＢに追いやる」

㊟ to や into は「→」を表す記号とみるといい。

[drive A(人・物) out of B(場所・状態など)]「ＡをＢから追い出す、追い払う」

㊟ out ofは「←」を表す記号とみるといい。「Ｂから遠ざかる方向にＡを推し進める」ということ。

[drive A(人・物) away]「Ａを追い払う」

㊟ away は「離れて(た)」。

(ex) How were they driven to such extremes?

どうして彼らはこんな非常手段をとる羽目に陥ったのか

His attitude is driving her to a nervous breakdown.

彼の態度が彼女を神経衰弱に追いやっている

⑵[drive O(人) to do[原形]～]「Ａを(駆り立てて)～させる」

(ex) Hunger drove him to steal. 空腹に駆られて彼は盗みをした

⑶[drive O(人) (to be) C(形・分)]「ＯをＣ(の状態)に追いやる」

(ex) My brother almost drove me crazy. 弟のために気が狂いそうだった

⑷「Ｏ(動力などが機械など)を動かす、駆動する」

(ex) The engine is driven by gasoline. そのエンジンはガソリンで動く

自動詞として用いられる場合には「進む」ということになる。

(ex) What are you driving at?

上の例文は「どうするつもりなのか」「何の話だ」「何を言おうとしているのか」という決まり文句的な表現だが、要するに「何に向かって進もうとしているのか」ということ。

dry は「①乾燥した、乾いた ②枯渇した」。

これは(カタカナ英語の)「ドライ」がほぼ同じ意味で用いるのでわかりやすい。
動詞として「～を乾かす」という意味もある。

Polish it with a dry towel.

乾いたタオルでそれを磨きなさい

Now dry your eyes [tears].

さあ涙をふいて

dried milk

粉ミルク

dummy は「模造品、替え玉」「偽の、まがいものの、お飾りの」。

これは(カタカナ英語の)「ダミー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

duty は「①義務、本分 ②職務 ③関税」。

③については「デューティフリー」から類推できる。デューティフリー(duty-free)とは「関税がかからない、免税の」という意味。関税、つまり税金を払うことは国民としての義務と、そこから①や②の意味をつなげていこう。
on duty 「勤務中で」。off duty で「非番で、勤務外で」という語法がある。

The duty of a doctor is to save the life of his patient.

医師の職務は自分の患者の命を救うことだ

dust は「①ほこり、ちり ②ごみ」。

これは(カタカナ英語の)「ダスト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。star dust は「星くず」。これも「スターダスト」でおなじみ。動詞として「ほこりを払う」という意味もある。

She cleaned the dust from the books on the shelf.

彼女は棚の本のほこりをふきとった

The boy rose and dusted himself off.

その男の子は立ち上がって服のほこりを払った

dye は「染める」「染料」。

これは(カタカナ英語の)「ヘアダイ」から類推できる。ヘアダイ(hair dye)とは「毛染め(料)」のこと。

dynamic は「①活動的な ②動的な(⇔ static:静的な)」。

これは(カタカナ英語の)「ダイナミック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形の dynamism(①活力 ②力強さ)も(カタカナ英語の)「ダイナミズム」でおなじみ。ちなみに dynamics というと「①動力学 ②原動力」。

earth は「①[the earth]地球 ②大地、陸地(=land) ③土壌、土(=soil)」。

①の意味では(カタカナ英語の)「アース」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「地球」は the globe, our planet とも言う。

ちなみに「太陽」は sun、「月」は moon、「水星」は Mercury、「金星」は Venus、「火星」は Mars、「木星」は Jupiter、「土星」は Saturn。「海王星」は Neptune、「冥王星」は Pluto、「天王星」は Uranus。

それから疑問詞の直後で on earth は、「一体全体」という意味で(疑問詞を強調する副詞として)用いられる。イコール表現に in the world や the hell などがある。

Why on earth did you do that?

一体全体どうしてそんなことをしたのですか

=Why in the world did you do that?

easy は「①簡単な ②気楽な、安楽な」。

これは(カタカナ英語の)「イージー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。easy を使った表現に Take it easy.(気楽に行こうよ)、Easy come, easy go.(得やすいものは失いやすい→悪銭身につかず)などがある。後者はことわざ。

名詞形は ease で「安楽」。at ease で「くつろいで」。ill at ease で「落ち着かない」。with ease で「簡単に」となる。ease も動詞として「～を和らげる、ゆるめる、(苦痛などを)取り除く」。これは「安楽(ease)にする」からきたと考えればいい。

The doctor made the excited patient feel at ease.

その医者は興奮した患者を落ち着かせた

eccentric は「(性格・行動が)一風変わった、常軌を逸した」。

これは(カタカナ英語の)「エキセントリック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

ecology は「生態(学)、環境」。

これは(カタカナ英語の)「エコ」「エコロジー」から類推できる。類語の ecosystem は「生態系」。

economy は「経済」。

これは(カタカナ英語の)「エコノミー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただエコノミーは「(金銭的に)お徳な」という意味でも用いたりするが、それは英語では economical。ちなみに economic は「経済上(学)の」。

economics は「経済学」だが、こちらは「アベノミクス」から類推しよう(「アベノミクスは安倍政権の経済学[政策]ということ)。

an economical purchase

安い買い物

an economical car

経済的な(燃費のいい)車

Father is economical with his time[money].

父は時間[金]をむだにしない

それから「国家の組織・富としての経済」という意味もあり、the advanced industrial economies は「先進工業国」となる。

ecstasy「無上の喜び、有頂天、無我夢中」。

これは(カタカナ英語の)「エクスタシー」がほぼ同じ意味で用いるのでわかりやすい。

edition は「版」。

これは(カタカナ英語の)「エディション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「ニューエディション」「ホームエディション」という言葉をよく耳にする。ちなみに「改訂版」は a revised edition。動詞形は edit で「編集する」。editor は「編集者」。

This book is edited from the original text.

この本は原文から編集されたものです

education は「教育」。

これは(カタカナ英語の)「エデュケーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は educate で「教育する」。形容詞形は educational で「教育的な」。

adult education

成人教育

compulsory education

義務教育

higher education

高等教育

liberal education

一般教養教育

physical education

体育

self-education

独学

sex education

性教育

effect は「効果」。

これは(カタカナ英語の)「エフェクト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「サウンドエフェクト(sound-effects)」は「音響効果」のことだ。
effect には「(1)影響 (2)結果」という意味もある。

The new treatment had the desired effect on the patient.

その新しい治療法は患者に期待どおりの効果があった

また to the effect that S+V～で「～という趣旨で[の]」という意味になる。

I sent them a letter to the effect that I would undertake it.

私は彼らにそれを引き受けますという旨の手紙を送った

よく似た affect は「影響を与える」という動詞なので注意(effect が動詞として用いられると「もたらす」という意味になる)。

Earthquakes affect the weather.

地震は天気に影響する

He was affected by heat[cold].

彼は暑さ[寒さ]にやられた

egoism は「利己主義(=egotism)」。

これは(カタカナ英語の)「エゴイズム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ego とは「自我」という意味。egocentric は「自己中心的な(=selfish)」。

electricity は「電気」。

これはディズニーランドの「エレクトリカルパレード」から類推できる。エレクトリカルパレード(Electrical Parade)は、電飾[電気]を豪華に使ったディズニーランド人気の催し物。electrical の名詞形が electricity。electric も electrical とほぼ同じ意味で「電気の、電気で動く」。「エレキギター」は an electric guitar 。「電力」は electric power だ。electronicsは「電子工学」。

elegant は「上品な」。

これは(カタカナ英語の)「エレガント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。elegant は比喩的に「(話・考えが)理路整然として、簡潔な」という意味にもなる。

She is an elegant lady.

彼女は気品のある婦人だ

n elegant solution to a problem

問題のエレガントな解決法

element は「要素」。

これは(カタカナ英語の)「エレメント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は elementary で「初歩的な、基本的な」。an elementary school は「小学校」。elementary education は「初等教育」。

Hard work is one of the important elements of success.

勤勉は成功の重要な要素の一つである

Iron and oxygen are elements.

鉄や酸素は元素である

element には「元素」という意味もある。

elevator は「エレベーター」。

これは(カタカナ英語の)「エレベーター」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。elevator の発音は[eləveitər(ɪレヴェイター)]。動詞形は elevate で「～を(持ち)上げる、昇進させる」。

Reading good books elevates your mind.

良書を読むことはあなたの精神を高める

elite は「(社会や組織の)指導的な立場にある階層、人々」。

これは(カタカナ英語の)「エリート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

emotion は「感情、情緒」。

これは(カタカナ英語の)「エモーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は emotional で「感情的な、情緒的な」。

She wept with emotion.

彼女は感動して泣いた

He heard the sad news without emotion.

彼はその悲報を取り乱さずに聞いた

empire は「帝国」。

これは(カタカナ英語の)「エンパイア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「ローマ帝国」は the Roman Empire。ちなみに「皇帝」は emperor だが、これも(カタカナ英語

の)「エンペラー」でおなじみ。形容詞形は imperial で「①帝国の ②皇帝の」。それから「天皇」も英訳すると emperor。「天皇制」は the Emperor System of Japan。「皇居」は the Imperial Palace。

encyclopedia は「百科事典」。

これはマイクロソフトから発売されている百科事典に「エンサイクロペディア」というのがあるので、それを引っ掛かりにして覚えてしまおう。
語源的には -pedia は「事典」という意味(「ウィキペディア」など、○○ペディア というフレーズはよく耳にする)。en は「~の中に(=in)」、cyclo は cycle、つまり「サイクル」に通じ、「ぐるっと回る[一回りする]」。そうすると encyclopedia は、「ぐるっと一回り全ての分野を中に入れた[網羅した]事典」ということ。

energy は「エネルギー」。

これは(カタカナ英語の)「エネルギー」でおなじみ。形容詞形は energetic で「エネルギッシュな」(発音は[enərdʒetik(エナジェティック)])。

an energy source
(石油などの) エネルギー源
atomic energy
原子力

engage

(カタカナ英語の)「エンゲージ」は「婚約」という意味しかない(「エンゲージリング」は「婚約指輪」)。ところが engage は様々な意味を持つ。この場合、

根っこ(『核』)のイメージから理解するのが最も効率的だ。
engage の『核』のイメージは「拘束[束縛]する、従事させる」。
「従事させる」という意味では、be engaged, engage oneself という形で使われることが多い。

(ex) She engaged herself in knitting . 彼女はせっせと編み物をした

「自分自身を編み物に従事させる→編み物に没頭する」。

The servants were busily engaged in preparing for the party.

召使たちはパーティーの準備に忙殺されていた

「人を拘束する→人を雇う」「席・部屋を拘束する→席・部屋を予約する」という意味にもなる。

(ex) He engaged a new employee. 彼は新しい従業員を雇った

engage (oneself) to do[刷]～で「～すると約束する」という意味だが、これは「～する方向に自分自身を拘束[束縛]する」ということ。

be engaged となると「約束がある」という意味になる。

(ex) I will engage (myself) to finish the task by next Monday.

来週の月曜までにその仕事を仕上げることを約束します

「人の注意等を拘束する→人の注意を引く」という意味にもなる。

(ex) The picture on the wall engaged her attention.

壁にかかっている絵は彼女の注意を引いた

「時間等を拘束する→時間等を取る、占める」という意味にもなる。

(ex) Tennis engages most of my free time.

私は暇なときにはたいていテニスをしている

そして「人を婚約者として拘束する→人を婚約させる」という意味にもなる。
ただこの意味では be engaged(婚約している)と、受け身で使うのが一般的。

(ex) They are engaged. 彼らは婚約している

engineer は「技師、技術者、エンジニア」。

これは(カタカナ英語の)「エンジニア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。発音は、[endʒəníər(エンジニア)」なので注意。類語の engineering は「工学(技術)」。

enter は「～に入る」。

これは(カタカナ英語の)「エントランス」から類推できる。エントランス(entrance)とは「入り口」のこと。enter は entrance の動詞形だ。

enter into A(仕事・話など)で「Aを始める、Aに立ち入る」。「A＝場所」の場合には、enter A となる。

類語に entry があり、「出場、(出場)登録」という意味。これは(カタカナ英語の)「エントリー」と同じ。

The thief seems to have entered the house by the back door.

泥棒は裏口から部屋に入ったように見える

They entered into conversation.

彼らは互いに話し始めた

episode は「①逸話、エピソード ②(連続小説の)一編」。

これは(カタカナ英語の)「エピソード」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

epoch は「(新しい)時代」。

これは(カタカナ英語の)「エポックメイキング」から類推できる。エポックメイキング

(epoch-making)とは「新時代を作り出すような→画期的な、新時代を画する」という意味。

Einstein’s theory made[marked/formed] an epoch in physics.

アインシュタインの理論は物理学に新時代を開いた

error は「誤り」。

これは（カタカナ英語の）「エラー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。in error で「間違って」。動詞形は err で「誤る」。形容詞形は erroneous で「間違った、誤った」(発音は[ircuniəs(ィロウニアス)])。

an error in counting

数え間違い

an error of judgment

判断の誤り

To err is human, to forgive divine.

過ちは人の常、許すは神の業（わざ）

I erred in trusting him.

あの男を信頼したのは間違いだった

escape は「逃げる、脱出する、非難する」。

これは(カタカナ英語の)「エスケイプ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。escape は名詞としても用い「逃亡、脱出、非難」という意味になる。

He failed in his attempt to escape from prison.

彼は脱獄しようとしたが失敗した

He narrowly escaped being killed in the accident.

彼は危うく事故で死ぬところを免れた
He made his escape while the guard was asleep.
見張り番が眠っている間に彼は逃亡した
He tried to find escape in mystery stories.
彼は推理小説を読んで現実から逃避しようとした

especially は「特に」。

これは(カタカナ英語で)「特別な」という意味の「スペシャル(special)」から類推しよう。

He is good at all subjects, especially at English.
彼は全科目よくできるが，特に英語が得意だ
I made a cake especially for you.
あなたのために特別にケーキを作りました

excellent は「素晴らしい、卓越した、優れた」。

これは(カタカナ英語の)「エクセレント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は excellence で「優秀さ、卓越」。

excellent food
上等の食べ物
She is excellent in[at] music.
彼女は音楽に秀でている
Dairy products are excellent for the health.
乳製品は健康の増進にとてもよい
excellence in science
科学に優れていること

exchange は「～を交換する」。

これは(カタカナ英語の)「ランゲージエクスチェンジ」から類推できる。ランゲージエクスチェンジ(language exchange)とは「自分の母国語などを誰かに教えるかわりに(交換に)、自分の習いたい言語をその人から教えてもらうこと」。
語源的には「外(ex)+換える(change)→外のものと(自分の持っているものを)換える→交換する」となる。exchange A for B で「AをBと交換する」。

I exchanged the shirt for a smaller one.
(店で)シャツを小さいのに取り替えてもらった

excuse は「言い訳」。

これは(カタカナ英語の)「エクキューズ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
excuse は動詞として「～を許す」という意味があるが、これは「エクスキューズミー(excuse me)」から類推できる。「私を許してください→すみません」となる。
なお excuse は名詞の場合、[ikskju:s(イクスキュース)]。動詞の場合、[ikskju:z(イクスキューズ)]と発する。

Please excuse me for being late.
遅れてすみません
His youth doesn't excuse his mistake.
彼が若いからといってそれが失敗の言い訳になるわけではない
The teacher excused him from (attending) class.
先生は彼に授業を休んでもよいと言った

executive は「(企業の)重役」。

これは(カタカナ英語の)「エグゼクティブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は execute で「執行する」。要するに executive とは「(企業において)執行権のある人」ということ。

the executive board

重役会

He was executed as a war criminal.

彼は戦争犯罪人として処刑された

execute an order

命令を実行する

expert は「専門家」。

これは(カタカナ英語の)「エキスパート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
「熟練した」「専門家の、専門の知識を身につけた」という形容詞の意味もある。

a medical expert

医学の専門家

He is expert at figures.

彼は計算が上手だ

He has become expert in[at] hiding his true feelings.

彼は本心を隠すのがうまくなった

extra は「①(正規のもの以外の)余分な(もの) ②(映画などの)エキストラ、臨時雇い
③追加の(=additional)」。

これは②については「エキストラ」でおなじみだが、元々①の意味があり、そこから②や③の意味も派生して生まれた。

f

factor は「要因」。

これは（カタカナ英語の）「ファクター」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

Great effort was one factor in his success.

大変な努力が彼の成功の一因であった

factory は「工場」。

これは(カタカナ英語の）「ファクトリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a glass factory ガラス工場

My father works in an automobile factory.

父は自動車工場で働いています

a factory girl

女子工員

fair は「公平な」。

これは（カタカナ英語の）「フェアー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ fair には「かなりの」という意味もある。a fair income は「かなりの収入」。「博覧会、〇〇展」という意味の(別語源の) fair もカタカナ英語として浸透している。

He is not fair to me.

彼は私には公平ではない

a fair judge

公正な裁判官
He had a fair chance of success.
彼には成功の機会がかなりあった
an international trade fair
国際見本市
a book fair
ブックフェア，書籍展

fan は①「うちわ、扇、扇風機、送風機」 ②「ファン、熱狂的な愛好家」。
①②共に(カタカナ英語の)「ファン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。①の fan は「①(うちわなどで)仰ぐ ②(感情などを)あおる」という動詞の意味もある。
②の fan は fanatic の短縮形。fanatic の場合、「(主義･宗教などの)狂信者、熱狂者」という意味で用いられる。形容詞形は fanatical で「狂信的な、熱狂的な」。

fantastic は「①素敵な、素晴らしい ②風変わりな ③空想的な、非現実的な、根拠のない」。
①については(カタカナ英語の)「ファンタスティック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②と③の意味もおさえておこう。 a fantastic plan は「実現できそうもない計画」。

The view was fantastic.
眺めはとてもすばらしかった
a fantastic sum of money
途方もない金額
fantastic fears
根拠のない恐怖fantastic designs
奇妙なデザイン

fantasy は「空想、幻想(的な作品)」。

これは(カタカナ英語の)「ファンタジー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形の fantastic(素晴らしい)も「ファンタスティック」でおなじみ。

dreams of Utopias and similar fantasies

ユートピアについての空想とその種の夢のような考え

live in a world of fantasy[=a fantasy world]

空想の世界に住む

He has fantasies of murdering his wife.

彼は妻を殺すという夢想を抱いている.

farm は「農場」。

これは(カタカナ英語の)「ファーム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。スポーツで二軍のことを「ファーム」と言ったりするが、これも「選手を育てる場所」ということからそう呼ばれる。farmer は「農場経営者、農民」。

a chicken farm

養鶏場

a fish farm

養魚場

an oyster farm

カキ養殖場

fashion は「流行」。

これは(カタカナ英語の)「ファッション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。in

fashion は「流行して」。out of fashion は「すたれて」。それから fashion には「流儀、やり方(=way, manner)」という意味もあるので注意。in this fashion は「こんなふうに」。fashion の形容詞形は fashionable で「流行の、おしゃれな」だが、これも「ファッショナブル」でおなじみ。ちなみに old-fashioned は「時代[流行]遅れの」。

He paints in his own fashion.

彼は自己流で絵をかく

She walks in a peculiar fashion.

彼女は変わった歩き方をする

Long skirts are in fashion again.

ロングスカートがまた流行している

feather は「羽根、羽毛」。

これは(カタカナ英語の)「フェザー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに一番表側の大きな羽毛を feather と言う。 down は内側の羽軸のない柔らかい羽毛のこと。

federal は「連邦政府の、連邦の」。

これはＦＢＩ(連邦捜査局)から類推しよう。ＦＢＩとは Federal Bureau of Investigation の略だ。またアメリカの中央政府のことを Federal Government(連邦政府)と言ったりする。

fee は「料金」。

これは(カタカナ英語の)「プレイフィー」から類推できる。プレイフィーとはゴルフをプレーするときに支払う料金のこと。fee は「入学[会]金、入場料、(医者・弁護士などへの)謝礼」という意味でも用いられる。school fee は「授業料」。

a monthly fee

月謝

The doctor’s fee for a visit is $20.

往診料は20ドルです

an admission[entrance] fee

入場料，入学金

school fees

授業料

feedback は「(情報・質問・サービスなどの受け手の側からの)反応、反響、意見、調査結果」。

これは(カタカナ英語の)「フィードバック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。feedback は転じて、「提供された意見・情報・結果などを関係者に戻し、今後の向上・改善などで実際に生かしていくこと」という意味にもなる。(カタカナ英語の)フィードバックも全く同じ意味で用いられる。

fellow は「仲間(の)、やつ」。

これは(カタカナ英語の)「フェロー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。a good fellow は「良いやつ」。a fellow student は「学友」。a fellow worker は「仕事仲間」。

fetishism は「(異性の)特定の物を性的に偏愛すること、フェティシズム」。

これは(カタカナ英語の)「フェティシズム」でおなじみ。またそれを略した「フェチ」でもおなじみだ。

fever は「①熱、発熱 ②熱病 ③熱狂、興奮」。

(カタカナ英語の)「フィーバー」は③の意味しかないが、そこから①と②は類推しやすい。

You have a little[high] fever today, don't you?

今日は少し［高い］熱がありますね

Stay in bed until the fever has gone.

熱が下がるまで寝ていなさい

fiber は「①繊維(質) ②(布の)生地」。

これは(カタカナ英語の)「ファイバー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ fiber は比喩的に「性格、性質」という意味もある。a man of fine fiber は「性質の上品な人」。

fiction は「①小説、フィクション(⇔ nonfiction) ②作り話、作り事、虚構(⇔ fact:事実)」。

これは(カタカナ英語の)「フィクション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②も覚えよう。ちなみにＳＦとは science fiction つまり「(空想)科学小説」という意味。

The story is pure fiction.

その話は全くの作り話だ

field は「①畑、田、牧草地 ②分野 ③競技場 ④現場、実地」。

これは(カタカナ英語の)「フィールド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。④の意味でも「フィールドワーク」は「実地調査、野外研究」としておなじみ(英語でもこれは field work と言う)。

the field of art[science, music]

芸術［科学，音楽］の分野

That's quite outside[out of]　my field.

それは全く私の専門外です

fight は「①(殴り合いの)ケンカ ②(競技の)戦い ③闘志」。

これは(カタカナ英語の)「ファイト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。fight は動詞として「戦う」という意味もある。活用は fight - fought - fought。

ちなみに「口げんか」は quarrel と言う。

figure

(カタカナ英語で)「フィギュア」というと、「人形」「(フィギュア)スケート」くらいしか思い浮かばないが、figure には様々な意味がある。いわゆる多義語。そこでこの語については『核』のイメージで攻略しよう。

figure の『核』のイメージは**「(あいまいだった)輪郭をはっきりさせる(がはっきりする)」**。

「～を計算する、合計する」「～を(数字・図・絵で)表す」「図解する」「描く」といった意味が動詞の figure にはあるが、これらは全て「～を数字・図・絵などで、その輪郭(全体像)をはっきりさせる」ということ。

(ex) I figured up a total. 合計を出した

また**「～だと考える、結論する、決定する」「～を…だと思う」「～を理解する」「～を想像する、思い描く」**という意味もありますが、これは「～を頭の中でその輪郭(全体像)をはっきりさせる」ということ。

(ex) What do you figure will happen? 何が起こると思いますか

We figured it (to be) the best plan.

私達はそれが最善の計画だと結論した

I can't figure him. 彼を理解できない

The teacher figured that Jeff was asleep.

先生はジェフが眠っていると思った

自動詞の場合、「計算が合う(をする)」「(話が)わけがわかる」「現れる」等の意味があるが、これは「(あいまいだった)輪郭がはっきりする」ということ。

(ex) She figured as a guest star in that program.

彼女はその番組にゲストスターとして出演した

That [It] figures. それは当然だ、思ったとおりだ

「あいまいだった輪郭がはっきりした」ということ。

Her name figures in history. 彼女の名は歴史上有名だ

「歴史の中で彼女の名前ははっきりとしている(目立っている)」ということ。

figure は名詞としても用いられますが、その場合は「輪郭がはっきりしたもの(をはっきりとさせたもの)」というのが『核』のイメージになる。

(名詞の figure の)「(統計上の)数字」「(数で表される)額、値段」「(数字の)けた」「図形、図」「計算」という意味の場合、数字や図(形)というのは、売り上げ、価値、大きさ、形等をわかりやすく「その輪郭(形・内容)をはっきりさせたもの」であり、計算というのは「輪郭(内容)をはっきりさせること」と言える。

(ex) unemployment figures 失業者数

We bought a house at a low figure. 家を安い値段で買った

the figure 8 数字の8

a large figure 大きな数

I did figures. 計算をしてみた

The skater drew several figures on the ice.

スケーターは氷上にいくかの図形[模様]を描いた

ちなみに figure skating という名前は、元は氷上に正確に図形を描けるかを競うものだったことに 由来する。

She is good at figures. 彼女は計算が得意だ

更に名詞の figure には「(人の)姿、人影」「(物の)形」「(体の)格好、スタイル」という意味があるが、これらは「(ある人・物の)はっきりとした輪郭」ということ。

(ex) A dark figure was following her. 黒い人影が彼女を尾行していた
She is trying to keep her slender figure.
彼女はほっそりしたスタイルをくずさないように努力している

また「重要人物、名士」「(〇〇な)人物」という意味があるが、重要人物というのは、周りから目立つ(つまり輪郭がはっきりしている)人物だ。

(ex) a great figure in history 歴史上の偉人
He is now a public figure. 彼は今や有名人です

fill は「～を満たす」。

これは(カタカナ英語の)「レフィル」から類推できる。レフィル(refill)とは、「詰め替え用の品、補充品」のことだが、「再び(re)+満たす(fill) → 詰め替える」となるのだ。
be filled with A で「Aで満たされている」となる。

The singer filled the hall with excited fans.
その歌手はホールを熱狂的ファンでいっぱいにした
The news filled him with hope.
その知らせで彼は希望に満ちあふれた
＝He was filled with hope at the news.

ろかき

filter は「フィルター、濾過器」「～を濾過する、取り除く」。

これは(カタカナ英語の)「フィルター」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

final は「最後の」。

これは(カタカナ英語の)「ファイナル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

finger は「指」。

これは(カタカナ英語の)「フィンガー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに「足の指」は toe と言うが、こちらも「トゥ」「トゥシューズ」でおなじみ。

flag は「旗(を立てる)」。

これは(カタカナ英語の)「フラッグ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。flagship は「①旗艦②目玉商品」だが、こちらも「フラッグシップ」でおなじみ。

flat は「平らな」。

これは(カタカナ英語の)「フラット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。音楽用語のフラットも「音を平らにする→半音下げた、低い」となる。

ただ flat は比喩的に

①「完全な、きっぱりした」

She gave a flat refusal.

彼女はきっぱりと断った

②「単調な、退屈な(=dull)」

a flat lecture

おもしろくない講義

③「味のない、(飲み物などが)気の抜けた、(電池が)切れた、(バッテリーが)上がった」

といった意味にもなる。

flatter(お世辞を言う)は flat の類語。「人間関係を平らかにする→お世辞を言う」となる。

flavor は「①味、風味 ②調味料」。

これは(カタカナ英語の)「フレーバー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞として「風味を付ける」という意味もある。

foam は「泡(立つ)」。

これは(カタカナ英語の)「フォーム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

ちなみに「投球フォーム」という場合の「フォーム」は form。

fog は「霧」。

これは(カタカナ英語の)「フォグライト」から類推できる。フォグライト(a fog light)とは、(自動車に付いている)霧の際に点灯させる灯[ライト]のことだ。

follow は「後に続く、従う」。

これは(カタカナ英語の)「フォロー」「フォロワー」から類推できる。ただ「フォローする」と言う場合、「～を助ける」という意味で用いたりするが、そのような意味は follow にはない。また(カタカナ英語の)「フォローアップ」は、ある事柄を徹底させるために、後々までよく世話をしたり、追跡調査をしたりすることを言うが、follow up は

「～を徹底的に究明、追及する」という意味。
大学入試などでは、, followed by A で「そしてその後にAが続く」といった表現がよく出る。

follow

follow の『核』のイメージは「あとについて行く、従う」。
そこから以下のような意味が生まれた。

①「(忠告・良心・方針等に)従う、(命令・規則等を)守る」
(ex) This rule is followed in most households.
この慣習はたいていの家庭で守られている

②「(人の言うこと・話を)理解する」
㊟「話の内容について行くことができる→理解できる」。
(ex) Can you follow what she is saying?
=Can you follow her?
彼女が言っていることがわかりますか
I can't follow his lecture. 僕は彼の講義が理解できない

③《イディオム》
⑴as follows「以下のように、次の通り(に、で)」
(ex) The results are as follows. 結果は次の通りである

⑵It follows that S+V～.「(当然の結果として)～ということになる」
(ex) It follows from what she has said that he is guilty.
彼女の言ったことから判断すると彼は有罪ということになる
㊟上例では follows の後ろに from what she has said(彼女が言ったことから)が挿入されている。これを(　)でくくると骨組みが見えてくる。

⑶follow up (on A)「(Aを)追跡(追跡調査)する」
(ex) The committee followed up on the situation.

委員会は状況を徹底的に調査した

これ以外に following で形容詞、前置詞、名詞として使われることがある。
まず形容詞の following。

①「(順序 時間の点で)次の、次に来る、引き続く」

(ex) in the following year その翌年に
=in the year following
in the following essay 次のエッセイでは
the revolution and the following economic collapse
革命とそれに続く経済の崩壊

②「これから説明する、次に述べる、下記の」

(ex) Check the following report for details.
詳細については下記の報告書を照合してください

次に名詞の following。「次のもの」という意味になる。

(ex) The following is the problem we explain here.
次のものは我々がここで説明する問題です
これ以外に名詞の following には「支持者、信奉者」という意味もある。

最後に前置詞の following。「～の後で」という意味で、同じ前置詞の after で言い換え可能。

(ex) Following the accident, he was carried to the ambulance on a stretcher.
その事故の後、彼は担架で救急車に運ばれた

ところで follow の『核』のイメージがわかったところで、次の英文はどうだろう

(ex) My mother's good cooking follows years of experience.

「お母さんのおいしい料理は経験の年月の後を追った」ではチンプンカンプン。
実は follow には(『核』のイメージ自体は同じなのですが)

S follow O「SがOの次に来る[起る]」

という意味がある。先程の英文はこの follow を使った英文だったのだ。
でも、だとしても分かりにくいのが上の英文。そこでこのような follow の素早い訳し方を知っておこう。
それは、この意味の follow は「S＝後[次]」「O＝先」の意味関係になるのが特徴だと覚えること。

「S＝後[次]」
「O＝先」

S　follow　O
(後・次)　　(先)

そうすると先程の英文だが、

years of experience

が「先」にあって、その「後(次)」に

My mother's good cooking

が起こった。つまり生じた、ということなのだ。このことが分かれば「長年の経験の後 に母は料理が上手くなった」あるいは「母の料理上手は長年の経験の結果です」等という訳が見えてくる。
では、他の例文で練習してみよう。

(ex) Spring follows winter. 冬のあとには春がやってくる
=After winter spring follows.
つまり「winter＝先」「spring＝後[次]」。

Mr. Obama followed Bush as president.
オバマ氏がブッシュ大統領の後を継いだ
つまり「Bush＝先」「Mr. Obama＝後[次]」。

当たり前だが、受動態になると(元々の目的語が主語になるので)、「S＝先」、「by+名詞 ＝後[次]」という意味関係になる。

S　is followed by+名詞
(先)　　(後・次)

実際、大学入試センター試験でこんな英文があった。

The type of object most often photographed was A, and A was followed by B.

訳は「最もよく写真に写されたタイプのもの（つまり被写体）はAで、そのAの後[次]にBが続いた」となる。
この follow の同意語が(他動詞の) succeed 。つまり S succeed O となる場合、follow と同じように「S＝後[次]」「O＝先」の意味関係になる。

S　succeed　O
(後・次)　　(先)

(ex) The prince succeeded his father as king.

王子は父の後を継いで国王になった

「the prince ＝ 後[次]」「his father ＝ 先」。

The storm was succeeded by a great calm.

嵐の後には全くのなぎがやって来た

受動態なので逆になり、「the storm ＝ 先」「a great calm ＝ 後[次]」。

fool は「愚か者、バカ」。

これは(カタカナ英語の)「エイプリルフール」から類推できる。

「エイプリルフール」とは、毎年４月１日には嘘をついて人をだましてもよいという風習のこと。だまされた人は fool ということになる。

形容詞形は foolish で「愚かな」。fool を用いた慣用表現として make a fool of A で「A

を笑い物にする」、make a fool of oneself で「(自分が周りの)笑い物になる」がある。

Don’t make a fool of your little brother.

弟さんのことをばかにしてはいけないよ

また fool は動詞として、「～をバカにする」「バカな真似をする」という意味にもなる。

He tried to fool me out of my money.

彼はぼくをだまして金を巻き上げようとした

She fooled me into giving her the money.

彼女にだまされてその金を渡した

form は「①形 ②記入用紙」。

これは(カタカナ英語の)「フォーム」が全く同じ意味なのでわかりやすい。「投球フォーム(を直す)」「このフォームに記入してください」などと言ったりする。

an application form

申し込み用紙

また転じて「種(類)」という意味にもなり、a form of A は「一種のＡ」。a kind[sort] of A で言い換えられる。

Democracy is a form of government.

民主主義は政治の一つの形態である

I like any form of exercise.

私は運動はどんなものでも好きです

それから form は動詞として「形作る、形成する」という意味もある。

I formed clay into a cup.

私は粘土で茶わんを作った

Her earlier experiences formed her character.

幼いころの経験が彼女の性格を作り上げた

類語の formation は「①形成、組織 ②構造、構成物 ③隊列、隊形」という意味だが、(カタカナ英語の)「フォーメーション」は通常③の意味で用いる。①と②もおさえよう。
ちなみに「洗顔フォーム」と言う場合のフォームは foam で「泡、あぶく」という意味。「泡立つ」という動詞としても用いる。

The breaking waves formed foam.

砕ける波が泡を作った

The waves are foaming along the beach.

波が浜に泡立っている

The beer foamed over the top of the glass.

ビールは泡立ってコップからあふれた

formal は「形式[格式]ばった」。

これは(カタカナ英語の)「フォーマル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。反意語は informal で「形式[格式]張らない」。こちらも(カタカナ英語の)「インフォーマル」でおなじみ。

a formal invitation

正式の招待

formal dress

正装

a formal contact

正式契約

formal education

正規の（学校）教育

forward「前(の)方の[に]」。

これは(スポーツなどでの)「フォワード」から類推できる。フォワードとは、サッカー・ラグビー・ホッケー・バスケットボールなどで、「自軍の前(の)方に位置し、主として攻撃を担当するプレーヤー」のことだ(「前衛」とも言う)。

The date for the meeting will be moved forward.

会合の日程は繰り上げられるだろう

語源～ward(s)

ward(s) は「～の方へ(の・に)向かって」という意味の接尾辞。forward は「前へ(for)+の方に向かって→前の方に(へ)」となる。そうすると downward は「下の方に(向かって)」。upward は「上の方に向かって」。toward は「～の方に向かって」。westward は「西の方に向かって」となる。このように、ward(s) は様々な語と結びついてその方向を表す。

fragrance は「良い香り、芳香」。

これは(カタカナ英語の)「フレグランス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

frame は「①枠 ②(絵の)額縁」。

これは(カタカナ英語の)「フレーム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞として「組み立てる」という意味もある。類語に framework があり、これは「(建物などの)骨組み、わく組み」という意味だが、こちらも(カタカナ英語の)「フレームワーク」でおなじみ。ちなみに flame と言うと「炎」のこと。こちらは「フラミンゴ(flamingo)」から類

推しよう。フラミンゴとは「炎の色をした鳥」という意味。確かにフラミンゴはそんな色をしている。

The frame of the house is already in place.

その家の骨組みはすでに組み上がっている

the frame of a canoe

カヌーの骨組み

the flame of the sunset

燃えるような落日の光

frank は「率直な」。

これは（カタカナ英語の）「フランク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。to be frank with you で「率直に言って」。これは frankly (speaking) で言い換えられる。

Will you be frank with me about the matter?

この件については隠しだてなく言ってくれ

To be frank with you, I don't like your new dress.

率直に言って君の新しいドレスは好きではない

freehand は「①器具を使わない手書きの ②自由裁量」。

これは(カタカナ英語の)「フリーハンド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

French は「①[the French]フランス人 ②フランス(人・語)の」。

これは(カタカナ英語の)「フレンチ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

friction は「①摩擦、こすること　②不和、あつれき」。

これは「フリクションボール」という商標名のボールペンから類推できる。フリクションボールボールペンは、筆跡をボディ後部の専用ラバーで擦ることで生じる摩擦熱により、インキの色が無色に変わり、筆跡を消すことができる。ここから friction の意味を覚えよう(②の意味も、「摩擦」から類推しやすいはず)。

trade friction

貿易摩擦

He caused friction.

彼が摩擦を引き起こした

The problem is due to　(the)　political friction between the two countries.

その問題は２国間の政治的あつれきによっている

friendly は「①友好的な、親愛なる ②親切な、親しみのある ③好都合な」。

これは(カタカナ英語の)「フレンドリー」から類推できる。他に ○○-friendly で、「○○のために役立つ[優しい]」という意味にもなる。user-friendly は「ユーザーに優しい→使いやすい」。類語の friendship(友人関係、友情)も「フレンドシップ」でおなじみ。

frill は「フリル」。

これは(カタカナ英語の)「フリル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。frill は比喩的に「無用な装飾品、虚飾」という意味にもなる。

Please sew a frill around the neck of a blouse

ブラウスのえりぐりのフリルを縫ってください

fringe は「①(カーテン・テーブルクロスなどの縁の)房飾り ②へり、縁、周辺」。

これは(カタカナ英語の)「フリンジ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。fringe は比喩的に「(活動などの)周辺」という意味にもなる。

frontier は「①(知識などの)最前線、未開拓の分野 ②(未開拓の)国境、辺境」。

これは(カタカナ英語の)「フロンティア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。frontier spirit といえば「(未開拓の土地・分野を切り開く)開拓者精神」のことだ。

fruit は「果物、実」。

これは(カタカナ英語の)「フルーツ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。比喩的に「[fruits]成果、結果、報い(=result)、「収益(=profit)」という意味にもなるが、日本語でも「努力が実を結ぶ」などと言ったりするのでわかりやすい。

the fruit(s) of industry[study]

勤勉[研究]の成果

なお「実を結ぶ」は、英語では bear[produce] fruit と言う。

fruit を動詞として用いて、同じ意味を表すこともできる。

形容詞形は fruitful は「①実り多い ②有益な」。fruitless は「①実を結ばない ②無益な」。

fundamental は「基本(的な)、土台(となる)」。

これは経済用語の「ファンダメンタル(ズ)」から類推しよう。ファンダメンタル(ズ)とは「経済成長率 ・物価・失業率・企業の経営状況など、その国の経済状態[実態]を計る基礎的な指標となるもの」を指して言う。

「ファンダメンタル(ズ)」を知らなかった人は fund と結びつけて覚えよう。

protect the fundamental human rights

基本的人権を擁護する

Fresh air is fundamental to good health.

新鮮な空気は健康にとってなくてはならないものだ

fur は「毛皮」。

これは(カタカナ英語の)「ファー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

「模造(の)毛皮」のことを「フェイクファー」と言うが、これも fakefur でいい。fake は「偽の、でっちあげの」という意味。

fake には「①でっち上げる、偽造する ②～のふりをする(=pretend)」という動詞の意味もある。

G

galaxy は「①銀河(系) ②天の川」。

これは(カタカナ英語の)「ギャラクシー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

「天の川」は the Milky Way とも言う。

galaxy は、比喩的に「はなやかな人々」という意味にもなる。

以前サッカースペインリーグで、スター選手ばかりを集めたレアルマドリードというチームは「ギャラクシー」と呼ばれたことがあった。

a galaxy of A で「きら星のように並んだA」となる。

a galaxy of distinguished scientists

著名な科学者たちのきら星のような集まり

gallery は「①美術館 ②画廊」。

これは(カタカナ英語の)「ギャラリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

gang は「①ギャング、(悪者の)一味 ②非行グループ、遊び仲間」。

①については(カタカナ英語の)「ギャング」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに「一人のギャング」のことは a gangster と言う。

gap は「①割れ目 ②相違、隔たり」。

これは(カタカナ英語の)「ギャップ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

generation gap と言えば「世代間の隔たり」。

a gap in a fence

塀の破れ目

a gap in the records

記録の空白部分

a wide gap between two views

２つの見方の大きな隔たり

garage は「ガレージ、自動車車庫」。

これは(カタカナ英語の)「ガレージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。garage には「自動車修理工場」という意味もあるので注意。

He put the car in the garage.

彼は車をガレージに入れた

gas は「①気体、ガス ②ガソリン(=gasoline)」。

①については(カタカナ英語の)「ガス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味をしっかりおさえよう。

「ガソリンスタンド」は a gas(oline) station。stand は使わないので注意。

gather は「集める[まる]」。

これは(カタカナ英語の)「ギャザー」から類推できる。ギャザーとは、布の一端のみを縫って寄せ集めてひだを作る技法のことで、ギャザースカートはカタカナ英語として浸透している。

He gathered his children around him.

彼は自分の周りに子供たちを集めた

A crowd gathered at the scene.

群集が現場に群がった

gauge は「①計器、ゲージ ②(判断・評価などの)基準、尺度」(名)

「①～を測定する ②評価する」(動)

名詞の①については(カタカナ英語の)「ゲージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。そしてそこから他の意味も類推しやすいはず。

gear は「①器具 ②歯車 ③ギア」。

これは(カタカナ英語の)「ギア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞として「①歯車がかみ合う ②～を適合させる」という意味もある。

gender は「性、性別」。

これは(カタカナ英語の)「ジェンダーフリー」から類推できる。ジェンダーフリー(gender-free)とは、従来の「男はこうあるべき、女はこうあるべき」といった性別に基づいた古い考え方から解放され、(そこから受けていた)不利益、不公平、偏見などをなくそうという思想のこと。ちなみに ○○-free で「○○がない」という意味になる。sugar-free は「砂糖が入っていない」。

Gender and age are unchangeable facts.

性別や年齢は変えることのできない現実である

generation は「世代」。

これは(カタカナ英語の)「ジェネレーション」と意味が同じなのでわかりやすい。gen という語幹は「生む(生まれ)」という意味。generation は「(この世に)生み出されたもの」ということ(実際 generation には「発生、産出、生殖」という意味もある)。そうすると generate という動詞が「生み出す」という意味になるのも自然に見えてくる。generator は「生み出すもの→発電機、(新しいものを)生み出す人」。gentle は「生まれの良い→優しい、気立てのいい」。

generous, genial 等も同語源。generous は「気前がいい、ケチケチしない」「寛大な」、genial は「愛想がいい、親切な」。generous の名詞形は generosity で「気前のよさ」「寛容」。これらはすべて「生まれが良い」からきている。確かに生まれがいいとガツガツしていないし、品もよくなり、気前の良さや寛大さも出てくるというものだ。

a generation ago

１世代前

a family of three generations

３代からなる家族

the generation of electricity[gas]

発電［ガスの発生］

the generation of hatred

憎しみの生じること

Misery often generates crime.

貧困はしばしば犯罪を誘発する

generic は「①一般[包括]的な ②(薬・食品などが)商標登録されていない ③ノーブランドの」。

これは(カタカナ英語の)「ジェネリック医薬品」から類推できる。ジェネリック医薬品とは、特許が切れた結果として(成分・薬効は同じでも)安く製造された医薬品のこと。これは generic の②の意味に通じる。

gentle は「温和な、親切な、優しい」。

これは(カタカナ英語の)「ジェントルマン」から類推しよう。ジェントルマン(gentle man)とは「親切な人→紳士」だ。

He is gentle with his students.

彼は生徒に優しい

a gentle wind

そよ風

giant は「巨大な」。

これは(カタカナ英語の)「ジャイアント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。giant は名詞として「①巨人、大男 ②偉人」という意味もある。

gift は「贈り物」。

これは(カタカナ英語の)「ギフト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただし、gift は「神様からの贈り物→才能、天賦の才(=talent)」という意味もあるので注意。
形容詞形は gifted で「生まれつきの才能がある」。talented で言い換えられる。

Jim has a gift for music and art.

ジムには音楽と芸術の才能がある

global は「地球規模の」。

これは(カタカナ英語の)「グローバル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形

は globe で「地球、球」。「地球温暖化」は global warming と言う。
類語の globalization は「国際化、グローバル化」だが、これも「グローバリゼーション」でおなじみ。

from a global point of view
世界的観点から
on a global scale
地球的規模で

goal は「目標、ゴール」。
これは(カタカナ英語の)「ゴール」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

We made[got, scored] a goal.
わが方が得点した
They won by two goals to nil
彼らは２対０のゴールで勝った
Do you have your goal in life?
人生の目標はお持ちですか
The goal of the fund drive is $10,000.
その募金運動の目標額は１万ドルだ

gorgeous は「華やかな、素晴らしい」。
これは(カタカナ英語の)「ゴージャス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

gossip は「うわさ話」。

これは(カタカナ英語の)「ゴシップ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

She is very fond of gossip.

彼女はうわさ話が大好きだ

I dropped in on her for a cup of tea and some gossip.

私は紅茶を飲んでおしゃべりするために彼女のところに立ち寄った

gourmet は「美食家、食通、グルメ」。

これは(カタカナ英語の)「グルメ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

government は「①政府 ②政治」。

①については(カタカナ英語の)「ガバメント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味も一緒に覚えよう。この「政治」という意味では government は不可算名詞になる。動詞形は govern で「統治する、運営する、支配する」。governor は「(県・州を)統治する人→知事」という意味。類語の governanceは「統治、管理、支配」という意味だが、これも「ガバナンス」でおなじみ。

a government official

国家公務員，官吏

The government is likely to win in the coming election.

今度の選挙では政府［与党］（側）が勝ちそうだ

a local government

地方自治体

democratic[republican] government

民主［共和］政治

grade は「①等級 ②学年 ③成績」。

これは①の意味では(カタカナ英語の)「グレード」が同じ意味で用いられる(②と③の意味もおさえよう)。grade は動詞として「①等級をつける ②採点をする(=mark)」という意味もある。

a poor grade of meat

質の悪い肉

Potatoes were graded by size.

ジャガイモは大きさで等級付けされた

The teacher graded the exam papers.

その先生は答案を採点した

反意語は degrade で「(人の)地位を下げる、左遷する、免職にする、降格させる」「(人の)の品位［評判］を落とす」。

He degraded himself by telling me lies.

僕にうそをつくとは彼も落ちたもんだ

Your bad behavior has degraded you.

よくないふるまいが君の評判を落としたのだ

grand は「壮大な、偉大な、素晴らしい、全部の」。

これは(カタカナ英語の)「グランド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
ちなみに相撲の「横綱」は a grand champion と言う。また「Grand Canyon(グランドキャニオン)」は「壮大な深い谷」という意味。

a grand view

壮大な眺め

a grand character

崇高な人格

a grand work

重要な仕事

I had a grand time.

すばらしい時を過した

grass は「①草、牧草 ②芝生」。

これは(カタカナ英語の)「グラス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。テニスの「グラスコート」は芝生で覆ったコートのことだ。ちなみに glass は「①ガラス ②グラス」。glasses で「メガネ」という意味になる。

Horses feed on grass.

馬は草を食べる

guard は「①護衛者 ②監視、警戒」。

これは(カタカナ英語の)「ガードマン」から類推できる。ただガードマンは和製英語で、その意味では guard でいい。②の意味も「彼女はガードが堅い」などと言ったりするので類推しやすいはず。guard は動詞として「①～を護衛する ②～を監視[警戒]する」という意味もある。guardian は「保護者、後見人」。

They placed a guard at the door.

彼らは入口に見張り番を置いた

The dog guarded his blind master from dangers.

その犬は目の不自由な主人をいろいろな危険から守った

They guarded the prisoner so as to prevent his escape.

逃亡を阻止するため彼らはその囚人を監視した

guide は「①案内する ②指導する」「①案内人【書】②指針」。

これは(カタカナ英語の)「ガイド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語の guidance は「指導」だが、こちらも「ガイダンス」でおなじみ。

We guided them through the city to the station.

私たちは町中を通って駅まで彼らを案内した

He guided his pupils in their studies.

彼は生徒たちの勉強を指導した

He was always guided by his conscience.

彼はいつも良心の導きに従った

gun は「拳銃」。

これは(カタカナ英語の)「ガン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「ライフル」は a rifle。「機関銃」は a machine-gun。

Do the police carry guns here?

ここでは警官はピストルを携帯していますか

guts は「気力、根性」。

これは(カタカナ英語の)「ガッツ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。a man with guts は「気骨のある男」。gut には「腸、内臓、はらわた」という意味もある。ギターやテニスラケットの弦のことをガットと言うが、これは昔は動物の腸を弦に用いていたから。

He is a man with guts.

彼は気骨のある男だ

the blind gut

盲腸

the large[the small]

gut 大腸［小腸］

guy は「やつ、男」。

これは(カタカナ英語の)「ガイ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a tough[nice] guy

不死身な［いい］やつ

a regular guy

気さくなやつ

gym は「①体育館 ②ジム」。

②については(カタカナ英語の)「ジム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。この gym は gymnasium の短縮形。gym にはもう一つ「体育」という意味もあるが、これは gymnastics の短縮形。

hack は「(コンピューターのシステムに)不法に侵入する」。

これは(カタカナ英語の)「ハッカー」「ハッキング」から類推できる。hack は他に「～をたたき切る、切り刻む、(道を)切り開く」という意味もある。

He hacked branches off trees with an ax.

彼は斧で木の枝を切り払った

hand

hand の『核』のイメージは「手」。

hand には「所有、管理」「支配(=control)」「影響力、支配力」という意味があるが、日本語でも「敵の手に落ちる」「当局の手にゆだねる」「手をかける」など、「手」を使って同じようなことを表現しますから類推しやすいだろう。

(ex) The town fell into the enemy's hands. その町は敵の手に落ちた

Leave the decision in her hands. 決定は彼女に任せなさい

The child is in good hands. その子はよい人の世話を受けている

hand にはまた「援助、手助け(=help)」という意味があるが、これも日本語で「助けの手をさしのべる」等と言ったりする。

(ex) The girl lent a hand to the old man. その女の子は老人を手助けした

He gave me a hand (in) cleaning the floor.

彼は床を掃除するのを手伝ってくれた

動詞となると hand は「手渡す」「手を取って助ける」となる。hand A(人) B(物) で「AにBを手渡す」という意味がある。

(ex) The secretary handed him the letter. 秘書は彼に手紙を手渡した
=The secretary handed the letter to him.
She handed the old man into[out of] the car.
彼女はそのお年寄りに手を貸して車に乗せてあげた[車から降ろしてあげた]

hand in A で「Aを(手渡して)提出する」という意味になる。

(ex) I handed in my papers. 私は答案を提出した

hand down A となると「(高いところから)Aを降ろす」だが、A(伝統・慣習) is handed down to B(人) で「AがBに伝えられる」という意味もある。

handicapped は「障害のある」。

これは(カタカナ英語の)「ハンディキャップ」から類推できる(handicap は「(身体の)障害」という意味以外に「①困難 ②ハンデ」という意味がある)。同意語に disabled, challenged がある。the handicapped で、名詞的に「身体[精神]障害者」という意味になる。

handy は「(人にとって)便利な、手頃な、操作しやすい、扱いやすい」。

これは(カタカナ英語の)「ハンディ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ handy には他にも

①(…の扱いが)上手な、巧みな、器用な
The student is very handy with a word processor.
その学生はワープロを使うのがとてもうまい

②(人の)手近にある、すぐ手に入る[利用できる] =available
(…の)近くにある =near

I always keep[have] a dictionary.

私は常に辞典を手元においています

The supermarket is quite handy.

スーパーマーケットはすぐ近くにある

という意味があるので注意。

harassment は「嫌がらせ」。

これは(カタカナ英語の)「ハラスメント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「セクシャルハラスメント」も sexual harassment と言う。動詞形は harass で「～を悩ます、苦しめる」。

Vikings harassed the English coast.

バイキングがイングランドの沿岸を荒らした

harmony は「調和、一致、和合」。

これは(カタカナ英語の)「ハーモニー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
be in[out of] harmony with A で「Aと調和している[いない]」。

The color of the carpet is in[out of] harmony with the wall.

じゅうたんの色は壁と調和している[いない]

The meeting ended in complete harmony.

会合は和気あいあいのうちに終わった

head は「①頭 ②長、支配者」(名)

「①～の先頭に立つ ②～へ向かう[ける]」(動)

名詞の head は「ヘッド」でおなじみ。動詞の head の用法を覚えよう。Where are you headed for? は「どこへ行くの」。類語の ahead は「①前方へ[に] ②事前に」という副詞。

His name heads the list.

彼の名前が名簿の最初に載っている

The U.S. is headed for a major recession.

合衆国は深刻な不景気に向かっている

headline は「(新聞・雑誌などの)見出し」。

これは(カタカナ英語の)「ヘッドライン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。語源的には「冒頭(head)+一行(line)→記事の冒頭の一行→見出し」となる。

go into headlines

＝make[hit] the headlines

新聞に大きく出る; 有名になる

height は「①高さ ②高度[所] ③絶頂」。

これは(カタカナ英語の)「ハイ」から類推できる。ハイ(high)は「高い[く]」という意味で、height はその名詞形に過ぎない。動詞形は heighten で「高くする、高める、強める」。ちなみに highly は「非常に」。

highly は比ゆ的意味にのみ用いる。場所的に「高く」の意味では high を用いる。

What is the height of the Statue of Liberty?

自由の女神の高さはどのくらいですか

The city was at the height of its prosperity.

その市は繁栄の絶頂にあった
They scaled the heights.
彼らは高所をよじ登った
His speech heightened the crowd's excitement.
彼の演説は群衆の興奮を高めた

hell は「地獄」。

これは(カタカナ英語の)「ヘル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。the hell が疑問詞の直後に置かれ、「一体全体」という意味で用いられることもある。What the hell are you? は「一体お前は誰だ」。この the hell は on earth や in the world で言い換えられる。
それから逆に「天国」は heaven と言うが、こちらも(カタカナ英語の)「ヘブン」でおなじみ。形容詞形は heavenly で「①天国のような ②天の、天体の(⇔ earthly)」。
a heavenly body は「天体」。

heritage は「遺産」。

これは(カタカナ英語の)「ワールドヘリテージ」から類推できる。ワールドヘリテージ(world heritage)とは「世界遺産」のこと。

cultural heritage
文化遺産

hierarchy は「階級制度」。

これは(カタカナ英語の)「ヒエラルキー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
hierarchy は[haiərɑ:rki(ハイァラーキィ)]と発音するので注意。

highlight は「①(絵画・写真の)最も明るい部分 ②(ニュース・出来事・事件などの)ハイライト、呼び物、目玉商品 ③最も重要な[興味をそそる]部分[場面]」。

②や③については(カタカナ英語の)「ハイライト」が同じ意味で用いるのでわかりやすいが、語源は「(全体の中の)最も明るい部分」。そこから「最も目立つ[重要な]部分・もの」という意味が生まれた。

Kyoto was the highlight of our trip.

京都が我々の旅行のハイライトだった

he highlight of her talk

彼女の談話で最も印象的な部分

また highlight は動詞として「～を強調する」という意味もある。

「～に明るい光を当てる」が語源。そこから「光を当てて目立たせる→強調する」という意味が生まれた。

This article highlights the strong points of the Japanese economy.

この記事は日本経済の長所を強調している

The speaker highlighted the important ideas in his talk with a diagram.

講演者は話の中で重要な点を作図で強調した

他にも「①(本やノートの重要箇所)を塗る、～に色を付ける ②(髪の毛)を(部分的に)ブロンドに染める」といった意味もある。

hire は「①～を雇う ②(賃料を払って)借りる」。

これは(カタカナ英語の)「ハイヤー」から類推しよう。ハイヤーとは「(賃貸しで)雇われた運転手付きの車」のことを指して言う。「雇う」という hire は employ で言い換えられる。

We hired a car by the hour.

私たちは時間ぎめで車を借りた（ハイヤーを雇った）
I hired a workman by the day.
日給で人夫を雇った
I’m going to hire men on ability rather than family connections.
縁故でなく能力で人を雇うつもりだ

hit は「①～をたたく、当たる ②(災害などが)襲う」。

これは(カタカナ英語の)「ヒット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。hit には名詞として「ヒット、打撃」という意味もあるが、こちらも「ヒット」「ヒッティング」でおなじみ。
hit on[upon] A(考えなど) で「Aを思いつく」という語法もある。

A heavy storm hit the area.
ひどいあらしがその地域を襲った
The nation’s economy is hard hit by the war.
その国の経済は戦争で大きな痛手をこうむっている
She hit upon a good idea.
彼女はふと名案を思いついた

hole は「穴」。

これは（カタカナ英語の)「ホール」が(「マンホール」「ホールインワン」といったように)同じ意味で用いるのでわかりやすい。「コンサートホール」と言う場合のホールは hall なので注意。英語では「玄関」のことも hall と言う。

hole は[hcul(ホウル)]、hall は[hɔ:l(ホール)]と発音する。

holy は「神聖な」。

これは「聖夜(12月24日の夜)」のことを「ホーリーナイト」と言うので、そこから類推できるはず。

hood は「①ずきん、(洋服に付いている)フード ②(ランプなどの)かさ」。

これは(カタカナ英語の)「フード」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

アメリカでは、車のボンネットのことも hood と言う。bonnet でも通じる。

また hood は動詞として「①～をずきんで覆う ②～を覆い隠す」という意味もある。

The top of the mountain was hooded with snow.

その山の頂上は雪で覆われていた

hood は、発音は[hud(フド)]なので注意。

hook は「(物を引っかけるための)かぎ、かぎ状のもの、留め金」。

これは(カタカナ英語の)「フック」「ホック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

hook は動詞として「フックに引っかける、ホックで留める」という意味もある。比喩的に be hooked on A で「Aに引っかかってしまっている → Aに夢中になっている」という意味になる。

He is hooked on the long-haired girl.

彼はあの長い髪の女の子に夢中になっている

horizon は「①水平線 ②地平線」。

中学校の英語の教科書に「ニューホライズン」という名前のものもあり、「ホライズン」という語は学生にはおなじみのはず。horizon は比喩的に「（知識・経験・興味等の）限

界、視野」という意味になることもある。broaden one’s horizons で「視野を広める」。

widen the intellectual horizon

知識の範囲を広げる

I want to expand my horizons.

視野を広めたい

それから on the horizon で「地[水]平線上に」、更に比喩的に「起こりかけて(いる)」という意味になる。

Signs of a peaceful settlement are on the horizon.

平和的解決への兆しが見える

horn は「(牛・羊・ヤギなどの)角(つの)」。

これは(カタカナ英語の)「ホーン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。horn はそこから「角笛、ホルン」という意味にもなる。動詞として「角を出す[生やす]」という意味もある。

house は「家」。

これは(カタカナ英語の)「ハウス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。house は動詞として「住宅を供給する」という意味がある(この場合、発音は[hauz(ハウズ)])。しかしこの意味も、よく住宅販売の会社に「○○ハウジング」という名前があるので、それを引っ掛かりにして覚えたらいい。ちなみに「温室」のことを greenhouse と言う。そして「温室効果」のことを greenhouse effect と言う。
それから housing で「住宅、住居」という意味になる。

Luckily I’ve found housing near my office.

運よく勤め先の近くに住まいが見つかった

hoverは「(空中に)舞う、浮かぶ」。

これは(カタカナ英語の)「ホバークラフト」から類推できる。ホバークラフト(hover craft)とは、(高圧空気を下に噴射して)機体を浮かせて進む乗り物だ。

howl は「①(犬・オオカミなどが)遠ぼえする ②(人が)わめく ③(風などがヒューヒューと)うなる」。

これは、(カタカナ英語の)「ハウリング」から類推できる。ハウリングとは、マイク同士を近づけすぎたりしたときに出るキ〜ンという金属音のこと。

hub は「(自転車などの)車輪の中央部」。

これは(カタカナ英語の)「ハブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。hub はそこから比喩的に「(活動・重要さ・興味などの)中心、中枢」という意味にもなる。

hug は「抱きしめる(こと)、抱き合う(こと)」。

これは(カタカナ英語の)「ハグ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
ただ、hug には、転じて「(考えなどに)執着する、抱く」という意味もある。

The girl hugged her doll.

女の子は人形を抱きしめた

He hugged an opinion to the last.

最後まで一つの意見に固執する

human は「①人間 ②[the human]人類」。

これは(カタカナ英語の)「ヒューマン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。human は形容詞として「人間の(にありがちな)、 人間的な」という意味にもなるが、こちらの意味もカタカナ英語としておなじみ。ただ注意したいのは(カタカナ英語の)ヒューマニズムは「人道主義、博愛主義」という意味で用いるが、それは英語では humanitarianism。humanism は「人間中心[至上]主義」という意味になる。humanity は「①人間性 ②人類 ③慈悲、人情」。the humanities で「(哲学・文学・語学・史学などの)人文科学」という意味になるが、頻度は低い。

hungry は「飢えた、腹をすかせた」。

これは(カタカナ英語の)「ハングリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は hunger で「①飢え ②渇望」。これも「ハンガーストライキ」といった表現でおなじみ。

go hungry

①飢える

②食べないでいる

People in these areas are growing hungrier each year.

これらの地域の人々は年々飢えてきている

I am terribly hungry.

すごく腹がへっている

hunt は「①狩猟(する) ②捜索(する)」。

これは(カタカナ英語の)「ハント」「ハンティング」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「狩りをする人」のことを「ハンター」と言うが、これは英語でも hunter。

hurdle は「ハードル、障害、困難」。

これは(カタカナ英語の)「ハードル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。hurdle は動詞として「～を乗り越える」という意味もある。

ideology は「イデオロギー」。

これは(カタカナ英語の)「イデオロギー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ ideology は[aidi□lɔd□i(ｱｲﾃﾞｨｵﾗｼﾞｨ)]と発音するので注意。

imagine は「～を想像する」。

これは(カタカナ英語の)「イマジネーション」から類推できる。イマジネーション(imagination)は「想像力」という意味。imagine は imagination の動詞形だ。ちなみに imaginary は「想像上の」、imaginable は「想像できる」、imaginative は「想像力に溢れた(満ちた)」。

I couldn't imagine (my) marrying him.

彼と結婚するなんてとても想像できなかった

Can you imagine his[him] cooking for himself?

彼が自炊するなんて想像できますか

imagine O ～ing で「Oが～しているところを想像する」となる。

impact は「衝撃、影響」。

これは(カタカナ英語の)「インパクト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

the impace of A on B で「AがBに対して与える影響」。

impact は influence や effect で言い換えられる。

have an ～ impace on A で「Aに～な影響を与える」となる。

The impact of science on society is great.

社会に対する科学の影響は大きい
The news had a great impact on us.
そのニュースは我々に大きな衝撃を与えた

import は「輸入(する)」。

これは(カタカナ英語の)「インポート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「輸出(する)」は export と言う。

imported goods
輸入品
We import coffee from Brazil.
我が国はブラジルからコーヒーを輸入する
the import of oil from abroad
外国からの石油の輸入
import duties
輸入税

impression は「印象」。

これは（カタカナ英語の)「インプレッション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。first impression は「第一印象」。動詞形は impress で「(人に)印象[感銘]を与える」。be impressed with A で「Aに感銘を受ける、感動する」。

I was much impressed with his story.
私は彼の話に大変感動した
He impressed me favorably[unfavorably].
彼に好[悪]印象を受けた
She impressed me as a charming girl.

彼女は魅力的な娘だという印象を私に与えた

income は「収入」。

これは（カタカナ英語の）「インカム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
income tax は「所得税」。

He has an income of 300 dollars a week.

彼は週300ドルの収入がある

I live within my income.

私は収入内で生活をしている

index は「①索引 ②指標、指数」。

これは①については(カタカナ英語の)「インデックス」でおなじみ。②の意味をおさえよう。ちなみに an index finger は「人さし指」。consumer('s) price index は「消費者物価指数」。

indicate は「①～を示す ②～をほのめかす」。

これは(カタカナ英語の)「インジケーター」から類推できる。インジケーター(indicator)とは、「表示器、表示物、(目盛り盤の)針」のことで、要するに「(あるものを指し)示すもの」だ(indicator には「指標、標準」という意味もある)。indicate は indicator の動詞形。

The arrow indicates the way to the station.

矢印は駅へ行く道を示している

The statistics indicate (that) auto accidents are on the decrease.

統計は自動車事故が減少していることを示している

The sign indicates where the accident occurred.

そのサインは事故の起きた場所を示している

The mayor indicated to them (that) he might resign.

市長は辞職するかもしれないと、彼らにほのめかした

inflate は「①膨らむ[ませる] ②物価が上がる[を上げる]、インフレになる[する]」。

これは(カタカナ英語の)「インフレ(ーション)」から類推できる。インフレーション(inflation)とは、物価が(ある期間において持続的に)上昇する経済現象を指して言う。

He is inflated with pride.

彼は慢心しきっている

influence は「影響(を与える)」。

これは(カタカナ英語の)「インフルエンザ」から類推しよう。インフルエンザは、ウィルス性の強力な感染力(つまり影響力)を持つ風邪のことだ。

The Tokugawa Shogunate closed the country so as to exclude all alien influences.

徳川幕府は外国の影響をすべて排除するために鎖国した

The seas surrounding Japan seem to influence our national identity.

日本をとりまく海がわが国民性に影響しているように思われる

We are greatly influenced by the people around us.

我々は周囲の人々に大きく影響される

informal は「形式張らない、非公式の」。

これは(カタカナ英語の)「インフォーマル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。反意

語は formal で「格式張った、公式の」だが、こちらも「フォーマル」でおなじみ。

The meeting was informal.

その会合は非公式のものであった

an informal dress

ふだん着

information は「情報」。

これは（カタカナ英語の）「インフォメーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は inform で「知らせる、伝える」。inform A(人) of B(物事)、inform A(人) that S+V～で「AにB/～を知らせる」。

I have been informed of his financial difficulties.

彼の財政的苦境のことは知っている

This is to inform you that I have moved to the address below.

下記の住所に移転したことをご通知申しあげます

ちなみに informed は「(…について)知識[学識]のある、(情報に)明るい、詳しい」、また「情報に基づく」という意味になる。

a well[badly]-informed man on sports

スポーツに明るい[暗い]男

He always keeps himself informed as to what is happening everywhere.

彼は各地の出来事に詳しい

He made an informed guess.

彼は知っている情報に基づいて推測した

infrastructure は「(社会)基盤、基幹施設」。

これは(カタカナ英語の)「インフラ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。インフラ

(infrastructure)とは、都市の基盤となる電気、道路、鉄道などの施設のことを指して言う。

initiative は「主導権」。

これは(カタカナ英語の)「イニシアチブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「(～における)主導権を握る」は take the initiative (in ～ing)。

injury は「怪我、負傷」。

これはサッカー(ラグビー・バスケ等)の「インジャリータイム」から類推できる。インジャリータイム(injury time)とは、けがの手当てなどに要した分に伴う延長時間のことだ。loss of time, overtime といった言い方もある。「ロスタイム」は和製英語。
injury の動詞形は injure で、「(人を)怪我させる」という意味。

Have you recovered from your injuries?
けがは良くなりましたか

injury の動詞形は injure で、「(人を)怪我させる」という意味。

He injured his left hand badly.
彼は左手にひどいけがをした
The hailstones injured the crops.
ひょうが作物に害を与えた
Take care not to injure others' pride.
他人のプライドを傷つけないように気をつけなさい

inner は「①内部の ②内密の、親密な ③精神的な」。

これは(カタカナ英語の)「インナー」から類推できる。インナー(ウエア)と言えば、肌着、あるいはジャケットなどの中[内]に着る服のことだ。inner は[ɪnər(イナ-)]と発音する。

Sometimes we should listen to our inner voice.

時には心の内なる声に耳を傾けるべきだ

insert は「～を挿入する」。

これは(カタカナ英語の)「インサート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

He inserted a word between two words

彼は２語の間に１語を書き入れた

insight は「洞察(力)、発見、見識」。

これは(カタカナ英語の)「インサイト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。語源的には、「中を(in)+見る(sight)→～の中を見ること[力]」ということ。「～の中を見ること→～の本質を見抜くこと→洞察」「～の中(本質)を見極める力→洞察力、見識、識見」となる。洞察の結果として「発見、ひらめき」という意味にもなるわけだ。

He has an insight into character.

彼は人を見抜く力を持っている[i]

inspiration は「①インスピレーション、霊感、ひらめき ②激励、刺激(となるもの・人)、鼓舞」。

これは(カタカナ英語の)「インスピレーション」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。動詞形は inspire で「刺激する、鼓舞する、激励する」という意味だが、こちらも「インスパイア」でおなじみ。

This success inspired me.

この成功で私は元気づいた

His father inspired him to (make) further efforts.

父に励まされて彼はいっそう努力した

His success inspired courage in his friends.

＝His success inspired his friends with courage.

彼の成功は友人に勇気を吹き込んだ

instant は「①即座(の) ②インスタントの ③緊急の」。

①と②については(カタカナ英語の)「インスタント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。③の用例としては an instant need で「緊急の必要」といった言い方がある。それから the instant S+V～で「～するとすぐに」という意味(の接続詞的な用法)があるので注意。as soon as S+V～で言い換えられる。

The instant the man saw the policeman, he ran away.

その男は警官を見るとすぐ逃げた

副詞形は instantly で「即座に」。immediately で言い換えられる。

They sank instantly into an easy sleep.

彼らはすぐにすやすやと眠り始めた

intelligence は「知性」。

これは(カタカナ英語の)「インテリジェンス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は intelligent で「知能の高い、知的な」。類語に intellectual があるが、こちらは「人」にしか使わない。

human intelligence

人知
He was above average in intelligence.
彼は知能が平均以上であった
He had the intelligence to tide over the difficulties.
彼は頭を働かせてその困難を切り抜けた
military intelligence
軍事情報
He had been supplying them with pieces of intelligence concerning the plan.
彼は彼らにその計画について数々の情報を提供していた

intention は「意図[志]、目的」。

これは(カタカナ英語の)「インテンショナル」から類推できる。サッカーのキックの仕方で「インテンショナルにフックをかける」と言えば、意図的にボールにフック回転をかけることだ。intentional(意図的な) は intention の形容詞形。
動詞形は intend で「～を意図する、～するつもりだ」。

Nick had no intention of hurting her feelings.
ニックには彼女の感情を傷つけるつもりはなかった
I intend to become a doctor.
私は医師になるつもりだ
Her father intends her to be a pianist.
彼女の父親は彼女をピアニストにするつもりだ
intend O to do[原形]～ で「Oに～させるつもりだ」。

interior は「①室内(の) ②内部(の)(⇔ exterior:外部(の))」。

これは①については(カタカナ英語の)「インテリア」でおなじみ。②の意味をおさえよう。

intern は「①医学実習[研修]生、インターン ②教育実習生」。

①の意味は(カタカナ英語の)「インターン」でおなじみ。intern は動詞として「インターンとして勤務する」という意味もある。また「インターンの身分[実習期間]」のことを internship と言う。intern は[intə:rn(インターン)]と発音するので注意。

international は「国際的な、国家間の」。

これは(カタカナ英語の)「インターナショナル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。inter- は「相互(に・の)」という意味の接頭辞。そうすると interact は「相互に(inter)+作用する(act)→相互(に)作用をする、影響し合う」となる。

an international conference

国際会議

international cooperation

国際協力

interval は「間隔」。

これは(カタカナ英語の)「インターバル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「インターバルをあける」などといったりする。at intervals で「①時々 ②あちこちに」。それから interval の場合、アクセントが第一音節(i)にあるので注意。

at intervals of thirty feet

30フィートおきに

They met after an interval of ten years.

彼らは10年ぶりに会った

You must plant these seeds at regular intervals.

一定の間隔をおいてこの種を植えなさい

interview は「①インタービュー(する) ②面接[談](する)」。

①については(カタカナ英語の)「インタービュー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味をおさえよう。a job interview は「(就職の)面接」。

The governor gave an interview to reporters.

知事は記者会見をした

a personal interview

(直接) 会談

She was interviewed by several major magazines.

彼女は数社の一流誌のインタビューを受けた

introduce は introduce A to B で「AをBに導入[紹介]する」。

これは(カタカナ英語の)「イントロダクション」「イントロ」から類推できる。イントロダクション(introduction)とは「導入(部)、序論」という意味で introduce の名詞形だ。

He introduced me to his parents.

彼は私を彼の両親に紹介した

The company introduced a new machine to increase production.

その会社は生産を向上させるために新しい機械を導入した

invite は「～を招待する」。

これは(カタカナ英語の)「インビテーション」から類推できる。インビテーション(invitation)とは、「招待(状)」という意味で invite の名詞形だ。invite は invite O(人) to

do[原形]～で「Oに～するよう促す」という語法もある。

The beauty of the place invited them to rest a while.

その場の美景に彼らはしばらく休みたい気持ちになった

a letter of invitation to the wedding

結婚式への招待状

Thank you for your kind invitation.

ご招待くださいましてありがとうございます

したがって(名詞形の) invitation には「勧誘、誘惑、誘引」という意味もある。

Police brutality was an invitation to violence[riot] .

警察の残忍性が暴力[暴動]の誘引となった

item は「①(表・目録・記事などの)一項目　②(商品・製品などの)品目、(個別の)事項」。

②については(カタカナ英語の)「アイテム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「キャンパスライフには必須のアイテム」などと言ったりする。①もおさえよう。

items of clothing

衣料品

Did you check all the items on the shopping list?

買い物リストの全部の項目を確かめましたか

an item of news

１つのニュース

invest は「(金銭などを)投資する」。

これは(カタカナ英語の)「インベストメント」から類推できる。インベストメント(investment)とは、「投資」のことで、invest の名詞形だ。

She invested his money in stocks.

彼女は株に投資した

He invested all his energy in helping disabled people.

彼は身障者の援助に全精力を使った

irony は「皮肉」。

これは(カタカナ英語の)「アイロニー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は ironical で「皮肉な」。

His stories are full of irony and wit.

彼の話は皮肉と機知に富んでいる

jealousy は「ねたみ、しっと」。

これは(カタカナ英語の)「ジェラシー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は jealous で「嫉妬した[て]、嫉妬深い」。

The queen was jealous of the girl's beauty.

女王はその娘の美しさをねたんだ

I'm jealous of you for getting promoted.

昇進した君がうらやましい

jealous には「油断のない、用心深い」という意味もある。

He kept a jealous eye on his possessions

彼は財産を失うまいと油断なく見張った

He is jealous of his rights.

彼は自分の権利を奪われないように用心している

jog は「ジョギング(する)」。

これも「ジョギング」でおなじみ(英語でも jogging という)。jog には「ちょっと押す、つく」という意味もあるが、こちらも「ジョグダイアル」といったカタカナ英語から類推できる。

I jogged her elbow, but she still ignored me.

彼女の肘を突いても彼女は知らぬ顔をしていた

journal「①(専門)雑誌、定期刊行物 ②(日刊・週間)新聞」。

これは(カタカナ英語の)「ジャーナル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語の journalist や journalism も「ジャーナリスト」「ジャーナリズム」としておなじみ。

judge は「判断する」。

これは(カタカナ英語の)「ジャッジ」から類推できる。ジャッジの場合「判断」という名詞として用いられるが、それは英語では judgment と言う。それから judge には「裁判官、審判」という意味もある。

I judged him (to be) correct.

彼が正しいと判断した

Judging from the look of the sky, it will rain tomorrow.

この空模様では、明日は雨だろう

The judge's decision is final.

審判の判定は絶対だ

a judge of a speech contest

弁論大会の審査員

juggle は「①お手玉(する) ②曲芸[手品]をする」。

これは(カタカナ英語の)「ジャグリング」「ジャッグル」から類推できる。曲芸としてのお手玉のことをジャグリング(juggling)と言う。また野球などでボールをつかみ損ねてお手玉することを「ボールをジャッグルする」と言ったりする。

jump は「跳ぶ、飛び上がる、飛び越える」。

これは(カタカナ英語の)「ジャンプ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。jump は名

詞として「①飛ぶこと②飛躍」という意味もある。

junk は「がらくた、つまらないもの、くず」。

これは(カタカナ英語の)「ジャンク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。高カロリーだが、脂質や糖分が多く体に悪い食品を junk food と言うが、これも「ジャンクフード」でおなじみ。

k

key は「①かぎ ②(問題などを解く)かぎ、手がかり ③秘訣」。

これは(カタカナ英語の)「キー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②や③の意味でも「キーワード」「キーポイント」などといった表現でおなじみだ。

日本語の「かぎ」とは違い、key はかぎ穴にさし込む方で、取り付けてある方の lock(錠)とは英語でははっきり区別されるので注意。

the key to A で「Aのかぎ[秘訣]、Aを解く手がかり」という意味になる。

The letter holds the key to the mystery.

その手紙にそのなぞを解く手がかりがある

kick(け) は「蹴る(こと)、蹴飛ばす(こと)(けと)」。

これは(カタカナ英語の)「キック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

kid は「子ども」。

これは(カタカナ英語の)「キッド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

ちなみに kidnap は「(子供を身代金目当てに)さらう、誘拐する」(「誘拐」という名詞としても用いる)。

The child was kidnapped for ransom, but was rescued two days later.

その子供は身代金が目的で誘拐されたが２日後に救出された

kingdom は「王国」。

これは（カタカナ英語の）「キングダム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。dom という接尾辞は「①地位、領地、国 ②～の状態」の意味の名詞を作る。②の例として freedom(自由)、 wisdom(知恵)がある。

kite（たこ）は「凧」。

これは(カタカナ英語の)「カイト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。fly a kite で「凧を揚げる」。

kitten は「子猫」。

これは(カタカナ英語の)「キティ」から類推しよう。kitty は kitten の幼児語で同じく「子猫」という意味だ。ちなみに「小犬」は puppy と言う。

犬以外でも「動物の子」のことを puppy と言うこともある。

knife は「ナイフ」。

これは(カタカナ英語の)「ナイフ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ knife は the knife で「①外科手術 ②外科用のメス」という意味で用いることがある。under the knife は「(外科)手術中に[の]」。

knob は「(ドア・引き出しなどの)取っ手」。

これは(カタカナ英語の)「ノブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

knock は「①打つ(こと) ②(戸を)たたく(こと)」。

これは(カタカナ英語の)「ノック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。knock out は「～を破壊する、打ちのめす」だが、これも「ノックアウト」でおなじみ。

He will be knocked out in an early round in the title match.

彼はタイトルマッチで早い回にノックアウトされるだろう

know - how は「こつ、秘訣」。

これは(カタカナ英語の)「ノウハウ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

Korea は「韓国」。

これは(カタカナ英語の)「コリアン」から類推できる。コリアン(Korean)とは「韓国人」のこと。コリアンフードと言えば「韓国の食べ物[料理]」のことだ。ちなみに「北朝鮮」は North Korea と言う。

lane は「①車線 ②小道」。

①については(カタカナ英語の)「レーン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。おなじ「道」つながりで②も覚えてしまおう。

a four-lane highway

４車線のハイウエー

It is a long lane that has no turning.

曲がり角のない道はない → いい事は早晩必ずやってくる 《諺》

language は「言語」。

これは(カタカナ英語の)「ランゲージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ[lǽŋgwidʒ(ラングゥィッジ)]と発音するので注意。

類語の linguistics は「言語学」。linguist は「言語学者」。

large は「大きい」。

これは(カタカナ英語の)「ラージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「Ｌサイズ」のＬは large のＬ。副詞形の largely は「主に、主として」。この large を用いた決まり文句に以下のようなものがある。

(1)by and large 「概して、一般的に」

(2)at large 「①つかまらないで、自由で ②全体として、一般に(の) ③詳細に、十分に」

(3)people at large 「一般の人々」。

Latin は「①ラテン語 ②ラテン系の(人)」。

②については(カタカナ英語の)「ラテン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。①の意味もおさえよう。

ラテン語は古代ローマ帝国の公用語。現在では学術用語に主に用いられる。

lease は「(土地や家屋を)賃貸[賃借]する」。

これは(カタカナ英語の)「リース」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。lease は名詞として「賃貸契約書」という意味もある。

We signed a two-year lease for this house.

この家を２年借りる契約をした

When does the lease on your house expire?

家の借家契約はいつ切れますか

leather は「革」。

これは(カタカナ英語の)「レザー」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。

My shoes are made of genuine leather.

私の靴は本物の革でできている

lecture は「講義[講演・説明](する)」。

これは(カタカナ英語の)「レクチャー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

Father gave me a lecture on my rude behavior.

父は私の無作法をしかった
He had a lecture from his teacher.
彼は先生から説教された
He lectures on literature at the university.
彼は大学で文学の講義をしている

leg は「脚、足」。

これは(カタカナ英語の)「レッグ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「レギンス(leggings)」も leg の類語。

leg は「脚」全体(もしくは「ひざから足首」)、foot は足首から下を指す。

She sat with her legs crossed.
彼女は足を組んで座った
He broke his right[left] leg.
彼は右脚[左脚]を折った

legend は「伝説」。

これは(カタカナ英語の)「レジェンド」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。

leisure は「①余暇 ②暇」。

①については(カタカナ英語の)「レジャー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②もおさえよう。at one's leisure は「暇なときに、都合の良いときに」。at leisure は「暇で」。

She looked forward to retirement and a life of leisure.

彼女は引退して悠々自適の生活をするのを心待ちした

I have no leisure to drop [=for dropping] in at a coffee shop.

喫茶店に立ち寄る暇もない

This is a work written with leisure and grace.

これはゆったりと優雅に書かれた作品だ

length は「長さ」。

これは long(長い)の名詞形だと覚えればいい。

These two sticks are of the same length.

この２本の棒は同じ長さである

We ran the length of the park.

我々は公園を端から端まで走った

length には「あるものの端から端までの距離」という意味もある。

At length peace was restored.

やっと平和が回復した

at length で「やっと」という意味がある。at last で言い換えられる。

lever は「てこ、レバー」。

これは(カタカナ英語の)「レバー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。lever は比喩的に「（目的達成のための）手段」という意味にもなる。類語の leverage は「てこの作用[力・原理]」という意味。

カタカナ英語の「レバレッジ」は経済用語で、経済活動において、他人資本を使うことで、より大きな利益を上げること、またはその高まる倍率のことを指して言う。

liberal は「①自由主義の ②自由な、寛大な」。

これは(カタカナ英語の)「リベラル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は liberty で「自由」。動詞形は liberate で「～を解放する」。liberal の反意語は conservative で「保守的な」。
それから「(大学の)一般教養科目」を liberal arts と言うが、liberal には「教養的な、専門的でない」という意味があるから。

He was a liberal benefactor to the orphanage.
彼は気前よく孤児院に寄付した
a liberal father
厳格でない父親
a liberal view on social issues
社会問題に対する進歩的な見解

liberty は「自由」。

これは(カタカナ英語の)「リバティ」が同じ意味なのでわかりやすい。新興宗教のＰＬ教団(高校野球のＰＬ学園でおなじみ)のＰＬは「パーフェクトリバティ(完全な自由)」のこと。形容詞形は liberal で「①自由主義の②寛大な、偏見のない③自由な」。
ちなみに「自由の女神」は The Statue of Liberty と言う。

We have (the) liberty to express ourselves freely.
我々は自由に思うところを表現できる

license は「免許(証)」。

これは(カタカナ英語の)「ライセンス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。license は動詞として「～を認可する」という意味にもなる。

She has a driver's license.

彼女は運転免許証を持っている

Do you have a license to sell alcohol?

酒類販売の許可証を持っていますか

The shop was licensed to sell beer and spirits.

その店は酒類販売を許可された

license は「許可を与える」という動詞の意味もある。

line

line の『核』のイメージは「一本の線(糸)」。

(ex) Draw a line from A to B. AからBまで線を引きなさい

a picture in line 線画

a line of sight 視線

そこから比喩的に

「列、並び」

「(文章や詩の)行、セリフ」

「電話(の配)線、電線」

「(バス・鉄道などの)路線、航路」「(鉄道の)線路」

「[a line] 短い便り、一筆」

「家系、血統」「系統、系列」「序列、順序」

「[a line] 短い便り、一筆」

「境界(線)」「限界、限度」

「商品[製品]の型[種類]」

「(ある種の)在庫商品」

「得意(な分野)、専門、好きな道」

など、多様な意味に派生した。

(ex) The boys stood in (a) line. 男の子達は１列に並んでいた

The first line of the page is easy to understand.

そのページの１行目は分かりやすい

Write on every other　line. １行おきに書きなさい

He forgot his lines. 彼はセリフを忘れた

The line's busy. [電話で]お話し中です

=Line engaged.

Pat is on the line. Please go ahead.

パットさんが電話に出ています。どうぞお話し下さい　☜電話交換手のセリフ。

Mr. Lee is on another line. リーさんは別の電話に出ています

an air line 航空路

the up[the down] line (列車の)上り[下り]線

the Yamanote Line 山の手線

Drop me a line. ご一報下さい

a line of foreign ministers 歴代の外務大臣

the line between France and Germany. フランスとドイツの国境

There is a thin line between genius and madness.

天才と狂気は紙一重

What he demanded goes over the line.

彼の要求したことは限度を越えている

a new line of[in] dress shirts ドレスシャツの新製品

Skiing isn't in my　line. スキーは私の得意とするものではない

It is not my line to complain. 不平を言うのは私の柄ではない

line が比喩的に使われる例をもう少し挙げると、たとえば hold the line で「(不利な状況にならないように)〈人が〉(…の)現状を維持する」「(事が)現状にとどまる、現状を維持する」という意味があるが、これは「今いる一線(line)にがんばって踏みとどまる(hold)」ということ。

また on the line で「(命・金・名誉などが)危うくなって、危険にさらされて」という意味があるが、これは「生と死、成功と失敗の線(境目)の上にある」ということ。

(ex) Our prestige and honor are on the line.

我々の威信と名誉は風前の灯だ

また同じ on the line でも、lay it on the line to[for] A(人) で「(手心を加えずに)はっきり言う」という意味があるが、これは「(事の真相を目の前にある)線の上に並べてやる」というのが原義。

(ex) I'll lay it on the line for you. We don't have enough money to realize it.

はっきり言うけど、お金が足りなくてそれは実現できないよ

また line は「生業として選んだ道→商売、職業」という意味になることもある。

(ex) What line (of business) are you in? ご商売(職業)はなんですか

=What is your line?

=What do you do?

She is in the selling line. 彼女は販売関係の仕事をしています

linear は「①直線の ②線から成る、線状[型]の」(形)

これは(カタカナ英語の)「リニアモーター」から類推しよう。リニアモーターとは、「直線運動をするモーター」という意味なのだ。また語源から「線(line)+のような(ar)→線のような」と覚えてもいい。

linear design

線模様

a linear series

一列に並んだもの、線状の系列

linear extent

縦方向の広がり

lip は「くちびる」。

これは(カタカナ英語の)「リップ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
lip service は「口先だけの好意［忠誠］，(口先だけの)世辞」。これもカタカナ英語として浸透している。pay lip service to A で「Aに口先だけの好意を示す［忠誠を誓う］、Aにから世辞を言う」。

the lower lip

下唇

I heard the news from his own lips.

私は彼の口から直接その知らせを聞いた

My lips are sealed.

私は口止めされています

The sour taste made her lips purse.

酸っぱさに彼女は口をすぼめた

liquid は「液体(の)」。

これは（カタカナ英語の)「リキッド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい(「リキッドタイプ」などと言ったりする)。発音は[likwid(リクゥイド)]。ちなみに「固体(の)」は solid。「気体」は gas。solid には転じて「頑丈な」という意味もある。

Vapor is neither a liquid nor a solid.

蒸気は液体でも固体でもない

liquid fuel

液体燃料

liquid food

流動食

list は「一覧表、リスト」。

これは(カタカナ英語の)「リスト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。list は動詞として「～をリスト[一覧表]にする」という意味もある。
ちなみに「手首」という場合のリストは a wrist というので注意。

You must have a strong wrist to play baseball.

手首が強くないと野球はできないよ

lively は「生き生きとした」。

これは(カタカナ英語の)「ライフ」から類推しよう。ライフ(life)は「命、生命、人生、暮らし」のことであり、動詞形が live で「生きる」。その形容詞形が lively なのだ。

lively は語尾が ly だが、形容詞なので注意。

live も形容詞・副詞として「①生きている ②生放送の」という意味で用いられるが、これは(カタカナ英語の)「ライブ」でおなじみ。

a lively child

元気のよい子供

a lively color

鮮やかな色

The headlines were lively.

その見出しは人目を引くものだった

loan は「①借金、ローン ②貸すこと」。

これは(カタカナ英語の)「ローン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。loan は動詞として「貸し付ける」という意味もある。on loan で「借り入れて」。

The book is a loan.

その本は借り物です

The bank made a $10 million loan to the company.

銀行はその会社に1000万ドルの融資をした

Will you loan me your umbrella?

君の傘を貸してくれますか.

he loaned me ten dollars.

=She loaned ten dollars to me.

彼女は10ドル貸してくれた

じょう かぎ

lock は「錠[鍵](をかける・がかかる)」。

これは(カタカナ英語の)「ロック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。反意語は unlock で「錠[鍵]をあける[あく]」。lock は比喩的に「～を動かなくする[かなくなる]」という意味もあるが、こちらも「ロックする」でおなじみ。

He forgot to lock the door.

彼はドアにかぎを掛けるのを忘れた

The door of this room locks automatically.

この部屋のドアは自動的にかぎが掛かる

ちなみに rock は「岩」。また rock には「揺れる[らす]」という意味もあるが、前者は(カタカナ英語の)「ロック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。後者の意味も「ロッキングチェア」などでおなじみ。

音楽のロックが、体を激しく揺らしながら演奏するのをイメージしてもいいだろう。

The earthquake rocked the houses.

地震が家々を揺り動かした

loft は「①屋根裏(部屋) ②(教会・講堂などの)上の階、さじき」。

これは(カタカナ英語の)「ロフト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は lofty で「①(山・木・建物などが)非常に高い ②堂々とした、高尚な ③高慢な、ごう慢な」。またミサイルなどの「ロフティッド軌道」とは、上空高く打ち上げられた軌道のこと。loft には「～を高く打ち上げる」という動詞の意味もあるのだ。

a lofty mountain

そびえ立つ山

a lofty style

高尚な文体

a lofty speech

堂々とした演説

lonely は「寂しい、孤独な」。

これは(カタカナ英語の)「ロンリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。alone との違いは、alone は「人や物が単独であること」で、必ずしも寂しいとは限らない。

He was alone, but he was not lonely.

彼はひとりであったが寂しくはなかった

She felt lonely when left alone among strangers.

他人の中にただひとり残されたとき彼女は心細くなった

lord は「主人、君主」。

これはヒット映画「ロードオブザリング(The Lord of the Rings)」から類推できる。この映画は、その指輪の主人[所有者]は世界を滅ぼす魔力を持つという物語だった。(大文字にして) Lord と言うと「神、イエスキリスト」を意味する。ちなみに landlord は「①(下宿屋・旅館・居酒屋などの)主人 ②地主、家主」。

Man is the lord of creation.

人類は万物の霊長である

the great lords of banking

銀行業界の大物たち

loss は「損失」。

これは（カタカナ英語の）「ロス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は lose で「①失う ②負ける」。lose の活用は lose - lost - lost。

loss of memory

記憶喪失

loss of blood

出血

They wept over his loss.

彼らは彼の死を嘆いて泣いた

I did not lose a word of what he said.

私は彼の言ったことを１語も聞き漏らさなかった

Her voice was lost amid the cheers of spectators.

彼女の声は観客の声援の中でかき消された

loud は「うるさい、(音・声が)大きい、大声で」。

これは(カタカナ英語の)「ラウドロック」から類推しよう。ラウドロックとは(ヘビメタの一種で)要するに「音が大きくてうるさいロック」。反意語は quiet。ちなみに類語の aloud は「声に出して」で、反意語は silent。

Her cry was loud enough for them to hear.

彼女の叫び声は彼らに聞こえるくらい大きかった

Speak louder and clearer!

もっと大きな声ではっきりと話しなさい

You're talking too loud.

君の声は大きすぎるよ

lovely は「①かわいい、美しい ②素晴らしい」。

①については(カタカナ英語の)「ラブリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②はなじみがないかもしれないが、a lovely day で「天気の良い日」のように用いる。

luggage は「手荷物」。

これは(カタカナ英語の)「ラッゲージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ラッゲージスペースと言えば、自動車で荷物を収納するスペースのことだ。luggage の同意語として baggage がある。

I deposited my luggage at a cloakroom.

手荷物を一時預かり所に預けた

m

machine は「機械」。

これは(カタカナ英語の)「マシ(ー)ン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語の自動販売機は vending machine 、洗濯機は washing machine 。

machinery は「(総称的・集合的に)機械類」。machine は一個一個の機械という意味で可算名詞だが、machinery は不可算名詞になる。

また the government machinery で「政治［行政］機構」となる。

This machine won't work for a while.

この機械はしばらく動かない

run a machine

機械を操作する

mad は「狂っている」。

これは(カタカナ英語の)「マッド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。同意語の crazy もカタカナ英語としておなじみ。ちなみに mud は「泥」。

それから mad は転じて「①腹を立てている ②熱中している」という意味になる。crazy にも「熱中している、夢中な」という意味がある。He is mad[crazy] about[for] her. は「彼は彼女に夢中だ」。

maid は「(女性の)お手伝い、メイド」。

これは(カタカナ英語の)「メイド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

main は「主な、主要な(=chief)」。

これは(カタカナ英語の)「メイン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。副詞形は mainly で「主に」。これは in the main で言い換えられる。

majority は「大多数、多数派」。

これは(カタカナ英語の)「マジョリティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は major で「主要な、(数・量が)大きい方の」。反意語は minority で「少数(派)」。その形容詞形は minor で「重要でない、(数・量が)少ない方の」。これらは全てカタカナ英語になっているのでわかりやすいはず。

The majority are[is] for him.

大多数は彼に賛成だ

㊟数えられる語について用いるときは通例複数に扱うが，全体を１つにまとめて単数に扱うこともある。

The (great) majority of people prefer peace.

大多数の人は平和の方を好む

magnet は「①磁石 ②(人を)引きつける人[物]」。

①については(カタカナ英語の)「マグネット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②も比喩的な用法で類推しやすいはず。形容詞形は magnetic で「①磁石の、磁気を帯びた ②人を引きつけるような、魅力的な(=attractive)」。

A bar magnet has positive and negative poles.

棒磁石には陽極と陰極がある

the best magnets to attract patronage

客を引きつける目玉商品
His speech is really magnetic.
彼の演説は人を引きつける

manifest は「明らかにする」。

これは(カタカナ英語の)「マニフェスト」から類推しよう。マニフェストとは「選挙の際に政党などが明らかにする公約」のことだ。manifest は「明らかな」という形容詞の意味もある。

manifest truth
明らかな真実
Anxiety was manifest on her face.
心配な様子が彼女の顔にありありと見えた
He manifested the truth of a statement.
彼は陳述が真実であることを証明した
She manifested (an) interest in movies.
彼女は映画に興味を示した

manner

manner は要注意。なぜなら(カタカナ英語の「礼儀」という意味の)「マナー」は、manners と英語では言うから。**manner は「①方法 ②物腰、態度」**という意味になる(「方法」という意味では way の同義語)。in this manner は「このようなやり方で」。

You should hold your fork in this manner.
フォークはこのように持ちなさい
I don't like her manner; it's very rude.
彼女の態度が気に入らない。とても無礼ですよ
He has an awkward manner.

彼の態度はぎこちない

mantle は「マントル」。

これは(カタカナ英語の)「マントル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

「マントル」とは、地球内部の地殻と核との間の約2,900 km の厚さの部分を指して言う。

ただ(カタカナ英語の)「マント」も mantle。mantle はそこから転じて「(～を)隠すもの、覆うもの、覆い」という意味にもなる。

The hill was covered by a mantle of fresh green.

その丘は新緑に覆われていた

march は「①行進(する) ②行進曲」。

(カタカナ英語の)「マーチ」は②の意味で用いるが、そこから①の意味はつなげやすいはず。

ちなみに March は「3月」。

margin は「①差 ②利ざや ③(ページの)余白」。

これは (カタカナ英語の)「マージン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。更に「余白」から転じて「「縁(へり)、端(はし)」という意味もある。on the margin of a lake は「湖のほとりに」。形容詞形は marginal で「あまり重要でない」。

a margin of 15 minutes

１５分間の余裕

He won the race by a wide margin.

彼は大差でレースに勝った

Please write your comments in the margin.

あなたのご意見を余白に書いてください

marine は「①海の ②船舶の」。

これは(カタカナ英語の)「マリン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。marine products は「海産物」。marine は名詞として「海兵隊員」という意味もある。

marine animals

海洋動物

marine products

海産物

market は「①市場 ②需要」。

これは(カタカナ英語の)「マーケット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語の marketing も「マーケティング」でおなじみ。

「マーケティング」とは、企業の販売活動全般を指す語。

a foreign market for silk

絹糸の海外市場

the stock market

株式市場

The goods will find a market in America.

その品物はアメリカに市場［販路］を見い出すだろう

There's not much of a market for these goods in Japan.

これらの品物の日本における需要は多くない

The market is rising[falling] .

相場は騰貴［下落］している

marry は「～と結婚する」。

これは(カタカナ英語の)「マリッジ」から類推できる。マリッジ(marriage)は「結婚」という意味で marry の名詞形だ。ちなみに an arranged marriage は「見合い結婚」。a love marriage は「恋愛結婚」。

be married to A は「A と結婚している」。get married to A は「A と結婚する」で marry A と同じ。

mash は「～をすりつぶす」。

これは(カタカナ英語の)「マッシュドポテト」から類推できる。マッシュドポテト(mashed potato)とは、茹でたジャガイモをすりつぶし、牛乳とバターを加えて滑らかに仕上げる食べものだ。

mask は「①仮面、覆面、(保護用の)マスク ②覆い隠すもの、口実」(名)
「～を仮面で覆う、隠す ②(感情・物事など)を隠す」(動)

名詞の①については(カタカナ英語の)「マスク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

動詞の意味についても(カタカナ英語の)「マスキングテープ」などから類推できる。

「マスキングテープ」…ペンキなどを塗る際に、はみ出さないように(塗ってはいけないところを)隠すためのテープ。

master は「①主人 ②名人 ③修士(号)」(名)
「①主な ②元になる ③素晴らしい」(形)
「①～を支配する ②～を習得する、マスターする」(動)

これは(カタカナ英語の)「マスター」から類推できる。形容詞の②の意味でも、「元になる音源を録音したテープ」という意味で「マスターテープ」と言ったりする。類語の mastery は「①支配 ②習熟、熟達」。

matter は「問題、面倒」。

これは（カタカナ英語の)「マター」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。matter には「物質」「事情、事態」「重要性」という意味や、「重要だ」という(自動詞の)意味もある。

I have several important matters to talk about to you.

あなたと話すべきいくつかの重要な問題がある

Matters are different in England.

事情は英国では異なる

What's the matter?

どうしましたか？

It's no matter to me which wins.

どちらが勝っても私には大した事ではない

Matter and energy compose the universe.

物質とエネルギーが宇宙を構成する

foreign matter

異物

Does it matter who said it?　☜自動詞の matter。

だれがそれを言ったのかが重要なのですか

It doesn't matter to me where he is from.　☜自動詞の matter。

彼がどこの出身なのかは私にはどうでもいい

meal は「食事」。

これは（カタカナ英語の）「ミール」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。食事関連では breakfast(朝食)、lunch(昼食)、dinner(夕食)、snack(軽食、間食)全てカタカナ英語になっている。dish が（「皿」以外に）「料理」という意味になることがあるが、これも「メインディッシュ(main dish)」というカタカナ英語でおなじみ。ちなみに「スナック菓子」のことは英語では junk food と言うが、これも「ジャンクフード」がカタカナ英語になっている。

I have[eat] three meals a day.

１日に３度食事をします

prepare a meal

食事の用意をする

He missed a meal.

彼は１食抜かした

She eats between meals.

彼女は間食する

mechanic は「整備士、修理工」。

これは(カタカナ英語の)「メカニック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は mechanical で「機械の、機械的な」。類語の mechanism(仕組み)も(カタカナ英語の)「メカニズム」でおなじみ。

an automobile[garage] mechanic

自動車修理工

the media は「マスコミ、(マス)メディア」。

これは(カタカナ英語の)「メディア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。the mass

media とも言う。

The media are covering the speech tonight.

マスコミはその演説を今夜報道する

media は複数扱いの名詞になる。

medical は「医療の」。

これは（カタカナ英語の）「メディカル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は medicine で「①医療、医学 ②薬」。

a medical student

医学生

a medical practitioner

開業医

a medical examination

健康診断

Don’t take too much medicine.

薬を飲みすぎるな

He has taken a lot of different medicines.

彼はいろいろの薬を試用した

preventive medicine

予防医学

practical medicine

治療業務、医療

practice medicine

医者を開業する

meditation は「①瞑想 ②熟考」。

これは(カタカナ英語の)「メディテーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は meditate で「①瞑想する ②熟考する、もくろむ」。

I was deep in meditation.

瞑想にふけっていた

I often meditate on the meaning of life.

私はしばしば人生の意義について深く考える

mega- は「①大きい、超特大の ②100万の」。

これは(カタカナ英語の)「メガ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。超特大のマックに「メガマック」という商品名がついている。②の意味でも「メガヘルツ」「メガワット」などの表現で用いられている。

melancholy は「憂鬱(な)」。

これは(カタカナ英語の)「メランコリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

memory は「①記憶(力) ②思い出」。

これは(カタカナ英語の)「メモリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は memorize で「記憶する」。memorial は「記念の」「①記念物(碑) ②記念祭」。

She has a long[short] memory.

彼女は物事をいつまでもよく記憶している［忘れっぽい］

She has a good[bad, poor] memory for names.

彼女は人の名前をよく覚える［なかなか覚えられない］

I sketched this from memory.

これは記憶を頼りにスケッチしました

mental は「精神的な」。

これは（カタカナ英語の）「メンタル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は mentality で「精神力、精神状態、心的傾向」。これも(カタカナ英語の)「メンタリティ」と同じ。

merit は「①長所 ②優れていること」。

これは①については(カタカナ英語の)「メリット」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。反意語の demerit も「デメリット」でカタカナ英語になっている。

Everybody has his merits and demerits.

すべての人は長所と短所を持っている

a man of merit

優秀な人

metal は「金属(製の)」。

これは(カタカナ英語の)「メタル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

noble[perfect] metals

貴金属

light [heavy] metals

軽［重］金属

These tools are made of metal.

これらの道具は金属製だ

meteor は「隕石、流星」。

これは(カタカナ英語の)「メテオ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ meteor は[mi:tiər(ミーティア)]と発音するので注意。ちなみに comet は「彗星」。

method は「方法」。

これは(カタカナ英語の)「メソッド」も同じ意味で用いるのでわかりやすい。

He invented a new method of calculation

新しい計算方法を発明した

I don't like his method of teaching.

私は彼の教え方が気に入らない

metropolis は「①大都市、首都 ②(商業・文化などの)中心地」。

これは(カタカナ英語の)「メトロポリス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は metropolitan で「大都市の」。

Paris is the metropolis of France.

パリはフランスの首都である

the metropolitan area

大都市圏, 首都圏

micro- は「[名詞に付いて]微小の」。

これは(カタカナ英語の)「ミクロ」「マイクロ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。microscope は「顕微鏡」。micro- の反意語が macro- で「長い、大きい、大規模な」といった意味になるが、こちらも「マクロ」でおなじみ。

middle は「①中間(の) ②中央(の)」。

これは(カタカナ英語の)「ミドル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。in the middle of A で「Aの真ん中に[最中で]」。middle-class は「中流社会[中産階級]の」。middle age は「中年」。middle age spread は「中年太り」。ただ the Middle Ages というと「中世」という意味になる。

He won't be back till the middle of the month.

彼は月の中ごろまでは帰らない

The church is in the middle of the town.

教会は町の中心にある

She had a heart attack in the middle of his lecture.

彼女は講義の最中に心臓発作におそわれた

mild は「①穏やかな ②(風味などが)甘い、口当たりが良い」。

これは(カタカナ英語の)「マイルド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ mild には他に「①(刑罰などが)寛大な、ゆるい ②(病気が)軽い」という意味もあるので注意。

I have a mild fever.

微熱がある

milestone は「①(道路わきに立てた)目的地までの距離をマイルで示す石の道標、一里塚
②(歴史・人生などにおける)画期的な事件」。

これは(カタカナ英語の)「マイルストーン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

military は「軍隊(の)」。

これは(カタカナ英語の)「ミリタリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。military power は「軍事力」。

military service

兵役

military government

軍事政権

millennium は「千年間」。

これは(カタカナ英語の)「ミレニアム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。the millennium で「理想の時代」という意味もある。

million は「100万」。

これは(カタカナ英語の)「ミリオン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「ミリオンセラー」は100万部[枚]を超えるヒットのことを言う。ちなみに billionは「10億」。millionaire は「百万長者」、billionaire は「億万長者」(どちらもカタカナ英語になっている)。

mind は(カタカナ英語の)「マインド」とは異なる意味が重要。

まず名詞のマインドは「①知性 ②人 ③記憶」といった意味がある。動詞の mind は「～を気にする、嫌だ」という意味が大切。また ○○-minded は、○○が形容詞・副詞の場合、「～心をもった」という意味になる。open-minded は「偏見のない」。○○が名詞の場合「～に関心のある」。sports-minded は「スポーツ好きの」。

mingle は「混ぜる[ざる]、混ぜ合わせる[わさる]」。

これは(カタカナ英語の)「ミングル」から類推できる。ミングルとは、一つの住宅・アパートなどを友人同士などで共同生活[ルームシェア]をする住まい方のこと。

He mingled truth with falsehood

彼は真実とうそをとり混ぜた

mingled feelings

悲喜こもごもの感情

We mingled with the crowd.

我々は群衆の中にまぎれ込んだ

miniature は「①小型模型 ②細密画」「小規模の、小型の」。

これは(カタカナ英語の)「ミニチュア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。アクセントは第一音節にあるので注意。

miracle は「奇跡、驚異的なこと」。

これは(カタカナ英語の)「ミラクル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は miraculous で「奇跡的な」。

I was able to escape by a miracle.

私は奇跡的に逃げることができた

It was a miracle that you weren't hurt in that car crash.

あの自動車衝突事故で君が負傷しなかったのは奇跡だ

mirror は「鏡」。

これは(カタカナ英語の)「ミラー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
比喩的に「(忠実に)写し出すもの、反映するもの」という意味にもなる。

The newspaper should be the mirror of public opinion.

新聞は世論を写し出すべきだ

mirror は動詞としても用いられ、「(鏡のように)映す」、更にそこから比喩的に「～を反映する(=reflect)」という意味にもなる。

He likes to depict a mountain range mirrored on the water of the lake.

彼は好んで湖水に映る山並みを描く

Popular songs mirror the age.

流行歌は時代を反映する

misleading は「誤解を招く、まぎらわしい」。

これは(カタカナ英語の)「ミスリーディング」から類推できる。ミスリーディングとは、相手に事実とは異なる認識をする方向へと導くことを指して言う。

a misleading expression

誤解を招く表現

Our guide misled us in the forest.

ガイドが私たちに森で道を誤らせた

He is misled by bad companions.

彼は悪友のために道を踏みはずした
He has been misled about the matter.
彼はそのことで考え違いをしている

miss

miss の『核』のイメージは「～をとらえ損なう」。
とらえ損なうものが「乗り物」であれば、「～に乗り遅れる」という意味になる。

(ex) I missed the last train. 最終電車に乗り遅れてしまった

(野球などをしていて)とらえ損なうものが「ボール」等の「狙ったもの」であれば、「打ち損じる」「空振りする」等という意味になる。

(ex) I missed the easy ball. 簡単に打てる球を空振りしてしまった

それが「機会・狙い・目標・チャンス」等であれば「～をはずす、逸する、見逃す」といった意味になる。

(ex) I missed my only chance. 僕は唯一の機会を逸した

それが「話・映画」であれば「～を見[聞き]そこなう、見のがす」、「義務・約束」等であれば「～を守れない、果たせない」、「会合・授業」等であれば「～を欠席する、出られない」、「人」なら「～に会いそこなう」、「意味・問題」などなら「～を理解し損なう、間違える」となるのだ。

(ex) I missed the opening part of the play.
その劇の開幕部分を見そこなった
Don't miss a word I'm going to say.
これから私の言うことを一言も聞きもらしてはいけない
miss an appointment
約束を果たせない
He missed the point of the joke.

彼はその冗談の落 ちがわからなかった

My friend barely missed a serious car accident.

友人はすんでところで大変な交通事故を免れた

㊟(悪い事態・気が進まないこと)を意図的にとらえそこなう → ～を免れる 避ける、～に出ない、～を抜く」という意味になることもある。

それから miss が「人・好きなもの」を目的語にとって「～がいないのを寂しく思う」「～が恋しい」という意味になることがあるが、これは、「心情的にいてほしい[いるべき]人・あってほしい[あるべき]物をとらえ損なう」ことから、「本当はいてほしい・あってほしいのに」という気持ちが生まれ、結果として「～がいないのを寂しく思う」という意味になったのだ。

(ex) The mother missed her child.

その母親は子供がいなくて寂しかった

I miss "sake." 酒が恋しい

それから「行方不明の」という意味で missing という形容詞があるが、これは元々「あるべきところにいない」という意味。

mistake は「過ち、間違い」。

これは(カタカナ英語の)「ミス」「ミステイク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。make a mistake, make mistakes で「間違える」。by mistake で「間違って、誤って」。mistake は動詞として「①～を誤解する、～の解釈を誤る ②[mistake A for B]AをBと間違える」という語法もある。

㊟活用は mistake - mistook - mistaken。

He mistook her meaning[what she meant].

彼は彼女の意図を誤解した

I often mistake Nancy for her younger sister.

よくナンシーを(彼女の)妹と間違える

mistake の過去分詞に mistaken がある。意味は「(1)(人が)誤った、（…について）誤解した (2)(行動・考えなどが)誤った」。

Please correct me if I am mistaken.

間違っていたら訂正してください

I was mistaken about the date.

私は日にちを間違っていた

If I'm not mistaken, his wife died recently.

(間違っていなければ）確か彼の奥さんは先日なくなっている

a mistaken kindness

ありがた迷惑なこと

mitten は「ミトン（親指以外は袋になっている手袋）」。

これは(カタカナ英語の)「ミトン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに五本指の手袋は glove。それから、婦人用の長手袋 は mitt と言う。

野球のミットも mitt。

mobile は「移動できる、可動性のある、流動性のある」。

これは(カタカナ英語の)「モバイル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。語源的には「動く(mob=move)+できる(ible=able)→移動できる」となる。

a mobile library

移動図書館

a mobile phone

移動[携帯用]電話

model は「①模型 ②手本 ③モデル」。

これは(カタカナ英語の)「モデル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
a role model で「手本となる人」。

My son is fond of making airplane models.

私の息子は飛行機の模型を作るのが好きだ

a model plane

模型飛行機

His style of writing is my model.

彼の文体が私の手本です

a car of the 1992 model

1992年型の自動車

The Guest House was modeled after Buckingham Palace.

迎賓館はバッキンガム宮殿にならって作られた

※ model は動詞として「～を作る」という意味もある。

modern は「①現代の ②近代の」。

これは(カタカナ英語の)「モダン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は modernize で「～を近代化する」。

modern times 現代

modern science 近代科学

hotels with modern equipment 現代式設備のあるホテル

a kitchen with every modern convenience

あらゆる最新設備を備えた台所

moment は「瞬間」。

これは(カタカナ英語の)「モーメント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ moment を用いた決まり文句的なものがいろいろあり、それらをしっかりおさえたい。at the moment は「ちょうど今[その時]」。for a moment は「しばらくの間」。in a moment は「すぐに」。(at) the moment S+V～で「～するとすぐに」。

I parted with him a moment ago.

ちょっと前に彼と別れた

In a few moments she appeared.

しばらくして彼女が現れた

At this moment she came in.

この時彼女が入って来た

I am free at the moment.

ちょうど今ひまです

The document is of great moment.

その書類はきわめて重要だ

上例のように moment が「重要性」という意味になることもある。

The moment they saw me, they stopped talking.

彼らは私を見るとすぐに話をやめた

monitor は「～を監視する」 「(テレビ・ラジオの)モニター、監視装置」。

これは(カタカナ英語の)「モニター」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「監視・調査をする」という意味で「モニタリングを行う」などと言ったりもする。

ただし「依頼されて放送・商品などの状態を調べて感想を述べる人」のことも(カタカナ英語で)モニターというが、monitor にはこのような意味はない。

The boss monitors the quality of her employees' work.

上司は従業員の勤務評定をしている

If you monitor your own blood pressure, you may find it's high only at certain times and

places.

もし自分で血圧をチェックすると、血圧はある時･場所でのみ高くなっていることがわかるでしょう

monopoly は「①独占(権) ②専売(事業)」。

これは「モノポリー」というボードゲームから類推できる。モノポリーとは、盤上で不動産を売買し、土地の独占を目指すゲーム。mono は「単一(の)、単独(の)」を表す接頭辞。

poly は「販売する」。

たとえば monorail は「単一のレール」を走る列車のこと。monotone は「単調」。

形容詞形は monotonous で「単調な」。それから動詞形は monopolize で「独占する」となる。

He monopolized the conversation.

彼は(他の人に話させないで)会話を独占した

monster は「①怪物 ②巨大な物」。

これは(カタカナ英語の)「モンスター」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は monstrous で「①怪物のような、途方もない ②巨大な ③ひどく醜い」。

monument は「①記念碑 ②金字塔 ③遺跡」。

これは(カタカナ英語の)「モニュメント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

形容詞形は monumental で「不朽の、壮大な」。

The Lincoln Memorial is a national monument.

リンカーン･メモリアルは国の記念建造物です

an ancient[historical] monument

古代[史的]記念物

mood は「①(一時的な)気分、機嫌 ②気まぐれ　③(世間の)風潮」。

これは(カタカナ英語の)「ムード」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただし「(場所の)雰囲気」については、英語では atmosphere を用いるので注意。それから(カタカナ英語の)「ムーディ」は「ムードがある」という意味だが、moody は「不機嫌な、ふさぎ込んだ、気まぐれな」という意味なのでこれも注意。

an atmosphere of freedom

自由な雰囲気

There is an atmosphere of peace and calm in the country.

田舎には平和で穏やかな雰囲気がある

The restaurant has a pleasant homely atmosphere.

そのレストランにはなごやかで家庭的な雰囲気がある

上例のように、繰り返すが「(場所の)雰囲気」については、atmosphere を用いる。

それから(カタカナ英語の)「ムーディ」は「ムードがある」という意味だが、moody は「不機嫌な、ふさぎ込んだ、気まぐれな」という意味なのでこれも注意。

a moody temperament

気難しい性質

a moody silence

不機嫌さを示す沈黙

moral は「道徳の、道徳的な」。

これは（カタカナ英語の)「モラル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい(ただ moral は形容詞として用いることが多い)。反意語は immoral で「不道徳な」。名詞形は morality で「道徳」。

a moral question

道徳上の問題

a moral responsibility

道義的責任

ちなみに、よく似ているが morale というと「（軍隊などの）士気、（労働者の）勤労意欲」という意味になる。

The soldiers' morale is high[low].

兵士たちの士気は高い［低い］

raise[lower] morale

士気を高揚［低下］させる

mosquito は「蚊」。

これは(カタカナ英語の)「モスキート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

I was bitten by mosquitos.

蚊に食われた

mosquito bites

蚊に食われたあと

motivation は「やる気」。

これは(カタカナ英語の)「モチベーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

動詞形は motivate で「～に刺激を与える、～に動機を与える」。

A hint motivated his action.

あるヒントが彼の行動を促した

What motivated him to commit the crime?

何が彼を犯罪に駆り立てたの

語源～mot

mot がつく語は「動」を表すものが多い。motion は「動き」。motive は「動機」。動機とは人を行動へと動かすものだ。motor は「発動機」。ちなみに「モーテル」つまりmotel は motor hotel(自動車旅行者用ホテル)に由来。locomotive は「機関車」。これは「場所から場所へ(loco=local)+動くもの(motive)」ということ。remote は「遠い、人里離れた」。これは「遠くに(re)+動かされた(mote)」ということ。

motto は「座右の銘、標語、処世訓」。

これは(カタカナ英語の)「モットー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

mouse は「①ネズミ ②(コンピュータの)マウス」。

これは(カタカナ英語の)「マウス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。mouse の複数形は mice。ちなみに mouse(ハツカネズミ)よりも大きなもの(ドブネズミなど)を rat と言う。

movement は「①(政治的・社会的な)運動、動き ②(個人・集団の)活動 ③(時計の)機械装置」。

これは(カタカナ英語の)「ムーブメント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

The room shook with her every movement.

部屋は彼女が動くたびに揺れた

the women's liberation movement

ウーマンリブ運動

They started a movement against war

彼らは反戦の運動を起こした

the Germanic movement

ゲルマン民族の移動

動詞形は move で「動く[かす]」。こちらも(カタカナ英語の)「ムーブ」から類推できる。ただ move の場合、「住んでいる場所を動く→引っ越しする」「心を動かす→ 感動させる」といった意味もある。

そうすると分詞形の moving も「動く[かす]、動いている」以外に「感動させる(ような)」という意味にもなる。この moving のようなものを分詞形容詞という。これらについてまとめたものはなかなか市販にはないが、受験では頻出である。「山下りょうとくのホームページ」の「イメタン関連ファイル」内に「頻出分詞形容詞一覧」というファイルがアップされている。このファイルをダウンロードし、熟読するといい。受験でよく出る分詞形容詞について、ほぼすべて網羅されていて、しかも例文付きだ。

a moving world

変動する世界

a moving force

原動力

moving appeal

人の心を動かす訴え

move の類語に mobile がある。「移動させることが出来る、可動性の、流動性のある」という意味だが、これは(カタカナ英語の)「モバイル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a mobile station

移動放送局

a mobile liquid

流れやすい液体

I’m much more mobile now I have a car.

車を持ってからうんと足の自由がきく

a mobile society

流動性社会

muscle は「筋肉」。

これは(カタカナ英語の)「マッスル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

形容詞形は muscular で「筋肉の、たくましい」。

類語の masculine は「①男性の ②男らしい」。

mutant は「突然変異体、変種」。

これは(カタカナ英語の)「ミュータント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語の mutation は「①突然変異 ②変化、世の移り変わり」。動詞形は mutate で「突然変移する」。

mute は「①無言の、静かな(≒silent) ②ものが言えない」。

これは(カタカナ英語の)「ミュート」から類推できる。ミュートとは、音量を一時的に弱めたり、切ったりすることを言う。

また mute は、動詞として「(音を)消す、弱める」という意味もある。

a mute appeal[blame]

無言の訴え[非難]

mysterious は「神秘的な、不思議な」。

これは(カタカナ英語の)「ミステリアス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は mystery で「神秘(性)、謎、不可思議」だが、これも「ミステリー」でおなじみ。

Mona Lisa's mysterious smile

モナリザの神秘的な微笑

I'm investigating the mysterious disappearance of the scientist.

私はその科学者のなぞの失踪を調査中です

naive は「①うぶな、無邪気な ②単純な、世間知らずの」。

この語は要注意。(カタカナ英語の)「ナイーブ」は①の(良い)意味しかないが、英語では②の意味で用いられることも多いからだ。これは「無邪気さ、素朴さ」は世間では軽く、バカにされて見られるものであるから。

It's naive of you to believe that.

それを信じるなんて君は単純だね

name は「名前をつける」(動詞の場合)。

これは(カタカナ英語の)「ネーミング」から類推できる。「ネーミング(naming)をする」と言えば、あるものに名前をつけることだ。name には「①名前を挙げる[言う] ②(価格・日時などを)指定する」という意味もある。Name this flower. は「この花の名を言ってごらん」。name O C で「OをCと名付ける」。

The lady named Nancy wants to see you.

は「ナンシーという名前の女性が君に会いたがっている」となる(named Nancy は過去分詞句として the lady を修飾)。

それから name には「名前を挙げる」という意味もある。

Name this flower.

この花の名を言ってごらん

narration は「①ナレーション、物語を語ること ②物語」。

①については(カタカナ英語の)「ナレーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語に narrative があり、これは「物語(の)」という意味。動詞形は narrate で「話す、物語る」。これは「ナレーター(narrator)」から類推できる。

a gripping narration

手に汗を握る物語.

The captain narrated his adventures to us.

船長は我々に冒険談をした.

national は「①国家の ②国民の ③全国的な」。

これは(カタカナ英語の)「ナショナル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は nation で「①国家 ②国民」。

national にも「国民(の一人)」という名詞の意味もある。

a national character

国民性

a national flag

国旗

a national enterprise

国営企業

a national newspaper

全国紙

Japanese nationals living abroad

海外居住の日本人たち

navy は「[the navy]海軍」。

これは(カタカナ英語の)「ネイビー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに「陸軍」は the army、「空軍」は the air force と言う。army は「軍隊」という意味でも用いられ、a regular army は「正規軍」。

My uncle was in the navy.

私のおじは海軍にいた

the British Navy

英国海軍

nectar は「(花の)蜜」。

これは清涼飲料水の「ネクター」から類推しよう。ネクターの甘いとろっとした食感と「(花の)蜜」の意味を結びつけよう。

needle は「針」。

これは(カタカナ英語の)「ニードル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

knit with needles

針で縫う［編む］

a needle and thread

糸の付いた針

needs は「必要性、要求(するもの)、ニーズ」。

これは(カタカナ英語の)「ニーズ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。the needs of the age は「時代が要求するもの」。

need という場合は、「①必要(性)，需要，入り用 ②困った時，まさかの時 ③貧困状態」となる。

need には「～する必要がある」という動詞、助動詞の意味もある。

Children have (a) need for affection.

子供は愛情を必要とする，子供には愛情が必要だ

There is a great need for university graduates in the computer industry.

コンピューター産業では大学卒業者の需要がとても多い

It shows a need for practice.

There's no need to worry.

心配の必要はない，心配するにはおよばない

He helped her in her time of need.

彼は彼女が困っているときに援助した

in need で「①困ったときに［の］，まさかのときに［の］②貧乏して（いる），生活に困って（いる）」となる。

A friend in need is a friend indeed.

まさかのときの友こそ真の友

また in need of A で「Aを必要として」。

My shoes are in need of repair.

私の靴は修理が必要だ

negative は「①否定的な ②消極的な」。

これは（カタカナ英語の)「ネガティブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。反意語は positive で「①肯定的な②積極的な」。こちらも「ポジティブ」(というカタカナ英語)でおなじみ。

a negative vote

反対投票

a negative sentence

否定文

He only gave me negative advice.

彼は消極的な助言しかしてくれなかった

The results were negative.

結果は望ましいものではなかった

neglect は「～を無視する、怠る、ほっておく」。

これは(カタカナ英語の)「ネグレクト」から類推できる。ネグレクトとは「保護者がその保護すべき対象(子供・高齢者・病人など)に対して必要な義務(世話・配慮など)を怠ること」を言う。neglect は名詞として「怠慢、無視、放置」という意味もある。

We neglected our work.

私たちは仕事を怠けた

He neglects his family.

彼は家族をかえりみない

There was no neglect on the part of the teacher.

教師の側には怠慢なところはなかった

The room was in a state of neglect.

部屋はほったらかしのままだった

negotiate は「交渉する」。

これは(カタカナ英語の)「ネゴシエーション」から類推できる。ネゴシエーション(negotiation)は「交渉」という意味で negotiate の名詞形。「ネゴシエーター(negotiator)」は「交渉人[者]」。

peace negotiations

和平交渉
The union opened[started] negotiations with the employers.
組合は使用者側と交渉に入った
He is negotiating a contract with the firm.
彼はその会社と契約を結ぼうとしている
He negotiated with them on a peace treaty.
彼は、彼らと平和条約を協議した

neutral は「中立の、中立的な」。

これは(カタカナ英語の)「ニュートラル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。転じて「はっきりしない」という意味にもなる。
永世中立国」は a permanently neutral country と言う。

a neutral opinion
公平無私な意見
The referee should be neutral.
審判員は公平でなければならない
a neutral character
特徴のない性格

noble は「高貴な、気高い」。

これは(カタカナ英語の)「ノーブル」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。転じて「素晴らしい、雄大な」という意味にもなる。

a man of noble character
高潔な人
a noble sight

雄大な眺め

noise は「騒音、雑音」。

これは（カタカナ英語の）「ノイズ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は noisy で「うるさい」。

the noise of heavy traffic

激しい交通の騒音

far from city noises

都会の騒がしさから離れて

Don’t make (a) noise; the baby is asleep.

音を立てるな（騒がしくするな），赤ん坊が寝ているから

nominate は「(候補者として～を)指名する、推薦する、任命する」。

これは(カタカナ英語の)「ノミネート」がほぼ同じ意味で用いるのでわかりやすい。

ちなみに nominee は「名［推薦・任命］された人」。

note

(カタカナ英語の)「ノート」つまり帳面は、英語では notebook と言うので注意。

note は多義語なので『核』のイメージからおさえるのがよい。その『核』のイメージとは**「注意[目]を引くための印(を付ける・書く)」**だ。

以下の名詞の note の意味もすべてこの『核』のイメージから来ている。

notable(注目に値する) notify(気付かせる、知らせる、通知する)等は note の派生語。

①「(形式ばらない)短い手紙、短信、通知(信)」

(ex) a note of thanks 礼状

②「覚え書き、メモ、書き付け」「注釈」

(ex) I took rapid notes of the lecture.

急いで講義のノートをとった

The suicide note was found in her jacket pocket.

自殺の遺書が　彼女の上着のポケットの中から見つかった

The new edition has foot notes. 新版には豊富な脚注が付いている

③「紙幣」 ㊟アメリカでは bill の方が普通。

「手形」

(ex) a five-pound note ５ポンド紙幣

④「(楽器・歌声の)音、調子」

「(鳥などの)鳴き声」

⑤「(社会的)注目、関心」

(ex) Please take note of what I say.

私の言うことをよく注意して聞いて下さい

note は動詞としても使われる。その場合以下のような意味があるが、これらもすべて上記の『核』のイメージから来ている。

①「～に注目する、注意する」

(ex) Please note her words. 彼女の言葉に注目してください

You must note that smoking is prohibited.

喫煙は禁止されていることを忘れないように

②「～に気付く」

㊟「注目する」から「気付く」へと派生した。

(ex) She noted a change in her husband's behavior.

彼女は夫の行動の変化に気付いた

③「～に言及する、触れる」　=refer to A, talk about A

㊟あるものに「注目」した結果、それについて「語る[述べる]」となる。

(ex) He noted the fact in his speech. 彼は演説でその事実に触れた

④「～を書き留める、メモする」

㊟あるものに「注目」した結果、それを(忘れないように)「書き留める」となる。

(ex) I noted down the main points of the lecture.

私は講義の要点を書き留めた

nuance は「(色・音・意味・感情などの)微妙な違い、ニュアンス」。

これは(カタカナ英語の)「ニュアンス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a nuance of the meaning of the poem

その詩の意味のニュアンス

Her work reveals remarkable psychological perception and a sharp eye for nuance.

彼女の作品は微妙な差異に対するすぐれた感性と認識力を示している

nurse

nurse の『核』のイメージは「大切に世話する[育てる]」。

㊟語源は「乳母」。nur は「乳を与える」という意味がある。nourish も同語源で「乳を与える→育てる、栄養を与える」となった。

カタカナ英語で「ナース」と言えば「看護士」のことだが、看護士とは「病院で患者を世話する人」だ。

(ex) Shall I call for the nurse? 看護婦を呼びましょうか

もちろん「乳母」「保母」「保育士」という意味も nurse にはある。

㊟母親に代わって乳を飲ませる養育従事者は wet nurse。それ以外の保母や子守り専業の女性は dry nurse と言う。

(ex) The baby is (out) at nurse. その赤ん坊は乳母に預けられている

nurse は動詞として用いられると

「(～を)看護する、看病する」
「(赤ん坊に)乳をやる、授乳する」
「(幼児の)世話をする」

という意味でまず用いられる。

(ex) The mother nursed her sick son at home.
その母親は自宅で病気の息子を看護した
Nurse your cold. 風邪をお大事に
She is nursing a baby. 彼女は今赤ん坊にお乳をやっています

また「大切に育てる」から、以下のような意味にも派生する。

「(人・物・才能等を)大事に育てる」
「(～の)面倒を見る」
「(～を)大事に使う」

(ex) He nurses a young tree. 彼は苗木を育てている
Nurse the fire. 暖炉の火が消えないように注意しなさい
Villagers nursed their supply of water.
村人達は水の蓄えを大事に(少しずつ)使った

また赤ん坊の世話をすれば、当然赤ん坊を抱きますね。そこから比喩的に「(恨み・憎しみ・希望・愛情・考え等を)心に抱く」という意味も nurse には生まれた。

(ex) She has nursed her love[anger] for him.
彼女は彼に対する愛[怒り]を心にずっと抱いていた
He nursed the plan for a long time.

彼は長い間その計画を心の中に持っていた

ちなみに nursing は「看護(の仕事)」。nursery は「託児所、保育所」。

oar は「①オール、櫂 ②漕ぎ手」。

①については(カタカナ英語の)「オール」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

ocean は「海、大洋」。

これは(カタカナ英語の)「オーシャン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

通例 the ocean で用いる。

an ocean of A/ oceans of A で「莫大なA、広大なA」という意味にもなる。

the Pacific Ocean

太平洋

I went swimming in the ocean.

海水浴に行った

ocean currents

海流

odds は「①見込み、可能性 ②優劣の差、勝ち目 ③賭け率、オッズ」。

カタカナ英語の「オッズ」は③の意味でのみ用いられる。ここから知識を広げていこう。

at odds で「(人と)争って、不和で」。

It is odds that he will come.

=The odds are that he will come.

彼が来る見込みはある

The odds are ten to one against his being reelected.

彼が再選される見込みは十に一つほどしかないだろう

They are at odds with each other.

彼らは互いに仲が悪い

They are at odds over a trifling matter.

彼らはささいなことで反目している

odor は「におい」。

これは「香水」を意味する「オードトワレ」「オーデコロン」などから類推可能だ。
また、足のにおいを消す商品(靴の中敷き)に「オドイーター(odor eater)」というのがある。
「においを食べてくれるもの」という意味になる。これら odor の意味をおさえよう。

offense

offense の『核』のイメージは「～を傷つけること」。
そこから「人の気持ちを傷つけること→(人の)気持を害する事[物]」更に
「無礼、侮辱、いやがらせ、立腹」という意味が生まれた。

(ex) This is an offense to the ear[eye]. これは耳[目]ざわりな物だ

No offense (was meant). 悪気はなかったのです

If I gave you any offense, please forgive me.

何かお気に 障ることをしましたらどうぞお許しください

She took offense at what I said.

私が言ったことで彼女は気を悪くした

He easily takes offense at trifles.

彼はつまらない事にすぐに立腹する

offense はまた「人を傷つける行為→攻撃」という意味にもなる。

(ex) Offense is the best defense.

攻撃は最大の防御なり

weapons of offense

攻撃兵器

a political offense

政治的攻撃

スポーツ用語でも「攻撃陣」のことを「オフェンス」と言ったりする(英語でもoffense と言う。ちなみに「守備陣」は defense)。
また「法・決まりを傷つける行為→ 罪、違反、反則」という意味でも用いられる。

(ex) a capital offense 死罪

a civil[criminal] offense 民事[刑事]犯

a traffic offense 交通違反

He committed an offense against the law. 彼は法律に違反した

この offense の動詞形が offend で「(～の感情を)傷つける、怒らせる」「(～に)不快感を与える」「(法・罪を)犯す、(～に)そむく」という意味になる。

(ex) Kim was deeply offended at his remarks.

キムは彼の言葉にひどく腹を立てていた

Those glaring colors offend the eye.

あのぎ らぎらした色は目障りだ

Those who offended for the first time were not punished.

初犯者たちは罰 せられなかった

It offended against his principles.

それは彼の主義に反していた

形容詞形は offensive で「①(…に) 不快な、いやな、しゃくにさわる ②攻撃的な、攻撃用の」。②の意味はカタカナ英語でおなじみ。

(ex) a scene offensive to the eye

目ざわりな光景

Don't use offensive words.

失礼な言葉を使うな

offensive には「攻撃、攻勢」という名詞の意味もある。

(ex) take[go on] the offensive

攻撃に出る

offer は「申し出(る)、提案[供]する」。

これは(カタカナ英語の)「オファー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。offer A(人) B(物) で「AにBを申し出る」という語法がある。offer B(物) to A(人) で言い換えられる。

He offered his help out of kindness.

彼は親切心から援助を申し出た

I offered a few suggestions about it.

私はそれについて２，３気の付いたことを述べた

They offered us the car for 3000 dollars.

彼らはその車を3000ドルで売ろうと言った

office

office の『核』のイメージは「任務」。

(ex) He resigned his office last month. 彼は先月辞任した

She took office this month. 彼女は今月就任した

「任務に就いた」ということ。

I managed to perform the office.

私は何とかその任務を果たすことが出来た

The term of office of the President is four years.

大統領の任期は４年だ

office の最も一般的な意味である「事務所[室]」「営業[事業]所」「会社」「職場」等は「任務を行う場所」ということです。「役所、官庁」といった意味も同じ。

(ex) I work in an insurance office. 私はある保険会社に勤めている
Our office is on the fifth floor. うちの社[職場]は５階にあります
a tax office 税務署
「税　務を行う所」ということ。

「任務を行う人 → 職員」という意味になることもある。

(ex) the whole office 職員一同

また「任務」から転じて「世話、尽力」という意味になることもある。

(ex) I obtained the job by the kind offices of my friend.
友人の尽力のおかげでその仕事を手に入れることができた

official は「公式の」「①公務員 ②(スポーツの)審判」。

これは(カタカナ英語の)「オフィシャル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい(ただ「公務員」という意味はオフィシャルにはないので、そこはおさえよう)。「オフィシャルグッズ」は「公式グッズ」のことだ。

an official note
(外交上の) 公文
official responsibilities
職務上の責任
He went to Paris on official business.
彼は公用でパリへ行った

government officials

官吏

White House officials

ホワイトハウス[政府]当局者

State Department officials

国務省筋

a police official

警察官

oil は「①油 ②石油」。

これは(カタカナ英語の)「オイル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。crude oil は「原油」。

Oil is a very important energy source.

石油は重要なエネルギー資源である石油を産出する

They produced[struck] oil.

彼らは石油を掘り当てた

omit は「～を省略する」。

これは(カタカナ英語の)「オミット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。同意表現は leave out 。

omit his name from the list

名簿から彼の名前を除く

He omitted the letter t in the word castle.

彼は castle という語の t の文字を書き落とした

omit to do[原形]～/ omit doing～ で「～し忘れる、～することを怠る」という意味になる。

I omitted to lock the door.

＝I omitted locking the door.

戸に錠をかけるのを忘れた

online は「端末がネット・主コンピュータにつながっている、オンラインになっている［て］」。

これは(カタカナ英語の)「オンライン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

conduct an online search

オンライン検索を行なう

You can't send e-mail or surf the Web unless you are online.

オンライン状態でないとEメールも送れないしウェブサーフィンもできません

These coupons can only be redeemed online.

これらのクーポンはオンラインでのみ現金化できます

A fast modem will make the time you spend online much more enjoyable.

高速モデムは、オンラインで使う時間をもっと楽しいものにしてくれるだろう

open は「①開いている ②営業している ③(人に対して)率直な、隠しだてのない、(感情などが)むき出しの」(形)

「①開ける、開く ②～を始める ③～を公開する」(動)

これは(カタカナ英語の)「オープン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

上記以外にあまり日本人が使わない形容詞の open の意味として、「広々とした、さえぎるもののない」「(問題などが)未解決の」「～を免れない、受けやすい、無防備の」などは覚えておくといいだろう。例をいくつか挙げておこう。

open country

広々とした平野地域

an open question

結論の出ていない[未解決の]問題

The murder case is still open.

その殺人事件はまだ未解決だ

He is open to criticism.

彼は批判されやすい

opinion は「意見」。

これは(カタカナ英語の)「オピニオン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。public opinion は「世論」。be of opinion that S+V～で「～という意見だ」。

I am of the opinion that he is honest.

彼は正直者というのが私の意見です

optimistic は「楽観的な」。

これは(カタカナ英語の)「オプティミスティック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は2つあり、optimist は「楽観主義者、楽天家」。optimism は「楽観主義」。反意語は pessimistic で「悲観的な」。こちらも「ペシミスティック」としてカタカナ英語でおなじみ。名詞形は pessimist が「悲観主義者」。pessimism が「悲観主義、悲観論」。

option は「①選択肢 ②選択(の自由)」。

これは(カタカナ英語の)「オプション」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。動詞形は opt は「選ぶ、選択する」。動詞形は opt で「選ぶ」。

oral は「①口頭の、口述の ②口腔の、口の」。

これは(カタカナ英語の)「オーラルコミュニケーション」「オーラルケア」から類推できる。オーラルケア(oral care)とは、歯科用語で「口腔のお手入れ」のこと。ちなみに an oral promise は「口約束」。

order

order の『核』のイメージは「(規則正しい)状態・順序・序列」。

語源はラテン語の ordo(直列)。「(序)列」だから「きちんと整列・整頓」されていなければならない(そしてそれは「正常な状態」でもある)し、「順序」や「秩序」も必要。また「命令」されて「列」は作られる…と、様々意味が転じた。

そこから以下のような意味が生まれた。

①「順序、序列、順番」

(ex) in alphabetical order ＡＢＣ順に

in the right[wrong] order 正しい順で[順番が狂って]

in order of age[application, importance]

年齢[申し込 み、重要さの]順に

②「整理・整頓(された状態)」

(ex) I put[set, left] my life in order. 私は生活を整理した

The house was in order. 家は整然としていた

③「正常な状態」

(ex) in (good) running[working] order 調子よく働いて

The public telephone is out of order.

この公衆電話は故障している

④「秩序」

(ex) public order 公共の秩序

the order of things 物事の秩序

Teachers should keep order in their class.

教師はクラスの秩序を維持すべきだ

=Teachers should keep their class in order.

⑤「命令」

(ex) They acted on orders from superiors.

彼らは上役の命令に従って行動した

⑥「注文(の品)」

(ex) an order of fruit salad フルーツサラダ一人前

May I have your order, please? (レストランなどで) ご注文は?

動詞の order は以下の２つの語法が重要。

①[order A(人) to do[原形]～]「Aに～するように命じる」

(ex) He ordered me to do the job alone.

彼は私にその仕事を一人でするよう命じた

②[order A(品物) from B(場所・店)]「AをBに注文する」

(ex) He ordered two books from London.

彼はロンドンに本を２冊注文した

ちなみに ordinary(普通の、並みの)という形容詞は、元々「(規則正しい)順序通りの」という意味。

organic は「①有機体[物]の ②有機的な ③有機栽培の、無農薬の ④(身体)器官の、臓器の」。

このうち③については (カタカナ英語の)「オーガニック」が同じ意味で用いるのでわか

りやすい。③以外の用例として organic life は「生物」。

㊟①②の意味の名詞形が organism で、これも「生物、有機体」という意味。また organic society は「有機的社会」。④の意味の名詞形は organ で「①(生物の)器官、臓器 ②(政府などの)機関、組織 ③報道機関、機関紙」という意味。

㊟ organ にはもちろん(カタカナ英語の)「オルガン」という意味もある。

organize は「①～を組織(化)する ②～を系統立てる」。

これは(カタカナ英語の)「オーガナイズ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は organizerは「①組織者、創立者 ②主催者」、organization は「①(ある目的を持つ)組織、団体 ②組織化、系統化、構成」。

organize a committee

委員会を組織する

organize a company

会社を設立する

organize the files of an office

事務所のファイルを整理する

organize facts

いろいろな事実を系統立ててまとめる

organize one's thoughts before speaking

話す前に考えをまとめる

a political organization

政党、政治団体

organization of the financial system

財政機構の組織化

the organization of the human body

人体の構造

origin は「起源」。

これは(カタカナ英語の)「オリジン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
形容詞形は original で「①最初の ②原作の ③独創的な」。名詞として「原作、原型」という意味もある。で、これらはほとんど(カタカナ英語の)「オリジナル」から類推できる。
類語の originality は「独創性」。これも「オリジナリティ」でおなじみ。

the origin of a quarrel
口論の原因
look for the origins of modern literature
近代文学の源を探る
the origin of a word
ある語の由来
a man of noble[humble] origin(s)
高貴の[卑しい]生まれの人
He comes from[is of] Scottish origin.
彼はスコットランド人である
He is an Irishman by origin.
生まれはアイルランド人だ

ostrich は「ダチョウ」。

これは(カタカナ英語の)「オーストリッチ」から類推できる。オーストリッチと言えば、「ダチョウの皮(ostrich leather)」のことを指して言う。

outline は「①概略、要点 ②輪郭」。

これは(カタカナ英語の)「アウトライン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。outline は動詞として「①～の要点を述べる ②～の輪郭を描く」という意味もある。

He gave me an outline of the affair.

彼は私に事件の概要を説明してくれた

the outline of a house

家の略図

output は「①生産(高) ②出力(⇔ input:入力)」。

これは(カタカナ英語の)「アウトプット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。output は動詞として「～を生産する、出力する」という意味にもなる。

with a sudden output of effort

急に力を出して

new car output

新車の生産高

outside は「外(に[の])」。

これは(カタカナ英語の)「アウトサイド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。outside は前置詞として「①～の外に[へ・の] ②～以外に、～の他に」という意味にもなる。

pace は「①進度 ②歩調」。

これは(カタカナ英語の)「ペース」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。pace を用いた慣用表現に keep pace with A で「Aに遅れずについて行く」がある。

I quickened my pace.

私は歩調を速めた

go at a slow[fast/good]　pace

ゆっくりした［速い］速度で行く

The child ran along, trying to keep pace with the parents.

子供は両親に遅れないよう駆け足をした

pain は「苦痛(を与える)」。

これは(カタカナ英語の)「ペイン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ペインキラー(pain killer)は「鎮痛剤」のこと。ただ pains となると「骨折り、苦労」という意味になる。形容詞形は painful で「痛い」。

Will the therapy cause me any pain?

その療法は少し痛むのでしょうか

He spared no pains to help me.

彼は労をいとわず私を助けてくれた

All she got for her pains was ingratitude.

彼女がさんざんしてやったあげくのはてが忘恩だった

paint は「①ペンキ(を塗る)、塗料(を塗る) ②(絵の具などで絵を)描く」。

これは(カタカナ英語の)「ペイント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに「画家」は a painter。「絵画」は a painting。

a coat of paint

ペンキの１回塗り

He painted the wall white.

彼は壁を白く塗った

※pain O C で「OをC(の色・状態)に塗る」となる。

She painted a vivid picture of the event.

彼女はその事件を生き生きとした筆致で描写した

palm は「手の平」。

これは(カタカナ英語の)「パーム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。パームサイズは「手の平サイズ」。ちなみに palm には「(植物の)ヤシ」という意味もある。

He read my palm.

彼は私の手相をみた

pandemic は「(病気が)全国[全大陸・世界]的に流行した」。

これは(カタカナ英語の)「パンデミック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
pandemic は名詞として「全国[全大陸・世界]的流行病」という意味にもなる。

panic は「狼狽、パニック」。

これは(カタカナ英語の)「パニック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。in (a) panic

で「パニックになって」。panic の場合、動詞として「パニックになる[に陥れる]」、形容詞として「非常な、パニックの」という意味もある。

The crowd was in a panic.

群衆はあわてふためいた

I got up in sudden panic.

急にびっくりして立ち上がった

paradox は「①逆説 ②矛盾」。

これは(カタカナ英語の)「パラドックス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

逆説とは「急がば回れ(Make haste slowly)」のような、一見矛盾しているようで実はそこに真実を含んでいるような言葉のこと。逆接とは違うので注意。

paradox の形容詞形は paradoxical で「逆説的な、矛盾する」。副詞形は paradoxically で「逆説的に(言えば)、逆説的なことだが」。

the paradox of poverty in the midst of plenty

豊かさの中の貧困という矛盾

paragraph は「段落」。

これは(カタカナ英語の)「パラグラフ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

parallel は「①類似(の) ②平行(の)、並行(の)」。

これは(カタカナ英語の)「パラレル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。parallel は動詞として「①～に平行する ②～に匹敵する」という意味もある。

The river runs parallel to[with]　the main street.

その川はメインストリートと平行に流れている

Draw a parallel to the first line.

第１の線に平行線を引きなさい

parasite は「寄生虫、寄生動物」。

これは(カタカナ英語の)「パラサイト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a parasite on society

社会の寄生虫

parasites　on human beings

人間の寄生虫

parent は「親」。

これは(カタカナ英語の)「ペアレント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は parental で「親の」。

a parent company

親会社

parental affection[obligations]

親の愛[義務]

park は「駐車する」。

　動詞の場合。名詞で「公園」という意味になるのは(カタカナ英語で)おなじみ。

これは(カタカナ英語の)「パーキング」から類推できる。パーキングとは「駐車場」のこ

とだ(英語で「駐車場」は a parking area[lot] と言う)。parking の場合「駐車」という意味にもなる。No Parking. は「駐車禁止」。

I parked my car by the gate.

私は門のそばに車を駐車した

partition は「仕切り、間仕切り」。

これは(カタカナ英語の)「パーテーション」がほぼ同じ意味で用いるのでわかりやすい。よく「部屋をパーテーションで仕切る」などと言ったりする。

partner は「①仲間 ②共同出資者 ③夫[妻]」。

これは(カタカナ英語の)「パートナー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a partner in crime

共犯者

I was partners with her in tennis.

私はテニスで彼女と組んだ

he partnered her daughter up[off] with a young rich man for the next dance.

彼女は娘を次のダンスで若い金持ちの男と組ませた

partner は動詞として「～を仲間にする、～と提携する、～と…を組ませる」といった意味もある。

party は「①パーティ ②一行 ③党」。

このうち①と②については(カタカナ英語の)「パーティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。party は「同じ目的のもとに集まった人達」が根っこ(『核』)のイメージ。そこ

から全て(の意味が)説明がつくだろう。

a party of tourists[students]

旅行団［学生の一行］

a climbing party

登山者の一行

pass

pass の『核』のイメージは「通る[す]・通過する[させる]」「動く[かす]」。

moveも「動く[かす]」だが、pass の場合「何かを通過して先へと進む」といったニュアンスになる。

(ex) I passed behind[in front of] him. 私は彼の後ろ[前]を通った

A car passed by in the dark. やみの中を一台の自動車が通り過ぎた

by は「そばを」という意味の副詞。ちなみに a passerby は「通行人、通りすがり の人」となる。

A new tunnel will pass under the mountain.

新しいトンネルがその山の下を走ることになる

「山の下を通る」とい うこと。

日本語でもよく「試験に通る」「法案が(議会を)通る」と言うが、英語でもこの「通る」を pass で表せる。

(ex) He passed in the examination. 彼は試験に通った[合格した]

When a bill passes, it becomes law. 法案は通過すると法律になる

また日本語でも「彼はボクらの間ではサッカー通で通っている」などと言うが英語でもこの「通っている」「通用する」を pass で表せる。

(ex) He passes under the name of Johnny.

彼ははジョニーという名で通っている

The facsimile isn't very good, but it will pass.

そのファッ クスはあまり写りがよくないが、なんとか間に合うだろう

上例の pass は「通用する」から転じて「役立つ」という意味。

「(時間・年月)が通過する・動く」から「(時間・年月が)過ぎる、たつ、経過する」という意味にもなる。

(ex) Time passes quickly. 時は急速に過ぎていく

Three years have passed since I last saw her.

この前彼女に会ってから３年が経過した

この「過ぎる」から「過ぎ去る→終わる、消える、なくなる」という意味が pass には生まれた。

(ex) The pain has passed. 痛みはなくなった

The custom is passing. この習慣はすたれつつある

The patient passed away after a long illness.

その患者は長 患いの末に亡くなった

away は「遠くに」という副詞。pass away で die の言い換え表現になる。

また逆に「動い」て出てくる、つまり「現れる」「起こる、生じる」という意味になることもある。

(ex) A change passed over his face. 彼の顔に変化が現れた

What passed (between him and her) while I was away?

私がいない間に(彼と彼女に)何が起こったの

性質などが「動く」つまり「変わる」という意味になることがあります。

(ex) Blue passed into gray. 青色が灰色に変わった

pass は他動詞の場合、場所を表す名詞を目的語としてとれば「～を通る」となる。

(ex) Do you pass the post office on your way to school?

学校に行く途中で郵便局(の前)を通りますか

「通す(動かす)もの」を目的語に取った場合、「～を通す[通過させる]」「～を動かす」という意味になる。

(ex) I passed a string through a hole. 私は穴に糸を通した

Please pass your eye over the report.

その報告書にざっと目を通してください

Congress passed the new bill quickly.

国会は新法案を迅速に可決した

「～に動かす」から「～に手渡す」、「～に(情報などを)伝える」という意味にもなる。

(ex) Pass the salt, please. 塩を取ってください

The secret process was passed down from father to son.

秘密の製法は父から子へと伝えられた

pass out で「意識を失う」「酔いつぶれる」という意味があるが、これは pass oneself out の oneself の省略、つまり「自分自身を(意識の)外に動かす」から転じてそのような意味になったと考えるといい。

passage は「(文章の)一節」。

これは（カタカナ英語の)「パッセージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ passage は「通行、通路、経過」という意味もある。これは pass(通る、過ぎる) の名詞形と考えればわかりやすい。

a passage from Shakespeare

シェークスピアの一節

He read a passage of[from] the Constitution.

彼は憲法の１節を読んだ
He forced a passage through the crowd.
彼は群衆を押し分けて進んだ
a smooth[rough]　passage
平穏な［荒天の］航海
with the passage of time
時がたつにつれて
the passage of a bill
法案の通過

passenger は「乗客」。

これは(カタカナ英語の)「パッセンジャー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「パッセンジャーシート(a passenger seat)」と言えば、「(乗り物の)客席」のことだ。

The plane was carrying 250 passengers.
＝There were 250 passengers on the plane.
その飛行機の乗客は250人だった
a train passenger
列車の旅客

passion は「①情熱 ②感情」。

これは(カタカナ英語の)「パッション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに compassion は「同情」。「共に(com)+感情(passion)→共に感情を共有すること→同情」となる。passion の形容詞形は passionate で「情熱的な、熱烈な、激しい」。

His ruling passion is greed.
強欲が常に彼の行動の中心にある

His passions often overcome his reason.

彼の理性はしばしば激情に押し流される

a passionate speech

熱のこもった演説

She has a passionate love for flowers.

彼女は花が大好きだ

passive は「消極的な」。

これは(カタカナ英語の)「パッシブ」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。

ちなみに passive は「受身的な、活発でない」という意味での「消極的な」。「否定的な、積極性を欠いた」という意味での「消極的な」は negative と言う(反意語は positive)。

「パスを受ける」の「受ける→受身的な→消極的な」と連想してもいい。

In spite of my efforts my collaborator remained passive.

私の努力にもかかわらず協力者は依然として動こうとはしなかった

a passive nature

受動的な性質

a passive mind

生気のない心

passive obedience

黙従

passive の反意語は active で「活動的な、積極的な」。

ただし、active の場合「(現に)活動中の、現役の」という意味もある(反意語は inactive) 。an active volcano は「活火山」という意味(ちなみに「休火山」は dormant volcano、「死火山」は extinct volcano という)。

patent は「特許(を取る)」。

これは(カタカナ英語の)「パテント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。[pætənt(パタント)]と発音するので注意。

apply for a patent

特許を申請［出願］する

take out a patent on A

Aの特許を受ける

Patent pending

特許出願中

a design patent

意匠特許

path は「小道、歩道、通路」。

これは(カタカナ英語の)「パス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語に pass(①通過する②(物を)手渡す)があるが、こちらも(カタカナ英語の)「パス」が同じ意味で用いられている。また転じて「進路、方針」という意味になることもある。

a path in the woods

森の小道

Follow this path to the main road.

この小道をたどって大通りまで行きなさい

a gravel path

砂利道

He is on the path to success.

彼は成功への道をたどっている

the path of a comet

すい星の軌道

Don't stand in my path.

オレの（通り道の）じゃまをするな

patriot は「愛国者」。

アメリカンフットボールに「ペイトリオッツ」というチームがある。由来は、本拠ニューイングランド（北東部６州の総称）がアメリカ独立戦争の舞台だった事から。

patron は「①後援者、パトロン ②(お店の)常連」。

これは(カタカナ英語の)「パトロン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a patron of the arts

芸術の後援者

the patrons of the store

店の常連たち

pattern は「①様式 ②模様 ③手本、サンプル」。

これは(カタカナ英語の)「パターン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみにアクセントは第一音節にあるので注意。

the behavior pattern of bees

ミツバチの行動様式

a bicycle of a new pattern

新しい型の自転車

patterns of frost on the window

窓についた霜の結晶模様

pause は「(一時的な)休止」。

これは(カタカナ英語の)「ポーズ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。(オーディオ機器などの)ポーズボタンは「一時停止ボタン」。ちなみに「ポーズをとる」のポーズは pose 。

pause は動詞として「①止する、ちょっと止まる ②ためらう、ちゅうちょする」という意味にもなる。

After a pause, the play continued.

一休みしてから芝居はまた続けられた

in pauses of conversation

話の切れ目に

He paused at the landing and breathed for a moment.

彼は踊り場で足を止め一息ついた

He paused to look at the view.

彼はちょっと立ち止まって風景に目をやった

peace は「①平和 ②静けさ、平穏 ③和解」。

①については、(カタカナ英語の)「ピース」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は peaceful で「平和な、穏やかに」。副詞形は peacefully で「平和に、穏やかに」。

after a brief peace

つかの間の平和の後で

a peace treaty

講和条約

He lost his peace of mind.

彼は心の平静を失った

the peace of the woods

peak は「①山頂、とがった山頂をもつ山 ②尖端、とがった先 ③最高点、絶頂」。
③については(カタカナ英語の)「ピーク」でおなじみ。①と②をおさえよう。

the snow-covered peaks
雪で覆われた峰々
the peak of a beard
あごひげの先
The actor is now at the peak of his popularity.
その俳優は今人気の絶頂にある
peak hours of traffic
交通量がピークに達する時
industry's peak hours
工場の使用電力最大の時間

penalty は「罰」。
これは(カタカナ英語の)「ペナルティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

death penalty
死刑
They imposed a penalty on him.
彼らは、彼に刑罰を課した
There is a penalty for illegal parking in this area.
この地区では違法駐車には罰金が科されます

pedigree は「血統」。

これはドッグフードの「ペディグリーチャム」からイメージしよう。ちなみにチャムは chum という英語から来ていて、これは「仲良し、親友」という意味。pedi は「足」を表す。

「ペディキュア(pedicure)」は「足の指・つめなどの手入れ」のことだ。

血統図が(鳥の)ツルの足の形に似ているところから pedigree で「血統」という意味が生まれた。

percent は「パーセント」。

これは(カタカナ英語の)「パーセント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。語源的には、per は「～につき」という意味。そうすると percent とは、「～につき(per)+100(cent)→100 につき」というのがその語源。

cent が「100」を表すのは、

①100cent は「1ドル」

②century は「1世紀」

となることからも類推がつく。

つまり70%とは「100(回)につき70(回)」ということ。

「～につき」という per は a で言い換えられる。once a year は「一年に(つき)一回」。

perfect は「完全な、正確な、まったくの」。

これは(カタカナ英語の)「パーフェクト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。perfect は動詞として「～を完成させる」という意味もある。名詞形は perfection で「完成」。副詞形は perfectly で「完璧に、まったく」。

a perfect crime

完全犯罪

a perfect fool

全くのばか

Dr. Cook perfected a new surgical technique.

クック博士は外科の新技術を完成した

performance は「①演奏、演技 ②実行」。

このうち①については(カタカナ英語の)「パフォーマンス」から類推できる(②の意味をおさえよう)。動詞形は perform で「①演奏する、演じる ②実行する、果たす」。こちらも②の意味をしっかりおさえたい。

perform a difficult operation on him

彼に難しい手術を行う

perform one's promise

約束を実行する

He performed his duty.

彼は義務を果たした

perform a play

劇を上演する

perform on the stage

舞台で演じる

perfume は「香水」。

これは(カタカナ英語の)「パフューム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。語源的には「～を通して(per)+fume(煙る・香る)→人の体を通して空間に香りが香る→香水」となる。

period は「期間」。

これはスポーツなどで「第一ピリオド」などと言ったりするので、そこから類推できる。また(カタカナ英語の)ピリオドの場合、「終止符」という意味でよく用いるが period にもこの意味はある。put a period to A で「Aに終止符を打つ」と言う。

during the war period

戦争中

I have had no news from him for a long period.

長い間彼からは何の便りもない

The report covers a period of four years.

その報告書は４年の期間にわたっている

he period of the French Revolution

フランス革命の時代

All the actors wore costumes of the period.

俳優は全員当時の衣装をつけていた

a period of rotation

自転周期

語源～petr(o/i)

petr(o/i) は「石・岩」を表す。イエス・キリストの一番弟子に「ペテロ」がいるが、彼は元々シメオネという名だった。教会発展のための礎石となるよう、「石」を意味する「ペテロ」という名をイエス・キリストから与えらたのだった。この知識が身につくと、petroleum が「石油」、petrol が「ガソリン(=gasoline, gas)」、petrology が「岩石学」などというのも類推が簡単にできるようになる。

person は「個人」。

これは(カタカナ英語の)「パーソン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形の personal も「パーソナル」でおなじみ。類語に personnel があり、これは「(1)職員、人員 (2)人事課」という意味。

Who is that person running over there?

あそこを走っているのは何者だ

in person で「(1)本人自ら (2)実物は」となる。

She looks younger in person than on the screen.

彼女は映画で見るより実物のほうが若く見える

Apply in person.

本人が行って申し込むこと

the personnel of the navy

海軍の要員

There were nine airline personnel aboard.

機上には９人の乗員がいた

the personnel expenditure

人件費

personality は「個性、性格、人格」。

これは(カタカナ英語の)「パーソナリティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。それからラジオのジョッキーのことを「(ラジオの)パーソナリティ」と言ったりするが、実際 personality に「(ディスク・ジョッキーや司会者として)独特な個性を持っている人」という意味がある。

a man with a lot of personality

個性豊かな人

respect the personality of a child

子供の人格を尊重する

a TV personality

テレビタレント、テレビの人気俳優

pet は「ペット(の)」。

これは(カタカナ英語の)「ペット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ pet は動詞として「①～を可愛がる ②～を愛撫する、やさしくなでる」という意味もある。

petty は「①ささいな ②小規模な」。

これは「プチ」から類推しよう。プチはフランス語の petit に由来し「小さい」という意味だが、 petty の語源も petit なのだ。

philosophy は「哲学」。

これは（カタカナ英語の)「フィロソフィ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。philosophy は「人生観(としての哲学)」という意味でも用いるが、これもカタカナ英語になりつつある。

the philosophy of Hegel

ヘーゲルの哲学体系

a man without philosophy of his own

自分なりの人生観を持たない人

pick up

(カタカナ英語で)「ピックアップする」と言えば、「拾い[取り]上げる、選択する」という意味しかないが、pick up には様々な意味がある。まとめてみよう。

①「A(物)を拾い上げる、手に取る」
(ex) pick a book up off the floor 本を床から拾い上げる

②「Aを(偶然)見つける」
「Aを(偶然)安く手に入れる」
「A(ゴシップ・ニュースなど)を小耳にはさむ」
(ex) pick up (on) a mistake ミスを見つける
pick up a job 仕事にありつく

③「A(言語など)を(耳学問で断片的に)聞き覚える」
「A(芸・習慣など)を身につける、こつをのみ込む」
(ex) He picked up the piano quickly. 彼はすぐピアノを覚えた

④「A(人)を車で迎えに行く、車に乗せる[車で人を拾う]」
(ex) He picked his friend up at 8:00 p.m.
彼は友人を午後8時に車で迎えに行った

なお pick には「(とがった物などで)~をつつく」という意味もあるが、これは「アイスピック」から類推できる。アイスピックとは、氷をつついて割るためのとがった調理器具だ。

picture

以下が picture の代表的な意味になる。まず名詞の picuture から。

①絵

②写真

③映画

④(鏡 水面に写った)像、(レンズを通して結ばれた)映像

(ex) the picture reflected in the stream 緒川に映った影

pictures and sound 音と映像

⑤(テレビ 映画の)画面、画質

(ex) You'll get a clear picture with this antenna on the roof.

このアンテナを屋根につけると画面がはっきりする

⑥イメージ、姿、理解、合点

(ex) The result of the research help to present an accurate picture of today's English.

その調査結果は、現在の英語の正確な姿を提示するのに役立っている

a picture of the case 事件の生き生きとした描写

I get the picture. うんうん、よくわかったよ

⑦[the pictureで] 状況、事態(situation)、全体像

(ex) The arival of PC has changed the industrial picture.

コンピュータの出現が産業の様相[状況]を変えた

⑧[a/the picture](ある性質・状態を)具現したもの

模範

生き写し

(ex) the (very) picture of health 健康そのもの

a perfect picture of the knight 騎士の鑑

名詞のpictureでは、⑤～⑧の意味が(カタカナ英語の)「ピクチャー」では類推しにくく、しかも頻出なだけに要注意だ。

次に動詞のpicture。特に②の意味をおさえておこう。

①…を絵[写真など]で表す、…を(～として)描く

(ex) the mechanism その仕組みを図解する

She was pictured as a woman playing the cello.

彼女はチェロを弾く女性として絵にかかれていた

②(人 物 事を)…だと心に描く

imagineよりも「ありありと目に浮べる」といったニュアンスになる。

(ex) Can't you just picture your father in woman's disguise?

女装している君　の父さんを想像してごらん

③…をありありと描写する

(ex) He pictured the brutality of war. 彼は戦争の惨状を活写した

④(小説 事件などを)映画化　する　=picturize

pill は「錠剤」。

(カタカナ英語で)「ピル」というと「経口避妊薬」のことを指して言うが、ここから「薬」のイメージを広げよう。実際 pill も the pill, the Pill で「経口避妊薬」という意味で用いられる。「睡眠薬」は sleeping pills と言う。

She's on the pill.

彼女はピルを服用している

She took pills.

彼女は錠剤を飲んだ

pillow は「枕(となる)」。

これは(カタカナ英語の)「ピロウ」がほぼ同じ意味で用いるのでわかりやすい。

an air pillow

空気まくら

Her arm pillowed the baby's head.

彼女の腕は赤ちゃんのまくらになった

Jack pillowed his head on his arm.

ジャックは腕をまくらにした

「頭を～に乗せる」という意味もある。

pioneer は「先駆者、開拓者」。

これは(カタカナ英語の)「パイオニア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

pioneers in the teaching of English in Japan

日本における英語教育の先駆者たち

pitch は「①投げる ②～の調子を整える、調音する」(動)

「①投球 ②(声の)調子 ③程度」(名)

これは(カタカナ英語の)「ピッチ」がほぼ同じ意味で用いるのでわかりやすい。「程度」という意味でも「ピッチが速い」などと言ったりする。

He pitched a ball of paper into the fire.

彼は紙を丸めて火の中に投げ込んだ

She pitched the violin a little higher.

彼女はバイオリンを少し高めに調音した

Campers pitched their tent by the lake.

キャンパーは湖畔にテントを張った

「(テントなどを)張る」という意味もある。

類語に pitcher があるが、これは(カタカナ英語の)「①投手 ②ピッチャー、水差し」でおなじみ。

planet は「惑星」。

これは(カタカナ英語の)「プラネット」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。「プラネタリウム(planetarium)」というカタカナ英語もおなじみだ。また our[this] planet というと「地球」のことになる。

ちなみに

Mercury は「水星」
Venus は「金星」
Earth は「地球」
Mars は「火星」
Jupiter は「木星」
Saturn は「土星」
Uranus は「天王星」
Neptune は「海王星」
Pluto は「冥王星」

plant

plant は「植物、草木、作物」という意味はおなじみだが、「化学プラント」といった使い方もあり、なかなか難しい。そんなときはやはり根っこ(『核』)のイメージをおさえるのがいい。
plant の『核』のイメージは「植え(付け)る」。「植物、草木、作物」も、「植えられたもの」ということ。
それから「化学プラント」などと言うように plant には「工場(設備)」という意味があるが、これは「人によって植えられた(設置・配置された)もの」ということなのだ。
次に動詞の plant だが、『核』のイメージ通りの「(〜を)植える」あるいは「(種を)蒔く」という意味がある。また比喩的に「①(〜を)据えつける、配置【設置】する、仕掛ける ②(〜を)(突き)立てる ③(打撃を)加える」といった意味に派生する。

人工の歯をあごの骨の中に埋め込む「インプラント」という治療法があるが これは「中に(im)+歯を植え込む(plant)」ということ。

それから transplant は「trans(別の場所に)+plant(植物・臓器等を植え付ける) → (植物・臓器等を)移植する」という意味になる。

plastic は「プラスチック(製)の、ビニール(製)の」「プラスチック(製品)」。

これは(カタカナ英語の)「プラスチック」からほぼ類推できる。「ビニール(製の)」という plastic の例として a plastic shopping bag(ビニール(製)の買い物袋)、a plastic house(ビニールハウス)などがある。plastic は比喩的に「(性格などが)柔軟な」という意味になることもある。

plate は「①皿 ②板 ③(一人分の)料理 ④(地殻の)プレート」。

これは(カタカナ英語の)「プレート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

plot は「(小説・脚本の)筋、構想」。

これは(カタカナ英語の)「プロット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。plot には転じて「(1)陰謀、(秘密の)計画 (2)仕切られた) 小さな地区、小地所」という意味もある。

a plot to assassinate the President

大統領を暗殺しようという陰謀

a plot of potatoes

ジャガイモ畑

a cemetery plot

共同墓地

また動詞として「～しようと計画する」という意味もある。

They are plotting to kill the king.

彼らは王の殺害をたくらんでいる

plug は「①(電気・エンジンの)プラグ ②(洗面台などの)栓」。

①については(カタカナ英語の)「プラグ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味もおさえよう(fireplug は「消火栓」)。 plug は動詞として「①栓をする ②(プラグを)差し込む」という意味もある。「プラグイン」というカタカナ英語があるが、plug-in は「(電源に)差し込むことができる」という意味がある。plug in で(動詞として)「(プラグを差し込んで)～に接続する」という意味になる。

Could you unplug the TV?

テレビのコンセントを抜いてくれますか

point は「①点、地点、瞬間 ②要点 ③(鋭くとがった)先 ④得点 ⑤項目」(名)
「①指さす ②指摘する」(動)

これは(カタカナ英語の)「ポイント」がほぼ同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞の「指さす」という意味も、(指)差し棒のことを「ポインター」と言ったりするので類推しやすい。「指摘する」という意味では point out となることも多い。名詞の point を用いた決まり文句としては to the point で「的を射た、要点をついた」。beside the point で「的を外れた、見当外れの[で]」。at the point of A で「まさにAをしようとして」。

Your argument is beside the point.

君の主張は的はずれだ

He is at the point of death.

彼はまさに死にかけている

He was on the point of leaving.

彼はまさに立ち去ろうとしていた

That's the point.

そこが肝心だ

He pointed out that it was not true.

彼はそれは本当ではないと指摘した

All the evidence points to his guilt.

すべての証拠は彼の有罪を示している

The hands of the clock pointed to eleven.

時計の針が11時をさしていた

He makes a point of jogging three miles a day.

彼は必ず１日に３マイルジョギングをすることにしている

make a point of ～ing で「(必ず)～することにしている」。

policy は「①政策 ②方針」。

これは（カタカナ英語の）「ポリシー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味でも「それは当店のポリシーに反します」などと言ったりする。類語に political(政治的な、政治(上)の)、politics(政治)、politician(政治家)がある。

(a) foreign policy

外交［対外］政策

money[monetary] policy

金融政策

an editorial policy

編集方針

our business policy

我が社の営業方針

the government's policy on tax reduction

政府の減税政策

Honesty is the best policy.

正直は最良の策 ←《諺》。

polish は「磨きをかけること、研磨」。

これは(カタカナ英語の)「ポリッシュ」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。polish は「～を磨く」という動詞としても用いる。なお Polish というと「ポーランド(人・語)の」。

poor は「貧乏な」。

これは(カタカナ英語の)「プアー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ poor の根っこ(『核』)のイメージは「乏しい」でそこから「①かわいそうな②下手くそな③粗悪な」といった意味に転じる。名詞形は poverty で「貧困、欠乏」。

popularity は「人気」。

これは(カタカナ英語の)「ポピュラー」から類推できる。ポピュラーは「人気がある」という意味で popularity の形容詞形。ただし popular には「大衆的な」「一般的に信じられている」という意味もあるので注意(こちらの意味の方が頻出)。a popular novel は「大衆小説」。popular superstitions は「民間の迷信」。

portable は「持ち運び可能な」。

これは(カタカナ英語の)「ポータブル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。語源的には port は「運ぶ」を表す語幹。「運ぶ(port)+できる(able)→運ぶことができる→持ち運び可能な」となる。

「港」も port だが、港というのも物資を運び入れ、また出す所だ。

pose は「(…のために)ポーズをとる[とらせる]、気取る」。「ポーズ、気取り」

これは(カタカナ英語の)「ポーズ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。pose には「①姿勢 ②見せ掛け」という意味もあるが、これもそれぞれカタカナ英語になっており、「彼の愛想の良さはポーズに過ぎない」などと言ったりする。pose の類語に posture がありこれも「姿勢、ポーズ(をとる)」という意味。

He seems to be posing in all his behavior.

彼の態度はどれも気取って見える

Her pose had a note of defiance in it.

彼女の態度には挑戦的なところがあった

He posed as a scholar.

彼は学者をよそおった

pose は「(問題などを)持ち出す、引き起こす」という意味もあるので注意。

The politician posed a serious threat to the security of the state.

その政治家は国の安全を非常に脅かした

That poses a difficult problem.

そのことが難問だ

He posed a question to[for] his students.

=He posed his students a question.

彼は学生に質問をした

position は「①位置、場所 ②情勢 ③身分、地位 ④姿勢」。

これは(カタカナ英語の)「ポジション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

She is in an awkward position.

彼女は困った立場に立たされている

He was not in a position to help me.

＝He was in no position to help me.

彼は私を助ける立場になかった

positive は「①積極的な ②肯定的な ③明確な、はっきりした」。

(カタカナ英語の)「ポジティブ」は①②の意味で用いられている。③の意味もおさえよう。
a positive fact で「はっきりした事実」。

You should take a more positive attitude to life.

人生にもっと積極的になりなさい

positive reply

(そうだと)肯定する答え

a positive stance

前向きの姿勢

positive proof

確証

positive intelligence

確実な情報

それから positive は会話などで「自信がある、確信がある」という意味で用いられることがある。

A:Are you sure? 確かか?

B:Positive. もちろん

position は「①立場、状況 ②姿勢、位置 ③地位 ④意見」。

これは(カタカナ英語の)「ポジション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

Everybody took his position.

みんな所定の位置についた

She is in an awkward position.

彼女は困った立場に立たされている

He looked for neither power nor high position.

彼は権力も高い地位も求めなかった
What is your position on this matter?
この件に対するあなたの見解はどうですか

post は「①郵便(制度) ②郵便物 ③柱 ④地位、役職」。

③以外は(カタカナ英語の)「ポスト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。③の例として a telegraph post は「電柱」となる。ちなみに「郵便局」は a post office。
それから post は接頭辞として**「(時間的・空間的に)後の、次の」**という意味で用いられる。いくつか具体例を見てみよう。

postwar	post+war(戦争)	→戦争の後	⇨ 戦後 ⇔ prewar:戦前
postscript	post+script(書いたもの)	→後に書いたもの	⇨ 後書き、追伸
postpone	post+pone(置く)	→後ろに置く	⇨ 後回しにする、延期する
posterity	poster+ity(もの)	→後からきた者	⇨ 子孫、後世の人々

pound は「ポンド」。

これは(カタカナ英語の)「ポンド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
pound は[paund(パウンド)]と発音する。
ただポンドは「①重量の単位 ②(イギリスの)通貨単位」の２つの意味がある。「パウンドケーキ」というのは、バター・砂糖・卵・小麦粉を１ポンドずつの割合で混ぜたことからこの名が付いた。ちなみに pond は「池」。

power は「①力 ②体力 ③権力、権限」。

これは(カタカナ英語の)「パワー」から類推しやすい。動詞として「～に動力を供給する[で動かす]」という意味もある。また(可算名詞として)「大国」という意味にもなる。a superpower は「超大国」。

practical は「実用的な、実際に役に立つ」。

これは(カタカナ英語の)「プラクティカル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

practical activity

実践活動

practical experience

実地経験

practical English

実用英語

a practical ruler

事実上の支配者

a practical defeat

事実上の負け

His ideas are not practical.

彼の考えは現実的でない

prelude は「前奏曲」。

これは(カタカナ英語の)「プレリュード」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。prelude は比喩的に「前触れ」という意味にもなる。

premium は「①割増し金 ②報奨金」。

これは(カタカナ英語の)「プレミア(ム)」から類推できる。「プレミアが付く」と言えば、本来の値段よりも高い金額になることだ。premium は形容詞として「高級な、質がよくて高価な」という意味もある。これも「プレミアムコース」といったカタカナ英語でおなじみ。「上乗せ[割り増し]された金額・価値のついた→高級な、品質がよくて高価な」

となる。「映画の先行上映」のことを「プレミア(ショー)」と言ったりするが、これは premiere show のこと。premiere は「(演劇・オペラ･映画などの)初日、初演」という意味。

president は「大統領」。

これは（カタカナ英語の）「プレジデント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ the President というと、(米国など近代共和国の)大統領。

President Kennedy

ケネディ大統領

the President of the United States of America

アメリカ合衆国大統領

ただ president は元々「組織の長」を指す語なので、「校長、社長、議長、会長、長官…」など様々な「長」を表す。

the President of Harvard

ハーバード大学総長

the new president of the United Nations General Assembly

国連総会の新議長

the president of a corporation

会社の社長

press は「①押す【しつぶす】②圧力を加える」。

これは(カタカナ英語の)「プレス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。press は比喩的に「(考えなどを)押しつける、強いる、(物を)せがむ」という意味にもなる。pressing は「①差し迫った ②しつこい、熱心な」。press は名詞として「①出版(社) ②報道(陣)、マスコミ」という意味にもなるが、これも(カタカナ英語の)「プレス」から類推できる(②の意味の方がよく出る)。

Press the button if you want me.

用があるときはそのボタンを押してください

press down the accelerator

アクセルを踏む

He pressed her for an answer.

彼は彼女にしつこく返事を求めた

He pressed me to change my plans.

彼はしつこく私の計画の変更を迫った

the influence of the press

マスコミの影響力

freedom of the press

出版の自由

pressure は「①重圧(をかける) ②圧力(をかける)」。

これは(カタカナ英語の)「プレッシャー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。pressure は比喩的に「①苦難、困難 ②慌ただしさ」という意味にもなる。

print は「①印刷(する) ②印刷物 ③プリント生地」。

これは(カタカナ英語の)「プリント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。print には他に「跡、痕跡」という意味もある。a foot print は「足跡」。

Do not apply pressure to the wound.

傷口を押えてはいけません

the pressure of water

水圧

prison は「刑務所、監獄」。

これは(カタカナ英語の)「プリズン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。同意語に jail がある。

She visited her husband in prison.

彼女は刑務所にいる［服役中の］夫を訪れた

private は「①個人的な、私的な ②秘密の、非公開の ③私立の」。

これは(カタカナ英語の)「プライベート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。in private は「内々で、非公式に」。逆に「人前で」は in public。名詞形は privacy で「プライバシー」。

a private room

個室

The contents of the letter were private.

手紙の内容は秘密だった

I want to talk with you in private.

内々で君と話し合いたい

produce は「生産する、制作する」。

これは(カタカナ英語の)「プロデュース」「プロデューサー」から類推できる。プロデューサーは「(番組などを)制作する人」のことだ。名詞形は product で「製品」だが、これは(カタカナ英語の)「プロダクト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

㊟production という名詞形もある。こちらは「生産(高)」(「製品」という意味で用いることもある)。

This tree produces oranges.

この木にはオレンジがなる

That landslide produced a lot of misery.

あの地すべり事故は多くの不幸を生んだ

dairy products

酪農製品

manufactured products

工業製品

professor は「教授」。

これは(カタカナ英語の)「プロフェッサー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語の profession は「(知的な)専門職」のこと。形容詞形の professional は「①職業(上)の、専門職の ②プロの、本職の(⇔ amateur) ③高水準の、専門的な」。また名詞として「本職、専門家」。このうち②と③、それから名詞としての意味は(カタカナ英語の)「プロフェッショナル」と同じ。

He is a professor of physics in a university.

彼は大学の物理学の教授です

profile は「①(新聞・雑誌などの)簡単な人物紹介 ②横顔 ③輪郭、外形」。

これは①については(カタカナ英語の)「プロフィール」でおなじみ。②と③の意味をおさえよう。

profile の発音は[prcufail(プロゥファイル)]なので注意。

profile は動詞として「①～の紹介をする ②輪郭を描く」という意味もある。

また profiling は「人物像分析」のことだが、これは(カタカナ英語の)「プロファイリング」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

She has a beautiful profile.

彼女は横顔がよい

I painted him in profile.

彼の横顔を描いた

prologue は「①(芝居・小説などの)序言 ②発端」。

これは(カタカナ英語の)「プロローグ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。反意語は epilogue で「(芝居・小説などの)結末、エピローグ」。

There was a long prologue before the event began.

その事件が始まる前に長い前触れの時期があった

protein は「タンパク質」。

これは(カタカナ英語の)「プロテイン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。発音は[prouti:n(プロウティーン)]なので注意。

This food is rich in proteins.

この食物にはたん白質が豊富に含まれている

protect は「守る、保護する」。

これは(カタカナ英語の)「プロテクト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。protect A from B で「BからAを守る」となる。名詞形は protection で「保護、防御」。形容詞形は protective で「保護の、防御の」。

He put on sunglasses to protect his eyes from ultraviolet rays.

彼は目を紫外線から守るためにサングラスをかけた

provide は「提供する」。

これは(カタカナ英語の)「プロバイダー」から類推できる。プロバイダー(provider)とは、インターネットの接続サービスを提供する業者[会社]のことだ。provide は provide A(人) with B(物) あるいは provide B(物) for[to] A(人) で「AにBを提供する、与える」という語法が頻出。

We provided them with food.

＝We provided food for them.

私たちは彼らに食料を与えた

psychology は「心理学」。

これは(カタカナ英語の)「サイコロジー」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。psycho- は「心理、精神」という意味の語幹。

child psychology

児童心理学

I can't understand the psychology of the adolescents.

私には青少年の心理がわからない

public は「[the public] 大衆、世間、社会」(名)

「世間一般の、社会全体の、公共の、公(務)の、公立の」(形)

これは(カタカナ英語の)「パブリック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。よく酒を

出す店を「パブ(pub)」と言ったりするが、これは public house(大衆酒場)の略。
public の動詞形が publish で「公(publ=public)+にする(ish)→公にする→発表[公表]する、出版する」となる。publishing は「出版業」。

public welfare

公共福祉

public opinion

世論

They published her memories.

彼らは彼女の回想録を出版した

When was the deluxe edition published?

その豪華版はいつ出版されたのですか

The news of the earthquake was published this morning.

この地震のニュースは今朝発表された

in public で「公然と、人前で」という意味になる。

He rarely speaks in public.

彼はめったに人前で話さない

pulse は「①脈拍 ②(光・音などの)振動、波動 ③(人の)感情」。

これは(カタカナ英語の)「パルス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。つづりがよく似た語に impulse(衝動)がある。「脈拍(pulse)の中(im = in)に入ってきて情動を激しく突き動かすもの」のようなイメージで覚えるのも良いだろう。impulse buying は「衝動買い」。

an irregular pulse 不整脈

The doctor took[felt] my pulse.

医者は私の脈をとった

His attendance at the meeting stirred her pulses.

その会合に彼が出席したため彼女の感情は高ぶった

pump は「ポンプ(で水をくみ上げる[注ぎ込む]・でふくらませる)」。

これは(カタカナ英語の)「ポンプ」がほぼ同じ意味で用いるのでわかりやすい。

pump a pail of water from the well

井戸からバケツ１杯の水をポンプでくむ

pump a ship

船底にたまった水をくみ出すb

puncture は「①パンクする[させる] ②(針などで)～を刺す、穴をあける ③(気持ち・自信などを)ぺちゃんこにする」。

これは(カタカナ英語の)「パンク」から類推できる。③は比喩的な用法。

The man punctured a balloon with a pin.

その男はピンで風船をパンクさせた

pure は「①純粋な ②清浄な、汚染されていない ③全くの」。

①と②については(カタカナ英語の)「ピュア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。③の意味をおさえよう。by pure chance は「全く偶然に」。a pure waste of time は「全く時間の無駄」。副詞形は purely で「①純粋に ②単に(=only) ③全く、完全に」。

pure gold

純金

She is pure in heart.

彼女は心が清純である

I came to know her by pure chance.

全く偶然に彼女を知った

It is a pure waste of time.

全く時間の無駄だ

push は「①～を押す(こと) ②～を強硬に押し進める」。

これは(カタカナ英語の)「プッシュ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ

1.[push O C]「Oを押しC(の状態)にする」

(ex) I pushed the door open.

私はドアを押し開けた

=I pushed open the door.

2.[push O to do[原形]～/into doing～]「Oを～するよう駆り立てる」

「Oに無理やり～させる」

(ex) She pushed me to make a speech.

彼女は私に無理やり演説をさせた

という語法はおさえておきたい。

puzzle は「(人を)悩ます、困らせる」。

これは(カタカナ英語の)「パズル」から類推しよう。パズルはたしかに「人を悩ますもの」だ。puzzle は「難問」という名詞としても用いられる。

He was puzzled as to what he should do next.

彼は次にどうしたらよいのか途方に暮れた

quality は「質」。

これは（カタカナ英語の）「クオリティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。quality には「(人・物の)特質、特色、特性(=characteristic)」という意味もある。
ちなみに反意語の「量」は quantity と言う。

Quality matters more than quantity.
量より質が大切
goods of highest quality
最高級品
The quality of sugar is sweetness.
砂糖の特質は甘いことである
a man's qualities
人の（いろいろな）性質

quarter は「４分の１」。

これは(カタカナ英語の)「クオーター」から類推できる。ある人がクオーターと言う場合、(祖父又は祖母が外国人で)４分の１だけ外国人の血が混ざっている人のことを指す。
quarter は転じて「15分(=４分の1時間)」「25セント(４分の１ドル)」という意味もある。

We divided the profits into quarters.
我々は利益を４等分した
A quarter sounds different than a dime.
２５セント硬貨は１０セント硬貨と音が違う

questionnaire は「アンケート」。

これは(カタカナ英語の)「クエスチョン」から類推しよう。クエスチョンはもちろん「質問」。アンケートはいろいろな質問で構成されているもの。

「アンケート」自体はフランス語なので注意。

radar は「レーダー、電波探知機」。

これは(カタカナ英語の)「レーダー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。a radar system は「レーダー装置」。

The carrier was detected by radar.

その空母はレーダーで探知された

radical は「①過激な、急進的な ②根本的な」。

(カタカナ英語の)「ラディカル」は①の意味で用いられる。それ故②の意味をおさえよう。a radical change は「根本的な変化」。

radical measures

根本的手段

a radical change

根本的な変化

the radical faction

過激派

his radical ideas

彼の過激な思想

rank は「①階級 ②列 ③上流(階級)」。

このうち①については(カタカナ英語の)「ランク」「ランキング」から類推できる(②と③の意味をおさえよう)。更に rank は動詞として、「ある階級(列)に置く、ある→分類する、

～に位置する、～とみなす、～を並べる」という意味もある。

the upper ranks of society

社会の上層階級

We rank his ability very highly.

我々は彼の才能を非常に高く評価している

She was ranked among the best dressed women.

彼女はベストドレッサーの中に加えられた

We rank baseball above football in our country.

わが国ではフットボールより野球を高く評価している

He is ranked as a great artist.

彼は偉大な芸術家とみなされている

The teacher ranked boys according to their height.

その先生は身長順に男の子を並べた

rate は「割合、率」。

これは(カタカナ英語の)「レート」から類推しよう。たとえば「為替レート」といえば、ある通貨と外国通貨との交換比率のことだ。at a ～ rate で「～な割合で」。the birth rate は「出生率」。at any rate は「いずれにせよ」。rate は動詞としても使われ、「評価する、見積もる、みなす」という意味になる。

the high death rate from cancer

がんによる高い死亡率

the low birth rate

低い出生率

We have to investigate the cause at any rate.

とにかく原因を調べなければならない

I don't rate this book (very highly) .

私はこの本を（あまり高く）評価しない

They rated the house at 50,000 dollars.

彼らはその家を5万ドル（の価値がある）と評価した

reach は「①～に到達する、到着する ②手を伸ばす」。

これは(カタカナ英語の)「リーチ」から類推できる。ゴール・目標にあと一手[一歩]になり「手が届く」ことを「リーチ(をかける)」などと言ったりする。
名詞として「(手などが)届く距離、範囲」のことを言ったりするが、reach にもこの意味がある。beyond A's reach / beyond the reach of A は「A(人)の手の届かない(所に)」。

The sound of his voice reached our ears.

彼の声が我々の耳まで届いた

react は「反応する」。

これは(カタカナ英語の)「リアクション」から類推できる。リアクション(reaction)とは「反応」という意味。reaction は react の名詞形だ。react には「反発する」「作用する」という意味もある。

The ear reacts to sound.

耳は音に反応する

People reacted against tyranny.

人々は暴政に反発した

Cause and effect react upon each other.

原因と結果は互いに作用し合う

reality は「現実(性)」。

これは(カタカナ英語の)「リアリティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。in reality

で「実際には、実は」。形容詞形は real で「現実の、実際の、本当の」。

He believes in the reality of God.

彼は神の実在を信じている

the stern realities of life

人生の厳しい現実

My dream of owning a mansion became a reality.

大邸宅を持つ夢が現実のものとなった

Everyone believed him, but in reality he was a liar.

だれもが彼の言葉を信用したが，実は彼はうそつきだった

recipe は「調理法、料理の作り方」。

これは(カタカナ英語の)「レシピ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。比喩的に「秘訣、コツ」という意味になることもある。

Let me give you my recipe for success.

私の成功法を教えてあげよう

Could a surer recipe for trouble be invented?

紛争解決策としてこれ以上確かなものが考えられようか

この単語(recipe)は「レシーブ(receive)」と語源が同じ。確かに「秘訣、コツ」というのは「伝授されるもの」つまり「受けとる(receiveする)」ものだ。

そうすると recipient は「受けとる人」という意味になるのもわかるはず(-ient は「人」を意味する接尾辞)。

a recipient of the Nobel peace prize

ノーベル平和賞の受賞者

a scholarship recipient

奨学生

receive は「～を受け取る」。

これは(カタカナ英語の)「レシーバー」から類推できる。レシーバー(receiver)とは、バレーボールでサーブを「受け(取)る人」のことだ。あるいはレシーバーは「受信機」のことを指すが、受信機とは発信されたものを「受け取る」器械のことだ。

I received a letter from her.

彼女から手紙をもらった

He received a heavy sentence from the judge.

彼は裁判官から重い判決を受けた

reception は「①接待 ②歓迎会 ③(ホテルなどの)受付」。

これは(カタカナ英語の)「レセプション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。a reception room は「応接間[室]」。receptionist は「(ホテル・病院・事務所などの)受付係」。reception は receive の名詞形になる。

recession は「不景気、景気後退」。

これは(カタカナ英語の)「リセッション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語の recess は「休憩、(学校の)休み時間」。動詞で「休会[休憩]する」という意味にもなる。

the worldwide recession of the mid-1970s

1970年代中頃の世界的不況

in deep recession

とても不景気で

go into recession

不景気になる

⇔ come out of recession 不景気を脱する

at recess

休憩時間に

go into recess

休会する

Congress will be in recess until January.

議会は１月まで休会となるだろう

There is a recess of ten minutes between classes.

授業の間に１０分休みがある

record は「記録(する)」。

これは(カタカナ英語の)「レコード」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「（学校の）成績」という意味もある。

The records are stored on microfilm.

その記録はマイクロフィルムに収められている

school records

学業成績

recover は「①～から回復する ②～を取り戻す」。

これは（カタカナ英語の)「リカバー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。recover from A で「Aから回復する」、recover A で「Aを取り戻す」となる。名詞形は recovery で「回復」。

She recovered from her illness.

彼女は病気が治った

He couldn't recover from the shock of his father's death.

彼は父親の死のショックから立ち直れなかった

recreation は「娯楽、気晴らし、レクリエーション、元気回復(に役立つもの)、休養」。

これは(カタカナ英語の)「レクリエーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は recreational で「レクリエーションの、休養の、気晴らしの、元気回復の」。

They played tennis for recreation.

彼らはレクリエーションにテニスをした

Fishing is (a) good recreation.

釣りはよいレクリエーションです

recruit は「(新人を)採用する」「新人、新入社員、新入生」。

これは(カタカナ英語の)「リクルート」から類推できる。

recruit troops

部隊に新兵を入れる

recruit five members for the organization

その組織に５人の新会員を入れる

The new recruits go through training for the first three months.

新入社員は最初の3か月は研修を受けます

refer to A は「①Aを参照する、問い合わせる、調べる ②Aについて言及する、Aのことを指して言う」。

(カタカナ英語で)「参考書」のことを「レファレンスブック(a reference book)」と言う。reference は refer の名詞形。ここから①の意味を類推できる。また(カタカナ英語の)レフリー(referee)は「(勝敗などの)判断や裁定を参照される人」だ。

Refer to a dictionary whenever you meet unknown words.

未知語に出会ったら必ず辞書を引きなさい

This is the car he referred to yesterday.

これが彼が昨日話していた車です

Hippocrates is often referred to as the father of medicine.

ヒポクラテスはよく医学の父と呼ばれる

She referred to me for information.

彼女は私に問い合わせてきた

I refer you to Mr.Smith concerning that person's character.

その人物についてはスミス氏に問い合わせてください

refine は「①洗練する ②細部にわたって改良する」。

これは(カタカナ英語の)「リファイン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。refine には他に「精錬する、精製する」という意味もある。

refine iron ore

鉄鉱石を製錬する

refine oil[sugar]

石油[砂糖]を精製する

Your should refine your manners.

作法を上品にすべきです

I refined my style of writing.

私は文体を磨いた

reform は「改革(する)」。

カタカナ英語の「リフォーム」は、今住んでいるの家の(内外装の)改築や改装のことを指

して言うが、これは和製英語。しかし reform の意味を覚える際の引っ掛かりにはなるのでうまく利用しよう。political reforms は「政治的改革」。

「リフォームする」は、英語では renovate, redesign, remodel などを用いる。

We should reform the system of society.

社会制度を改革すべきだ

regulate は「～を規制する、調整する」。

これは(カタカナ英語の)「レギュレーション」から類推できる。レギュレーション(regulation)とは「規制、規定、調整」のことで regulate の名詞形だ。形容詞形は regular で「規則正しい、定期的な、通常の」。反意語は irregular で「不規則(的)な、不定期の」。

regulate the traffic

交通整理をする

Trade is regulated by the government.

貿易は政府によって規制される

The clock is regulated every day.

時計は毎日調整される

rehearse は「①(劇・音楽などの)リハーサルをする ②(人に)稽古(けいこ)をつける」。

これは(カタカナ英語の)「リハーサル」から類推できる。リハーサル(rehearsal)は、rehearse の名詞形なのだ。ただ rehearse には「～を詳しく述べる、物語る」、rehearsal には「話、物語」という意味もある。

relax は 「(人を)くつろがせる[ろぐ]、～を緩める」

これは(カタカナ英語の)「リラックス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
名詞形は relaxation で「①くつろぎ、気晴らし ②緩和」。

Sit down and relax, please.

座ってくつろいでください
John relaxed with a mystery novel.

ジョンは推理小説を読んでくつろいだ
The cold (weather) relaxed.

寒さがゆるんだ
Music always relaxes me.

音楽はいつも私をくつろがせてくれる

relay は「①交代(者) ②(テレビ・ラジオの)中継」。

これは(カタカナ英語の)「リレー」から類推できる。リレー(relay race) は走者が交代でバトンをつないで走るレースのこと。relay は動詞として「①～を伝達する、取り継ぐ ②中継する」という意味もある。

release は「①～を解き放つ、解放する ②(ニュースなどを)公表する ③(映画・音楽などを)公開する、発売する」。

これは(カタカナ英語の)「リリース」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

At last they released the hostages.

やっと彼らは人質を解放した
The doctor released him from (his) pain.

その医者は彼の苦痛を除いてやった
He was released from the debt.

彼は借金を免除された
release a bomb from an airplane
飛行機から爆弾を投下する
He released his hold on the rope.
彼はロープをつかんでいた手を離した

remote は「①(距離的に)遠い、辺ぴな ②(時間的・関係的に)遠い、離れた」。

これは(カタカナ英語の)「リモコン」つまり「リモートコントロール」から類推しよう。リモートコントロール(remote control)とは「遠隔操作」、つまり遠く離れたところから操作をすることだ。

a house remote from the village
人里離れた家
in the remote past[future]
はるかな昔[未来]に
remote antiquity
遠い昔、太古
a remote relative
遠い親類
a remote effect
間接的効果

remove は「～を取り除く」。

これは(カタカナ英語の)「リムーバー」から類推できる。リムーバー(remover)とは「除光液」、つまりネイルカラーを落とす際に使用する液体のことだ。名詞形は removal で「除去」。

I removed the grease stain from the coat.

上衣の脂（あぶら）のしみを抜いた

remove A from B で「BからAを取り除く」。

Remove your hat when you enter a house.

家へあがるときは帽子を脱ぎなさい

The old man was removed to the hospital.

老人は病院に移された

Remove yourself from this house immediately.

すぐにこの家から出て行け

renaissance は「①ルネ(ッ)サンス ②再生」。

これは(カタカナ英語の)「ルネ(ッ)サンス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

renovate は「①～を刷新する、活気づける ②(建物などを)修繕[復]する」。

これは(カタカナ英語の)「リノベーション」から類推できる。リノベーション(renovation)とは、刷新すること、あるいは(建物などを修繕[復]することで、renovate の名詞形。語源的には「元の(re)+新しい(nov=new)+～にする(ate)→元のように新しくする→刷新する、修繕する」となる。

類語の innovate も「刷新する、新しいことを取り入れる」。名詞形は innovation で「新しいものの）導入，刷新，技術革新」。これもカタカナ英語になっている。

renovate old cathedrals

古い大教会堂を修復する

renovate the world

世界を活気づかせる

We should innovate on[in] the present condition

現状を一新するべきだ

rental は「賃貸しの」。

これは(カタカナ英語の)「レンタル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は rent で「賃貸しする」(「借りる」という意味もある。状況で使い分けられる)。これも「レンタカー(rent-a-car)」でおなじみ(a rental car とも言う)。

rental service

賃貸業

I rent a house from Mr. Smith.

私はスミス氏から家を借りている

He rents a farm to us.

彼は私たちに農地を貸している

The farm rents at $1,500 a year.

農場の使用料は年額1,500ドルだ

repair は「～を修理する」。

これは(カタカナ英語の)「リペア」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。

They had their house repaired.

彼らは家を修理してもらった

「(誤りなどを)訂正する」「(損失などを)補償する」という意味もある。

You will have to repair the damage done to the building.

君は建物に与えた損害を弁償しなければならないだろう

repeat は「～を繰り返す」。

これは(カタカナ英語の)「リピート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は repetition で「反復」。形容詞形は repetitious または repetitive で「反復的する、くどい」。

after numerous repetitions

何度も繰り返したあとで

replace は「①元の場所に戻す、置き直す ②～に取って代わる、～の後任になる ③～を取り替える」。

①の意味については(カタカナ英語の)「リプレース」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ受験では②と③の意味が重要。

replace A with[by] B で「Aの代わりにBを使う、AをBと取り替える」という語法がある。

The vacuum cleaner replaced the broom.

電気掃除器がほうきに取って代わった

He will replace her as mayor.

彼が市長として彼女の後任となった

I replaced butter with[by] margarine.

バターの代わりにマーガリンを使った

The vacuum cleaner replaced the broom.

電気掃除器がほうきに取って代わった

He was displaced by his assistant.

自分の助手に首をすげかえられた[取って代わられた]

Everybody thought that radio was doomed to be totally displaced by television.

ラジオはテレビに完全に取って代わられる運命にあるとだれもが考えた

report は「報告[道](する)、報告書、記事」。

これは(カタカナ英語の)「レポート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

The magazine reported the discovery of a new enzyme.

その雑誌は新しい酵素の発見を報じた

He reported the accident to the police.

彼は警察に事故を報告した.

the weather report

気象通報

request は「要請(する)、懇願(する)」。

これは(カタカナ英語の)「リクエスト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。at A's request, at the request of A で「A(人)の要請で」。by request で「求めに応じて」。

She requested that she (should) be excused early.

彼女は早目に失礼させてほしいと頼んだ

He requested me to work for his company.

彼は私に彼の会社で働いてくれと頼んだ

rescue は「救助(する)」。

これは(カタカナ英語の)「レスキュー」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。

They rescued a baby from the burning house.

彼らは燃えている家から赤ん坊を救い出した

research は「(学術的な)研究、(徹底した)調査」。

これは(カタカナ英語の)「リサーチ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。a researcher は「研究者」。

I'm doing[carrying out] some research on[into] industrial development.

私は産業の発達の研究をしています

market research

市場調査

reserve は「①～を予約する(=book) ②～を取っておく」。

これは(カタカナ英語の)「リザーブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「リザーブ席」は「予約席」のことだ。名詞形は reservation。make a reservation for A や book A も「Aを予約する」という意味になる。

How much money should we reserve for our old age?

老年に備えていくらくらい金を取っておかなければならないでしょうか

Please reserve a single [a twin] room at Hotel Victoria.

ビクトリアホテルに１人［２人］部屋を予約してください

I must reserve[=book] a seat on Flight Number 203 to Los Angeles.

ロサンゼルス行きの203便に座席を予約しなければならない

residence は「住宅、邸宅」。

これは(カタカナ英語の)「レジデンス」から類推できる。よくマンションの名前に「レジデンス〇〇」といったものがあるのでそれを引っ掛かりにして覚えよう。ちなみに resident は「住民、居住者」。

The White House is the residence of the President.

ホワイトハウスは大統領の邸宅だ

resort

resort には「行楽地、保養地、リゾート地」という意味があるが、これについては(カタカナ英語の)「リゾート」から容易に類推できる。ただ resort は他にもいろいろな意味がある。これについても根っこ(『核』)のイメージを用いた方がマスターは速い。

resort の『核』のイメージは「繰り返し行く[出かける]」だ。

「行楽地、保養地、リゾート地」という意味は、「行楽、保養のために繰り返し人々が出かけていく場所」ということ。英語では通例、他の語とセットで(複合的に)用いる。

(ex) at the mountain resorts 山の観光地[保養地]で

a vacation resort 休日の行楽地

実際、動詞として resort to A(楽しい場所)で「Aへ繰り返し(よく)行く」という意味がある。go often で言い換えられる。

(ex) His family resort(s) to the restaurant.

彼の家ではよくそのレストランに行く

この resort は、名詞として「(人の)よく行く所」という意味にもなる。

(ex) a resort of students 学生がよく行く[集まる]所

また「(ある場所へ)しばしば行く[通う]こと」「(人の)集まり、人出」という意味になることもある。

(ex) a place of popular[great] resort

人がたくさん集まってくる所、盛り場

更に resort は、「繰り返し行く」から(それが比喩的に)転じて「(手段として)繰り 返し用いる(頼る)」という意味が生まれた。それで resort to A (人・物・手段) で「Aに訴える」という意味があるのだ。

(ex) They resorted to arms[violence, a strike].
彼らは武力[暴力・ストライキ]に訴えた

名詞として「(…に)頼る[訴える]こと」という意味でも使われる。

(ex) He often has resort to force. 彼はよく暴力[腕力・武力]に訴える

また「頼りにする人[物]」「(困難な状況を切り抜ける)手段・方策」という意味にもなる。

(ex) The loan shark is my last resort. サラ金が最後の頼みの綱になった
as a[the] last[final] resort
=in the last[final] resort
(いろいろ試みたがうまくいかなかったので)最後の手段として、結局

respect

respect の語源は「re(振り返って後ろを)+spect(見る)」だが、「わざわざ振り返ってまで見る」のはそれが(自分にとって)大切なものだから。そこから『核』のイメージとして「大切なもの[価値あるもの]として～を見る」と覚えておくといい。
そこから以下のような意味が生まれる。

①「～を尊敬する」

㊟「(人・行動等を)大切なものとして見る→尊敬する」。

(ex) I respect my parents. 私は両親を尊敬している
I respect his honesty[generosity].

私は彼の正直さ[寛容さ]を尊敬している

②「～を尊重する、重んじる」
「～を考慮する、～に注意する」
「～を大事にする」
「(規則・道徳等を)守る」

「(気持ち・意思・権利・規則等を)大切なものとして見る→尊重する、大事にする、守る」。

(ex) We should respect other people's rights[feelings].
我々は他の人の権利[気持ち]を尊重すべきだ
You had better respect your word. 君は約束を守った方がいい

respect は名詞としても用いられ、以下のような意味になる。

「尊敬、敬意」「尊重、考慮、重視」という意味では「～に対する」という意味で for を(自身の後ろに)取る。また「点」という意味では、「～における」「～で」という意味で in を(自身の前に)取る。

①「尊敬、敬意」
(ex) We have respect for our boss[teacher].
私たちは上司[担任の先生]を尊敬しています

②「尊重、考慮、重視」
(ex) You must have respect for the traffic regulations.
交通規則を尊重しなければいけません

③「点」

「大切なもの(価値あるもの)として～を見る」ことは、その対象に視点を向ける(焦点をあてる)こと。そこから「点」という意味が生まれる。

(ex) in this[that] respect この[その]点で
=in this[that] way[manner]
in some[many] respects いくつかの[多くの]点で
Her story does not agree with his in this respect.
この点で彼女の話は彼の話と食い違っている

④「関係(連)」

あるものを尊重して見ることは、そのものと関わりを持つことに通じ、「関係[連]」という意味が生まれた。ただこの意味では respect は以下の表現に限られると言っていい。

1.have respect to A「Aと関係がある」

(ex) These remarks have respect to his proposal.

これらの発言は彼の提案に関係がある

2.with respect to A「Aに関して」「Aに関連して」

(ex) With respect to your proposal, we are sorry to say that we cannot agree to it.

お申し越しの件、遺憾ながら応じかねます

respect の形容詞形として respectful, respectable, respective があるが、なかなか意味の区別が難しい。実は接尾辞についての知識も利用して、こんなふうにこれらの語は覚えるといいのだ。

まず respectful だが、ful は「～でいっぱいの」という意味の接尾辞。つまり respectful は「尊敬する気持ちがいっぱいこもった→(～に対して)丁寧な、敬意を払う」となるのだ。

(ex) He is respectful to his boss. 彼は上司に対して丁重だ

We should be respectful of tradition. 我々は伝統を重んずるべきである

respectable の場合、able, ible という接尾辞は、動詞に付くと「～されうる」という受け身の意味を持つ。つまり respectable は「(人から)尊敬されうるような→立派な、ちゃんとした、きちんとした、相当な」となるのだ。

(ex) He is a respectable citizen. 彼は立派な市民だ

He came to the party in respectable clothes.

彼はきちんとした服装でパーティーにやってきた

a respectable price かなり高い値段

respective の場合、ive は「～に関する」という意味の接尾辞。そしてこの場合の respect は「点」を表す。つまり respective は「一点一点に関する→ それ

ぞれの」となるのだ。

(ex) The guests went to their respective rooms.

客はそれぞれの部屋へ行った

Teachers grade students according to their respective abilities.

先生は学生の それぞれの能力に応じて評点をつける

このような覚え方は、他にも considerable, considerate の覚え方で役に立つ。considerable は、 consider が「考慮する」。そして(consider という動詞に付いた) able は「～されうる」。つまり considerable は「考慮されうるような、考慮に値すべき→かなりの、相当な」となるのだ。

(ex) a considerable distance[income] かなりの距離[収入]

a considerable number of people 相当数の人

a considerable sum of money 多額の金

considerate の場合、ate は「～に満ちた」という意味の接尾辞。つまり considerate は「(人を)考慮する気持ちに満ちた→思いやりのある、思慮深い」となるのだ。

(ex) He is considerate of others. 彼は他人に思いやりがある

It's very considerate of you to say so.

そんなこ とを言って下さるとはあなたはとても思いやりがある方だ

restore は「①(古い物を)修復する、復元する ②(健康・秩序を)回復する ③元に戻す」。(カタカナ英語で)「レストアする」という場合、①の意味で用いる。②③の意味も覚えておこう。

The decayed castle was restored out of all recognition.

老朽化した古城はすっかり見違えるように修復された

He is restored to health.

彼は健康を回復した
The kidnapped child was safely restored to its parents.
誘拐された子供は無事両親に返された

restructure は「①～を再編成[構築]する ②リストラ[人員削減]する」。

これは(カタカナ英語の)「リストラ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は restructuring で「①(企業などの)再編成[構築] ②リストラ[人員削減]」。

resume は「①まとめ、要約(=sammary) ②履歴書」。

これは(カタカナ英語の)「レジュメ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。発音は[rezjumei(レズュメイ)]。
ただ、resume には「再開する」という意味があり、こちらは[rizju:m(リズューム)]と発音する。

I resumed my work after lunch.
私は昼食後また仕事を始めた
He resumed singing after long applause.
彼は長いかっさいのあとでまた歌い続けた

retire は「引退する」。

これは(カタカナ英語の)「リタイア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。retire from A で「Aを引退する」。名詞形は retirement で「退職、引退」。

My father retired from business at the age of 65.
父は６５歳で実業界から身を引いた
retirement pension

退職年金

retrospective は「回顧的な、回想の」。

これは(カタカナ英語の)「レトロ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。retrospective には「回顧展」という意味もある。語源的には retro は「過去をさかのぼる」。spect は「見る」。つまり「過去をさかのぼって見る」ということ。名詞形は retrospect で「回顧」。in retrospect で「思い返せば」。

return は「元に戻る(こと)」。

これは(カタカナ英語の)「リターン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。return to A で「Aに戻る」。形容詞形は returnable で「返却することができる、(空きビンなどを)買い取ってもらえる」。これも「リターナブル」でおなじみ。よく似た語にrecycle(廃品などを再生利用する)、reuse(再利用(する))などがあるが、これらも「リサイクル」「リユース」でおなじみ。

Let's return to our[the] subject.

本題に戻りましょう

Return these books to the bookcase.

この本を本箱に戻しておきなさい

I'm looking forward to your return.

あなたのお帰りを楽しみにしています

revenge は「復讐(する)」。

これは(カタカナ英語の)「リベンジ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語に avenge があるが、こちらは「(加害者に対して被害者の)かたき討ちをする」という意味。

I shall revenge myself upon that betrayer.

あの裏切り者に復しゅうしてやるぞ

I took my revenge on him.

私は彼に復しゅうした

He killed her in revenge.

彼は恨みで彼女を殺した

revolve は「回転する」。

これは(カタカナ英語の)「リボルバー」から類推できる。リボルバー(revolver)とは「回転式連発拳銃」あるいは「回転装置」のことを言う。語源的には、re は「反復」を表す接頭辞。「反復して(re)+回る(volve)→回転する」となる。

Wheels revolve on their axles.

車輪は車軸を中心に回転する

The planets revolve around the sun.

惑星は太陽の周りを運行する

My life revolves around you.

僕の生活は君を中心にして動く

rhetoric は「①修辞(法) ②美辞麗句(に満ちたことば)、(内容のない)雄弁」。

これは(カタカナ英語の)「レトリック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

rhythm は「リズム」。

これは(カタカナ英語の)「リズム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は

rhythmic(al) で「リズムの、リズミカルな」。これも「リズミカル」でおなじみ。

in quick rhythm

速いリズムで

a sense of rhythm

リズム感

the rhythm of the pulse

鼓動

rich は「①豊かな、贅沢な ②(味などが)濃い、コクのある、栄養価が高い」。

これは(カタカナ英語の)「リッチ」から類推できる。②の意味でも「リッチテイスト」といった言い方をよく耳にする。rich に「～にする」という接頭辞の en がついて enrich となると「～を豊かにする」となる。

a rich diet

栄養豊かな食事

rich food

こってりした食事

rich wine

芳醇(ほうじゅん)なぶどう酒

Enrich your mind with literature.

文学によって心を豊かにしなさい

enriched food

強化食品

enriched uranium

濃縮ウラン

ride は「～に乗る、乗って行く」。

これは(カタカナ英語の)「ライド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ride の活用は ride - rode - ridden。ride は名詞として「乗る[乗せる]こと」という意味もある。
give A(人) a ride で「Aを(車に)乗せる」。

Could you give me a ride to the supermarket?
スーパーマーケットまで乗せてもらえますか

ring は「指輪」「①(鐘を・が)鳴らす[鳴る] ②電話をかける」。

①については(カタカナ英語の)「リング」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②についても、電話や鐘の音を「リンリン」と表現したりするのを引っ掛かりにして覚えてしまおう。それから「鐘、鈴、呼び鈴」のことを bell と言うが、これも「ベル」でおなじみ。

Just then, I heard the telephone ring.
ちょうどその時電話が鳴るのを聞いた
A shot rang out.
銃声が１発とどろいた
I will ring you up later.
あとで電話します
I'll give you a ring tomorrow morning.
明日の朝電話します

上例は名詞の ring。give A(人) a ring で「Aに電話をかける」という意味になる。

rinse は「すすぐ[ぎ]、ゆすぐ[ぎ]」。

これは(カタカナ英語の)「リンス」から類推しよう。(洗髪剤の)リンスというのは、昔は髪に残ったシャンプー成分をすすぎ落とすための目的で使われていたので rinse という名前が付いた。

㊟もちろん現在の「リンス」は、そのような目的で使用するものではない。

risk は「危険」。

これは(カタカナ英語の)「リスク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。at any risk で「どんな危険を冒しても、ぜひとも」。at risk で「危険な状態で」。at the risk of A で「Aの危険を冒して」。run[take] a risk で「危険を冒す」。
ただ risk は動詞として「～を危険にさらす、～の危険を冒す」という意味もあるので注意。形容詞形は risky で「危険な」だが、こちらも(カタカナ英語として)おなじみ。

We must save the child at any risk.
どんな危険を冒しても子供を助けねばならぬ
The epidemic is spreading, and we are all at risk.
伝染病が広がっていて我々は皆危険にさらされている
He did it at the risk of his life.
彼は生命をかけてそれをやった
She ran the risk of making an enemy of him.
彼女は彼を敵に回すような危険を冒した

rival は「ライバル、競走相手、商売敵、匹敵する人物」。

これは(カタカナ英語の)「ライバル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
㊟ rival の語源は river(川) に由来する。「ライバル」は「川の利用権を争っている人」が語源で、そこから「競争者、対抗者、好敵手」となった。
rival は動詞として「～と競争[対抗]する、～に劣らない」という意味にもなる。

They rivaled one another in special sales.
特売で互いに競争した
She rivals her sister in beauty.
彼女は姉に劣らぬほど美しい

また類語の rivalry は、「競争、対抗」。

rivalry in politics

政治上の争い

The rivalry between the two women for the prize was fierce.

その賞を得ようとする２人の間の競争は猛烈だった

roast は「①(肉などを)焼く ②(豆などを)煎る」。

これは(カタカナ英語の)「ロースト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

roast a turkey

七面鳥を１羽焼く

roast coffee beans

コーヒー豆を炒る

robot は「ロボット」。

これは(カタカナ英語の)「ロボット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。robotics は「ロボット工学」。an industrial robot は「産業用ロボット」。

roll は「転がる[がす]」「①一巻き、一本 ②巻物(状のもの) ③出席簿、名簿」。

これは(カタカナ英語の)「ロール」から類推できる。たとえばロールケーキと言えば、ロール状、つまり巻物状に巻いたケーキのことだ。名簿も昔は巻物に書かれたので roll と言うのだ。

The ball rolled into the ditch.

ボールがどぶに転がり落ちた
Tears rolled down her cheeks.
涙が彼女のほおを流れ落ちた
The ship rolled heavily in the storm.
船はあらしの中で激しく横揺れした

rouge は「口紅、ルージュ」。

これは(カタカナ英語の)「ルージュ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい(rouge は「頬紅」を指すこともある)。rouge は動詞として「(顔に)紅を付ける[さす]」という意味もある。

rough は「粗い、荒っぽい、大雑把な」。

これは(カタカナ英語の)「ラフ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。roughly speaking は「大ざっぱに言って」。

This cloth feels rough.
この布は手ざわりがざらざらしている
Don't be so rough with the girl.
女の子にそんなに手荒なことはするな
He is rough in his manner.
彼は態度が粗野だ
At a rough estimate, this car is worth 800 pounds.
概算でこの車は800ポンドくらいだろう

routine は「決まりきった仕事」。

これは(カタカナ英語の)「ルーティーン」「ルーティーンワーク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。スポーツ競技でも「規定演技」のことをルーティーンと言ったりする。

It passed a routine check last year.

それは昨年の定期検査に合格した

break the routine

いつもと違ったことをやる

royal は「王室の、皇室の」。

これは(カタカナ英語の)「ロイヤル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。王家のことを「ロイヤルファミリー」と言ったりする。転じて「素晴らしい」という意味にもなる。名詞形は royalty で「特許権使用料、(著作の)印税」という意味だが、これも「ロイヤルティ」でおなじみ。

ちなみに loyal は「忠実な」。名詞形は loyalty で「忠誠、忠義」。

the royal family

王室

We should be loyal to our country

私たちは国に忠義を尽くすべきだ

rubber は「(天然・合成の)ゴム」。

これは(カタカナ英語の)「ラバー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

crude rubber

生ゴム

natural rubber

天然ゴム
Tires are made of rubber.
タイヤはゴムでできている
rubber boots
ゴム長靴

rug は「じゅうたん」。
これは(カタカナ英語の)「ラグ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
㊟ラグとカーペットとの違いは、カーペットは普通、部屋いっぱいに敷きつめるのに対し、rug は部分的に覆う敷物を指す。

run

run も(カタカナ英語の)「ラン(走る)」だけでは、その意味全てをまかないきることはできない。これについても根っこ(『核』)のイメージからとらえるのがいい。そのイメージとは「～を(ある方向に止まることなく素早くなめらかに)動かす」だ。
run には会社や店などを目的語にとって「～を経営(運営)する、～を営む」「～を切り盛りする」という意味があるが、これは「会社・店を(利益を追求するという方向・目的に向かって、停滞することなく)動かす」ということ。

(ex) He runs a karaoke bar. 彼はカラオケバーを経営している
We ran a meeting well. 会議をうまく運営した
run the world 世界を動かす

また以下のように risk(危険)を目的語にとって「危険を冒す」という表現もある。これは「危険」を「物」として捕らえ、それを「動かす」「走らせる」ということだ。

(ex) I don't want you to run a risk. 君に危険を冒してもらいたくない

run が自動詞として用いられる場合は「(ある方向に止まることなく素早くなめらかに)動く」がその『核』のイメージ。「走る」という run もここからきている。

(ex) This computer runs on batteries. このコンピュータは電池で作動する

上の例文は、文字通り「動く」という run の例だ。

(ex) Our telephone bill ran to 30,000 yen.
電話料金の請求が３万円になってしまった

上の例文は「３万円に向かって動いた→３万円になってしまった」ということ。
run for A で「Aに立候補する」という意味があるが、これは「Aに向かって動く」からきている。for は「(求める)方向」を表している。reach for A が、Aの方向に向かって手を伸ばしたといっているだけで実際に手が届いたということを表してはいないように、run for President と言った場合も、まだ大統領になっているわけではなく、それを求めて「動いている」ということ。

(ex) Governor Suzuki ran for reelection. 鈴木知事は知事選に再出馬した

また run は「(道路が)走っている」「(液体等が)流れている」「ストッキングが伝線する」という意味でも使われる。これらも「ある一定方向に向かって連続的に止まることなく動く」という『核』のイメージがそこにある。

(ex) The road runs along the coast. 道路は海岸に沿って延びている
The river runs into[to] the Pacific Ocean.
その川は太平洋に注いでいる
The tap is running. 水道が出ています
Your nose is running. 鼻水が出ているよ
My stocking ran again. またストッキングが伝線しちゃった
The desire for adventure runs in his blood.
彼には冒 険好きな血統がある

㊟「冒険　を求める願望が彼の血の中に流れている」ということ。

run C(形) で「Cになる」という表現があるが、これは「(人や物の)性質・事態・状況」が移動・変化し、その結果として「C(の状態)になる」ということだ。

(ex) The river has run dry. 川の水は干上がった
Mary's blood ran cold. メリーはぞっとした
He ran short of money. 彼の金は残り少なくなった
=His money ran short.

rush は「突進する」。

これは（カタカナ英語の）「ラッシュアワー」から類推できる。ラッシュアワーとは、「みんなが会社に向かって突進する時間帯」のことだ。rush to do[原]～で「急いで～する」となる。

A lion rushed into the road.
１頭のライオンが道路に飛び出してきた
The water rushed in.
水がどっとおしよせてきた

S

safty は「安全」。

これは(カタカナ英語の)「セーフティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は safe で「安全な」。safe には「金庫」という意味もあるが、これは safe box の box が省かれたものと考えたらいい。in[with] safety で「安全に」。play for safety は「(勝負事などで)安全策を取る」。

I worry about her safety.

私は彼女の安否が心配だ

sail は「①(船の)帆 ②帆船 ③航海、帆走」「①(船・人が)帆走する、航海する ②出帆する」。

これは(カタカナ英語の)「セール」「セーリング」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

He lowered[set/raised] the sail.

彼は帆を降ろした[揚げた]

They sailed south.

彼らは南に航海した

The ship sailed the Inland Sea.

船は瀬戸内海を航行した

Several gulls are sailing the sky.

カモメが数羽空を飛んでいる

saint は「聖人」。

これは(カタカナ英語の)「サンタクロース」から類推できる。サンタクロース(Santa Claus) は Saint. Nicholas からきている。saint はよく St. と略され、「St.○○」という名は建物や地名についていたりするのを見かける。

salary は「給料」。

これは（カタカナ英語の)「サラリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただし「サラリーマン」は和製英語。正しくは a salaried worker[employee]と言う。

get a decent[high] salary

世間並みの［高い］給料をとる

Who can live on a salary as small as I get?

私のよう少ない給料でだれが暮らして行けましょうか

a raise in salary

昇給

sale は「①販売 ②特売 ③売上高」。

これは(カタカナ英語の)「セール」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は sell で「売る」。活用は sell - sold - sold。sold-out は「売り切れ」だが、これも「ソールドアウト」でおなじみ。

I sold my house for forty thousand dollars.

私は家を4万ドルで売った.

Bananas were sold at ten cents apiece.

バナナは1本10セントで売られた

salvage は「①海難救助(をする) ②(沈没船の)引き上げ作業(をする)」。

これは(カタカナ英語の)「サルベージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

sample は「見本、サンプル」。

これは(カタカナ英語の)「サンプル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。sample の場合、動詞として「①試飲[試食]する、体験する ②見本で調べる」という意味にもなる。

a sample of the drug

薬の見本

Let me sample your cake.

あなたの作ったケーキの味見をさせてください

sanctuary は「(野鳥あるいは動物の)保護区、聖域」。

これは(カタカナ英語の)「サンクチュアリ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

sand は「砂」。

これは(カタカナ英語の)「サンド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに rock は「岩」。soil は「土」。

rock には「～を揺り動かす」という意味もあるが、これは「ロックミュージック」から類推できる。ロックミュージックとは「魂を揺り動かす音楽」ということ。ちなみに lock は「鍵(をかける・がかかる)」という意味。

The sand is as fine as powdered sugar.

その砂は粉砂糖のようにきめ細かい

sanitaryは「①衛生(上)の ②衛生的な、清潔な」。

これは(カタカナ英語の)「サニタリー」から類推しよう。サニタリーとは、建築関係では、トイレ、浴室、洗面所などの住宅内の衛生設備のある(つまり水回り関連の)部屋を総称して言う。また浴室マット・洗面用具・タオルハンガーなど、衛生的な暮らしに役立つ(特に水回り関連の)品を指してサニタリー用品と言ったりする。

a sanitary office

(港にある)検疫所

sanitary science

公衆衛生学

satellite は「衛星」。

これは（カタカナ英語の)「サテライト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。よくサテライト予備校という名前を耳にするが、それは「本部とコンピューター・通信機器でつないで(予備校の授業をＡＶ機器を通して受講できる)小規模な塾・予備校」のこと。

The moon is a satellite of the earth.

月は地球の衛星です

a communications[weather] satellite

通信［気象］衛星

transmit the game by satellite

試合を衛星中継する

savage は「①野蛮な ②粗野な ③どう猛な、猛烈な」(形)
「野蛮人」(名)

「ソバージュ(ヘア)」から類推できる。ソバージュ(ヘア)とは「毛先のほうから弱く細かいパーマをかけてウエーブをつけた野性的な髪形」。

scale は「①規模 ②尺度、物差し、目盛り ③縮尺、比率 ④段階、等級」。

このうち①～③までは(カタカナ英語の)「スケール」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。scale は動詞として「①縮尺する ②(山に)よじ登る、(はしごで)登る」という意味もある。

They began to advertise a new product on a large scale.

彼らは新製品を大々的に宣伝し始めた

This ruler has a scale in inches.

この定規はインチの目盛りが付いている

This plan is drawn to a scale of one-tenth.

この設計図は10分の１の縮尺で描かれている

scan は「①(新聞などを)ざっと見る、目を通す ②～を注意深く調べる ③(レーダーがある範囲を)走査する ④(Ｘ線・放射線などで)人体の走査[断層]写真を撮る」。

これは(カタカナ英語の)「スキャン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。scan は名詞として「探るように目を通すこと、綿密な調査」という意味もある。

I scanned the headlines.

私は見出しにざっと目を通した

She scanned the person from head to foot.

彼女は頭のてっぺんから足の先までその人をじろじろ見た

scenario は「筋書き、シナリオ」。

これは(カタカナ英語の)「シナリオ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
また「(未来の出来事などの)転回予測、(計画, 陰謀などの)筋書き」といった意味にもなるが、こちらもカタカナ英語でおなじみ。

a scenario for the settlement of the racial conflict

民族紛争解決の見通し

scene は「場面、光景、(小説などの)舞台」。

これは(カタカナ英語の)「シーン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ「(事件などの)現場」も scene と言うので注意。「被災現場」は the scene of the disaster と言う。

The swans on the river make a dreamlike scene.

白鳥が川に浮かんで夢のような光景だ

I missed the first few scenes of the movie.

私はその映画のはじめの数シーンを見損なった

the political scene

政界

The island was the scene of a fierce battle in the Pacific War.

その島は太平洋戦争で激戦が行われた地です

schedule は「スケジュール(を立てる)」。

これは(カタカナ英語の)「スケジュール」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ動詞の schedule の重要な語法として be scheduled to do[原形]～ で「～する予定になっている」は覚えておこう。

according to schedule

①予定［計画］どおりに ②予定［計画］によれば

ahead of schedule

予定［定刻］より早く

behind schedule

予定［定刻］より遅れて

on schedule

予定どおりに，定刻に

We are scheduled to stay here for a week.

我々は当地に１週間滞在する予定です

Several flights are scheduled between the two cities every day.

２都市間に空の便が毎日数便運行されている

a scheduled flight

定期便

scheme は「計画(する)」。

これは(カタカナ英語の)「スキーム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「どのようなスキームで…」といったフレーズをよく耳にする。

scholarship は「奨学金」。

これは(カタカナ英語の)「スカラーシップ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに scholar は「学者」という意味になる。これらはみな school(学校)と同語源。

receive a scholarship

奨学金を受ける

I attended a university on a scholarship.

私は奨学金を受けて大学に通った

school は「学校」。

「学校」という意味の school は問題ないはずだが、「(学問・芸術の)流派、学派」という意味もあるので注意しよう。

the classical school

古典派

the Freudian school

フロイト学派

また schooling で「学校教育(を受けること)」という意味になる。

receive formal schooling

正規の学校教育を受ける

それから school には「(魚などの)群れ」という意味があり、a school of fish [whales] は「魚[鯨]の群れ」。

science は「科学」。

これは(カタカナ英語の)「サイエンス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は scientific で「科学的な、科学の」。scientist は「科学者」。

a man of science

＝scientist

科学者

applied science

応用科学

He is a teacher of science.

彼は理科の先生だ

score は「得点(する)、得点をつける、採点する」。

これは(カタカナ英語の)「スコア」から類推できる。変わった用法として scores of A は「多数のA」という意味になる。scores of books は「多数の本」。

I scored 90[high marks] on the examination.

私はその試験で９０点［高い点］を取った

The score is 3-1 for our team.

３対１で我々のチームが勝っている

scramble は「①よじ登る、はい登る ②(～しようと)先を争う、急いで～する ③(軍用機が)緊急発信する ④～をごちゃ混ぜにする、急いで無秩序に処理する ⑤スクランブルエッグを作る ⑥(電波を)暗号化する」。

(カタカナ英語の)スクランブルは、「スクランブルエッグ(炒り卵)」でおなじみだが、③の意味でも用いる。卵をごちゃ混ぜに(かき回)してスクランブルエッグを作るそのイメージから、②④⑥の意味も類推できる(ただ⑥については「スクランブルをかける[がかけられている]」などと言ったりする。

He scrambled up the steep hill.

彼は険しい山をよじ登った

She scrambled in through the window.

彼女は窓から中へはい込んだ

They scrambled to get out of the room.

彼らは部屋から出ようと先を争った

script は「①原稿 ②(舞台の)台本、脚本 ③手書き(の文字)、筆跡(＝handwriting)」。
これは①と②については(カタカナ英語の)「スクリプト」が同じ意味で用いるので、③の意味をおさえよう。script は動詞として「①脚本[原稿]を書く ②立案する」という意味もある。

He wrote a script for comedy.
彼はある喜劇の脚本を書いた
in Arabic script
アラビア文字で
The week-long cinema festival was scripted by a team of three experts.
１週間におよぶ映画祭は３名の専門家チームによって計画された

seal は「①シール(を貼る) ②封印する」。
①の意味については(カタカナ英語の)「シール」がほぼ同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味も「封書にシールを貼る→封印する」という流れはわかりやすいはず。
seal には「公印」という意味もある。
「アザラシ」も seal と言う。
ちなみに label は「ラベル、レーベル」という意味以外に「レッテル(を貼る)」という意味があるので注意。label O C で「OはCだというレッテルを貼る」。なお label は[leibl(レイブル)]と発音する。要注意。

We signed and sealed the treaty.
我々はその条約に署名し調印した
He licked and sealed (up) the envelope.
彼は封筒をなめて封をした
I broke the seal of the letter
手紙の封印を切った
The bottle was labeled poison.
その瓶には毒薬と表示したレッテルが張ってあった

He labeled Nancy (as) a liar.

彼はナンシーにうそつきというレッテルを貼った[うそつきだとみなした]

seasoning は「①(個々の)調味料、薬味 ②味かげん、調味」。

①については(カタカナ英語の)「シーズニング」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。そこから②もつなげよう。

seat は「座席」。

これは(カタカナ英語の)「シート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ seat は動詞としても用いられ、その場合「～を座らせる」という意味の他動詞になる点に注意したい(「座る」とはならない)。

He seated the guests at the table.

彼は客をテーブルの席に着かせた

したがって「(自分が)座る[っている]」とするためには seat oneself 又は be seated としないといけない。

㊟似た動詞に sit があるが、sit は自動詞で、こちらは「座る」という意味になる。

Please be seated.

どうかお座りください

=Please sit down.

She seated herself beside her husband.

彼女は夫のそばに座った

secondary は「①第二の ②二次的な、副次的な」。

これは(カタカナ英語の)「セカンド」から類推できる。セカンド(second)とは、「二番目

の」という意味。

of secondary importance

２番目に重要な

a secondary product

副産物

secondary education

中等教育

secretary は「秘書」。

これは(カタカナ英語の)「セクレタリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。secretary とは「秘密(secret)を任された人」ということ。ただ Secretary は「(各省の)長官」という意味になる。the Secretary of State は「国務長官」。

secret が「秘密(の)」という意味になることは(カタカナ英語の)「シークレット」でおなじみ。

sector は「部門、分野」。

これは(カタカナ英語の)「セクター」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

the public and private sectors

公営および私営企業[部門]

select は「～を選ぶ、選別する」。

これは(カタカナ英語の)「セレクト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞として「選りすぐりの、精選した」という意味にもなるが、こちらもおなじみ。

名詞形の selection(選択、選択したもの)も、「セレクション」としてカタカナ英語になっている。

He was selected to represent our school in the speech contest.

彼は弁論大会のわが校の代表に選ばれた

select wines

極上のワイン

selfish は「利己的な、自己中心的な」。

これは(カタカナ英語の)「セルフィッシュ」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。self に「自分(自身)」という意味があるのも「セルフサービス」といった言い方でおなじみ。

a selfish person

わがままな人

Don't be so selfish.

勝手なことを言うな［するな］

senior は「①先輩(の) ②上級の ③古参の」。

これは(カタカナ英語の)「シニア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。senior は名詞として「(大学・高等学校などの)最上級生」という意味もある。

He is two years senior to me.

彼は私より２つ年上だ

the senior members of a club

クラブの古い会員

the seniors of the profession

同業の先輩

sensation は「大評判(の物・人)、大騒ぎ、センセーション」。

これは(カタカナ英語の)「センセーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ sensation には「①感覚②…感」という(feeling と同じ)意味もあるので注意。

a sensation of fear

恐怖感

I have an unpleasant sensation of dizziness.

いやなめまいがする

I had the sensation that I was being followed.

私は（なんとなく）跡をつけられているという感じがした

sense は「感覚、意味」。

「感覚」という意味の場合、(カタカナ英語でも)「いいセンスを持っている」などと言う。また「意味」という意味の場合、「ナンセンス(nonsense)」が「無意味」となるところから類推できる。

in every sense of the word

あらゆる意味で

This word is used in a broad[narrow] sense.

この単語は広義［狭義］で使われている

He is a gentleman in the true sense of the word.

彼は本当の意味で紳士だ

ただ sense には「分別」「正気」という意味もあるので注意。lose one's senses で「正気を失う」。come to one's senses で「正気を取り戻す」となる。

a man of sense

(思慮)分別のある人
=a sensible man
He had sense enough not to take part in the quarrel.
彼にはその口論に加わらないだけの分別があった

sensitive は「敏感な、繊細な、神経過敏な」。
これは(カタカナ英語の)「センシティブ」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。
ただし sensible(分別がある、賢明な)という形容詞との区別を明確に。
類語の sensor は「感知器」でこちらもカタカナ英語でおなじみ。

He is very sensitive to (the) cold.
彼は寒さに非常に敏感だ
sensitive skin
敏感な肌
He was very sensitive to our feelings.
彼は我々の気持ちをとてもくんでくれた
a sensitive child
神経質な子供

sentence は「文」。
これは(カタカナ英語の)「センテンス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ sentence は「(刑の)宣告、判決(を下す)」という意味もあるので注意。the death sentence は「死刑の宣告」。

Usually a sentence consists of more than one word.
文はふつう２語以上でできている.
The judge sentenced the accused to death.

裁判官は被告に死刑を宣告した

sentiment は「感傷、心情」。

これは(カタカナ英語の)「センチメンタル」から類推できる。センチメンタル(sentimental)とは「感傷的な」という意味で、sentiment の形容詞形だ。

separate は「～を分ける、区別する」(動)
「別々の」(形)

これは(カタカナ英語の)「セパレート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞の場合、separate A from B で「AをBから分離する、分ける、分け隔てる」という語法がある。

England is separated from France by the sea.

英国はフランスと海で隔てられている

We can't live separate from others.

他人と離れては暮らせない

series は「シリーズ」。

これは(カタカナ英語の)「シリーズ」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。(野球の)「日本シリーズ」は the Japan Series。それから series は、a series of A で「一連のA」という意味になる。

a series of experiments[discoveries]

一連の実験[発見]

a series of formulas

一連の数式
A series of accidents ruined his health.
思わぬ事故が重なって健康をすっかり損ねた

session は「①(特定の目的・活動のための)集まり、集会 ②(医師などによる)面談」。これは(カタカナ英語の)「セッション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ session の場合「(議会の)会期、開会」という意味もある。in session は「開会[会議]中で」。

a secret session
秘密会議
The Diet is now in session.
国会は現在開会中です
a jazz session
ジャズの演奏会

set

set の『核』のイメージは「あるものを、定められた位置にきちんと置く(据える・定める)」で、基本的に put とよく似ている。

(ex) The teacher set the tape recorder on the desk.
先生は机の上にテープレコーダーを置いた

set の活用は set - set - set。

She set the dishes on the table. 彼女はテーブルにごちそうを並べた

ただし、put は単に物の(ある場所から別の場所への)移動を表すが、set は「ある種の意図(目的)」をもって、つまりあらかじめ頭の中に設定した場所[位置]や状態[機能]へきちんと移動させる[する]ことを表す。

「セット」だけに「設定(する)」…。こんな語呂合わせで覚えるのもいいだろう。

例えば目覚まし時計を set すると言うが、put するとは言わない。髪を set すると言うが、put するとは言わない。

(ex) I set my alarm clock for five a.m.

目覚まし時計を午前５時にセットした

I got my hair set. 髪をセットしてもった

The speaker set his face toward the audience.

演説者は顔を聴衆に向けた

set は「(ある意図を持って)置く(据える)」から転じて、「(仕事などを)課す」「(模範などを)示す」といった意味にもなる。

(ex) set an examination 試験の問題を作る、試験を課す

You must set a good example for your children.

子供のよい手本にならなくちゃね

set は「(意図して)AをBの状態に置く → AをBの状態にする、AにBさせる」といった言い方もある。

(ex) Lincoln set the slaves free. リンカーンは奴隷を解放した

Set your mind at rest. 心を落ち着かせなさい

set a house on fire 家に放火する

His words set me thinking deeply about my future.

彼の言葉に私は自分の将来のことを深く考えさせられた

She set her husband to paint the roof.

彼女は夫に屋根のペンキ塗りをやらせた

また set は「(規則・制度・数量・値等)を定める、設定する」といった意味にもなる。

(ex) They set the date for their wedding.

彼らは結婚式の日取りを決めた

set conditions for the agreement 協定のための条件を決める

set が自動詞として用いられると、「定まる(定まった方向に自身が向かう)」「固まる[定着する]」。更にそこから「(太陽・月が)沈む」「(風・流れ・時代が)向かう」などいろいろな意味になる。

(ex) The sun sets in the west. 日は西に沈む
The wind set to the north. 風が北に吹いていた
Cement sets as it dries. セメントは乾くと固まる
Her face set to hear the news.
彼女の顔は その知らせを聞くとこわばった

また set about A(仕事など) で「Aに取りかかる」、set off で「出発する」という決まり文句もあるが、これも「定まった方向に向かう」から転じたもの。

(ex) Jim set about the work[writing]. ジムは仕事[執筆]にとりかかった
He set about shaving. 彼はひげをそり始めた
They set off on a trip to Hawaii. 彼らはハワイ旅行に出かけた

severe は「厳しい」。

これは(カタカナ英語の)「シビア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「シビアな現実をかいま見る」などと言ったりする。

This is the severest winter we have had in five years.
５年ぶりの厳冬でした
a severe mother
厳格な母
a severe examination
むずかしい試験

sexism は「性差別(主義)、女性差別」。

これは(カタカナ英語の)「セックス」から類推できる。セックスは「①性交 ②性別」という意味。 -ism は「主義、学説、特性」などを表す接尾辞だ。

英語の sex の第一義は「性別」で、書類の sex 欄には、男性は M(Male) 女性は F(Female) と書く

ちなみに feminism は「男女同権主義，女性解放論; 女権拡張運動」。

shake は「～を振る、ゆさぶる」。

これは（カタカナ英語の)「シェイク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。比喩的に「動揺させる」という意味にもなる。shake hands (with A(人)) で「(Aと)握手する」。

活用は shake - shook - shaken。

She shook the bottle to mix the salad dressing.

彼女はびんを振ってドレッシングをよくまぜ合わせた

The earthquake shook the building.

地震で建物が揺れた

She shook her son awake.

彼女は息子を揺すって起こした

shape は「形(作る)」。

これは（カタカナ英語の)「シェイプ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

ただ「シェイプアップ」というと「体形をよくする」という意味に(カタカナ英語では)なるが、英語の shape up は「①行儀をよくする ②力を出す、頑張る ③体調をよくする[がよくなる]」という意味しかないので注意。

in shape で「①健康で，調子がよくて ②本来の形で」。反意表現は out of shape。

The earth is like an orange in shape.

地球はオレンジのような形をしている

a devil in human shape

人間の姿をした悪魔

He shaped a vase from[out of] clay.

彼は粘土で花瓶を作った

sharp は「鋭い、くっきりした、素早い」。

これは（カタカナ英語の）「シャープ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。意外な意味として、副詞 として sharp が「(時間が)かっきり、正確に」という意味になることがある。She arrived here at five sharp. は「彼女は５時きっかりにここに到着した」。

a sharp knife

よく切れるナイフ

shave は「(顔・ひげなどを)剃る」。

これは(カタカナ英語の)「シェイブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞で「ひげそり」という意味もある。また「～を削る、削減する」という意味もあるが、こちらも類推しやすいはず。

He shaved off his beard.

彼はあごひげをそり落とした

The barber shaved me.

理容師にひげをそってもらった

たな

shelf は「棚」。

これは(カタカナ英語の)「シェルフ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。 bookshelf と言えば「本棚」。ちなみに sheriff は「保安官」。

Please put it back on the shelf.

それを棚に戻してください

shell は「貝(殻)」。

これは(カタカナ英語の)「シェル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

We gathered shells on the beach.

我々は浜で貝殻を拾った

shelter は「避難所」。

これは(カタカナ英語の)「シェルター」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。また英語で「衣食住」のことを food, clothing(,) and shelter と言う。shelter は動詞として「～をかくまう、保護する」という意味もある。

He sheltered her under his umbrella.

彼は彼女に傘をさしかけてやった

He sheltered an escaped political offender from the police.

彼は政治犯を警察からかくまった

These flowers must be sheltered from direct sunlight.

これらの花に直射日光が当たらないようにしなければならない

shepherd は「羊飼い」。

これは(カタカナ英語の)「シェパード」から類推しよう。犬のシェパードは、元々羊飼いが飼う牧羊犬として使用されていたものだった。shepherd は比喩的に「①～を監視する、守る ②～を導く、指図して従わせる」という意味にもなる。

He shepherded his party into politics.

彼は皆の関心を政治問題に向けさせていった.

shield (たて) は「①楯 ②防御物」。

これは(カタカナ英語の)「シールド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞として「①～を防御する ②～を隠す」という意味もある。

Ted protected himselves with the shield.

テッドは盾で身を守った

They used some of their hostages as shields.

彼らは人質の何人かを盾に使った

He shielded his wife with his own body.

彼は自分の体で妻をかばった

Shield me from danger.

私を危険から守ってください

shift は「変える[わる]」「①変化 ②(勤務の)交替」。

これは（カタカナ英語の)「シフト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。shift A from B to C で「AをBからCへと変える[移す]」となる。

She shifted the suitcase from her right hand to the left.

彼女はスーツケースを右手から左手に持ちかえた

The girl had to shift for herself after her parents were killed in the traffic accident.

両親が交通事故で亡くなってから少女はひとりでやっていかなければならなかった

shine は「①輝く、秀でる ②～を照らす ③～を磨く」。

これは(カタカナ英語の)「シャイン」「シャイニング」から類推できる。shine の活用は、①②の場合 shine - shone - shone。③の場合のみ shine - shined - shined。形容詞形は shiny で「①輝いている、光沢のある ②晴天の」だが、こちらも「シャイニー」でおなじみ。それから shine は名詞として「光、光沢」という意味もある。

The stars are shining brilliantly.

星がきらきらと輝いている

Jane shines in classical literature.

ジェーンは古典文学ではぴか一だ

He shined his own shoes before going out.

出かける前に自分で靴を磨いた

ship は「船」(名)

「①(商品・物資などを)船で送る[運ぶ]、船に積む ②(船・列車・トラック・飛行機などで) ～を送る、輸送する」(動)

「船」という ship はいいとして、動詞の ship の意味をしっかり覚えよう。

㊟ただ最近では「荷物を送ること」を「シップ」「シッピング」と表現することも増えてきた。

They shipped goods from Kobe to Singapore

貨物をシンガポール向けに神戸から船積みした

I shipped goods by rail.

商品を鉄道便で送った

They shipped the goods directly to Korea.

彼らはその品物を直接韓国に送った

shock は「衝撃[打撃](を与える)」。

これは(カタカナ英語の)「ショック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

The news shocked her very much.

＝She was very much shocked at the news.

その知らせに彼女は大きなショックを受けた

shoulder は「肩」。

これは(カタカナ英語の)「ショルダー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ shoulder の発音は[ʃouldə r (ショウルダー)]なので注意。ちなみに neck は「首」。ただ「〇〇問題解決のネックになっている」という場合のネックは、英語では bottleneck と言う。

The responsibility is on my shoulders.

責任は私の双肩にある

He was shouldering a knapsack.

彼はリュックを背負っていた

You should shoulder responsibilities.

君は責任を担わなくてはならない

動詞として「肩に背負う」「(責任などを)負う、引き受ける」という意味もある。

shout は「叫ぶ[び]、怒鳴る」。

これは(カタカナ英語の)「シャウト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

They shouted for[with]　joy.

彼らは歓声を上げた

He shouted that it had stopped raining.

彼は雨がやんだと叫んだ

He ran off with a shout.

彼は叫びながら走り去った

shove は「～をぐいと押す」。

これは(カタカナ英語の)「シャベル」から類推できる。シャベル(shovel) は「土砂を押しやる(shov)+道具(el)」ということ。shovel は「シャベルで(土砂を)すくう」という動詞の意味もある。

He shoved the book into my bag.

彼はその本を私のかばんの中に押し込んだ

shrink は「①縮む、縮小する ②(数・量が)減る」。

これは(カタカナ英語の)「シュリンク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
活用は shrink - shrank[shrunk] - shrunk[shrunken]。

The population of the town has shrunk in recent years.

その町の人口は近年減っている

shut は「～を閉める」。

これは(カタカナ英語の)「シャッター」から類推できる。シャッター(shutter)とは「(窓や

戸を閉じるためのもの」。また「黙れ」という意味で「シャラップ(shut up)」と言ったりする。これは「完全に口を閉じろ」という意味。

Please shut the door.

戸を閉めてください

He shut the door behind him.

彼は入って戸を閉めた

Shut your eyes.

目をつぶりなさい

The summer resort shuts down during the winter.

避暑地は冬の間は休んでいる

shuttle は「①(特に近距離の２地点間を往復する)折り返し運転列車[バス・飛行機・船]
②織機の杼(ひ)」(名)
「①左右に動く[かす] ②(定期的に)往復する[させる]」(動)

「杼」…たて糸の間を往復してよこ糸を通す器具。

名詞の shuttle については(カタカナ英語の)「シャトル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。スペースシャトルは地球と宇宙を何度も往復できる乗り物だ。そこから動詞の意味も類推はしやすいだろう。

Trains are constantly shuttling between Kyoto and Osaka.

京都大阪間では電車が絶えず折り返し運転をしている

silent は「①静かな ②沈黙した ③(映画などが)無声の、無言の」。

これは(カタカナ英語の)「サイレント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は silence で「(1)沈黙 (2)静寂」。

silence は動詞として「～を黙らせる」という意味にもなる。

副詞形は silently で「(1)沈黙して、黙って (2)静かに」。

He silenced the noisy room.

彼は騒がしい部屋を静まらせた

His speech is silent on the subject.

彼の話はその問題には言及していない

History has been silent about the matter.

歴史にはこの事件について何も書かれていない

simplify は「～を単純化する」。

これは(カタカナ英語の)「シンプル」から類推できる。シンプル(simple)が「単純な」という意味は誰でも知っているはず。それに「～にする、～化する」という意味の -fy という接尾辞がついたに過ぎない。

simplify a problem

問題を簡単にする

simplify the spelling of a word

単語の綴つづりを簡略化する

simulation は「①模擬実験 ②ふり[まね]をすること、みせかけ」。

これは(カタカナ英語の)「シミュレーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。①はおなじみだが、②についても、サッカーで相手のファール[反則]を受けたふりをしてわざと倒れたりすることをシミュレーションと言う。動詞形は simulate で「まねる、ふりをする、装う」。

The question stimulated his interest in mathematics.

その問題は数学への興味を刺激した

He tried to stimulate local industry.

彼は地方産業を盛り上げようとした

singular は「単数の」。

これは(カタカナ英語の)「シングル」から類推しよう。

single には「単独、独身、一人用の、ひとつだけの」などの意味があるが、すべて「シングル」から類推できるはず。

ただ singular の場合、「こんなことができるのは一人だけ→非凡な、並外れた」という意味もある。良くない意味にも用いられ、「こんなことをやるのは一人だけ→他にはいない→奇妙な、風変わりな(=strange)」という意味にもなる。

situation は「状況」。

これは(カタカナ英語の)「シチュエーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

the current situation

現況

a worsening situation

悪化しつつある状況

a change in the situation

情勢の変化

in a given situation

ある状況では

sketch は「①スケッチ(する) ②概要(を述べる)」。

これは(カタカナ英語の)「スケッチ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

skid は「スリップ(する)、横滑り(する)」。

これは(カタカナ英語の)「スキッドレスタイヤ」から類推できる。スキッドレスタイヤとは、冬の凍結した道路でもスリップしないような加工を施したタイヤのことだ。

My car went into a skid.

私の車はスリップした

skill は「技術」。

これは(カタカナ英語の)「スキル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は skillful, skilled で「技術に満ちあふれた→熟練した、熟達した」となる。

a man of skill

熟練人、名人

He drove a car with skill.

彼はじょうずに車を運転した

She showed her skill in skating.

彼女はスケートの技量を示した

skin は「肌、皮膚」。

これは(カタカナ英語の)「スキン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

He was wet[soaked] to the skin.

彼はずぶぬれになった

He has some kind of skin trouble.

彼はある種の皮膚病にかかっている

skip は「①飛ぶ、スキップする ②(省略して)飛ばす」。

これは(カタカナ英語の)「スキップ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味をしっかりおさえよう。skip a meal は「一食抜かす」、skip a class は「授業をさぼる」。

She is skipping about for joy.

彼女は喜んで跳ね回っている

He skipped town.

彼は町から姿をくらました

skip は「姿をくらます、逃げ出す」という意味もある。

slate は「(屋根ふき用の)薄板」。

これは(カタカナ英語の)「スレート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。また「スレートＰＣ」と言えば、平たい板のような薄い携帯用の端末のこと。動詞として「スレートで屋根をふく」という意味もある。また比喩的に「公認候補者名簿」という意味にもなる。これは昔、選挙の候補者の名簿を平たい石の板に書いたことに由来する。

a roof covered with slates

スレートぶきの屋根

slender は「(魅力的に)ほっそりとやせた」。

これは(カタカナ英語の)「スレンダー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

He is slender in build.

彼は体格がほっそりしている

a slender possibility

わずかな可能性

a slender income

わずかな収入

slide は「滑る[らせる]、滑走する」。

これは(カタカナ英語の)「スライド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。またスポーツで「スライディング」という表現でおなじみのはず。活用は slide - slid - slid[slidden]。slide は名詞として「①滑ること、滑走[路] ②地滑り(=landslide)」という意味にもなる。ちなみに「滑り台」「(写真の)スライド」も slide と言う。

She is sliding on the ice.

彼女は氷の上を滑っている

He slid the dictionary across the table to me.

彼は辞書をテーブルの向こうから私のところへ滑らせてよこした

He slid a jackknife into his pocket.

彼はポケットにジャックナイフをそっと忍ばせた

slim は「ほっそりとした」。

これは(カタカナ英語の)「スリム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ほぼ同じ意味の slender も「スレンダー」でおなじみ。

そして slender 同様、「わずかな、不十分な、貧弱な」という意味もある。

She has a slim figure.

彼女はほっそりした体つきだ

There is a slim chance of winning.

わずかに勝つ見込みがある

slip は「すべる(こと)、すべらせる」。

これは(カタカナ英語の)「スリップ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。比喩的に副詞句などを伴って「そっと動く」という意味にもなり、たとえば slip into A(場所) は「Aにそっと忍び込む」。また「(記憶などから)去る、抜け落ちる」という意味もある。

He slipped and fell on the icy road.

彼は凍りついた道路で滑って転んだ

He slipped on a banana peel.彼はバナナの皮で足を滑らせた

The thief slipped into the house without a sound.

どろぼうは物音一つ立てずにその家に忍び込んだ

Her name has slipped from my mind.

彼女の名前を度忘れしてしまった

slit は「細長い切り口[裂け目」。

これは(カタカナ英語の)「スリット」から類推できる。スリットとは、スカートに入った切れ込みのこと(slit にも同じ意味がある)。slit は動詞として「①切れ込みを入れる ②細長く切る」という意味もある。活用は slit - slit - slit。

slits of light

細いすき間から漏れる光

He slit wood into strips

彼は木を幾すじかに細長く切った

slump は「①(物価などが)暴落する、(商売・景気・人気などが)停滞する ②どしんと落ちる[座る、倒れる]、落ち込む」「不景気、不振、不調」。

これは(カタカナ英語の)「スランプ」から類推できる。

a slump in prices

物価の暴落

go into a slump

スランプに陥る

The runner slumped to the ground.

ランナーは地面にどしんと倒れた

smart は「①賢い ②おしゃれな、洗練された」。

これは(カタカナ英語の)「スマート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ「油断のならない，悪賢い，抜け目のない」という(悪い)意味にもなりうるので注意。

(カタカナ英語の)スマートの場合、「やせた」という意味があるが、smart にはそのような意味はないのでこれも注意。「彼女はやせている」は、英語では She is slender. あるいは She is slim. と言う。

He looks smart.

彼は利口そうだ

a smart saying

気の利いた言葉

a smart salesman

抜け目のないセールスマン

It wasn't very smart of you to tell her your name.

彼女に名乗るなんて君は賢明じゃなかった

smell は「におい(を嗅ぐ・がする)」。

これは(カタカナ英語の)「スメル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

I smell rags burning.

ぼろきれが燃えているにおいがする

I can smell (that) this fish is rotten.

この魚が腐っていることはにおいでわかる

She is smelling at a rose.

彼女はバラのにおいをかいでいる

smoke は「①煙 ②(たばこの)一服、喫煙」「たばこを吸う」。

(カタカナ英語の)「スモーク」は「煙」という意味しかないが、他の意味もそこから類推しやすいはず。形容詞形は smoky で「煙の多い、煙臭い」。ちなみに「たばこ」は cigarette。「葉巻」は cigar。tobacco は「①きざみたばこ ②たばこ草」のこと。

The room was full of smoke.

部屋は煙で一杯だった

Do you mind if I smoke?

たばこを吸ってもいいですか

The chimney is smoking.

煙突から煙が出ている

smooth は「なめらかな[にする・になる]」。

これは(カタカナ英語の)「スムーズ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

society は「社会」。

これは（カタカナ英語の）「ソサイエティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「上流社会」のことを high society というが、これも「ハイソ」でおなじみ。形容詞形は social で「①社会の(中における)、社会的な ②社交(界)の ③(人・性格などが)交際上手な、愛想のよい(=sociable)、 人付き合いの(上での) ④社会主義の」。

aging society

高齢化社会

disposable society

使い捨て社会

go into society

社交界に入る

social problems

社会問題

social spirit

公共心

She is quite a social woman.

彼女はなかなかの社交家だ

Man is a social being.

人間は社会生活を営む生きものだ

software は「(コンピュータ・ゲームなどの)ソフトウェア」。

これは(カタカナ英語の)「ソフトウェア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。反意語は hardware だが、これも「ハードウェア」でおなじみ。

「ハードウェア」とは、（コンピュータなどの）形として見えている部分。機械的な部分のこと。

solar は「太陽の」。

これは(カタカナ英語の)「ソーラー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。the solar system は「太陽系」。solar calendar は「太陽暦」。

soldier は「兵士、軍人」。

これは(カタカナ英語の)「ソルジャー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

soldiers and sailors

陸海軍人

The boys were playing (at) soldiers.

少年たちは兵隊ごっこをしていた

someday は「(将来の)いつか」。

これは(カタカナ英語の)「サムデイ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

I want to go to the United States someday.

いつかアメリカへ行きたい

Some day or other I must go to London.

いずれはロンドンへ行かなくてはならない_

sophisticated は「洗練された」。

これは(カタカナ英語の)「ソフィスティケート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

sophisticated tastes

洗練された趣味
a sophisticated sense of humor
ユーモアを解する洗練された感覚
a sophisticated style
凝った文体

soup は「スープ」。

これは(カタカナ英語の)「スープ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

chicken[tomato, onion, vegetable] soup
チキン［トマト，オニオン，野菜］スープ

sour は「酸っぱい」。

これは(カタカナ英語の)「サワー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ sour は「(酸化して)酸っぱくなった→腐った」という意味にもなる。The milk went sour. で「そのミルクは腐った」となる。また、比喩的に「(人が)不機嫌な、気むずかしい、意地の悪い」という意味にもなる。

sour milk
酸っぱくなった牛乳
sour looks
不機嫌な顔つき
a sour attitude
気難しい態度
take a sour view of their new plan
彼らの新計画について意地の悪い見方をする

source は「源」。

これは(カタカナ英語の)「ソース」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「情報源」のことを「情報ソース」と言ったりする。ちなみに料理用語の「ソース」は sauce。

Music is a source of endless pleasure.

音楽は無限の楽しみのもとである

The news comes from a reliable source.

そのニュースは確かな筋から出ている

historical sources

史料

a news source

ニュースの出所

Who was your source for it?

誰からそれを聞きましたか

soybean は「大豆」。

これは「ソイジョイ」から類推できる。ソイジョイとは、大塚製薬が販売している大豆粉を使用した固形状の栄養食品の名前。ちなみに soy は「醤油(しょうゆ)」に由来する。醤油を原料となる豆ということで、大豆を soybean と呼ぶようになった。bean は「豆」という意味。

space は「①空間 ②宇宙」。

これは(カタカナ英語の)「スペース」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

spacecraft は「宇宙船」。形容詞形は spatial は「空間の」、spacious は「広々とした、広大な」。

a blank space

余白，空欄

Is there space for one more person?

もう１人分の空きはありますか

That desk takes up a lot of space.

その机はかなり場所をとる

time and space

時間と空間

outer space

（大気圏外の）宇宙（空間）

The rocket was launched into space.

ロケットは宇宙に打ち上げられた

span は「期間、長さ」。

これは（カタカナ英語の）「スパン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい（「長いスパンで考える」などと言う）。span は動詞として「測る」という意味もある。

Our life is but a short span.

人生はつかの間にすぎない

the span of the river

その川の全長

The bridge spans the river.

橋が川にかかっている

span a river with a bridge

川に橋をかける

His career spans half a century.

彼の経歴は半世紀にわたっている

spectacle は「①壮大な光景 ②(映画や演劇などの)豪華・壮大な見せ場 ③(大がかりな)見せ物、ショー」。

これは(カタカナ英語の)「スペクタクル」がほぼ同じ意味で用いるので類推しやすいはず。形容詞形は spectacular で「壮観な、壮大な」。それから spectacles で「メガネ」という意味もある。これは glasses で言い換えられる。

The polar lights made quite a spectacle.

オーロラはすばらしい眺めだった

an entertaining spectacle

おもしろい見世物

I got new spectacles.

新しいめがねを買った

spectrum は「①スペクトル ②(あるものに関する)全領域 ③(変動する)範囲、幅」。

①については(カタカナ英語の)「スペクトル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。スペクトルとは、光を分光器で分解してできる７色の帯のこと。②や③の意味もおさえよう。

a wide spectrum of intellectual activities は「広範囲の知的活動」。

spider は「クモ」。

これは(カタカナ英語の)「スパイダー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

spin は「回転させる[する]」。

これは(カタカナ英語の)「スピン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。spin には他に

「(糸を)紡ぐ」という意味もある(名詞で「回転」という意味も)。活用は spin - spun - spun。「テレビなどで好評のシリーズものなどをもとに発展させたもの」のことを「スピンオフ」というが、これは spin-off でいい(spin-off には「①続編 ②副産物」という意味もある。

spin a ball

ボールを回転させる

spin a coin

硬貨をはじいてくるくる回す ☜表か裏かで勝負する。

spirit は「精神」。

これは(カタカナ英語の)「スピリット」と全く同じなのでわかりやすい。ただ spirit の場合、「①~な人 ②(聖)霊 ③気分」といった意味にもなる。spirits で「ウィスキー、ブランデーなどの)酒」という意味もある。

spirit の形容詞形が spiritual で「①精神の(⇔ material:物質の) ②霊的な」。

これも(カタカナ英語の)「スピリチュアル」でおなじみ。

He says that the spirit lives on when the body dies.

彼が言うには人の肉体は滅んでも霊魂は生き続けるということだ

She spoke with spirit.

彼女は意気込んで話した

That's the spirit!

その意気だ

They are in high[good, great, excellent] spirits.

彼らは上機嫌だ

He is in low[poor] spirits today.

彼は今日は元気がない［しょげている］

out of spirits

元気なく、意気消沈して

spoil は「①(物・事を)ダメにする、台無しにする ②(人を)甘やかす」。

これは(カタカナ英語の)「スポイル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
活用は spoil - spoiled[spoilt] - spoiled[spoilt]。

The rain spoiled the picnic.

雨でピクニックがだいなしになった
The crops were spoiled by the heavy rain.

作物が大雨でだめになった
a spoilt child

だだっ子
Spare the rod and spoil the child.

むちを惜しめば子供はだめになる → かわいい子には旅をさせよ 《諺》

sponge は「①スポンジ ②海綿(動物)」。

①については(カタカナ英語の)「スポンジ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
sponge は動詞として「～をスポンジでぬぐう[洗う・吸い取る]」という意味もある。

He has a memory like a sponge.

彼はスポンジのような記憶力を持っている → とても記憶力がよい
I wiped up the water with a sponge.

私は水をスポンジでふき取った

sponsor は「①保証人 ②(民間放送の)スポンサー、広告主 ③発起人、後援者、資金提供者」。

(カタカナ英語の)「スポンサー」は、②と③の意味ではおなじみだ。sponsor は動詞として「①～を主催する、講演する ②(民間放送の)スポンサーになる」という意味もある。

spray は「①噴霧(液) ②噴霧器」。

これは(カタカナ英語の)「スプレー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。spray には「水しぶき」という意味もある。また spray は動詞として「～を[に]吹きかける」という意味もある。

I saw sea spray cast up near the rock.

岩の近くでしぶきが上がるのが見えた

a spray of sand

砂煙

He sprayed insecticide on plants.

彼は植物に殺虫剤をかけた

spurt は「①噴出する、吹き出る ②全力を出す[して走る・漕ぐ・泳ぐ…]」。

②については(カタカナ英語の)「スパート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。①も、スポーツ選手などがラストスパートで全力をほとばしり出している様からイメージして覚えよう。

Tears seemed suddenly to spurt from her eyes.

涙が突然彼女の目から吹き出そうになった

The runners spurted forward in the last lap of the race.

ランナーたちは最後の一周に入るとスパートした

spy は「スパイ」(名)

「スパイをする、(～を)こっそり調べる、見張る」(動)

これは(カタカナ英語の)「スパイ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

square は「①正方形 ②広場 ③平方、２乗」。

①については(カタカナ英語の)「スクエア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②についても「タイムズスクエア」「マジソンスクエア」といった地名でおなじみ。③について、 The square of 5 は「５の２乗」。

I drew a square on the paper.

私はその紙に正方形を描いた

The performance was played in the town square.

その芸当は町の広場で演じられた

squeeze は「①～を絞る[り出す・取る]、握り[抱き]締める ②～を圧搾する、押し込む」。

「レモンスクイーザー」から類推できる。レモンスクイーザーとは、レモンしぼり器のこと(半分にカットしたレモンをそれに押し当ててレモン汁を取る)。あるいは野球のスクイズか ら類推してもいい。スクイズは(ヒットで点を取れそうもない場合に)バントで点を取ること。まさに苦肉の策で絞り出すような点の取り方というわけ。

stage は「①舞台 ②(成長の)段階」。

これは(カタカナ英語の)「ステージ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味でも「新たなるステージに入った」などと言ったりする。大学受験でも②の stage は頻出なので注意。

She came onto the stage with a card.

彼女はカードを手に舞台に現れた

at the early stage of civilization

文明の初期段階で

This is still in the test stage.

これはまだ実験段階にある

The negotiations have reached their final stage.

交渉は最後の段階に達した

stamp は「①切手 ②印章、スタンプ」「踏みつける、印を押す」。

名詞の stamp については、(カタカナ英語の)「スタンプ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。比喩的に「①特徴、特質、しるし ②痕跡」という意味にもなる。

ちなみに stump は「切り株」のこと。

Could I have two 50-cent stamps?

50セントの切手を２枚ください

Did you stamp the letter?

手紙に切手をはりましたか

This alone stamps him (as) a swindler.

このことだけで彼が詐欺師であることがわかる

stamp には「(～が)…であることを示す」という意味もある。

We stamped out a fire.

我々は火を踏み消した

stance は「足場、立場、物事に対処する姿勢」。

これは(カタカナ英語の)「スタンス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a fighting stance

戦う構え

They adopted[took] a more conservative stance.

彼らはより保守的な立場を取った

standard は「水準、標準」。

これは(カタカナ英語の)「スタンダード」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「生活水準」は a standard of living または a living standard と言う。

His thesis is above[below] standard.

彼の論文は水準以上［以下］だ

Average wages in our country are not high by Western standards.

我が国の平均賃金は西洋の水準からすれば高くない

statement は「声明、発言」。

これは(カタカナ英語の)「ステイトメント」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は state で「述べる」。

He made[issued]　a correct statement.

彼は正確な陳述を行った

a written statement

陳述書

The minister issued an official statement.

大臣は公式声明を発表した

status は「地位、身分」。

これは（カタカナ英語の）「ステイタス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「状態」という意味で用いることもあるが用例はそれほど多くない。

the improvement of women's status

女性の地位の向上

seek a high status in society

社会で高い地位につこうとする

steam は「蒸気(を出す)」。

これは(カタカナ英語の)「スチーム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

The pump is run by steam.

そのポンプは蒸気で動く

This building is heated by steam.

この建物はスチーム暖房です

The kettle is steaming on the stove.

やかんがコンロの上で湯気を立てている

stereotype は「紋切り型、固定観念」。

これは(カタカナ英語の)「ステレオタイプ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「ステレオタイプ的な見方をする」などと言ったりする。形容詞形は stereotypic(al) で「型にはまった(=conventional)」。

The cowboy and Indian are American stereotypes.

カウボーイとインディアンといえば米国の典型的なイメージだ

stock は「①蓄え、在庫 ②株(券)」。

これは(カタカナ英語の)「ストック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味でも「株式市場」のことを「ストックマーケット(stock market)」と言ったりする。stock には他に「(木の)幹」という意味もある。類語の livestock は「家畜」という意味。「生きている蓄え」と考えるといい。

He has a million dollars in railroad stocks.

彼は鉄道の株券で百万ドルをもっている

We keep a large stock of stationery on hand.

当店では大量の文房具をストックしています

fat stock

食肉用家畜

stock raising

家畜飼育

stomach は「胃、お腹」。

これは（カタカナ英語の)「ストマック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ stomach は[stʌmək(スタマク)]と発音するので注意。

I have a strong[weak] stomach.

胃が丈夫だ［弱い］

My stomach rises at the idea.

考えるだけで胸が悪くなる

stoic は「禁欲主義的な」。

これは(カタカナ英語の)「ストイック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

stool は「椅子、腰掛け」。

これは(カタカナ英語の)「スツール」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

ちなみに stall は「売店、屋台店、露店」。a news stall は「新聞売店」。

store は「店」(名)

「①(必要なものを)積み込む ②～を蓄える、保管[存]する」(動)

「店」という意味については(カタカナ英語の)「ストア」でおなじみ。動詞の意味をしっかりおさえよう。

store の『核』のイメージは、「必要なものを供給する」。確かに「店」とは「必要なものを供給してくれる場所」だ。

名詞の store には「①蓄え、蓄積、貯蔵、持ち合わせ ②[stores で]「(食料・衣料・武器等の)備え、用意、備品」という意味もある。

類語の storage は「①貯蔵[所]、保管[所] ②(コンピューターの)記憶装置」。(カタカナ英語の)「ストレージ」が②の意味で用いられる。

The villagers stored up vegetables for winter.

農民達は冬に備えて野菜を貯蔵した

straight は「まっすぐな[に]、直接、連続の[して]」。

これは(カタカナ英語の)「ストレート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

Use a ruler to draw a straight line.

直線を引くのに定規を使いなさい
for five straight days
５日間ぶっ続けで
His eyes looked straight ahead.
彼はまっすぐ前方を見ていた
He gave a straight answer to my straight question.
彼は私の率直な質問に対し率直な答えをした
straight dealings
公正な取引き

strap は「①(電車などの)つり革 ②革ひも、ひも」。

これは(カタカナ英語の)「ストラップ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。strap は動詞として「～を革ひもでしばる[打つ]」という意味もある。

She held on to a strap.
彼女はつり革につかまった
a watch strap
時計のバンド
The two pieces of baggage were strapped together.
２つの荷物はひもでしばられた

strategy は「戦略」。

これは(カタカナ英語の)「ストラテジー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「巧みな計略」という意味にもなる。ちなみに「戦術」は tactics。

「戦略」とは、長期的・大局的な作戦の方針や計画のこと。「戦術」とは、個々の[局所的な]戦闘の方針や計画のこと。

campaign strategy

選挙戦術

the state’s strategy against terrorism

対テロ戦略

straw は「わら」。

これは(カタカナ英語の)「ストローハット」から類推できる。ストローハット(straw hat)とは「麦わら帽子」のことだ。

stream は「流れ」。

これは(カタカナ英語の)「メインストリーム」から類推できる。メインストリーム(mainstream)とは「(川や流れの)本流、主流」という意味で、比喩的に「(活動・思潮などの)主流、大勢」という意味で用いる。また動詞として「①流れる ②(旗などが)たなびく」という意味にもなる。

There runs a small stream among the rocks.

岩の間を小川が流れている

A streak of blood streamed down his forehead.

一筋の血が彼の額を流れ落ちた

Her long hair streamed over her shoulders.

彼女の長い髪が肩にたれかかっていた

strength は「力」。

これは strong(力が強い、強力な)の名詞形と覚えたらいい。long の名詞形が length になるのと同じ要領。

a man of strength

力の強い人

be of great strength

とても力が強い

English is his strength.

英語ができるのが彼の強みだ

stress は「ストレス、重圧」。

これは（カタカナ英語の）「ストレス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。stress には「強調(する)」という名詞[動詞]の意味もあるので注意。ただこれも「〇〇にストレスを置く」などと(カタカナ英語で)言ったりする。形容詞形は stressful で「ストレスの多い、重圧のかかる」。

He stole some meat under the stress of hunger.

彼は飢えに迫られて肉を盗んだ

stress diseases

ストレスに起因する諸病

He laid[put] stress on the point.

彼はその点を強調した

He stressed the necessity for quick action.

彼は早急に行動を起こす必要性を強調した

stretch は「～を伸ばす、広げる」。

これは(カタカナ英語の)「ストレッチ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

He stretched his arms and yawned.

彼は両腕をうんと伸ばしてあくびをした
He stretched a rubber band until it snapped.
彼は輪ゴムを引っ張ったのでぷつんと切れてしまった
We have to stretch the rules to allow them to join our club.
彼らが我々の団体に加入するのを認めるには規則の拡大解釈を行わなければならない

strike

strike も(カタカナ英語の)「ストライク」だけでは、その意味の全てを推し測ることはできない。やはりこれも根っこ(『核』の)イメージからおさえるのがよい。
strike の『核』のイメージは「打つ、たたく」で hit と同じだ。ただし

① strike は「(力を込めて)ぶったたく」というイメージ。hit は「(きちんと)狙いを定めて打つ」。
②strikeの方が比喩的な用法も含め、hit より幅広い使われ方がされる。

という違いがある。ちなみに活用は strike - struck - struck 。

(ex) strike a ball ボールを打つ
Jim struck Ken in anger. ジムは怒ってケンをなぐった
He struck the nail with a hammer. 彼は金づちでくぎを打った
The man struck at me. その男は私になぐりかかった
at は「～めがけて」という意味の前置詞。

上の例文は、文字通り物理的に「打つ、たたく(殴る)」という strike だ。
ちなみに strike back は「打ち返す」から転じて「反撃する」という意味になる(ちなみに answer back は「口答えする」)。
また strike は、下の英文のように「(時計などが)時を打つ、音を鳴らす」という意味でも使われる。

(ex) The clock struck five. 時計は５時を打った

The clock strikes the hours. その時計は毎時間時を打つ

また「(マッチなどを打って)火をつける」という意味でも使われる。
㊟自動詞の場合は「火がつく、点火する」。

(ex) He stuck a match to light a candle.
彼はろうそくを灯そうとマッチをすった
These matches won't strike. このマッチはどうしてもつかない

下の英文は「打つ」から転じて「ぶち当てる(当たる)」「ぶつける(かる)」という strike だ。

(ex) The ship struck a sand bar. その船は砂州に乗り上げた
I struck my knee on[against] the desk. 私は机にひざをぶつけた
He struck his fist on the desk in anger.
彼は怒ってこぶしで机をたたいた

また「ぶち当たる」から転じて

「〜を偶然見つける、行き当たる」「(金鉱・石油等)を掘り当てる」
「(災害・病気などが)直撃する、不意に襲う」

という意味にもなる。

(ex) The road eventually strikes the river.
その道をどこまでも行くと川に出る
The U.S. doesn't strike a balance between exports and imports.
アメリカは 輸出入のバランスを(うまく)取れていない
㊟「バランス　を見つける→バランスをとる」。
An earthquake struck the Kanto District. 地震が関東地方を襲った
The town was struck with the plague. その町には疫病が蔓延していた

「(考えなどが)人の頭にぶち当たる→考えなどが人の頭に浮かぶ、思いつく」という意味にもなる。

(ex) A new idea struck him. 新しい考えが彼の心(頭)に浮かんだ

It suddenly struck me that he was telling a lie.

彼がウソをついているような気が突然した

上の例文は「A(考え) occur to B(人) ：AがBの頭に浮かぶ」を使って、それぞれ以下のように書き換えることができる。

→A new idea occurred to him.

→It suddenly occurred to me that he was telling a lie.

また「(心を)打つ→(人)に感銘[印象]を与える」「(人)に(～のような)印象を与える」という意味でも使われる。

(ex) We were all struck with[by] her warm hospitality.

我々はみな彼女の暖かいもてなしに心を打たれた

How does the new policy strike you?

新しい政策をどう思いますか

Your plan strikes me as excellent[silly] .

strike A(人) as B(印象) で「AにBという印象を与える」。

私には君の計画はすば らしい[ばかげている]ように思える

What strikes me here is people's friendliness.

当地で私の心を打つものと言えば、みんなが親切なことです

そこから形容詞形の striking は「(印象的なほどに)著しい、目立つ、際立った」という意味になる。

strike は自動詞で「ストライキをする」という意味もある。

(ex) The union is striking against the wage cut.

労組は賃金カット反対のストを行っている

strike for higher wages 賃上げを要求してストライキをする

もちろん名詞で「ストライキ」という意味もある。be[go] on a strike で「ストライキ中である[をする]」は頻出。

string は「①弦 ②ひも」。

これは(カタカナ英語の)「ストリング」から類推できる。「(弦楽器の)弦」のことをストリングと言う。またストリングス(strings)と言えば「弦楽器(の演奏)」のことだ。
string は動詞として「ひもでつなぐ」という意味もある。

a string of cars

じゅずつなぎになった車の列

Bind the parcel with this string.

このひもで包みを縛ってくれ

They are stringing pearls.

彼らは真珠に糸を通してつないでいる

stripe は「しま(模様)、筋」。

これは(カタカナ英語の)「ストライプ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

びょう
stud は「鋲(を打つ)」。

これは(カタカナ英語の)「スタッドレスタイヤ」から類推できる。スタッドレス(studless tire)とは、滑り止め用の鋲を使わずに、タイヤ表面の溝の形状やゴムの成分を雪道や凍結路に適合させた冬用のタイヤのこと。less は「～ない」を表す接尾辞。stud は「点在する[させる]」という意味もある。

スタッドレスタイヤはスパイク-タイヤの鋲が、路面を削って粉塵公害を引き起こすことから代わりに使われるようになった。

style は「①形式、様式 ②文体」。

これは(カタカナ英語の)「スタイル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ「彼女はスタイルがいい」という場合、英語では She has a great figure. または She is well-proportioned. と言うので注意。

👼男性に対して言う場合は great figure の代わりに good physique を用いる。

the modern style of living

現代風の生活

This hat is in the newest style.

この帽子は最新の流行です

a familiar[pompous] style

くだけた[気取った]文体

a colloquial[literary] style

口語[文語]体

He wrote in [or after] the style of Faulkner.

彼はフォークナーの文体にならって書いた

success は「成功」。

これは(カタカナ英語の)「サクセス」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。動詞形は succeed で「成功する」。形容詞形は successful で「成功した、うまくいった」。ただ、succeed in A は「Aに成功する」だが、succeed to A は「Aを継承する、Aの後を継ぐ」となるので注意。「継承する」という succeed の名詞形は succession。

On the king's death, the crown prince will succeed.

国王が死去すれば皇太子が後を継ぐ

The prince succeeded to the throne.

王子が王位を継承した

He will succeed to the family business.

彼が家業を継ぐだろう

sudden は「突然の」。

これは（カタカナ英語の）「サドンデス」から類推できる。サドンデス(sudden death)とは「突然死」が直訳だが、「(スポーツなどで)得点をしたその瞬間に勝敗が決まるルール」のことだ。副詞形は suddenly で「突然に」。all of a sudden や all at once で言い換えられる

suggest は「～を提案する」。

これは（カタカナ英語の）「サジェスチョン」から類推できる。サジェスチョン(suggestion)とは「提案」のこと。

suggestion には「暗示、ほのめかし」という意味もある。

suggest の名詞形だ。suggest には「ほのめかす、それとなく言う」という意味もある。gesture(ジェスチャー、「身振り手振り」)から類推しよう。ジェスチャーは「言葉を使わずに示すこと」だ。

He suggested a new plan to the board of directors.

彼は重役会に新しい提案をした

The President suggested his resignation to the people.

大統領は国民に辞意をほのめかした

The suggestion that she should resign was finally rejected.

彼女は辞めるべきだとの提案は最終的に否決された

I derived a valuable suggestion from his speech.

私は彼の談話から貴重な暗示を得た

summary は「要約、概略、まとめ」。

これは(カタカナ英語の)「サマリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。動詞形は summarize で「要約する」。

in summary

要約すると

make a summary of a lecture

講義を要約する

summit は「①頂上 ②(先進国)首脳会議」。

(カタカナ英語の)「サミット」は②の意味で用いられるが、①の意味もそこから類推しやすいはず。比喩的に「絶頂(=peak)」という意味で用いられることもある。 the summit of the fame[power] は「名声[権力]の絶頂」。

We reached the summit of a hill.

私たちは丘の頂上に着いた

The businessman reached the summit of success.

その実業家は成功の絶頂を極めた

The matter should be discussed at the summit.

その問題は首脳会議で議論されるべきだ

superior は「(～より)優れた」。

これは(カタカナ英語の)「スーパー」から類推しよう。スーパー(super)に(比較級の意味を持つ)形容詞語尾の -ior がついたと見たらいい。be superior to A で「Aより優れている」。名詞形は superiority で「優位、優越」。反意語は inferior で「(～より)劣っている」。be inferior to A で「Aより劣っている」。名詞形は inferiority で「劣っていること、劣等」。

㊟このように、語尾が -ior で終わる形容詞は「～よりも」の意味で、than ではなく to を用いる。たとえば prior to A で「Aより優先して」となる。
それから superior, inferior には比較級がない点も注意。つまり more[less] superior とか more[less] inferior といった言い方はない。

His mind is much superior to his brother's.

彼の知力のほうが兄［弟］よりずっとすぐれている

a superior officer

上官，上役

You must obey your superior's orders.

君は上司の命令に従わなければならない

a sense of superiority

優越感

a sense of inferiority

劣等感

It proclaimed the superiority of science over art.

このことが芸術よりも科学がまさることを示していた

These goods are of inferior quality.

これらの品は品質が劣っている

This overcoat is inferior to mine in quality.

このコートは品質の点で私のより劣る

support は「①～を支える、支援する ②～を養う」。

これは(カタカナ英語の)「サポート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。サッカーのサポーターも、ファンとして熱心にそのチームを支える人のことだ。support は比喩的に「～を立証する、裏付ける」という意味にもなる。また名詞として「①支え、支柱 ②支持、援助 ③生活費」という意味もある。

The latest data strongly support your theory.

最新のデータが君の理論をしっかりと立証している

He has a large family to support.

彼には扶養家族が大勢いる

His theory is amply supported by facts.

彼の理論は事実によって十分に立証されている

He won the support of workers.

彼は労働者の支持を得た

They gave only nominal support to the plan for expansion.

彼らは拡張計画にはただ名目的な援助をしただけだった

surplus は「余った」(形)「1.余り、余剰 2.黒字」。

sur は「超えて、超過」という意味の接頭辞。「追加料金」のことをサーチャージ(surcharge)と言うが、これは「(通常料金を)超えて(sur)+請求(charge)→通常料金を超えての請求→追加料金」ということ。そうすると surplus は「超えて(sur) +プラスの(plus)→(一定のラインを)超えて余った→余剰(の)、黒字[過剰](の)」となる。
surpass は「～を超えて(sur)+通過する(pass)→～を超える(=exceed)、～に勝る(=excel)」。

survive は「①(～を)生き残る、残存する ②～より長生きする」。

これは①については（カタカナ英語の)「サバイバル」から類推できる。サバイバル(survival)は「生き残ること」という意味で survive の名詞形だ。「サバイバルゲーム」は「生き残りゲーム」。①の例は以下の通り。

He didn't survive long after the first heart attack.

彼は最初の心臓発作のあと間もなく亡くなった

The record has survived for five centuries.

その記録は５世紀前から残っているものだ

He survived the car crash.

彼はその車の衝突事故で生き残った

②の用例もあげておこう。

He survived his wife.

彼は妻に先立たれた

「彼は妻よりも長生きした」が直訳。

He was survived only two years by his son.

彼の息子は彼の死後２年しか生きていなかった

suspense は「(どうなるかという)気がかり、不安、サスペンス」。

これは(カタカナ英語の)「サスペンス」から類推できる。ただサスペンスドラマなどと言う場合、「謎に満ちた」という意味まで含まれるが、それは英語では mystery または thriller 。suspenseful story は「(先の展開がどうなるかわからず)はらはらする小説」という意味。動詞形は suspend で「①つるす ②(活動・事業などを)一時停止にする」。①はズボンのサスペンダー(suspender)から類推できる。②については、野球などで(試合が)中止になることを「サスペンデッドになる」と言ったりするのでわかりやすい。a suspended game は「一時停止試合」のこと(残されたイニングを後日行う)。

The movie kept[held] the audience in suspense till the end.

その映画は最後まで観客をはらはらさせどおしだった

a story full of suspense

サスペンスに満ちた小説

The chandeliers were suspended from the ceiling.

シャンデリアは天井からつるされていた

They suspended payment.

彼らは支払いを停止した

All ferry services were suspended by the hurricane.

暴風雨のためフェリーはすべて欠航した

sway は「揺らす[れる]、揺すぶる[らぐ]」。

これは(カタカナ英語の)「スウェイ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形も sway で「揺れ、動揺」。

㊟ sway は「(風に吹かれて)あちこちへひらひらと揺れる」が原義。

The branches are swaying in the wind.

木の枝が風に揺れている

The building swayed to the right.

その建物は右に傾いた

His speech swayed many voters.

彼の演説は多くの投票者の心を動かした

I felt the sway of the floor under my feet.

足元で床が揺れるのを感じた

sweat は「汗」。

これは(カタカナ英語の)「スエット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ポカリスエットといった商品名や、スエットスーツ(sweat suit)といった語でもおなじみ。

㊟余談だが「ポカリ」には意味は特にないそうである。

sweat は「(物の表面に出る)水滴」という意味もある。また「①汗をかく[かかせる] ②汗水たらして働く」という動詞の意味もある。形容詞形は sweaty で「汗ばんだ、汗の出る」。ちなみに「セーター」は sweater とつづる。「汗をかかせるほど温めてくれるもの」ということ。[swetə(スゥエタ-)]と発音するので注意。

He is all in a sweat.

彼は汗びっしょりだ

He sweated all over in the heat.

彼はその暑さで全身汗みずくだった

The workers were sweating (away) at their jobs.

その労働者たちは仕事に精を出していた

sweep は「(ほうき・ブラシなどで)(床・部屋など)を掃く、掃除する、(ちり・ごみなど)をはらう」。

これは(カタカナ英語の)「スイープ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。比喩的に「一掃(する)、圧勝(する)」という意味にもなる。

My mother is sweeping the living room.

母が居間を掃除している

The wind swept all the leaves away.

風で葉がみんな散ってしまった

sweep の活用は sweep - swept - swept。

The bridge was swept away by the flood.

橋は洪水で押し流された

sweet は「甘い」。

これは(カタカナ英語の)「スウィート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。sweet は比喩的に「(人が)優しい、魅力的な、耳に心地よい」などの意味もある。また名詞として「砂糖菓子、甘い食べもの」という意味もあるが、これも「スウィーツ(sweets)」というのでわかりやすい。動詞形は sweeten で「～を甘くする[なる]」。

These strawberries taste sweet.

このいちごは甘い味がする

The boy has a sweet nature.

その少年は優しい気質だ

It was sweet of you to send me a birthday present.

誕生日のプレゼントを送ってくださるなんてご親切さまです

swing は「揺らす[れる]、振る」。

これは(カタカナ英語の)「スイング」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形も swing で「①揺れる[振る]こと、スイング ②振動、振幅」。

The pendulum swung for a while.

振り子はしばらくの間揺れた

swing の活用は swing - swung - swung。

The ape is swinging from branch to branch.

猿が枝から枝へぶらさがって移っている

The batter swung the bat at the ball.

打者はボールめがけてバットを振った

switch は「①スイッチ ②急な変更」。

これは(カタカナ英語の)「スイッチ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味も「～にスイッチする」などと言ったりする。switch は動詞として switch on[off] で「①スイッチを入れる[切る] ②急に変更する」という意味になるが、これも「スイッチオン[オフ]」や「～にスイッチする」などでおなじみ。

a light switch

電灯のスイッチ

a switch in policy

政策の変更

She switched on[off] the light.

彼女は電灯をつけた[消した]

He switched the conversation to another topic.

彼は会話を別の話題に変えた

syllabus は「(講義などの)概要、講義一覧表、(講義の)時間割表」。

これは(カタカナ英語の)「シラバス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

symbolize は「①～を象徴する ②～を記号で表す」。

これは(カタカナ英語の)「シンボライズ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は symbol で「①象徴②記号、符号」だが、こちらも「シンボル」でおなじみ。-ize は「～にする、～化する」という意味の動詞を作る接尾辞。形容詞形は symbolic で「象徴的な」。

An olive branch symbolizes peace.

オリーブの枝は平和を表象する

White is symbolic of purity.

白は純潔を表象する

The cross is the symbol of Christianity.

十字架はキリスト教の象徴である

H is the symbol for hydrogen.

Hは水素の記号だ

sympathy は「同情、共感」。

これは(カタカナ英語の)「シンパシー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「〇〇にシンパシーを感じる」などと言ったりする。形容詞形は sympathetic で「同情的な」。反意語は antipathy で「反感」。これについては、anti が「反」という意味の接頭辞であることは(「アンチ巨人」といったフレーズで)多くの人が知っているので、覚えるのにそれほど抵抗はないはず。

a letter of sympathy

悔やみ状

You have my sympathies.

ご同情申し上げます

I have (every) sympathy with that viewpoint.

=I am in sympathy with that viewpoint.

その見解には(全く)同感です

My sympathies are with the workers.

私は労働者側を支持する

語源～ path

path は「感情・意識」を表す接頭辞。これを含む語の例をいくつか挙げてみよう。

sympathy	sym(共に)+path+y(性質・状態)	→ 共にいるという意識を持っていること	⇨ 共感
antipathy	anti(反)+path+y(性質・状態)	→ 反対する感情を持っていること	⇨ 反感
apathy	a(～がない)+path+y(性質・状態)	→ 感情を持っていないこと	⇨ ①無関心 ②無感動
pathetic	path+etic[形容詞語尾]		⇨ ①哀れな ②ひどい
pathos	path+os[名詞語尾]	→ (苦悩の)感情	⇨ 哀感、悲哀

symmetry は「(左右の)対称、均衡」。

これは(カタカナ英語の)「シンメトリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。反意語は asymmetry で「(左右の)非対称」。

a は「非」を表す接頭辞になることがある。

bilateral symmetry

左右相称

the symmetry of the building

その建物の均整

syndrome は「症候群」。

これは(カタカナ英語の)「シンドローム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

Down's syndrome

ダウン症候群

acquired immune deficiency syndrome

後天性免疫不全症候群(AIDS)

synergy は「相乗作用、相乗効果」。

これは(カタカナ英語の)「シナジー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

system は「①制度 ②組織、体制 ③(学問・思想などの)体系、系統、網」。

①と②は(カタカナ英語の)「システム」から類推しやすいが、③の system の意味もおさえよう。the nervous system は「神経系統」、the solar system は「太陽系」。

the postal system

郵便制度

the educational system in this country

この国の教育制度

a system of grammar

文法体系

We studied with system.

私たちは順序立って勉強した

the conveyor system

流れ作業

cooling system

冷却装置

digestive system

消化器系統

heating system

暖房装置

mountain system

山系

t

tablet は「①錠剤 ②平板」。

これは(カタカナ英語の)「タブレット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味でも、パソコンで平型の端末を「タブレットＰＣ[端末]」などと言ったりする。

aspirin tablets

アスピリン錠剤

an Egyptian clay tablet with cuneiform inscription

くさび形文字を刻み込んだエジプトの粘土の刻板

taboo は「禁止(された)、禁物(の)、禁制(の)」。

これは(カタカナ英語の)「タブー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。taboo は動詞として「～を禁止する、タブーとする」という意味もある。

be under (a) taboo

タブーになっている

break[violate] the long taboo against A

Ａに関する長い間のタブーを破る

tag は「値札(を付ける)、荷札、付箋」。

これは(カタカナ英語の)「タグ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。tag は比喩的に「(人に)レッテルを貼る」という意味にもなる。

tale は「物語、お話」。

これは(カタカナ英語の)「フェアリーティル」から類推しよう。フェアリーテイル(fairy tale)とは「おとぎ話、童話」のこと。fairy は「妖精(の)」という意味。tale は「作り話、噂話、陰口」という意味になることもある。

ちなみに tail は「尻尾」。こちらも「テイルスープ」から類推できる。テイルスープとは韓国料理で、牛の尻尾を煮込んだスープのことだ。tail は比喩的に「後部」、また動詞として「後に付いて行く」という意味にもなる。

tales of adventure

冒険物語

tell one's tale

身の上話をする

自分の言い分を述べる

Dead men tell no tales.

死人に口なし ←《諺》

distinguish tales from truth

根も葉もない事と事実とを見分ける

talent は「①(生まれつきの)才能 ②芸能人」。

これは(カタカナ英語の)「タレント」から類推できる。ただ talent の場合「(集合的に)才能のある人たち、人材」という意味にもなる。形容詞形は talented で「才能のある(=gifted)」。

a man of many talents

多才な人

You should develop your talent.

君は自身の才能を伸ばすべきだ

He has a talent for writing[music].

彼には文筆［音楽］の才がある

target は「①(攻撃の)的 ②達成目標」。

これは(カタカナ英語の)「ターゲット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。target は動詞として「～を狙う」という意味もある。

hit[miss] the target

的に当たる［的を外れる］

His arrow shot the target.

彼の矢は的に当たった

a target of scorn

軽べつの的

The warheads can be targeted with great precision.

その弾頭は非常な精密さで目標に向けることができる

taste は「①味　②好み、嗜好 ③味覚」。

これは(カタカナ英語の)「テイスト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ taste の場合、「①～の味がする ②～を味わう」という動詞としても用いる。形容詞形は tasty で「美味しい」。

It has a bitter[flat] taste.

苦い［薄い］味がする

I've got a cold, so I have no taste.

風邪をひいたので味がわからない

He has a taste for the opera.

彼はオペラが好きだ

She has expensive tastes in cosmetics.

彼女は化粧品は高価な物を好む

It is not at all to my taste.

それは全然私の趣味に合わない

to A's taste で「Aの好みに合って」。

She tasted the soup and added more salt.

彼女はスープの味をみて塩を足した

This coffee tastes burnt.

このコーヒーはこげた味がする

tax は「税金」。

これは(カタカナ英語の)「タックス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。tax の場合、「～に課税する」という動詞としても用いられる。Tobacco is heavily taxed. は「たばこには重い税がかけられている」。

This amount includes tax.

この額は税込みです

direct[indirect] taxes

直接［間接］税

free of tax 無税で

tax evasion

脱税

technical は「①工業[機械]技術の、応用科学の ②技術上の、専門的な ③判定に基づく」。

これは(カタカナ英語の)「テクニカル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②の意味で「テクニカルな問題」と言ったり、またボクシングのＴＫＯ(テクニカルノックアウト)は③の意味で使われている。

technical difficulties

技術上の困難

a technical book

専門書

technical knowledge[terms]

専門知識[用語]

Your explanation is too technical.

君の説明は専門的すぎる

technology は「①科学技術 ②工学」。

これは(カタカナ英語の)「テクノロジー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は technological で「科学技術の」。

the growth of technology

科学技術の発達

teenager は「10代の若者(通例13～19才)」。

これは(カタカナ英語の)「ティーンエイジャー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

telescope は「望遠鏡」。

これは(カタカナ英語の)「テレスコープ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。tele は「遠い[く]」を表す接頭辞。「遠くを(tele)+見る機械(scope)→望遠鏡」となる。そうすると micro は「微小」を表す接頭辞なので、 microscope は「顕微鏡」となる。

tempo は「速度、調子、拍子」。

これは(カタカナ英語の)「テンポ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

the fast tempo of city life

都会生活の速いテンポ

temporary は「一時的な」。

これは(カタカナ英語の)「テンポラリースタッフ」から類推できる。テンポラリースタッフ(temporary staff)とは「一時[臨時]雇用の社員」、つまりアルバイトや派遣社員のことだ。

副詞形は temporarily で「一時的に、しばらく、仮に」。

I got a temporary job at the hotel.

そのホテルで臨時の仕事を手に入れた

Hyogo Prefecture constructed a total of 40,000 temporary housing units.

兵庫県は総計４万戸の仮設住宅を建てた

terminate は「～を終わらせる[終わる]」。

「ターミネーター」という映画の(シュワちゃん演じる)ターミネーターは、「人類を終わらせる者」という意味で、実際人類を滅亡に導くために未来の世界からやってきたロボットだった。terminate はその動詞形なのだ。形容詞形は terminal で、「最後の、最終的な、終点の、末期の」という意味。「終着駅(列車が最後に到着する駅、最後の駅)」のことをターミナルステーション(ターミナル駅)と言い、terminal はそこから類推できる。

They terminated a controversy.

彼らは論争をやめた
The hero’s death terminates the novel.
主人公の死でその小説は終わる
terminate a pregnancy
妊娠中絶する
The meeting terminated at three.
会議は３時に終わった

territory は「領土[域]、縄張り」。

これは(カタカナ英語の)「テリトリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は territorial で「領土の、土地の」。terr は「土、地、地球」という意味の語幹。terrestrial は「地球(上)の、陸(上)の」。Mediterranean は「地中海の」という意味だが、「中間の(medi=mid)+大地(terrane=terra)+～の(-an) → 大地の中間にある →地中海の」となった。

British territory
英国領
Much territory in the northern part of the country is desert.
その国の北部の地域の多くは砂漠です
the territory of anthropology
人類学の分野

test は「①検査[試験・実験](する) ②試金石」。

①については(カタカナ英語の)「テスト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②をおさえよう。

「試金石」とは、人の力量や物の価値を判定する規準となる物・事のこと。

a blood test

血液検査

test a new drug on animals

新薬の動物実験をする

theater は「①劇場 ②映画館」。

これは(カタカナ英語の)「シアター」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに museum は「美術館、博物館」。hall は「①公会堂、ホール ②玄関」。

I went to the theater to see a modern drama.

近代劇を見に劇場へ行った

theme は「テーマ、主題」。

これは(カタカナ英語の)「テーマ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただし theme は[θ iːm(スィーム)]と発音するので注意。

The speaker made education his theme.

発言者は教育をその題目に選んだ

The theme for today's talk is love.

今日の話のテーマは愛です

theory は「①理論(⇔ practice:実践) ②学説、論 ③考え(=opinion)」。

これは(カタカナ英語の)「セオリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
ただし[θ iːəri(スィーアリィ)]と発音するので注意。形容詞形は theoretical で「理論(上)の」。
詞形は theoretically で「理論上は、名目上は」。

the theory of evolution[relativity]

進化論［相対性理論］

Your idea is very good in theory.

君の考えは理論上は大変すばらしい

He has a theory that smoking is bad for the health.

彼は喫煙は体によくないという考えだ

therapy は「療法」。

これは(カタカナ英語の)「セラピー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。therapist は「療法士、治療士」だが、こちらも「セラピスト」でおなじみ。形容詞形は therapeutic で「①治療的な②(心身の)健康によい」。

radiation therapy

放射線治療

surgical therapy

外科治療

shock therapy

ショック療法

group therapy

集団療法

thermostat は「自動温度調節器」。

これは(カタカナ英語の)「サーモスタット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに thermo は「熱」という意味の語幹。thermodynamics は「熱力学」。thermometer は「温度計、寒暖計」。thermos は「魔法ビン」。

think は「考える」。

これは(カタカナ英語の)「シンキングタイム」から類推できる。シンキングタイム(thinking time)とは「考えるための時間」。活用は think - thought - thought。名詞形は thought で「①考え、思考 ②思想」。

I think (that) nuclear weapons will destroy our earth.

核兵器はわが地球を滅ぼすと思う

thrill は「(人を)ワクワクさせる」「スリル、興奮」。

これは(カタカナ英語の)「スリル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は thrilling で「スリルに飛んだ」だが、こちらも「スリリング」でおなじみ。thriller は「スリラー小説[映画・劇]」。

a story full of thrills スリルに満ちた話

Meeting the world-famous actress was a great thrill.

世界的に有名な女優と会ったときはぞくぞくした

The story thrilled him with horror.

その物語は彼を恐怖でぞっとさせた

The children were thrilled at the news.

子供たちはその知らせを聞いて胸をわくわくさせた

throw は「～を投げる、投げ入れる[出す・捨てる・込む・かける]」。

これは(カタカナ英語の)「スロー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。特に野球用語で「スナップスロー」「スローイング」「オーバースロー」など、おなじみだ。

throw は throw away で「①投げ捨てる ②(機会・忠告などを)無駄にする」となる。

throw の活用は throw - threw - thrown。

He threw a stone at the dog.

彼は犬に石を投げつけた

He threw out all the bad grapes.

彼は腐ったブドウをみんな捨てた

timing は「タイミング、時機[好機]を見ること」。

これは(カタカナ英語の)「タイミング」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

title は「①表題、題名 ②称号 ③肩書」。

①と②については(カタカナ英語の)「タイトル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
③の意味もおさえよう。「～を与える」という接頭辞 en を付けた動詞形の entitle は「～に資格[権利]を与える」となる

the title of a book

本の書名

He was given a title by the King.

彼は王から爵位をもらった

toe は「つま先、足の指」。

これは(カタカナ英語の)「トウ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。from top to toe で「①頭のてっぺんからつま先まで ②すっかり」という表現は頻出。
toe は動詞として「～につま先で触れる」という意味もある。

the little toe

足の小指

the big toe

足の親指

toilet は「トイレ」。

これは(カタカナ英語の)「トイレ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。別の表現として bathroom や lavatory、rest room なども覚えておこう。

rest room は「公共のトイレ」。

ton は「(重さの単位としての)トン」。

これは(カタカナ英語の)「トン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

tone は「①(声の)調子、口調 ②音色 ③色調」。

これは(カタカナ英語の)「トーン」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。動詞として「調子を変える[合わせる]」という意味もあるが、これは(カタカナ英語の)「トーンダウン」から類推できる。トーンダウンとは、(色・声などの)調子を下げる[落とす]、和らげることを指して言う。

speak in gentle tones

穏やかな調子で話す

I was shocked at the tone of his voice.

私は彼の声の調子にびっくりした

tool は「道具、用具、工具」。

これは(カタカナ英語の)「ツール」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

the carpenter's tools

大工道具

a tool of communication

伝達手段

tools of the trade

商売道具

tooth は「歯」。

これは(カタカナ英語の)「トゥース」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。複数形は teeth。「虫歯」は a decayed tooth。

artificial[false] tooth

入れ歯，義歯，

back[front] tooth

奥[前]歯

milk tooth

乳歯

permanent tooth

永久歯

wisdom tooth

親知らず，知恵歯

topic は「話題、論題」。

これは(カタカナ英語の)「トピック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

current topics

＝topics of the day

今日の話題，時事問題

the major topic at the meeting

会合の主な論題

tornado は「(米国中部の)大竜巻き、トルネード」。

これは(カタカナ英語の)「トルネード」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

touch は「①触れる(こと) ②接触(する) ③感触、手触り」。

これは(カタカナ英語の)「タッチ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ動詞の touch の場合、「人の心に触れる→人を感動させる」という意味にもなる。また名詞の touch を用いた慣用表現として get[keep] in touch with A(人) で「Aと連絡を取る[り続ける]」、a touch of A で「少量の[ちょっとした]A、A気味」などがある。

ちなみに touching は「心に触れる→感動的な」という意味。

He touched me on the back.

彼は私の背中にさわった

The two campuses touch each other.

その２つの学園は隣り合っている

tough は「①丈夫な、頑丈な ②困難な、難しい ③手ごわい」。

これは（カタカナ英語の）「タフ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

The boxer is tough.

そのボクサーはタフだ

It was a tough job.

それは困難な仕事だった

trail は「～を引きずる、引きずって行く」。

「トレイラー」から類推できる。トレイラー(trailer)とは、荷台車を引きずって走る自動車 だ。何か物を引きずれば、そこに引きずった跡が残るもの。そこから trail には「①跡 ② 小道」「跡をたどる、追跡する」という意味も生まれる。

train

実は train の『核』のイメージも「引きずって行く」なのだ。

「列車」というおなじみの意味は「引きずって行くもの→列車」となったのだ。

(ex) I caught[missed] the 10 o'clock train for Paris.

10時発のパリ行き列車に間に合った[乗り遅れた]

この『核』のイメージから、更に以下のような意味が生まれた。これらに共通するのは「引きずられる[て行く]もの」ということ。

「(人・動物・物などの)列、行列」

「(できごと 観念などの)連続、連鎖」

「[集合的に]従者、供回り、随行員」

(ex) a train of scandals　次々に起こるスキャンダル、一連のスキャンダル

a train of A で「一連のA」。

What an unlucky train of events!

何と不幸な出来事が続いて起こることか

The noise interrupted my train of thought.

その物音で私の思 考の流れが中断された

Several journalists were included in the President's train.

数人の報道関係者が大統領の一行に加えられていた

train には動詞で「訓練する、トレーニングする」という意味があるが、これは「引きずって行く→従わせる→教育する、訓練する、鍛える、しつける」となったのだ。

(ex) He trains a Seeing Eye dog. 彼は盲導犬を訓練している

The dog is trained to watch for thieves.

その犬 はどろぼうの番をするように訓練されている

transport は「輸送(する)」。

これは(カタカナ英語の)「トランスポート」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。語源的には「別の場所に(trans)+運ぶ(port)→別の場所に人や物を運ぶ→輸送(する)」となる。transportation という名詞形もあり。public transportation は「公共交通機関」。transportation は「運賃、輸送料」という意味になることもあり、a transportation allowance は「通勤手当、交通費」。

It is more economical to transport them by ship.

それらを船で運ぶほうが安くつく

means of transport

輸送機関

わな

trap は「罠」。

これは(カタカナ英語の)「トラップ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「トラップにひっかかる」などと言ったりする。動詞として「わな[ペテン]にかける」という意味もある。

We set a trap to catch the animal.

私たちはその動物を捕らえるためにわなを仕掛けた

trap a fox

キツネをわなで捕らえる

trap the wood

森にわなを仕掛ける

trash は「ゴミ」。

これは(カタカナ英語の)「トラッシュ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。最近では「ゴミ箱」のことを「トラッシュボックス」などと言ったりする。それから trash は比喩的に「くだらないもの」という意味にもなる。

travel は「①旅行(する) ②進む ③(光・音などが)伝わる」。

①については(カタカナ英語の)「トラベル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。意外に②、③の用法もよく目にするので注意しよう。それから名詞の travel には「移動」という意味もある。

ちなみに「旅」を表す語には他に以下のようなものがある。

⑴ journey「(陸路で行く遠方への)旅、旅行」
⑵ trip 「(特定の場所への短い)旅」
⑶ voyage 「(船で行く)旅、船旅」
⑷ tour 「(観光、視察目的の)旅」

㊟派生語のtourism は「①観光旅行 ②観光業」、tourist は「旅行者」。

treasure は「宝」。

これは（カタカナ英語の）「トレジャー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「トレジャーハンター(a treasure hunter)」と言えば、「宝探しをする人」のことだ。treasure は動詞として「～を宝として蓄える」、更にそれが転じて「～を大切にする」という意味もある。

Someone stole the treasure in the palace.

だれかがその宮殿にある宝物を盗んだ

The boy treasures up postage stamps.

その少年は郵便切手を大切に保存している

trench は「堀、みぞ、塹壕（ざんごう）」。

これは(カタカナ英語の)「トレンチコート」から類推しよう。トレンチコート(trench coat)とは、ダブルでベルト付きのコートだが、これは第一次大戦のときイギリス兵が塹壕内で着たコートが元になっているのだ。

A trench was dug in the field.

畑に溝が掘られた

trend は「傾向、流行」。

これは(カタカナ英語の)「トレンド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。trend は動詞として「～に向かう、傾く」という意味にもなる。形容詞形は trendy で「①最新流行の②流行を追う」だが、こちらも「トレンディ」でおなじみ。

the trend of public opinion

世論の動向

They couldn't act against the trend of the times.

彼らは時代のすう勢に逆らえなかった

follow the latest trends in fashion

ファッションの最新流行を追う

tribute は「①尊敬、賛辞(の言葉) ②貢ぎ物、捧げ物」。

これは(カタカナ英語の)「トリビュート」から類推できる。音楽で「トリビュートアルバム」というと、あるミュージシャンに尊敬の念を込めて、そのミュージシャンの歌を後輩ミュージシャン達が演奏するアルバムのことを指して言う。

a tribute of praise

賛辞

They paid an annual tribute to the ruler.

彼らは支配者に年貢を納めた

trial

trial の『核』のイメージは「試み(ること)」。

そこから以下のような意味が生まれた。

①「試み」「企て」

(ex) He passed the entrance examination on his second trial.

彼は2度目の試みでその入試に通った

The clue made a trial for landing. 乗組員は上陸を試みた

②「試し、試験、試行」

(ex) the trial of a new car 新車のテスト

I did it by way of trial. 試しにそれをやってみた

He gave the machine another trial.

彼はもう一度その機械を試運転した

I gave him a trial. 試しに彼を雇った

trial には「試用　[見習]期間」「試されている状態」という意味もある。

③「試練、苦難、辛苦」

「神・運命の人に対する試み→試練、苦難」。

(ex) Can he stand the trial? 彼はその試練に耐えられるであろうか

Old age has many trials. 年を取ると苦労が多い

④「やっかい者[物]」

「人の忍耐の限度を試すような存在→やっかい者[物]」。

(ex) The obstinate boy was a trial to his family.

その強情な子は家族にとっての困りものであった

⑤「裁判、公判」

「有罪無罪の判定を試される場」ということ。

(ex) a criminal trial 刑事裁判

the trial of a man for murder 殺人犯の裁判

He was put on trial. 彼は裁判にかけられた

bring A to trial / put A on trial で「Ａを裁判にかける」。

なお trial の動詞形が try なので、try には「～を裁判にかける」「(事件を) 審理する」という意味もあるので注意。

(ex) She was tried for murder.

彼女は殺人罪で裁判にか けられた

Who will try this case?

この事件は誰が審理するのですか

⑥《イディオム》

(1) on trial

1.「試しに、試験的に」

(ex) Relax: you are not on trial.

かたくならないで。試験されているわけじゃないから

I took him for a month on trial.

試しに　彼を１カ月使ってみた

2.「公判中で、審 理中で」

(ex) The case is now on trial.

その事件は今公判中です

⑵ trial and error「試行錯誤」

「試行錯誤」とは、望ましい結果を得るまで試みと失敗を繰り返してみる方法のこと。

triangle は「三角形」。

これは(カタカナ英語の)「トライアングル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに rectangle は「長方形」。angle は「①角度 ②観点」。

a right triangle

直角３角形

eternal triangle

男女の三角関係

trick は「①計略、ごまかし、いたずら ②秘訣、こつ ③トリック」。

②以外は(カタカナ英語の)「トリック」から類推できる。②の例として I taught my son the tricks of trade. で「息子に商売のこつを教えた」となる。trick は動詞として「～をだます」という意味にもなる。

They tried tricks to deceive him.

彼らは彼をだまそうといろいろな策略を試みた

Her illness was only a trick to avoid school.

彼女の病気は学校をさぼるための手だった

He was always playing tricks on his classmates.

彼はいつも同級生にいたずらばかりしていた

His father taught him the tricks of trade.

彼の父が彼に商売のこつを教えた

tropical は「熱帯(性)の」。

これは(カタカナ英語の)「トロピカル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。トロピカルフルーツは「熱帯の果物」のことだ。「熱帯」は the tropics と言う。「熱帯雨林」は tropical rain forests。

trouble は「困ったこと、問題、骨折り、もめごと」。

これは(カタカナ英語の)「トラブル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。trouble は動詞として「①～を悩ませる ②[否定文で]心配する」という意味もある。形容詞形は troublesome で「厄介な」。have trouble (in) ～ing で「～するのに苦労する」。

He led a life full of trouble in a foreign country.

彼は外国で苦労の多い生活を送った

What's the trouble with you?

何を困っているのですか; どうしたのですか

It will save trouble if you will answer by tomorrow.

明日までにご返事願えればありがたいのですが

truth は「真実」。

これは(カタカナ英語の)「トゥルー」から類推できる。トゥルー(true)とは「本当の、真実の」という意味で truth の形容詞形だ。be true of A で「A に当てはまる」。be true to A で「A に忠実だ」。to tell the truth で「実を言うと」。

I want you to tell the truth.

私はあなたに真実を話してもらいたい

The truth is, he is a foreigner.

実は彼は外国人なんだ

The truth is (that) S+V～. で「実際、～だ」

tube は「管」。

これは(カタカナ英語の)「チューブ」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。他に tube は「地下鉄」という意味で(イギリスでは)用いられる。ただアメリカでは「地下鉄」は subway と言う。

a test tube

試験管

the inner tube of a tire

タイヤのチューブ

I took a[the] tube to Oxford Circus.

オックスフォード=サーカスまで地下鉄に乗った

tuberculosis は「結核」。)

「ツベルクリン」から類推できる。ツベルクリン反応検査は、結核の予防接種の際に行われる。

tune は「曲」。

これは(カタカナ英語の)「チューン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい(ヒット曲のことを「ヒットチューン」と言ったりする)。tune は「正しい調子[音程]」「①ラジオなどの周波数を合わせる ②学期を調律する」という意味もあるが、これも「チューニング」から類推できる。in[out of] tune は「調子が合って[はずれて]」。それから「エンジンを最高の状態に調整すること」をチューンナップというが、 tune (up) にも同じ意味がある。

Let's sing a merry tune.

楽しい曲を歌いましょう

a popular tune

流行歌

hit tunes

ヒット曲

turn

turn については(カタカナ英語の)「ターン」で、その意味は大丈夫だが、
turn を用いた決まり文句や意外な意味についてはしっかりおさえておきたい。
まず動詞の turn を用いた慣用表現。

(1) turn down A ①「Aを拒絶する」 =refuse A, reject A
②「A(ガス・明りなど)を弱くする、細くする」 ⇔turn up A
「A(ラジオなど)の音を低く[小さく]する」
「A(音量)を下げる」

(2) turn in A 「Aを提出　する」 =submit A

⑶ turn on A 「Aスイッ チなどをつける」 ⇔turn off[out] A

⑷ turn out

①[turn out O製品など]「Oを 生産する」 =produce O

(ex) The factory turns out a large quantity of goods.

その工場は多量の品を生産する

他動詞の turn out にはこれ以外に「O（ガス・灯など）を消す」という意味もある。

②[turn out (to be) C形・名]「Cだと判明する、結果としてCになる」

(ex) The news turned out false. =prove (to be) C

そのニュースは誤りであることがあとでわかった

The day turned out (to be) fine. その日は結局お天気になった

⑸ turn over「ひっくり返る(返す)」

⑹ turn to A for B「B物などをA人などに頼る」 =look to A for B

⑺ turn up「現れる、姿を表す」 =appear, show up

⑻ turn a deaf ear to A「Aに耳を貸さない、無視する」

次に名詞の turn の意外な意味と慣用表現。

⑴「順番」

(ex) It's my turn to drive.

今度は私が運転する番だ

⑵[in turnで]

①「(２人が)交替で」 =by turns

「(３人以上が)順番に」

(ex) The teacher interviewed all the students in turn.

先生はすべての学生と順番に面談した

②「今度は、同様に」 =as well

(ex) You dislike others and you are disliked by them in turn.

ひとを嫌うと、今度は自分が嫌われますよ

⑶[take turns doing/to do[原形]～] 「交替で～する」

(ex) We took turns (at[in]) driving.

私たちは交替で運転した

tutorial は「①(大学での tutor による)個別指導時間[クラス] ②(tutor による)個別指導」。

これは(カタカナ英語の)「チュートリアル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。tutorial は「①指導書 ②取扱説明書」という意味もある。類語の tutor は「①個人教師、(特に)家庭教師 ②受験準備の指導教師」のことを言うが、これも「チューター」でおなじみ。

twilight は「(朝夕の)薄明かり、たそがれ」。

これは(カタカナ英語の)「トワイライト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。twilight は比喩的に「(全盛期後の)衰退期、(全盛期前の)黎明期」という意味にもなる。

Twilight slowly faded into night.

たそがれの光はゆっくり消えて夜になった

She returned home at twilight.

彼女は夕暮れ時に帰宅した

in the twilight of my life

我が人生のたそがれに

twin は「ふたご(のうちの一人)、 対(つい)になっている一方」。

これは(カタカナ英語の)「ツイン」から類推できる。ツインは「対になっていること」を指して言う。「ツインベッド」とは(同じ形の)シングルベッドを２つ並べて一対としたもののこと。the Twins というと「双子座」。

single[identical] twins

一卵性双生児
double[non-identical] twins
二卵性双生児
They are twins.
彼らは双子です
Love and hate are twins.
愛と憎しみは表裏一体を成す.

twinlkle は「(星・光が)キラキラ輝く」「(星・光などの)きらめき、輝き」。

これは童謡の「きらきら星」の英語の歌詞が Twinkle Twinkle little star… で始まるのを引っ掛かりにして覚えよう。

The stars twinkled in the sky.
空には星が輝いていた
Her eyes twinkled with joy.
彼女の目は喜びで輝いた
the twinkle of the stars
星のきらめき

typhoon は「台風」、hurricane は「ハリケーン」、cyclone は「サイクロン」。

全て知っている語ばかりで問題ないはず。これらを総称して storm 、つまり「嵐」と言う。

The ship was caught in a typhoon in the East China Sea.
その船は東シナ海で台風にあった
A terrible storm came from the southwest.
恐ろしいあらしが南西からやってきた

Soon the storm was upon us.

まもなくあらしが襲ってきた

typical は「典型的な、～に特有の」。

これは(カタカナ英語の)「タイプ」から類推できる。タイプ(type)とは「①典型 ②型」のこと。typical は type の形容詞形だ。副詞形は typically で「①典型的に ②一般に、概して」。

a typical American home

典型的なアメリカ人の家庭

a man typical of the middle class

中流階級を代表する人

It was typical of her to say that.

そう言ったとはいかにも彼女らしい

Typically, we leave work at 6 p.m.

私たちはだいたいいつも６時に退社する

ubiquitous は「(同時に)至る所にある」。

これは(カタカナ英語の)「ユビキタス」から類推できる。ユビキタスとは、いつでも誰でもどこでも、(意識せずに)情報通信技術を利用できること(あるいはそのような環境、技術)を指して言う。[ju:bikwətəs(ユービクワタス)]と発音するので注意。

ultraviolet rays は「紫外線」。

これは(カタカナ英語でも)「ＵＶ」と言うので類推しやすいはず。ray は「光線」という意味。X rays は「エックス線、レントゲン」。

underline は「①(語・句など)の下に線を引く ②(語・句など)を強調する、(考えなど)を明白にする」。

①については(カタカナ英語の)「アンダーライン(を引く)」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。比喩的に転じた②の意味もおさえよう。

the underlined words

下線を施した単語

In his speech the politician underlined several points.

その政治家は演説の中でいくつかの点を強調した

universal

universal の『核』のイメージは「～の全てに通じる」。

🏯「～」には「時代」「場所」「人」「分野」「範囲」等が入る。

この『核』のイメージが頭に入っていれば、以下の universal の多くの意味もストレスなく理解できるだろう。

①「全体[全部]の、すべてに属する」 =whole

🏯「全ての人・物に通じる」ということ。

(ex) This is a subject of universal interest.

これは全ての人にとって興味のある事がらです

Food is a universal need. 食料は人間にとって欠かせぬものだ

There was almost universal agreement. ほぼ全員一致だった

②「一般的な、一般向きの、広く行われている、普遍的な」 =general, common

🏯「全ての範囲・場所に通じる」ということ。

(ex) universal rules 普遍的法則

a universal trend 一般的傾向

a practice universal among Japanese

日本人間で一般に行われている風習

③「全てに影響[関係]する、全てに関わる、全般[体]的な」 =general

「(個人の権利・利益・義務の)全体に関する[を含む]」

「包括的な、総体的な」

🏯「全ての分野・範囲に通じる」ということ。

(ex) universal price control 全般的な物価統制

a universal partnership (成員がその全財産を出資する)共同組合

④「(万人に)共通の、周知の、普通の」 =common

「全人類の(ための)、全世界に通じる」

🏯「全ての人に通じる」ということ。

(ex) English is a universal language. 英語は世界共通言語だ

The Internet is universal. インターネットは誰でも知っている

The purpose of religion is universal salvation.

宗教の目的は全人類の救済だ

⑤「遍在する、広範な、あまねく行き渡った、あらゆる所に存在する」

㊟「全ての場所に通じる」ということ。

(ex) a universal color of yellow どこにでも見られる黄色

Prejudice is (as) universal as the air.

偏見は(空気のように)あらゆる所に遍在するものだ

⑥「万能の、博識の、諸芸[学]に通じた」

㊟「全ての分野に通じる」ということ。

(ex) a book of universal information あらゆる知識を網羅した本

a universal genius 万能の天才

⑦「宇宙の、全自然界の、万物の、万有の」

㊟「全ての人・物・範囲(=世界)に通じる」ということ。

(ex) the universal creator 創造主 =God

universal gravitation 万有引力

universe は「①宇宙 ②全世界」。

これは（カタカナ英語の）「ユニバース」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は universal で「①普遍的な、全世界の②誰でも同じように使用することができる」。こちらもカタカナ英語としておなじみ。

㊟②の意味で「ユニバーサルデザイン」といった用語が使われている。ユニバーサルデザインとは、「文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何に関わらず誰でも利用することができる施設・製品・情報の設計(デザイン)」のこと。

He studies the laws of the universe

宇宙の法則を研究している

Peace must reign in the universe of man.

平和は全人類に行き渡らなくてはならない

upgrade は「(製品などの)品質をよくする(⇔ downgrade)」。

これは(カタカナ英語の)「アップグレード」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

an upgrade in the year's profit forecast

年度利益予測の上昇

I believe the child is on the upgrade.

その子は進歩してきていると思う

uphill は「上り坂の(⇔ downhill:下り坂の)」。

これは(カタカナ英語の)「アップヒル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。uphill は比喩的に「困難な、骨の折れる」という意味にもなる。

upper は「①上の(方の) ②上位の(人・もの)」。

これは(カタカナ英語の)「アッパー」から類推できる。アッパースイングと言えば、下から上の方に向かって(バットを)振ることだ。「アッパークラス(upper class)」と言えば、社会的に上位[流]の階級だ。the upper arm は「上腕」となる。

the upper grades

上級学年

upright は「直立した[て]、垂直な[に]、真っ直ぐの[に]」。

これは(カタカナ英語の)「アップライト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。upright は「まっすぐな」から比喩的に「正直な、高潔な」という意味にもなる。

in an upright position

直立の姿勢で

an upright tree

まっすぐに立った木

an upright judge

公正な裁判官

urban は「都会の」。

これは(カタカナ英語の)「アーバン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。反意語が rural で「田舎の」。それから suburb は「郊外」だが、これは「近い(sub)+都会(urb=urban)→都会に近いところ→郊外」となる。

urban life

都会生活

a rural area

農村地域

rural population

農村人口

V

vacant は「①(部屋・席・地位などが)空いている ②暇の」。

これは「バカンス」から類推しよう。バカンスとは(フランス語で)「(主に保養地などで過す長期の)休暇」のこと。つまり「仕事場を空にすること」だ。これにあたる英語は vacation なのだが、vacant も含めすべて同語源。vac は「空(から)」という意味の語幹なのだ。そうすると vacuum の「真空、空白」という意味も簡単につながる。ちなみに a vacuum cleaner[sweeper] は「電気掃除機」。また evacuate は「外へ(e)+空(vacu)+にする(ate)→外に出して空にする→退避させる、避難させる」となる。

a vacant lot

空き地

a vacant room[seat]

空室［席］

empty も「空の」という意味だが、こちらは「あるべきものが今はない」の意で用いられる。

an empty hand

何も持っていない手

それに対して vacant は、通例一時的にあいていることで、やがてふさがることを暗示する。反意語は occupied になる。

vaccine は「ワクチン」。

これは一度「vaccine = ワクチン」と覚えてしまえば忘れることはないはず。[væksi:n(ヴァクスィーン)]と発音する。

vacuum は「①真空 ②空虚」。

これは(カタカナ英語の)「バキューム」から類推できる。例えば「バキュームする」と言えば「吸引する」こと。ある容器から空気を吸引し尽くしてしまえば、その容器内は真空になる。そこから「真空」という意味を類推しよう。vacuum cleaner は「電気掃除機」のこと。ちなみにし尿をくみ取る車のことを「バキュームカー」と言うが、これは和製英語で、英語では a honey truck などと言う。

We cannot live in a vacuum.

私たちは真空の中では生きられない

Her son's death left a vacuum in her life.

息子の死で彼女の生活にはぽっかりと穴があいた

vagabond は「放浪者、宿無し、ごろつき」。

これは宮本武蔵を描いたマンガ「バガボンド」から類推できる。放浪者となって剣の修行をする武蔵のイメージを vagabond とつなげよう。

value は「価値」。

これは（カタカナ英語の)「バリュー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ values となると「価値観」という意味になるので注意。また value は動詞として「価値視する、重視する」という意味もある。形容詞形は valuable で「価値がある」。invaluable は「非常に貴重な」。

the value of sunlight for health

健康のための日光の価値

I value health above wealth.

私は富よりも健康を重んじる

valley は「谷」。

これは(カタカナ英語の)「ヴァレー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ valley は[vǽli(ヴァリィ)]と発音するので注意。

a mountain valley

山間の谷

van は「荷物運搬用の(箱型の)自動車」。

これは(カタカナ英語の)「バン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。van は wagon とも言う。ただ「ライトバン」は和製英語。それは a delivery van と言う。
ちなみに「配用小型貨物自動車」のことは a picup (truck) と言う。

vanguard は「①(軍隊などの)先頭、前衛 ②(社会運動などの)先導者、先駆者」。

これは「アバンギャルド」から類推できる。アバンギャルドとは、(フランス語で)古いものを打破し新しい可能性を切り開こうとする(前衛的な)芸術、または芸術運動のことを指して言う。アバンギャルドが英語では vanguard となるのだ。in the vanguard of A で「A の陣頭に立って、先駆となって」。

variation は「①変化[動] ②差異 ③[生物の]変異、変種」。

これは(カタカナ英語の)「バリエーション」から類推できる。ただバリエーションの場合、「種類」という意味で浸透しているのでそのあたりは注意が必要かもしれない。

variation(s) of prices[air pressure] は「物価[気圧]の変化」であり、variation between the original and the copy は「オリジナルとコピーとの違い」となる。

There are great variations in temperature.

気温の変動が激しい

without variation

変化[変動]なく,一律に

Prices are subject to variation.

値段は変わることがあります

various は「様々な、いろいろの、多様な」。

これは(カタカナ英語の)「バラエティ」から類推できる。「バラエティが豊富だ」「バラエティに富んでる」といったように、バラエティは「①変化、多様性 ②種類」という意味でも用いられるが、variety にもその意味がある。これは(カタカナ英語の)「バラエティ番組」から類推できる。バラエティ番組とは、一つの番組の中に歌・コント・コメディ・視聴者参加型の企画など、いろいろな種類のコーナーを盛り込んだテレビ・ラジオ番組のことだ。バラエティ(variety) は various の名詞形だ。

The scholar was able to speak various languages.

その学者はいろいろな言葉を話すことができた

a life without variety

変化のない人生

for a variety of reasons

いろいろの理由で

a variety of A で「いろいろなA」。「Aの一種」という意味になることもある。

It's a variety of chrysanthemum.

それはキクの一種だ

vector は「①方向、進路 ②力の向かう方向」。

これは(カタカナ英語の)「ベクトル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

vegetable は「①植物 ②[vegetables]野菜」。

これは(カタカナ英語の)「ベジタブル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
vegetarian は「菜食主義者」(これも「ベジタリアン」でおなじみ)。vegetation は「(集合的にある地域・場所の)植物、植生」。

green vegetables

(根菜類に対して)青物類

vegetable oil 植物油

a vegetable diet

菜食

vehicle は「乗り物」。

これは(カタカナ英語の)「ビークル」から類推できる。ビークルを聞いたことがない人も「ＲＶ車」という言葉は聞いたことがあるはず。ＲＶは recreational vehicle の略で、ＲＶ車とはレジャー目的の車の総称。
また vehicle は、転じて「媒体、伝達手段」という意味でも用いる。

the vehicle of thought

思想の伝達手段

I learnt how to drive a military vehicle in the army.

私は軍隊で軍用車両の運転(の仕方)を学んだ

version は「①(本・製品などの)版 ②解釈、意見」

①については(カタカナ英語の)「バージョン」でおなじみ。②の意味を覚えよう。
his version of the affair は「その事件についての彼の意見」。

a film version of a novel

映画化された小説

Each of them gives a different version of the event.

その事件については彼らの１人１人話が違う

versus は「(A versus B で)A対B」。

versus は vs. や v. と略されることが多い。
これは(カタカナ英語の)「バーサス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

vibration は「振動」。

これは(カタカナ英語の)「バイブレーション」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
vibration は比喩的に「心の動揺」という意味になることもある。動詞形は vibrate で「①震える ②感動する ③～を動かす、震わせる」。

the vibration of a motor

モーターの振動

The leaves are vibrating in the breeze.

木の葉がそよ風に揺れている

victory は「勝利」。

これは(カタカナ英語の)「ビクトリー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a Bush victory in the presidential election

大統領選挙でのブッシュの勝利

He gained[had] the victory over his passions.

彼は自分の激情を克服した

view は「①眺め ②視界」。

これは(カタカナ英語の)「ビュー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただ view は比喩的に「意見、見解」という意味にもなる。point of view は「観点」。viewpoint とも言う。また view は動詞として view A as B で「AをBとみなす」という語法がある。

Our house commands an excellent view.

私たちの家は眺めがよい

a view of life

人生観

Let's view the matter from another angle.

別の角度からその問題を考えてみよう

The natives view the old man's words as law.

原住民はその老人の言葉を法律と見なしている

violence は「暴力」。

これは(カタカナ英語の)「バイオレンス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「はげしさ、猛威」という意味になることもある。形容詞形は violent で「暴力的な、激しい」。violent deeds は「暴行」、a violent stomachache は「ひどい腹痛」。

a robbery with violence

強盗事件

the violence of the storm

あらしの猛威

virtual は「仮想(上)の、仮の(⇔ real)」。

これは(カタカナ英語の)「バーチャル」「バーチャルリアリティ」から類推できる。ただ virtual には「(名目上はそうではないが)実質上の、事実上の、実際上の」という意味もあるので注意。virtual peace は「事実上の平和」、the virtual leader は「実質的なリーダー」。副詞形は virtually で「事実上、実質的には、ほとんど」。

a virtual image

虚像

His work was virtually completed.

彼の仕事は完成したも同然だった

virus は「ウィルス」。

これは（カタカナ英語の)「ウィルス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただし virus は[vaiərəs(ヴァイアラス)]と発音するので注意。

a virus infection

ウィルス伝染病

AIDS is caused by a virus.

エイズはウィルスによって引き起こされる

vision は「①(心に描く)像 ②(画面の)映像 ③先見、洞察力 ④視力(=sight)」。

このうち①～③までは(カタカナ英語の)「ヴィジョン」から類推できる(③の意味でも「将来に対するヴィジョンを持て」などと言ったりする)。④の用例として poor vision は「弱視」。(「視力、視覚」という)vision の形容詞形が visual で「視覚の、視覚による、目に見える」。これは(カタカナ英語の)「ヴィジュアル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。(ロック)ミュージシャンのヴィジュアル系というのは、過激で派手な化粧や髪型、衣装などの視覚に映る[目に見える]部分を強調したものだ。

a man of vision

先見の明のある人

poor vision

弱視

visitor は「訪問客、観光客、滞在客」。

これは(カタカナ英語の)「ビジター」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
動詞形は visit で「訪問する、訪ねる」。

We have visitors today.

今日は来客があります

The hotel has few visitors in winter.

そのホテルは冬には宿泊者がほとんどいない

vitality は「活力、生命力、元気」。

これは(カタカナ英語の)「バイタリティ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は vital で「①生命の、命に関わる ②生き生きとした ③重要[大]な、決定的な」。こちらもカタカナ英語としておなじみ。アミノバイタルといった清涼飲料水もある。サッカーで「バイタルエリア」と言えば、(得点につながる)決定的な場面を生み出しやすい地帯

[エリア]のことだ。

Strong sunshine is essential to the plant's vitality.

その植物の活力には強い日光が欠かせない

a young man always full of vitality

いつも活気に満ちている若者.

vivid は「鮮やかな、生き生きとした」。

これは（カタカナ英語の）「ビビッド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。vi は「生命」という意味の語幹。

vivid green

鮮やかな緑色

a vivid impression 鮮明な印象

The event is still vivid in my memory.

その出来事は私の記憶になまなましい

vivid は「なまなましい、真に迫っている」という意味になることもある。

vocabulary（ごい） は「語彙」。

これは(カタカナ英語の)「ボキャブラリー」が同じ意味で用いられるのでわかりやすい。

He has a large vocabulary.

彼は語いが多い

You had better increase the power of your vocabulary.

君は語彙力を増やすべきだ

vogue は「流行、はやり」。

これは同じ名前の最新の流行を紹介するファッション雑誌「VOGUE」から類推しよう。

There was a vogue for miniskirts.

ミニスカートがはやっていた

It is now all the vogue.

それが今は大流行だ

voice は「声」。

これは(カタカナ英語の)「ボイス」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形は vocal で「①声の、音声の ②口頭の」だが、こちらも「ボーカル」でおなじみ。

I heard a human voice then.

私はそのとき人の声を聞いた

She shouted at the top of her voice.

彼女は精一杯の大声で叫んだ

volume は「①音量 ②分量、体積 ③巻、冊、本」。

①と②については(カタカナ英語の)「ボリューム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。③についても、例えば「第三巻」のことを vol.3 などと書いたりする。そこからつなげよう。

Turn down the volume on the television.

テレビの音量を下げなさい

the volume of traffic 交通量

a novel in three volumes

volunteer は「①ボランティア ②志願者[兵]」。

このうち①については(カタカナ英語の)「ボランティア」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「志願の」という(形容詞的な)意味もある。形容詞形は voluntary で「①自発的な ②無償の」。反意語は involuntary で「①無意識の、本能的な ②意志に反した、いやいやの」。(voluntary の)副詞形は voluntarily で「①自発的に ②無償で」。

We must invite volunteers.

我々は志願者を募らなければならない

a volunteer worker

奉仕勤労者

voyage は「航海(する)」。

これは(カタカナ英語の)「ボイジャー」から類推しよう。ボイジャーとは、アメリカの宇宙探査ロケットの名前。voyager は「航海者、航行者」という意味。

the voyage from Hawaii to San Francisco

ハワイからサンフランシスコまでの船旅

The trip to the moon is still an adventurous voyage.

月への旅はまだ冒険的な宇宙旅行だ

wait は「①待つ ②[wait on A]Aに給仕する、用を聞く、仕える」。

①については(カタカナ英語の)「ウエイト」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。
wait for A で「Aを待つ」、wait for A to do[原形]～ で「Aが～するのを待つ」となる。
②については(カタカナ英語の)「ウエイター」から類推できる。ウエイター(waiter)とは、(客に)給仕をし、用を聞き、仕える人だ。
on は「接触」を表す前置詞。「客のそばに(接触するように)いて、意向・指示を待つ→給仕する、用を聞く、仕える」と考えるといいだろう。

Time and tide wait for no man.

歳月人を待たず ← 《諺》

They were anxiously waiting for her to arrive.

彼らは彼女の到着を待ちわびていた

I'm sorry to have kept you waiting so long.

長らくお待たせしてすみません

keep A(人) waiting で「Aを待たせたままにしておく」。

wake (up) は「目を覚ます[させる]、起きる[こす]」。

これは(カタカナ英語の)「ウェイクアップ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。活用は wake - woke - woken。類語の awake(目が覚めて)という形容詞もおさえよう。ただ awake も「目を覚ます[させる]」という意味で動詞として用いられることもある。

He woke at five.

彼は5時に目が覚めた

He woke up and looked out of the window.

彼は目を覚まして窓の外を眺めた

war は「戦争」。

これは(カタカナ英語の)「ウォー」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。類語の warfare は「戦争状態」。

an aggressive[a defensive] war

侵略［防衛］戦争

a nuclear war

核戦争

(a) class war

階級闘争

a trade war

貿易戦争

warm は「温[暖]かい」。

これは(カタカナ英語の)「ウォーム」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。warm は動詞として「温[暖]める」という意味もある。名詞形は warmth で「温[暖]かさ」。ちなみに global warming は「地球温暖化」。

a warm climate

温暖な気候

He warmed his hands over the fire.

彼は火に手をかざして温めた

wash は「①洗う(こと) ②洗濯(物)」。

これは(カタカナ英語の)「ウォッシュ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。形容詞形の washable(洗うことができる)も「ウォッシャブル」でおなじみ。

Go and help wash the dishes.

行って皿洗いを手伝いなさい

The waves are washing the shore.

波が岸に打ち寄せている

waste は「①浪費(する) ②廃棄物」。

①の意味については(カタカナ英語の)「ウエスト(する)」から類推できる。野球などで、わざとストライクゾーンからはずす「無駄[捨て]球を投げる」ことを「ウエストする」と言う(waste は実際には[weist(ウェイスト)]と発音するので注意)。

He wasted his money on sweets.

彼はキャンデーを買ってお金を無駄使いした

Don't waste your time watching television.

テレビを見て時間を無駄にするな

a waste of time

時間の浪費

What a waste to throw all these away!

これらをみな捨ててしまうとはなんという無駄なんだろう

wave は「①波 ②振ること ③(髪の)ウェーブ」。

これは(カタカナ英語の)「ウェーブ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。wave は動詞として「①(手などを)振る ②揺れる」という意味もある。

Light travels in waves.

光は波状になって進む

She answered the cheers of the people with many waves of her hand.

彼女は人々の歓呼に何度も手を振ってこたえた

e all waved to her as the train left.

列車が出るとき私たちはみな彼女に手を振った

I want to have a permanent wave.

私はパーマをかけたい

weak は「弱い(⇔ strong)」。

これは(カタカナ英語の)「ウィーク」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ウィークポイント(a weak point)は「弱点、弱み」だ。

a weak body

弱い体

He is weak in both eyes.

彼は両眼の視力が衰えている

weak coffee

薄いコーヒー

weather は「天気」。

これは(カタカナ英語の)「ウエザーリポート」から類推でできる。ウエザーリポートとは「天気予報」のこと。

ちなみに climate は「気候・風土」を意味し、「ある地域の(年間の)平均的な気象」のこと(climate は可算名詞)。weather は「天気」を意味し、「ある(特定の)時・日の気象」のこと(weather は不可算名詞)。

We are going to have rainy weather.

雨になりそうだ

wet は「①濡れた ②雨降りの」。

①については(カタカナ英語の)「ウェット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②もおさえよう。それから wet は動詞として「濡らす[れる]」という意味もある。

Her eyes were wet with tears.

彼女の目は涙でぬれていた

wet weather

雨模様の天気

She wetted a handkerchief with cold water

彼女はハンカチを冷水で湿らした

wheel は「車輪、輪」。

これは(カタカナ英語の)「ホイール」から類推できる。ただ the wheel で「車のハンドル」という意味になるので注意。steering wheel とも言う。

the front wheels of a car

自動車の前輪

This car is four-wheel drive.

この車は４輪駆動だ

Joe was behind the wheel.

ジョーが車を運転していた

behind the wheel で「運転して」。

whistle は「①笛(を吹く) ②口笛(を吹く)」。

これは(カタカナ英語の)「ホイッスル」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

He whistled softly.

彼はそっと口笛を吹いた

The train whistled before it entered the tunnel.

列車はトンネルに入る前に警笛を鳴らした

wide は「①(幅が)広い(≒broad) ②幅が…の」。

これは(カタカナ英語の)「ワイド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。名詞形は width で「(横の)幅、広さ」。反意語は narrow で「(幅が)狭い」。類語の widespread は「広く行き渡っている、広範囲に及ぶ」。

He has wide views.

彼は広い視野を持っている

The river is seventy meters wide.

その川は幅が７０メートルある

wild は「①野生の ②野蛮な、乱暴な、いい加減な、とんでもない ③(天候などが)荒れた」。

カタカナ英語の「ワイルド」は①と②の意味で主に用いられる。③もおさえよう。The weather grew wilder. は「天候がますます荒れてきた」。a wild night は「嵐の夜」。ちなみに wildlife は「野生生物」。

wild birds

野鳥

The land was completely wild.

その土地は全く荒れ果てていた

will は「意志」。

これは（カタカナ英語の）「グッドウィル」から類推しよう。グッドウィル(good will)とは「善[好]い意志→善意、好意、親善」のことだ。international goodwill は「国際親善」。will は「故人の意志→遺言」という意味にもなる。at will は「意のままに」。against one's will で「～の意志に反して」。

a strong[weak] will

強い［弱い］意志

against one's will

心ならずも、意志に反して

at will

意のままに，随意に

of one's own (free) will

自由意志で

wipe は「(布などで)ふく」。

これは（カタカナ英語の）「ワイパー」から類推できる。ワイパー(wiper)とは、車の窓をふく装置だ。wipe out で「～を一掃する、(負債などを)帳消しにする」という意味になる。

Wipe your hands on[with] the towel.

タオルで手をふきなさい

She wiped her tears away.

彼女は涙をぬぐった

wish は「願い」。

これは(カタカナ英語の)「ウィッシュ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。wish は動詞として「①願う ②～ならなあと思う」という意味もある。

They had a wish for peace.

彼らは平和への願いをもっていた

He doesn't have much wish to go.

彼はあまり行きたがっていない

I wish you to go to New York at once.

すぐニューヨークに行ってもらいたい

I wish it would stop raining.

雨がやんでくれたらなあ

wit は「機知」。

これは(カタカナ英語の)「ウイット」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。「ウイットに富んだ会話」などと言ったりする。at one's wit's end で「途方に暮れて」といった表現もある。

He didn't have the wit to bring a tin opener.

彼にはかん切りを持ってくるだけの知恵がなかった

You must use your wits to solve the problem.

その問題を解くには頭を使わなければならない

wolf は「オオカミ」。

これは(カタカナ英語の)「ウルフ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

A pack of wolves chased the deer.

一群のオオカミがそのシカを追った

wonder は「①驚異、驚くべきこと ②不思議」「①不思議に思う ②～かしらと思う」。

(カタカナ英語の)「ワンダー」から類推できないのは「～かしらと思う」という wonder の語法。この場合、疑問詞節や if[whether]節を目的語にとる。I wondered what to say to him. は「彼に何と言うべきだろうかと思った」。wonder の形容詞形は wonderful で「素晴らしい」だが、これは「ワンダフル」でおなじみ。

I wonder why he is in such a hurry.

彼はなぜあんなに急いでいるんだろう

We wondered how the thief unlocked the door.

我々は泥棒がどうやってドアを開けたのだろうと思った

The scientists gazed at the new invention in wonder.

科学者たちは驚異の目でその新しい発明品を見つめた

wood は「①[woods]森、林 ②木材」。

②について(カタカナ英語の)「ウッド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに製材加工された建築用木材については lumber[timber] と言う。

Many Japanese houses are built of wood.

日本の家屋の多くは木造です

There is a woods near the village.

村の近くに森がある

wool は「羊毛、毛糸、毛織物」。

これは(カタカナ英語の)「ウール」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ただし発音は[wul]。

cloth made of wool

羊毛の布地

work は「仕事(をする)」。

これは(カタカナ英語の)「ワーク」からカンタンに類推できるが、work には「作品」という意味もある。「仕事」という意味では work は不可算名詞。「作品」という意味では可算名詞になる。それから fireworks は「花火」。

work

work の『核』のイメージは「本来(与えられた・持っている)の機能を発揮する」。

ここから名詞の「仕事・労働・作業・職業・勉強・(仕事の結果としての)作品」という意味も生まれた。つまり「仕事・労働・作業・勉強」とは本来の機能を発揮する活動であり、「職業」とは本来の機能を発揮する場所[分野]。「作品」とは本来の機能を発揮してできた産物のことだ。

work といえば「働く」という意味が一般的ですが、これも元々は上記の『核』のイメージから来ている。

(ex) I work eight hours a day. １日８時間働きます

They work for peace. 彼らは平和のために働いている

また work は他動詞として用いられれば「～に本来の機能を発揮させる」という意味となり、「～を働かせる」などの意味もそこから来ている。

(ex) He always worked his employees very hard. 彼はいつも従業員を酷使した

この work に out がついて work out となると「本来の機能を発揮して外に現れる」となり、以下のような用例がある。

(ex) Their married life didn't work out.

彼らの結婚生活はうまくいかなかった

「結婚生活がその機能をうまく発揮して(外に)現れなかった」ということ。

Things will work out all right. 事態はまるくおさまるだろう

このように work out は結果として「(事が)うまくいく、良い結果となる」「(事が)～という結果となる」「(規則的に運動して)体をきたえる」などの意味になる。また work out が他動詞として用いられれば「本来の機能を発揮して～を外に出す」となり、そこから以下のような意味が生まれる。

①「(計画・理論など)を練って作る」 =devise

(ex) We worked out a nice program for him.

私たちは彼のためにうまい計画を苦労して作り上げた

②「(問題・なぞなど)を苦労して解く」 =solve

「(苦労して事)をやり遂げる、成し遂げる」

「(意味など)をつかむ」

(ex) I'm going to work out the rest of my problems by myself.

私は残りの問題は自分で解決するつもりです

We can work it out.

(自分を含めて人を励まして)やればできるさ

I can't work out what you think.

君の考えが分からない

次に、「本来の機能を発揮する」から、 work には「動く」「作動する」という意味も生まれた。

(ex) This clock works by electricity. この時計は電気で動く

The pump is working. ポンプは作動中だ

もちろん他動詞として用いられれば「～を動かす」となる。

(ex) Tell me how to work this machine. この機械の使い方を教えてください

更にその「動く」から転じて「(～の方へ徐々に)動く、(じわじわと)進む・移動する」という意味が生まれまた。

(ex) work through the crowd 人ごみをかきわけて進む

The milk worked into the rug.

牛乳がじゅうたんにゆっくりしみ込んでいった

He is working round to the new business.

彼は新しい 仕事にとりかかっている

Your blouse has worked out (of your skirt).

ブラウスが(スカートから)はみ出ていますよ

The ship was working in a high sea. 船は荒海を難航していた

The rain worked through the ceiling. 天井から雨もりがしてきた

work はそこから更に転じて「(物が)ゆっくり動いて～(の状態)になる」という意味にもなる。

become より「ゆっくりと徐々に」の意が強い。

(ex) Tiles on the roof work loose with age.

年月と共に屋根のかわらはだんだんゆるくなる

また work は、「本来の機能を発揮する」という『核』のイメージから、「(計画・方法などが)うまく機能する・うまくいく」「(薬・力等が)効く、効果がある」「作用する」という意味が生まれた。

(ex) This method is sure to work (well).

この方法はきっとうまくいく

Hs mind is working very well today.

今日は彼、頭がとってもさえているね

The fall of the yen worked in our favor[against us].

円の下落は我々に 有利[不利]に働いた
These pills will work on you[on your nerves].
この薬はあなたに効く[あなたの神経を安める]でしょう

workaholic は「仕事中毒の人」。
これは(カタカナ英語の)「ワーカホリック」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

worldwide は「世界中で[に]、世界的な」。
これは(カタカナ英語の)「ワールドワイド」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。

a scientist of worldwide fame
世界的名声を博した科学者
He is known worldwide.
彼は世界的に知られている

worry は「心配(する)」。
これは「心配するな」という意味で（カタカナ英語で)「ドントウォーリー(Don't worry)」と言ったりするのでわかりやすい。

What's worrying you?
何が気がかりなんだい
They worried their teacher with too many questions.
彼らはやたらに質問して先生を悩ませた
the worries of life

人生の心配事
My son is a constant worry to me.
息子がいつも悩みの種だ

wrap は「包む(もの)」。

これは（カタカナ英語の)「ラップ」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。ちなみに「ラップミュージック」のラップは rap で、これは「(素早く)コツコツたたく」という意味。確かに(リズムに合わせ)素早く早口で言葉をたたみかけるのがラップミュージックだ。それから lap は「ひざ」という意味。

She wrapped the sandwiches in paper.
彼女はサンドイッチを紙に包んだ
The affair is wrapped in mystery.
その事件はなぞに包まれている

wreck は「①(船・車等の)残骸 ②難破(船・物)」(名)
「①～を難破させる ②～を破壊する」(動)

「レッカー車」から類推できる。レッカー車(a wrecker)とは、破壊して残骸のように壊れた自動車を運び移動する車のこと。

wrench は「ねじる」「ねんざ、レンチ」。

動詞の wrench も、工具の「レンチ」から類推できる。レンチとは、ネジを(回して)締めたり緩めたりする際などに用いる工具の総称だ。

wrench a fruit off a branch

枝から果物をもぎ取る

I wrenched the knife out of his hand.

私は彼の手からナイフをもぎ取った

They wrenched the door open.

彼らはドアをこじあけた

y

youth は「①若者(達) ②若さ、(年が)若いこと ③思春期」。

これは(カタカナ英語の)「ユース」から類推できる。ユースとは「年齢が若いこと」「ユース日本代表」といったフレーズでおなじみだ。youth の形容詞形は young。

また youthful という形容詞もあり、これは「①若々しい，元気な ②若者らしい」という意味。

I used to study hard in my youth.

若いころはよく勉強したものだ

He spent his youth in Paris.

彼は青年時代をパリで過ごした

In spite of youth, he is a reliable person.

若いのにもかかわらず彼は頼りになる

What is the secret of keeping your youth?

あなたの若さを保つ秘けつは何ですか

the youth of the country

その国の若者たち

a youthful figure

若々しい姿

He has youthful ambitions.

彼は青年らしい野心を持っているy

X

Xerox は「複写機、コピー機(でコピーする)」。

これは「富士ゼロックス」から類推できる。富士ゼロックスと言えば、世界的に有名なコピー機メーカー。今では(元々商標名だった)「ゼロックス」という名前がコピー機を表すようになっている。更に「(ゼロックスで)コピーする」という動詞としても Xerox は用いられる。もちろん copy で言い換えられる。同じような例は Kleenex にもみられる。Kleenex も元々(ティッシュペーパーの)商標名だったが、今では「ティッシュペーパー」のことを Kleenex と言ったりする。

Z

zone は「地域、地帯、地区」。

これは(カタカナ英語の)「ゾーン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。また最近、スポーツなどで「ゾーンに入る」という言い方をするが、この場合のゾーンとは、実力を最大限に発揮させる超越的な幸福感や自信に満ちた状態のこと。で、英語でもこれは in a zone と言う。

それから zone は動詞として「～を地区[地帯]に分ける」という意味もある。

safety[danger] zone

安全[危険]地帯

a school[residential] zone

文教［住宅］地区

a demilitarized zone

非武装地帯

The district is zoned as residential.

その地域は住宅地区として区分されている